



医療業績集2021

Medical Achievements

社会医療法人 愛仁会
<https://www.aijinkai.or.jp>

目次

はじめに・理念・沿革	1	精神科	60
愛仁会グループ施設紹介	3	病理診断科	62
I. 千船病院		小児科・新生児小児科	63
内科		NICU・GCU	64
総合内科	7	PICU	65
呼吸器内科	9	小児外科	66
循環器内科	11	ICU	68
消化器内科	12	外科	
糖尿病内分泌内科	13	呼吸器外科	69
糖尿病・減量外科	14	心臓血管外科	70
腎臓内科	16	消化器外科	71
救急診療部	17	乳腺外科	73
外科	18	脳神経外科	75
整形外科・関節センター	19	小児脳神経外科	76
リハビリテーション科	21	整形外科・関節センター	77
泌尿器科	23	泌尿器科	78
脳神経外科	24	腎移植科	79
皮膚科	25	皮膚科	80
眼科	26	形成外科	81
耳鼻咽喉科	27	産婦人科	
小児科	28	産科	82
産婦人科	30	婦人科	83
麻酔科	32	眼科	84
画像診断科	35	耳鼻いんこう科	85
病理診断科	36	放射線診断科	86
千船クリニック	38	放射線治療科	90
		麻酔科	91
		リハビリテーション科	94
II. 尼崎だいもつ病院		IV. 愛仁会リハビリテーション病院	
診療部総括（病棟、外来）	41	診療部総括	99
III. 高槻病院		V. しんあい病院	
内科		診療部総括	103
総合内科	45	VI. 愛仁会しんあいクリニック	
呼吸器内科	46	診療部総括	107
循環器内科	47	VII. しんあいクリニック	
消化器内科	49	しんあいクリニック	111
糖尿病内分泌内科	51	VIII. 明石医療センター	
腎臓内科・血液浄化センター	52	総合内科	115
不整脈センター	53	救急科	117
血液内科	54		
脳神経内科	55		
総合救急医療センター	57		

呼吸器内科	118
循環器内科	120
消化器内科	121
腎臓内科	122
糖尿病・内分泌内科	124
小児科	125
放射線科	127
病理診断科	128
外科	130
心臓血管外科	132
呼吸器外科	134
整形外科	135
産婦人科	136
麻酔科	138
集中治療科	140

IX. 井上病院

腎臓内科	143
循環器内科	144
眼科	145
糖尿病内科	146
消化器内科	147
泌尿器科	148
透析内科	149
放射線科	150
麻酔科	151
外科	152
心臓血管外科	153
リハビリテーション科	155
リウマチ科	156
整形外科	157

X. 井上病院附属診療所

腎移植外来	161
-------	-----

XI. 井上診療所

井上診療所	165
-------	-----

統計総括	169
------	-----

外部研修・研究実績	177
-----------	-----

はじめに

本医療業績集は2021年1月1日から2021年12月31日までの法人活動を対象とした業績報告である。

社会医療法人愛仁会 理念

1. 広く社会のためにより良い医療サービスを提供し、健康で豊かな生活の増進に貢献する。
2. 法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る。
4. 医療人としての使命を自覚し、学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、法人に働く誇りと喜びを共にする。

モットー

- 貢献 ●創意 ●協調

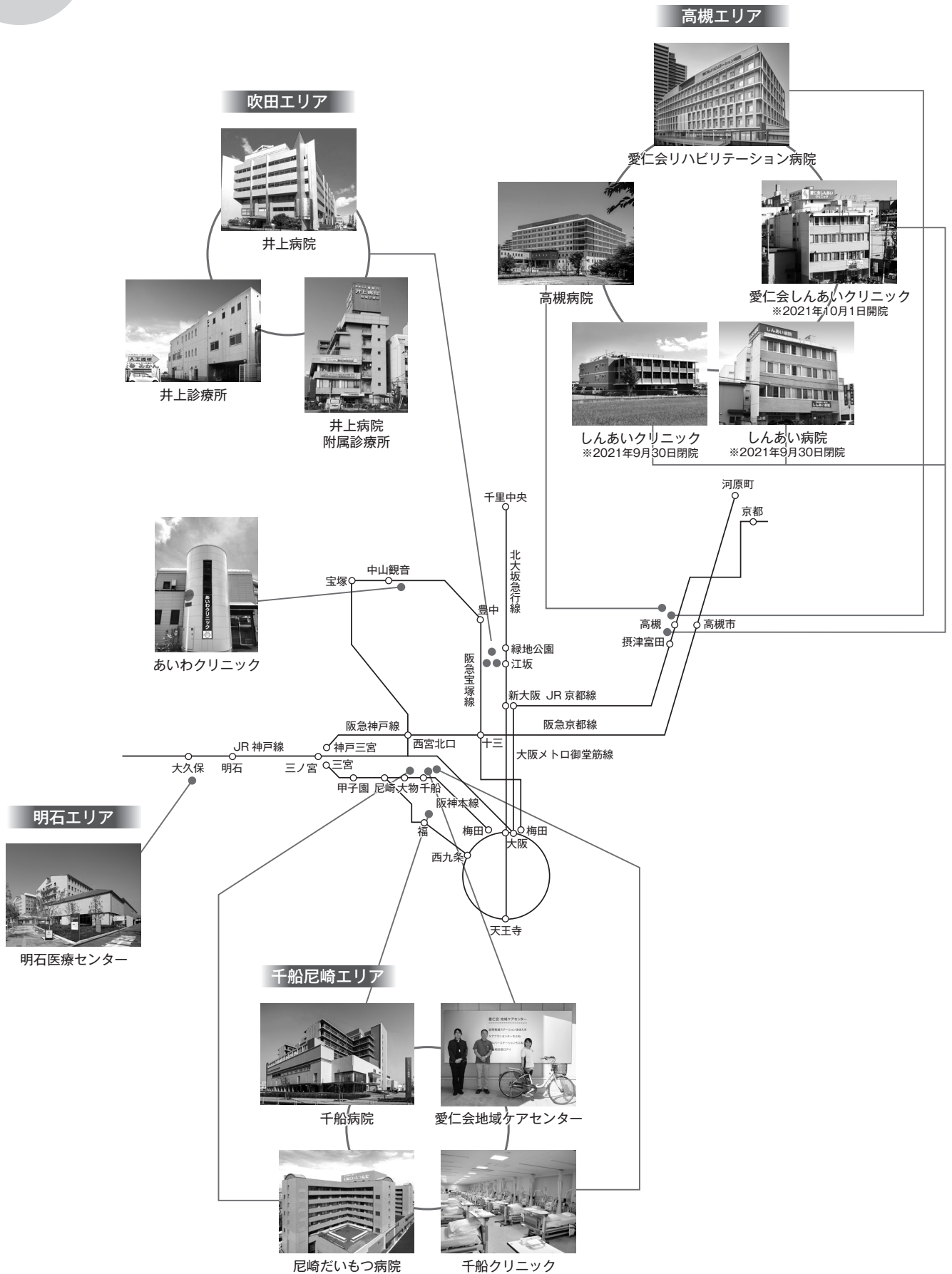
沿革

1958年11月1日	医療法人設立認可	8月4日	高槻病院 東館開設
1959年1月11日	医療法人愛仁会千船診療所発足	10月1日	高槻病院 総合周産期母子医療センター棟開設
1966年5月1日	千船病院開院(94床)		
1971年5月2日	千船病院増築竣工開院(191床)	2002年1月10日	社会福祉法人豊中愛和会設立
1977年6月10日	本部事務局発足	5月13日	中後会長 勲四等瑞宝章受章
11月1日	高槻病院竣工開院(180床)	2003年4月1日	社会福祉法人豊中愛和会 総合福祉施設 ローズコミュニティ・緑地開設
1980年4月1日	愛仁会看護専門学校開校	4月22日	本部保健福祉事業部 ISO9001取得
1982年4月1日	高槻病院新築移転開院(302床)	9月9日	根岸理事長 救急医療功労者厚生労働 大臣賞受賞
7月1日	千船病院新築移転開院(292床)		
1983年4月1日	理学診療科病院開院(186床)	12月15日	高槻病院 病院機能評価更新認定
1984年9月1日	杏和総合医学研究所設立	2004年2月1日	高槻病院、愛仁会リハビリテーション病院 電子カルテシステム導入
1985年3月23日	竹中普久先生名誉理事長就任	2月16日	千船病院 病院機能評価更新認定
4月1日	中後勝先生理事長就任	4月1日	高槻あいわ保育園・あいわ児童館開設 杏和総合医学研究所 滅菌センター開設
1987年3月18日	特定医療法人認可	7月1日	千船病院附属千船クリニック開院 千船病院、千船病院附属千船クリニック 電子カルテシステム導入
8月1日	高槻病院増築竣工開院(477床)	7月24日	愛仁会リハビリテーション病院 日本リハビリテーション医学会研修病院認定
1989年4月1日	愛仁会新理念制定	12月1日	愛仁会千船在宅サービスセンター設立
1991年4月1日	本部事務局を愛仁会本部と名称変更	2005年5月15日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価更新認定
1995年8月1日	介護老人保健施設「ユーアイ」竣工 (入所100名)	7月30日	千船病院 全館改修工事終了
1996年8月1日	訪問看護ステーション「ほほえみ」設立	8月31日	特別医療法人認可
8月1日	千船病院 開放型病院認可	12月28日	高槻病院 地域医療支援病院認定
1997年4月1日	愛仁会看護助産専門学校に改称 (助産学科新設)	2006年2月17日	根岸理事長、山門常務理事 大阪府知事賞受賞
4月1日	高槻病院 厚生省臨床研修指定病院に認可	2月20日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価付加機能(リハビリテーション 機能)評価認定
5月13日	中後理事長「藍綬褒章」受章	4月1日	高槻北地域包括支援センター、 緑地地域包括支援センター設立
9月1日	介護老人保健施設「ユーアイ」竣工 (入所100名)	4月20日	本部 ISO9001取得
12月1日	高槻病院 開放型病院認可	6月1日	千船病院 7対1看護 承認 千船病院・高槻病院 NICU増床
1998年2月1日	訪問看護ステーション「スマイル」設立	7月1日	ケアプランセンターユーアイ開設
2月9日	千船病院 病院機能評価認定証交付	7月29日	千船病院 人間ドック機能評価認定
4月1日	在宅介護支援センター「ユーアイ」設立	2007年4月1日	根岸宏邦先生 会長就任 筒泉正春先生 理事長就任
5月19日	高槻病院 病院機能評価認定証交付	9月29日	第1回 介護福祉施設合同業務改善成果 発表会開催
1999年1月26日	高槻病院 救急告示病院に認可	10月1日	愛仁会リハビリテーション病院 増床(225床)
4月1日	理学診療科病院、愛仁会リハビリテーション 病院に名称変更	11月8日	高槻病院 人間ドック機能評価認定
10月28日	社会福祉法人愛和会設立認可		
2000年4月1日	ヘルパーステーションユーアイ、ユーアイ 活動開始		
5月15日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価認定証交付		
10月1日	社会福祉法人愛和会 複合福祉施設開設		
2001年1月26日	あいわ診療所開院		
4月1日	中後勝先生 会長就任 根岸宏邦先生 理事長就任 千船病院 厚生労働省臨床研修指定病院に認可 職員共済会「親愛会」発足		

	11月14日	千船病院 地域周産期母子医療センター 認定	4月 6日	愛仁会看護助産専門学校 新校舎移転, 看護学科2クラス定員80名に
2008年	1月29日	千船病院 卒後臨床研修評価認定	6月 7日	「第41回日本小児神経外科学会」(於 大阪)
	2月 9日	千船病院 病院機能評価更新認定		高槻病院 山崎麻美副院長を大会長として高 槻病院で運営を担当
	4月 1日	愛仁会総合健康センター開設 長尾地域包括支援センター設立	7月 1日	高槻病院院内保育園「にじっこ保育園」, 愛仁会看護助産専門学校1階に新設開園
	4月11日	千船病院 消化器内視鏡センター開設	7月27日	明石医療センター南館オープン 許可病床数382床に増床
	5月 1日	愛仁会総合健康センター附属デイサービスセ ンター開設	10月 1日	カーム尼崎健診プラザ開設
	5月18日	高槻病院 病院機能評価更新認定	2014年 4月 1日	医療法人進愛会と合併 カーム尼崎健診プラザ健診事業開始
	8月 2日	高槻病院 WHO・ユニセフ「赤ちゃんに やさしい病院 (BFH)」認定	8月 1日	宝塚あいわ苑訪問看護ステーション開設
	10月 5日	愛仁会グループ創立50周年記念大スポーツ大 会開催 (なみはやドーム)	10月 1日	社会福祉法人ますみ会を承継
	11月 1日	愛仁会グループ創立50周年記念行事開催	10月27日	高槻病院 新病院I期棟 開設
2009年	1月 1日	特別・特定医療法人愛仁会から社会医療法人 愛仁会に移行	11月 1日	明石医療センターNICU稼動
	3月30日	千船病院バースセンターリニューアル オープン	12月 1日	高槻病院PICU開設
	4月 1日	千船病院附属千船腎臓・透析クリニック開設 ユアアイデイサービスセンターなごみ開設 愛仁会本部学術部に国際課設置	2015年 1月 1日	明石医療センター 社会医療法人認可
	5月31日	社会福祉法人豊中愛和会 多機能型事業所あ すなろ あすなろ麵, モンド・セレクション 2009金賞受賞 (2010年, 2011年と3年連続金賞 受賞)	1月 7日	明石医療センター泌尿器科外来開設
	10月 2日	「第11回フォーラム 医療の改善活動 in 大阪」筒泉理事長を大会長として運営を担当	3月31日	筒泉正春先生 理事長退任
	11月16日	社会医療法人愛仁会 中期事業計画策定	4月 1日	内藤嘉之先生 理事長就任 →現在に至る
	12月 4日	明石医療センター 病院機能評価Ver.6認定	7月 3日	高槻病院不整脈センター開設
2010年	3月 5日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価更新認定	2016年 1月 4日	社会福祉法人愛和会(宝塚地区)にあいわ結愛 ガーデン開設
	4月 1日	社会福祉法人豊中愛和会 ローズコミュニティ・豊中南開設	4月 1日	社会医療法人愛仁会, 社会医療法人明石医療 センターと合併 尼崎だいまつ病院開設
	5月 8日	愛仁会看護助産専門学校 創立30周年記念 行事開催	10月23日	「第44回国際小児神経外科学会 (ISPN2016)」 (於 神戸)高槻病院 山崎麻美副院長を大会 長として開催
	6月 5日	第1回愛仁会フォーラム開催	2017年 2月 4日	第1回愛仁会学術大会開催
	10月17日	社会福祉法人愛和会 10周年記念を祝う会 開催	4月 1日	社会福祉法人ますみ会と合併
	11月 6日	「第20回日本新生児看護学会学術集会」 (於 神戸)高槻病院で運営を担当	5月 8日	高槻病院 新病院II期棟 開設
2011年	1月 7日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価(リハビリテーション付加機能) 更新認定	6月 1日	介護老人保健施設だいまつ, レジリエンスだ いまつ開設
	1月30日	第1回愛仁会グループ看護・介護学会開催	7月 1日	千船病院 新築移転 開院
	3月18日	フィリピン大学, フィリピン総合病院との 人材交流プログラム開始	7月20日	「第67回日本病院学会」(於 神戸) 内藤嘉之理事長を大会長として開催
	4月 1日	医療法人社団明石医療センター設立	2018年 2月24日	「第11回日本医療マネジメント学会大阪支部学 術集会」(於 大阪)愛仁会リハビリテーション 病院 吉田和也院長を大会長として開催
	7月 1日	愛仁会リハビリテーション病院 新築移転 (MUSEたかつき) 開院	3月31日	おかじま病院 閉院, 杏和総合医学研究所 閉所
	9月 1日	ケアプランセンター愛仁会富田開設	6月 1日	高槻病院新築III期工事竣工 グランドオープン
	10月25日	第3回 日中韓看護学会参加 (於 ソウル)	8月	愛仁会地域ケアセンターに在宅事業 (千船地区)を集約移転
2012年	1月 1日	ヘルパーステーション愛仁会富田開設	2019年 4月 1日	特定医療法人蒼龍会と合併 社会福祉法人愛和会 宝塚地区 Waiwai コミュニティあいわ開設
	5月 1日	千船クリニック 千船病院へ統合	6月 1日	あいわクリニック開設
	5月19日	豊中愛和会 創立10周年記念行事開催	7月 8日	ベトナム・ドンア大学との国際業務提携締結
	6月 1日	医療法人社団 明石医療センター, 医療法人 仁愛会 田畑胃腸病院と合併	2020年 5月 1日	ケアプランセンターちぶね, ケアプランセン ター千船病院に統合
	8月29日	第1回愛仁会グループリハビリテーション部門 学術大会開催	9月 7日	森ノ宮医療大学と相互連携協定締結
2013年	1月 1日	おかじま病院開院, 介護付有料老人ホーム スローライフおかじま開設	12月31日	愛仁会総合健康センター附属デイサービスセ ンター廃止
	1月18日	千船病院 病院機能評価Ver.6認定	2021年 9月30日	しんあい病院, しんあいクリニック閉院
	2月13日	第1回 愛仁会・神戸大学・フィリピン大学 フィリピン総合病院国際会議開催	10月 1日	愛仁会しんあいクリニック開院
	3月21日	医療法人社団 明石医療センター 特定医療 法人 承認	12月10日	一般社団法人淀川ヘルスケアネット設立
	4月 1日	社会福祉法人愛和会, 社会福祉法人豊中愛和会 を社会福祉法人愛和会として合併		



愛仁会グループ施設紹介



I

千船病院



7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関
MFICU/NICU・GCU/ICU
全292床

〒555-0034
大阪府大阪市西淀川区福町3丁目2番39号
TEL.06-6471-9541

院長 吉井勝彦

総合内科

スタッフ紹介

二宮幸三

日本内科学会 総合内科専門医・指導医

日本循環器学会 専門医・指導医

日本動脈硬化学会 動脈硬化専門医・指導医

日本病院総合診療医学会 認定医

藤田芳正

日本内科学会 総合内科専門医・指導医

日本腎臓学会 専門医

ICD

依藤兼太郎

日本内科学会 認定内科医

宮井佑也

内科専攻医

黒川 晟

内科専攻医

香山元伸

内科専攻医

好木康明

内科専攻医

2021年3月に黒川 晟医師が退職し、同年4月に香山元伸医師が着任した。

診療内容

総合内科外来は、午前は2診体制、午後は1診体制で行っている。主として各内科系の若手医師が対応している。また、別枠で総合内科専門外来を藤田医師と依藤医師が行っている。診療内容は主に初診を受け持ち、必要により専門診療科に振り分けている。当科でフォローできる患者や完結できる場合はそのまま継続診療もしている。

2021年のトピックス・実績

総合内科外来の患者数は、21,674人で、1日平均89人であった。入院患者数は、年間478人であり、疾患別にみると新型コロナウイルス感染症202人（42.3%）、損

傷・中毒など外因の影響68人（14.2%）、呼吸器系疾患52人（14.2%）、腎尿路生殖器系の疾患41人（8.6%）、循環器系疾患38人（7.9%）、内分泌・栄養及び代謝疾患13人（2.7%）、消化器系疾患13人（2.7%）、筋骨格及び結合組織の疾患12人（2.5%）、皮膚及び皮下組織の疾患11人（2.3%）、その他28人（5.9%）であり、多岐に渡った。特に新型コロナウイルス感染症と大腿骨近位部骨折の症例が増えたのが、例年と異なっている。

学術活動として、学会活動では日本内科学会に3演題を発表した。

また、若手医師の教育については、藤田医師により内科全般の疾患と感染症診療をテーマに毎週1~2回定期的な勉強会を行っている。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療について

2020年より引き続き一般外来と分離した地域発熱外来（臨時外来）を開設し、地域の発熱患者を積極的に受け入れた。

入院対応では、軽症・中等症の新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病院として、感染フェーズに合わせて大阪府より決められた病床数を運用した。担当を全内科医師とし週ごとにチームに分けて診療した。流行期の第3波から第5波のピークには入院患者数が増加した。特に第4波のアルファ株流行期（4月~6月）には、重症患者の転院先がなく、当院にて人工呼吸器管理を含めた集中治療に当たった。

今後の展望

今後も入院患者は多疾患を有する高齢患者や感染症の疾患を中心に増やしていきたい。また、新型コロナウイルス感染症については終息までまだまだ時間がかかるようであり、対応を継続していく。

高齢で多くの基礎疾患を有する大腿骨近位部骨折患者の入院管理についても行っていく。

また、初期研修医など若手医師の教育・育成も引き続き当科で行い、更に実習やカンファレンスを継続する予定である。

表1. 臨時外来患者数

(単位:人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020年患者数			68	258	126	114	0	67	43	49	90	115	930
2021年患者数	123	81	83	157	113	125	145	239	297	123	104	102	1,692

表2. 新型コロナウイルス感染症入院患者数

(単位:人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020年患者数			0	1	3	0	2	13	6	8	15	26	74
2021年患者数	24	9	10	41	45	12	18	52	39	3	2	1	256

呼吸器内科

スタッフ紹介

竹嶋 好 部長

日本呼吸器学会呼吸器専門医

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本緩和医療学会認定医

肺がんCT検診認定医師

住谷充弘 部長 (兼 リハビリテーション部長)

(2021年7月～)

日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医

日本アレルギー学会アレルギー専門医

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本リハビリテーション科専門医

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会認定

呼吸ケア指導士 (初級)

島田天美子 部長 (2021年9月まで)

内科学会総合内科専門医

がん治療認定医

日本呼吸器学会専門医

呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

診療内容

呼吸器内科医は常勤医師2名（1名は主に睡眠時無呼吸症候群を中心として診察）、非常勤医師1名で診察に当たっている。呼吸器内科専門医を持つ経験豊富な医師が、呼吸器疾患全般に診断、方針決定、治療を行っている。

【呼吸器疾患】

肺がんについては、現在、検査・治療が非常に複雑化し施設格差があるのが現実である。当院では放射線治療の設備環境がないため、主に診断や緩和的な化学療法を中心として行っている。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）をなるべく早期から実施するようにし、患者・家族と話し合っ、患者の価値観などになるべく合わせた治療を選択するように心掛けている。

また、これまでの経験に基づき、可能な限り苦痛や負担がなく生活の質を落とさない治療や化学療法を行うようにしている。

【睡眠呼吸障害】

睡眠時無呼吸症候群（SAS）と関係が深い関連内科疾患（高血圧、心房細動、糖尿病、逆流性食道炎など）

との関連を踏まえた、睡眠時無呼吸治療を目指している。睡眠時無呼吸症候群との関連が多い肥満症についても、糖尿病内分泌内科や糖尿病・減量外科と協力し、手術も含めて減量介入を行っている。

2021年のトピックス・実績

精密PSG検査機器を新規導入（夜間の連続性血圧測定がマンシェットなしでも推定測定できる）。

SASに合併することが多いとされるMR関連高血圧・早朝高血圧をスクリーニングする上でPSG検査時に非侵襲的に検査を行うことができる。

今後の展望

呼吸器内科疾患の治療において、ベストな治療ができるようにサポートする。

- 肺がんについては、施設格差も最近では広がっているため、一人ひとりに合わせた診療を提案。
- 体重増加・生活習慣病の改善を踏まえた睡眠呼吸障害に対する治療介入。
- CPAP、NPPVなどの非侵襲的陽圧換気療法の使用コンプライアンスを改善するタイトレーション評価・治療の介入。
- 肥満合併などの難治喘息症例における生物学的製剤での加療を踏まえた喘息診療。
- 身体活動性維持を目指した入院での呼吸リハビリテーションの介入。

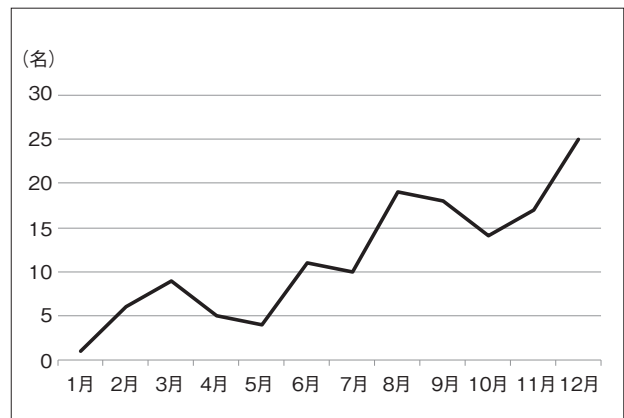


図1. 入院患者数

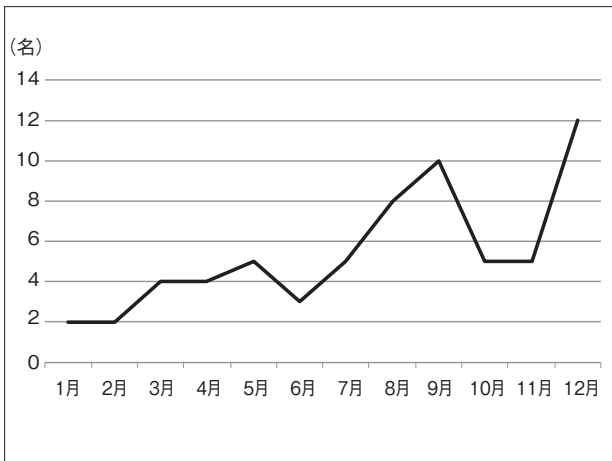


図2. 精密PSG件数

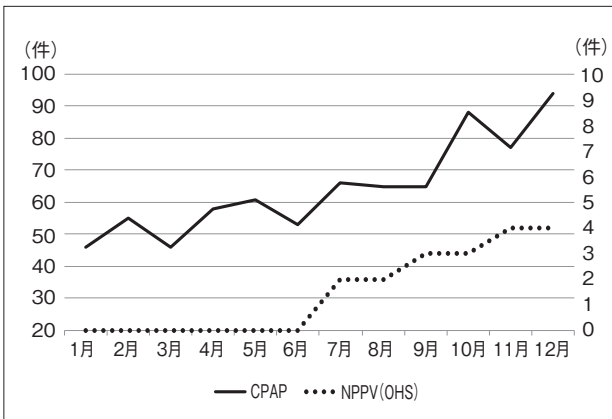


図3. CPAP+NPPV指導料算定件数

循環器内科

スタッフ紹介

2021年は3月末で高橋典子専攻医が退職し、4月から黒瀬潤医師が新たに着任した。また8月末で足立和正部長が退職した。最終的には尾崎正憲副院長、板垣毅主任部長、濱田晶子医長を合わせて常勤医4人の体制となった。

診療内容

循環器内科では、虚血性心疾患、心筋症、心臓弁膜症、二次性高血圧、不整脈疾患、閉塞性動脈硬化症、肺血栓塞栓症など循環器疾患一般について幅広く診療を行っている。外来診療では非侵襲的検査と必要に応じて侵襲的検査を組み合わせを行い、医学的根拠に基づいて治療方針を決定している。入院診療ではカテーテルによる心血管インターベンションに力を入れている。虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション（PCI）、末梢動脈に対する血管内治療（EVT）、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術、静脈血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置などが施行可能である。また急性心不全、重症心不全症例に対してICU/CCUでの集中治療が可能である。原発性アルドステロン症については局所的な副腎静脈採血（AVS）を行うことで原発巣の局在診断が可能となっており、泌尿器科との連携で根治術へと繋げることが可能となっている。近年、画像診断として心臓MRIが目されているが当科でも遅延造影、T1mapの撮像が可能であり、非侵襲的な診断補助手段

として活用するようになり次第に件数が増えている。

教育面では、毎週定期的に病棟カンファレンス、英文論文抄読会、心エコーカンファレンス、アンギオカンファレンスを行い、研修医にも積極的に参加を促し、抄読会は英語論文の読解力を向上し、最新の循環器系研究の知識を得る場としている。

2021年のトピックス・実績

2021年も引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策のため待機の検査、治療入院の制限が行われた時期があり、その影響で当科のカテーテル検査、治療は減少傾向にあった。その中で心房細動患者に対するアブレーション治療に積極的に取り組んだことで、アブレーションの件数は増えている。心不全で入院した患者を対象として、多職種による心不全教室、心臓リハビリテーションを継続しており、心不全連携パスを導入した。

主な診療実績：冠動脈造影検査145件、PCI 76件、EVT 6件、アブレーション20件、ペースメーカー植え込み術18件など

主な学術実績：第132回日本循環器学会近畿地方会において症例報告を行った。

今後の展望

虚血性心疾患、心不全、不整脈などの心疾患をトータルで診療し、24時間のオンコール体制を維持して救急患者を積極的に受け入れていく。慢性心不全の地域連携パスを近隣の医療機関と連携し普及させていく。

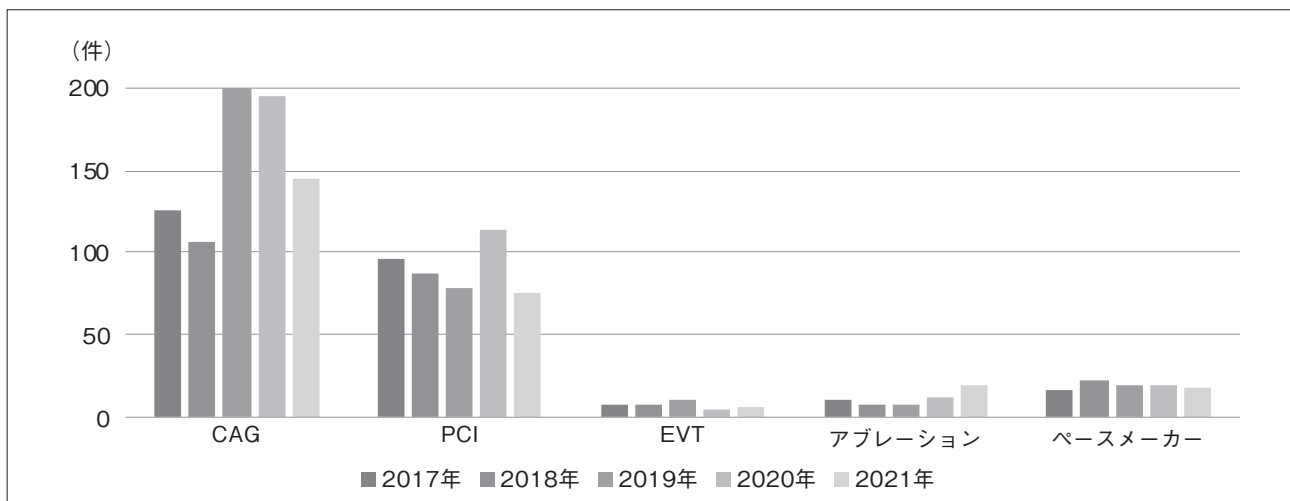


図. 診療実績

消化器内科

スタッフ紹介

船津英司（1998年卒）

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
日本消化器病学会指導医・専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医
日本膵臓学会指導医

那賀川 峻（2007年卒）

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本膵臓学会指導医

板東正貴（2012年卒）

日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医

羽鳥広隆（2013年卒）

日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医

名方勇介（2015年卒）

日本内科学会認定医

南條 望（2017年卒）

西川浩介（2017年卒）

瀧本 将（2018年卒）（～2021年4月）

金丸薫子（2019年卒）

中村磻孝（2019年卒）

石原美崎（2019年卒）

診療内容

船津は消化器内科主任部長として消化器疾患の診療全般の統括に当たり、ほか常勤医の技術指導・診療支援も行っている。また消化器内視鏡センター長として看護部及び技術部放射線技師との連携をとりながら、内視鏡センターの運営・統括を行っている。那賀川は消化器内科医長として、船津とともに後進の消化器内科医師の技術指導・診療支援を行いつつ、学会発表の指導にも尽力している。板東・羽鳥・名方は一連の消化器内視鏡技術を習得し、通常検査業務を主力としてこなしつつ、より高度な技術習得を目指し日々修練に励んでいる。西川・金丸・中村・石原は後期レジデントとして日々消化器内科疾患の検査・診療において研鑽を積んでいる。診療体制は月曜日から金曜日の午前・午後に消化器専門外来を開

設し、検査業務として月曜日から金曜日までの午前は上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査を行い、月曜日から木曜日までの午後に下部消化管内視鏡検査を行っている。胆膵内視鏡検査は月曜日から金曜日の午後に行っている。休日夜間診療は、オンコール体制にて消化器系救急疾患に緊急対応している。紹介患者に関しては、全て消化器科専門医が初療に当たり、緊急を要する症例に対しては、救急外来にて迅速な診断・処置を行っている。

2021年のトピックス・実績

2021年は新型コロナウイルス感染症の流行が続くものの、外来受診者及び内視鏡件数は流行前の水準に戻りつつある。消化器診療以外に院内発熱外来や新型コロナウイルス感染症入院診療に協力している。学会活動は、消化器病学会近畿支部例会に2題の発表を行っている。年2回の愛仁会消化器カンファレンスは対面での開催が困難であり、今期は中断している。

今後の展望

今後も苦痛の少ない内視鏡検査、超音波内視鏡検査などの専門的な内視鏡検査を提供していくことで、地域の中で特殊性をもった消化器診療を広げていく。また症例蓄積を利用した学会報告を行っていくことにより、紹介患者の増加・地域医療への更なる貢献を実現していきたい。

表. 内視鏡検査実績

(単位: 件)

上部消化管内視鏡検査総数	3,824	胆膵関連検査総数	293
胃癌検診	115	EST	110
超音波内視鏡	274	採石/砕石術	140
ポリープ切除	6	EBD	96
ESD	35	EMS	10
止血術	79	膵管ドレナージ	9
静脈瘤	58	EUS下ドレナージ	10
PEG	19	PTCD	2
ステント・拡張術	22	PTGBA・PTGBD	32
異物除去	17		

下部消化管内視鏡検査総数	2,034
ポリープ切除	749
ESD	8
止血術	38
ステント・拡張術	10

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

高橋哲也 (主任部長, 1989年卒) (2021年10月異動)
 中島進介 (部長, 2008年卒)
 佐々木百合子 (医員, 2015年卒) (2021年3月退職)
 岡 亜希子 (医員, 2011年卒) (2021年4月～)
 大島令子 (専攻医, 2017年卒)

診療内容

2021年の専門外来の診療体制であるが、高橋3単位、中島3単位、佐々木3単位を担当し、神戸大学糖尿病内分泌内科から派遣された非常勤医師4名が計5単位を担当した。2021年4月からは大学の人事異動により佐々木に代わり岡が赴任し、専門外来3単位を担当、また大島が産休から復帰し、1単位を担当した。その後、非常勤医師に相次いで産休があり、また10月に高橋が急遽千船クリニックに異動になったことで、当初より5単位の減少となった。11月より中島3.5単位、岡3.5単位と単位数を増やして対応した。

糖尿病認定看護師の田中友香看護師が担当する療養支援外来については、2021年4月よりそれまでの1単位から4単位に増やし、外来療養支援の充実を図った。

また、前年同様、肥満・糖尿病内分泌センターとして、減量外来(糖尿病・減量外科 北濱部長, 4単位担当)での患者は遠方からの受診も多く、高橋・中島・岡が随時糖尿病内分泌内科での併診対応を行った。

病棟においては糖尿病(1型・2型・妊娠糖尿病)及び高度肥満症の教育入院、内分泌検査入院、外科系周術期、化学療法、ステロイド療法時などの血糖管理を中心に行った。当院のNST活動についても引き続き、栄養管理科、薬剤科、理学療法科でチームを構成し週1回のNST回診を行った。

2021年のトピックス・実績

2021年の実績は外来糖尿病患者2,244名、糖尿病教育入院103名と、外来患者数は増加したが、入院患者は減少

傾向であった。内分泌疾患においては、主に外来となるが、甲状腺疾患970名、副甲状腺疾患36名、下垂体疾患94名、副腎疾患57名となっていた。減量・糖尿病外科の年間手術件数は合計93件で、術前・術後と糖尿病、内分泌疾患のある患者について当科で併診を行った。

当科及び糖尿病・減量外科と共同して学術活動を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり当科が中心となった学会発表は3件であった。

今後の展望

糖尿病治療については、1型糖尿病における先進医療機器、2型糖尿病におけるGLP1受容体作動薬やSGLT-2阻害薬などの新規治療薬の進歩が目覚ましく、多くの糖尿病は適切な外来治療を行うことで確実な血糖降下が得られ、合併症の進行も抑制できる時代となりつつある。

当科では持続皮下インスリン注入療法(CSII)や持続血糖モニター(CGM)といった先進機器を積極的に導入するとともに、外来診療の充実に向けて糖尿病認定看護師、栄養管理科と連携し、糖尿病教育指導などを外来診療の中で効率よく行うことができるよう検討を進めている。

また、当科では肥満・糖尿病内分泌センターとして糖尿病・減量外科、栄養管理科、リハビリテーション科と強固な連携があり、肥満症の外来・手術件数も順調に増加しており、2021年7月からはさらに、睡眠時無呼吸症候群をはじめとする肥満・睡眠関連呼吸器障害を専門とする呼吸器内科が加わっている。肥満を中心とした糖尿病・内分泌の診療の幅がより広がることが期待される。

今後も、千船病院肥満・糖尿病内分泌センターのこれらの特徴を学会や研究会でアピールすることで、地域と関西の主要病院との連携、さらに大学との連携を深めていきたい。

糖尿病・減量外科 (肥満・糖尿病内分泌センター)

スタッフ紹介

北濱誠一 (センター長/部長, 2002年卒)

診療内容

2021年の外来診療体制では、月曜日午前の減量術後外来、午後の減量外来、金曜日の外科外来枠(担当北濱)は95%以上が減量若しくはGERD患者であり、4単位を減量・GERD関連の外来としている。

減量外来では、栄養指導、運動療法、内服加療を行いながら手術適応のスクリーニングを行い、糖尿病内分泌内科専門医により2次性肥満の否定を全例に行い、術前血糖コントロールが必要な症例及びBMI>50の超重症肥満例、遠方患者の場合などには積極的に教育入院を行っている。睡眠呼吸医療を専門とする住谷医師の着任により、自宅での簡易検査で全例スクリーニングを行い、必要に応じてPSG検査や調整目的の入院、また、難病指定である肥満低換気症候群の診断、難病申請が可能となり、特に超重症肥満患者における周術期の睡眠時無呼吸症候群の管理が充実して行えるようになった。

減量チームコアメンバーによる減量カンファレンスは毎週1時間、外来を円滑に行うための減量外来カンファレンスは月に1回、ICUとのカンファレンスは外科と合同で週1回行っている。

高度肥満症に伴う11の合併疾患に対しては関連各科や減量チームスタッフ、看護部などの協力を得ながら“All千船”で診療に当たっており、減量コーディネーターが連携役として大きな役割を担っている。

新たにGERD診療ガイドラインが改定されたが、内科的治療抵抗性の胃食道逆流症に対しては、粘膜障害の明らかでないNERDにおいても消化器内科協力の下で24時間pHインピーダンスモニタリングを行い、中津済生会病院・神戸大学病院と連携し食道内圧検査を実施し、総合的に手術適応を判断している。

2021年のトピックス・実績

①手術件数、新型コロナウイルス感染症がまん延している中での対応、在院日数削減の試み

新型コロナウイルス感染症がまん延している中で他院で手術ができなくなった患者の受け入れを行い、重症化リスクを複数抱える病的肥満症患者のニーズにできる

限り応えた。逼迫した病床数を圧迫しないように、術前後入院期間を可能な限り短縮しながら手術加療を継続した。結果として減量手術件数は93件(前年比108%)と増加し、これまでの減量手術件数の総数は343例となった。肥満を伴わないGERDに対する手術件数は9件であった。

当科では一般に手術リスクの高い患者を診療しているが周術期の安全性を最大限に高めるため早期退院プログラム(ERAS)を導入している。減量術後平均在院日数は手術開始当初は4.9日であったが、2021年(4-12月)には2.1日まで減少し、結果として1日入院単価も上昇した。

外来延べ患者数は2020年は1,572名であったが2021年は4月から12月の時点で1,651名と約3割増加し中期計画目標を早期に達成した。栄養指導実施件数については2020年1,520名であったが2021年4月から12月の時点で1,427名と25%増加した。高槻病院より協力を得て週1回減量カウンセリングを行っているが、2020年は88例であったが2021年4月から12月までで88例と25%増加した。

外来患者数の増加、チーム医療の円滑化に対応すべく減量コーディネーターが患者連絡の窓口となり予約の調整や初診の聴取など多岐にわたる業務を担っているが、診療介助事務員との更なる連携を行い業務効率の改善に取り組んでいる。

②聖路加国際病院・神戸大学・京都大学への導入支援

減量・代謝改善手術を導入するにあたり、以下の3病院より協力依頼があり、それぞれオンラインでのレクチャーやディスカッションを行った。

- 1) 聖路加国際病院 1月19日 当院から術後栄養管理についての講義、討論。
- 2) 京都大学医学部附属病院 1月28日 チームビルディングについて 外科内科Dr、病棟スタッフ、栄養士、臨床心理士対象にオンラインでの講義を行い、京都大学での1例目の症例提示とそれに対する助言を行い、引き続き2月17日に手術指導を行った。
- 3) 神戸大学医学部附属病院 11月18日に当院の糖尿病内分泌内科、糖尿病・減量外科、栄養科、看護部より講義の後、神戸大学での1例目の症例提示とそれに対する助言を行い、12月9日に現地での手術指導を行った。

③学術面での業績

(i) 第41回日本肥満学会 第38回日本肥満症治療学会学術集会

当院から7演題、及び共同演者として1題、計8演題の報

告を行った。パネルディスカッションでは指定演者として術前減量不良例に対する手術のタイミングについて口演を行った。術前の行動修正を見守り自己効力感をできるだけ高めてもらうことが鍵となることを発表した。ほかに糖尿病内科より、術後糖尿病非寛解例に対する薬物療法について報告した。また、当科と共同で高度肥満患者の腸内細菌の研究を行った吉田尚史先生（神戸大学大学院循環器内科）が若手研究奨励賞（YIA）を受賞された。

(ii) 動脈硬化学会教育フォーラム

2月14日に神戸国際会議場で行われた日本動脈硬化学会（会長：神戸大学循環器内科 平田健一教授）の教育講演でメタボリックサージェリーの効果について発表した。

(iii) 第21回抗加齢医学会総会 指定講演

シンポジウム6「肥満症診療・研究の新展開」で、「減量・代謝改善手術の実践と工夫：QOLの向上を目指して」というタイトルで、本邦での減量手術の現状、当院の手術成績、患者教育やチーム医療におけるポイントについて概説し、術後に糖尿病に関するQOLも向上することを報告し、概要が雑誌に掲載された。（The Mainichi Medical Journal.17(4),102-103, 2021.）

(iv) 三学会共同のコンセンサスステートメントを周知し考える目的で企画されたウェブセミナー Obese diabetes Conference（9月30日）で糖尿病内分泌内科 高橋哲也主任部長より内科の立場からみたMetabolic /Bariatric Surgeryとして報告を行った。特別講演では北濱が座長を務め、北里大学医学部 内藤剛教授より2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の現状と今後の展望についてお話いただいた。

(v) 減量手術にまつわる和文4篇を報告した。

- ① 臨床外科特集「肥満外科A to Z」への寄稿依頼があり当院で先駆けて行っている「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術に対する修正手術」について、手術の考え方及び手技詳細をビデオを含めて報告した。全国でスリーブ状胃切除術の手術件数が右肩上がりに増加しているため今後は本邦でも同術式が増加すると予想される。
- ② 当院で行ってきた術中麻酔管理について前麻酔科主任部長の上北医師より報告した。
- ③ 手術室スタッフの津熊看護師より減量手術術中体位と上肢末梢神経障害の関連性に関する論文を報告した。
- ④ 「減量コーディネーターが繋ぐ高度肥満・糖尿病治療」と題し本邦で先駆けて減量コーディネーターとしての業務を定義した。今後の働き方改革における一つの主要なモデルとなりうると考えている。

(vi) まとめ 2021年の当センターによる講演会・学術発表は34件、座長4件、和文論文4本であり、発表件数は前年と比較し1.5倍に増加した。一般臨床医への啓蒙活動及び他院への手術導入支援など、減量・代謝改善手術の安全な普及に果たす役割は年々増加してきている。

今後の展望

2021年には京都大学及び神戸大学病院への手術導入支援及び1例目の導入を安全に行った。西日本における減量・代謝改善手術の拠点として肥満・糖尿病のチーム医療の全国への普及へ貢献していきたい。この領域では外国人患者を診察することが多いが、国際学会での発表や交流を通じ、知識をupdateしつつ手術成績を高め、国際水準の集学的医療を行っていくことが当センターの責務と考えている。

主に進行した糖尿病に対する術式であるスリーブバイパスをこれまで自費で行っていたが先進医療として開始した。現在全国で3施設が認定施設であるが先行の2施設と共同研究を行い、保険診療が認められるように申請する予定としている。

また、当院ではスリーブ術後のGERDに対する修正胃バイパス術を全国でも多く手掛けており、同術式の手術手技について論文化し報告した。今後は当院が主となった多施設共同研究でoutcomeを報告する予定である。

当院ではBMI80を超える患者もチーム医療で安全に治療してきたが、肥満低換気症候群や心不全合併例など超ハイリスク症例の紹介が増加している。このような重症例は手術経験の乏しい施設では対応が難しいのが現状であり、当院が先駆けて症例を蓄積していく責を担っている。本年は睡眠呼吸障害を専門とする住谷医師の参画があり、手術導入期間の短縮と手術適応の拡大が可能となった。

新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきた段階で産業医や企業との連携を構築し、未受診のSAS/高度肥満症患者を受診に繋げ、肥満症をコントロールしつつ“All 千船”の各専門科へ紹介を行い、患者数の増加に貢献し院内の横の繋がりを更に強化していきたいと考えている。

入院前からの患者教育や早期リハビリを含むERASを導入することで良好なアウトカムが得られることを実証してきたが、今後は外科系診療科全体へのERASの普及に貢献していきたい。

腎臓内科

スタッフ紹介

- 中西昌平 : 日本透析医学会専門医・指導医, 日本腎臓学会専門医・指導医, 日本内科学会認定医・総合内科専門医
- 服部英明 : 日本透析医学会専門医, 日本腎臓学会専門医, 日本内科学会認定医
- 宇高千恵 : 日本透析医学会専門医, 日本腎臓学会専門医, 日本内科学会認定医・総合内科専門医
- 堂崎良太 : 日本専門医機構内科専門医
- 齊藤 慶 : 日本透析医学会専門医, 日本腎臓学会専門医, 日本内科学会認定医 (2021年3月退職)
- 山本真有佳 : 後期研修医 (2021年3月退職)
- 金 鐘一 : 日本透析医学会専門医・指導医, 日本内科学会認定医・総合内科専門医, 日本病院総合診療医学会専門医, 千船クリニック所長 (2021年10月退職)
- 高橋哲也 : 日本糖尿病学会専門医・指導医, 日本内分泌学会専門医・指導医, 日本病態栄養学会専門医・指導医, 日本内科学会認定医・総合内科専門医, 千船クリニック所長 (2021年11月就任)

診療内容

腎炎・ネフローゼ症候群, 電解質異常, 急性腎障害, 慢性腎臓病, 維持透析の合併症, 急性血液浄化などを中心に入院加療を行っている。

血液透析室では入院・外来患者の血液透析や, 腹膜透析血液透析併用患者の血液透析, 腹水濃縮再還流療法, 顆粒球除去療法などを行っている。ICUと隣接している利点を生かし, 重症患者はICUにて血液透析を行っている。2020年より外来維持透析患者の透析を開始したことから, 2021年の年間透析回数が増加した。

腎センター外来では, 腹膜透析患者, 腎移植患者やドナー, 内シャント造設準備中の患者などの診療を, 腎臓内科と泌尿器科が共同で行っている。

腎センター専属看護師にて血液透析・腹膜透析や腎移植外来の介助を行っている。腎看護外来 (腎不全保存期の患者の生活指導, 透析療法選択, 透析導入のサポート, 腎移植の紹介) や腹膜透析導入患者の退院前・退院後家庭訪問を行っている。

金所長により透析患者の内シャント不全に対する経皮的血管形成術 (シャントPTA) を行ってきたが, 2021年10月金所長の急逝により, シャントPTAを中断せざるを得なくなった。今後は泌尿器科・樋口副院長によるシャントPTA再開を目指している。

2021年のトピックス・実績

2021年10月千船クリニック・金所長の急逝により, 高橋副所長が同年11月より所長に就任した。

今後の展望

シャントPTAを再開し, 保存期腎不全から透析導入, 維持透析, シャント管理も含めた維持透析の合併症管理などを一元的に行える体制を再構築していく。

表1. 入院実績

(単位: 件)

	2019年度	2020年	2021年
CKDとその合併症	49	62	37
腎炎・ネフローゼ症候群	22	44	21
電解質異常	29	4	19
教育入院	1	0	1
膠原病	4	2	0
血管炎とその合併症	3	7	4
血液透析導入	26	24	19
血液透析の合併症	47	50	41
腹膜透析導入	2	6	2
腹膜透析の合併症	2	3	3
腎生検	19	15	11
PET検査	3	5	2
PTA	59	59	29
内シャント造設術	32	18	4
腹膜透析カテーテル留置	2	3	0

※2020年以降, 対象期間が1月1日~12月31日

表2. 血液透析実績

	2020年	2021年
総透析回数 (回)	1,479	1,697
透析回数月平均 (回)	123	141
導入患者数 (人)	24	22
死亡患者数 (人)	13	5

	2020年	2021年
持続血液濾過 (回)	14	4
エンドトキシン吸着療法 (回)	0	0
顆粒球吸着療法 (回)	10	5
血漿交換 (回)	1	0
腹水濾過濃縮再静注療法 (回)	17	35

救急診療部

スタッフ紹介

主任部長：林 敏雅
救急科専門医
医長：山下公子
救急科専門医
産婦人科専門医， 社会医学系専門医
日本DMAT隊員， JICA国際緊急援助隊隊員

診療内容

2011年4月に救急診療部として診療が始まった。2012年1月には救急科専門医指定施設に認定された。同年4月からは救急医2名による診療体制となったが，2016年には再び救急医1名となり，2018年より救急医2名による診療となった。院内にはもう1名救急専門医がおり，院内の常勤の救急専門医は3名となる。主たる診療は，日勤帯の救急搬送，外傷，一般外来受診予定であった患者が外来で緊急性が高いと判断された場合の対応，院内の急変への対応も行っている。ER方式で行っており当科で初療を行った後に専門医の加療，若しくは入院加療が必要な場合には該当科への引き継ぎを行っている。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の流行に伴って減少傾向にあった救急搬送件数が増加傾向に転じている様子である。大阪市全体の搬送件数の変化に影響しているものと思われる。一方で，救急搬送からの入院数に関しては救急医が赴任以降，最高値となっていた昨年よりも更に増加しており，救急センターで対応している搬送患者層の重症化が考えられる。

救急医は平日日勤での対応が主となっており，夜間帯は各科からの当直医師による診療となっているが，内科医師，外科系医師の強力な協力体制，体制強化による影響が考えられる。

一次脳卒中センターを開設し，脳外科医の平日当直が確保されたことにより，脳外科への搬送件数が急激に増加したことは今年一番のトピックである。

今後の展望

一般外来での受診と異なり，救急を受診する患者は，緊急的な対応が必要となることが多い。多くの受診を望むことは不適切なことではあるが，地域のニーズに合わせて，今後も積極的な受け入れを行っていきたい。

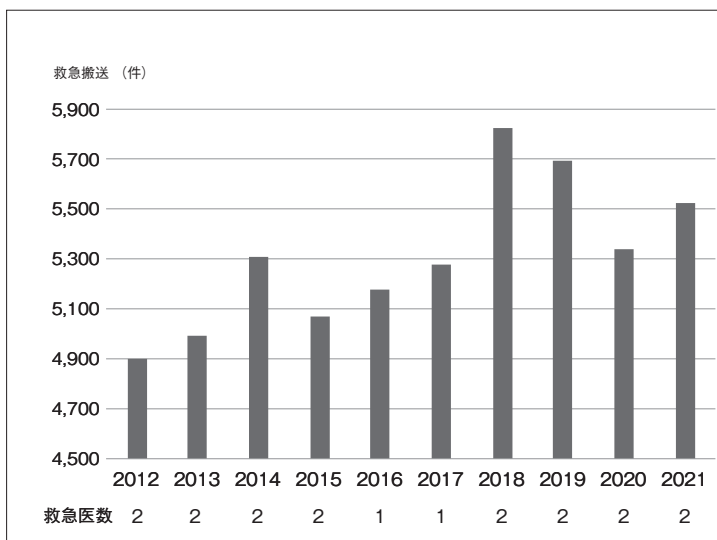


図1. 救急センター受け入れ件数

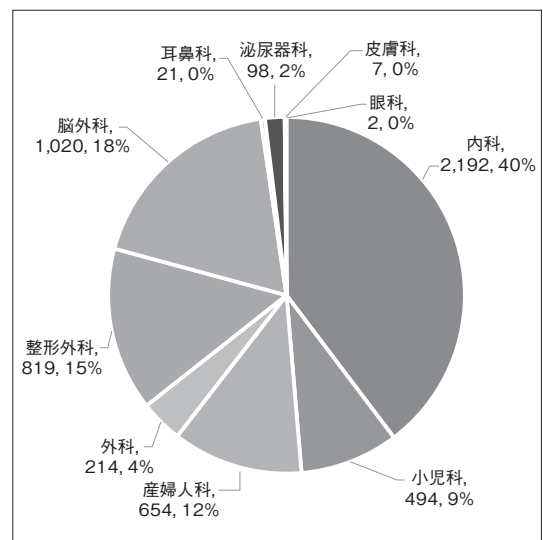


図2. 搬送科別割合

外科

スタッフ紹介

向井友一郎（副院長）
 山元康義（主任部長）
 北濱誠一（部長）
 大浦康宏（医長）
 桃野鉄平（医長）
 三原俊彦
 田中聡志（～2021年4月）

診療体制または活動内容

血管外科の松尾の退職に伴い血管外科症例は減少した。

2021年のトピックス・実績

手術の内容としては呼吸器外科12例、血管外科0例、乳腺72例、消化器一般517例、小児外科22例と多岐にわたり相変わらずのよろず外科である。

トンネルの出口の見えない新型コロナウイルス感染症対応のため入院制限などが必要な状況で血管外科以外はほぼ症例数は維持できた。残念ながら血管外科の手術症例数は減少した。

今期のトピックスは何と言っても外科疾患領域での念願のda Vinci手術の導入である。

6月に直腸がんのda Vinci手術を導入し7例に施行した。年度後半は2022年4月から保険請求が行えるようになることを踏まえ、保険取載後の対応を考え症例を控えたが、順調に症例数を増す方向で進んでいる。

肥満減量手術も順調に症例を積み重ね西日本では症例数1位、全国でも2位の症例数を施行し、北濱は京都大学、神戸大学、聖路加病院などへ本術式の導入指導も行った。

学会発表も消化器外科学会、臨床外科学会、乳癌学会、内視鏡外科学会、肥満学会などの全国学会での発表を積極的に行い、2編の論文発表も行った。

今後の展望

今期は桃野、北濱が消化器外科専門医を取得した。

北濱の消化器外科専門医取得にて北濱もda Vinci手術の運用が可能となり、次年度は大腸癌、胃癌症例でのda Vinci手術開始を目標としている。

これらの手術導入により悪性疾患手術症例の増加に努めたい。

表. 4年間の手術症例数の推移

(単位：件)

	呼吸器	血管外科	消化器・一般	乳腺	頭頸部	小児外科	合計
2018年度NCD登録症例数	14	5	498	70	132	34	753
2019年度NCD登録症例数	16	94	467	43	126	28	774
2020年NCD登録症例数	13	76	479	50	138	30	786
2021年NCD登録症例数	12	0	517	72	99	22	722

※2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

常勤医師

- ・松田 茂 (1997年卒 リハビリテーション科部長)
- ・鄭 克真 (2002年卒 整形外科部長, 関節センター長)
- ・蓑田正也 (2007年卒 医長)
- ・荒木祥太郎 (2016年卒 後期レジデント)
- ・加藤 領 (2015年卒 後期レジデント)(2021年3月退職)
- ・石村颯貴 (2019年卒 後期レジデント)(2021年9月退職)
- ・尾上雲花 (2019年卒 後期レジデント)(2021年10月着任)

非常勤医師

- ・生田健明 (2013年卒 神戸大学大学院)

それぞれの専門分野を活かして専門外来診療を設定し、地域医療に尽力している。後期レジデントは十分な臨床の経験と知識・技術を研鑽できるような環境を整備し、臨床研究と発表を行うように指導している。

診療内容

①外来診療

初診を含め全て予約制としている。紹介患者専用予約枠を確保し、地域の医療機関からの患者紹介を円滑に行えるよう努めている。紹介患者数も順調に増加している。また、各スタッフの専門性を活用し、関節センター(鄭医師)、小児整形外科(蓑田医師)、リウマチ(松田医師)の専門外来を行い地域への浸透が進んでいる。

②手術

2020年まで798件と増加したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、外傷疾患の入院の受け入れだけでなく人工関節手術を含めた待機的手術も延期や中止を余儀なくされ、2021年では644件と減少した。しかし、大腿骨近位部骨折に対する手術件数は横ばいとなり、地域医療の貢献を心掛けている。人工関節手術に関してナビゲーションシステムを導入し精度の高い手術を提供するよう心掛けている。

③病棟診療

主に7階東病棟を利用し、毎日医師数名による回診を行っている。病棟看護師は整形外科患者が持つ特有の病識や病態を理解し看護に努めている。担当する理学療法士と定期的なディスカッションを行い、患者個別の治療計画を立てている。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や寛解を繰り返し、その対応に追われる年であった。入院受け入れが制限される中、緊急事態宣言が発出された際には外傷の受け入れの制限と人工関節を含めた待機的手術を中止せざるを得ない状況であった。

そんな中、前年度の研修医2名が整形外科を選択し、神戸大学整形外科へ入局し、2021年度には後期レジデントとなって半年ずつ当科での研修を行った。学術活動も積極的に行い、日本人工関節学会にて発表した。

①人工関節手術

ナビゲーションシステムの利用により術中の様々な条件でのデータ収集が可能であり、臨床研究や学会発表に繋がっている。2017年に年間100件を超えた以降増加傾向であったが、上述のとおり新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い手術希望の紹介を含めた受診は低迷した(2011年:64件, 2013年:92件, 2015年:97件, 2017年:103件, 2018年:130件, 2019年:134件, 2020年:134件, 2021年:76件)。例年行っている人工関節置換術後患者で構成する患者会(健歩の会)のレクリエーションは前年に引き続き中止せざるを得なかった。多くのメディカル協力の下、手術患者向けのしおりを作成活用し、病棟でのビデオリハビリ時間を設けるなど、今後に繋がる手術術後ケアに注力し満足度向上を目的とした活動に努めた。また、webを用いた地域医療機関への講演会開催や、webテレビや動画などの広報活動を行い、人工関節手術を中心とした業務の拡充活動に尽力している。

②大腿骨近位部骨折に対する院内外の連携

当院では大腿骨近位部骨折を「高齢者の単なる骨折」としてではなく、「骨折を有している高齢患者の一疾患」とであるという概念の下、多職種連携アプローチに取り組んできた。2018年度より本格始動し、手術待機平均日数の短縮、入院日数の短縮に繋がっている。当科では平均待機日数は1.5日未満を維持している。

大腿骨近位部骨折患者を「骨折を有している高齢患者の一疾患」として捉え、院内の内科医師との連携強化をより一層行う。本骨折を罹患した高齢者において約3~4割に何らかの術後合併症を発症するといわれている。2020年より入院以降より総合内科医師の協力が得られ、全身管理介入を依頼することで、より術後合併症の軽減に努めている。

一方、2019年より開始した「地域連携パス」を活用している。当院での骨折に対する加療と併行した骨粗鬆症治療の開始と転院先での加療継続により対側の近位部骨折やほかの骨粗鬆症性骨折の予防に努めている。術後の日常生活動作など必要な情報を連携する医療機関へ提供し地域近隣医療機関との連携、病診・病病連携を強化した。回復期リハビリ病院への転院を円滑に行い、術後の急性期入院期間の短縮が実現できている。

③研修医への指導

初期研修医への教育指導の一環として、「スキルアッププログラム」と称し当科主導で研修医の指導を月に1度行っている。診療材料メーカー協力の下、模擬皮膚を用いた縫合の練習や整形外科手術のワークショップを行うことで初期研修医の技術向上の一助となるだけでなくコミュニケーションの向上となるよう努めている。

整形外科志望の研修医には外来診療からIC、手術業務まで後期研修に向けた実臨床の研鑽を積めるように指導した。加えて学術活動も併行して行い、日本人工関節学会での発表に繋がった。

②近隣医療機関や院内職員との連携強化

人工関節手術業務の拡充はひとえに近隣医療機関からの紹介や当院で手術を受けた患者の高い満足による口コミによると考えている。当科ではICTを用いた病診連携システムを構築し、近隣医療機関と患者相談や情報の共有が可能である。今後、院内外での科を超えた患者の紹介・逆紹介を更に積極的に行い、大阪市内での病病連携の拡充を目指したい。

加えて、各部署の看護師や理学療法士に向けて勉強会を毎週行っている。院内職員間での当科の業務内容を共有することで、人に勧められるような自信「Chibune PRIDE」を持ったブランディング医療の提供を目指す。

③初期研修医、後期レジデントの教育

初期研修医への教育指導の更なる充実はもとより、当科の魅力を紹介しリクルートも積極的に行いたい。慢性期疾患を基礎として、急性期疾患に十分対応できるように指導したい。その上で学術活動を支援し、大学関連病院の一関連施設として教育機関の役割も果たしていきたい。

今後の展望

①整形外科における専門性の向上

整形外科は専門分野が細分化されており、紹介する医療機関も紹介先の専門分野を知った上で紹介いただくことが多い。近隣の医療機関より当院へ名指しで紹介いただけるような新たな専門分野の獲得と、拡大を目指す。

表. 2021年手術実績

(単位:件)

手術名		件数	
関節センター手術	人工関節置換術 (76)	TKA (人工膝関節)	59
		THA (人工股関節)	17
	関節鏡視下手術, スポーツ手術		42
大腿骨近位部骨折 (HF) (157)	大腿骨頸部骨折	人工骨頭置換術	57
		骨折観血的手術	100
	大腿骨転子部骨折	骨折観血的手術	
	外傷手術 (HF以外)		292
	上肢手術		33
	リウマチ		0
	下肢手術		22
	小児		4
	その他		18
合計		644	

リハビリテーション科

スタッフ紹介

【医師】

松田 茂

【理学療法士】

村田尚寛 坂口勇貴 氏内康友 竹井夕華 成原智子
 佐伯静香 藤井真央 椎葉勇生 白岩梨紗 小宗英貴
 橋口鈴香 岩本賢弥 竹内 紬 橋本一希 久保宏弥
 住平 望 中村愛依
 井上健太 (2021年4月尼崎だいもつ病院へ異動)
 乙骨麻美 (2021年3月退職)
 松尾 舞 (2021年5月老健ユアアイへ異動)
 南山智弘 (2021年7月千船クリニックへ異動)

【作業療法士】

安西直人 畑 祐子 中西ひかる 水野紀恵 藤山美佳
 前田紘伸
 村上智美 (2021年4月尼崎だいもつ病院へ異動)

【言語聴覚士】

加納瑞恵 池内洋子 岡田有弥子 小西茉莉奈
 稲田一花

業務内容

1. 理学療法業務

当院の理学療法の対象は、整形外科疾患が最も多い。そのほかでは、脳血管疾患を中心とした脳外科疾患、内科では糖尿病、慢性呼吸不全、急性心筋梗塞後、外科では術後の呼吸リハやADLの改善にも取り組んでいる。

退院に際しては、患者が円滑に日常生活を送れるよう退院時指導を行っており、引き続きリハビリテーションが必要な患者には、外来にてフォローを行っている。

2. 作業療法業務

入院患者では、主に脳血管疾患の急性期、上肢骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している。認知症患者に対する評価や精神賦活、また、長期臥床後の廃用症候群などについても退院に向けてのADL訓練に積極的に介入している。

外来患者では主に手の骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している。

3. 言語療法業務

言語療法は、主に呼吸器内科、内科、脳神経外科からの依頼をもとに失語症・構音障害・音声障害・嚥下障害などの言語聴覚療法を行っている。

また、嚥下回診や、物忘れ外来、外来小児の言語発達検査などにも取り組んでいる。

4. 訪問リハビリテーション

訪問看護ステーションほほえみから訪問リハビリテーションを行っている。

また、当院を退院された患者で必要なケースについては訪問リハビリテーションと連携し、退院後スムーズに在宅生活が送れるように取り組んでいる。

2021年のトピックス・実績

2021年活動実績を表示する (図表1~3)。

2021年は昨年度と比べ活動は約10%増加した。また周術期の介入に対して取り組みを実施。消化器外科のパスには術前からのリハ介入を追加。TKAと減量術後に関しては午前中の手術の場合、手術当日の夕方からの介入を開始した。学会発表もWEBとなったが積極的に行っており、第38回日本肥満症治療学会学術集会、第27回日本心臓リハビリテーション学術集会、第51回日本人工関節学会、第33回大阪府理学療法学術大会、第22回認知症ケア学会にて演題発表を行った。また臨床チーム（整形外科・肥満糖尿病・認知症・心大血管・ウィメンズヘルス）では当院でのエビデンスの確立や研究発表に取り組んだ。

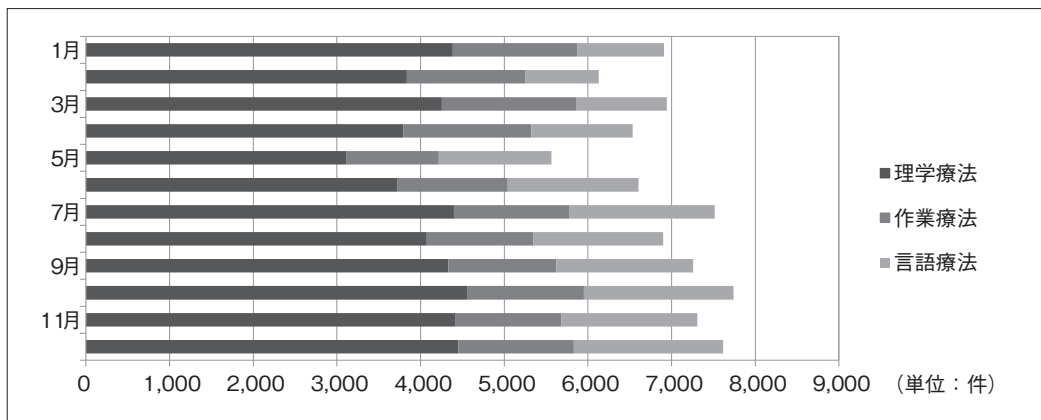
今後の展望

急性期病院のリハビリテーション科の役割として、今まで以上に早期介入、早期退院への取り組みが必要とされている。理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3職種がチームとしての活動と臨床チームをより発展させ、早期退院や退院後の生活の安定に繋げていきたい。また、急性期から在宅へ幅広いニーズに対応できるよう、それぞれの専門性を高め、技術の向上に努めている。

図表1. リハビリテーション科活動実績

(単位：件)

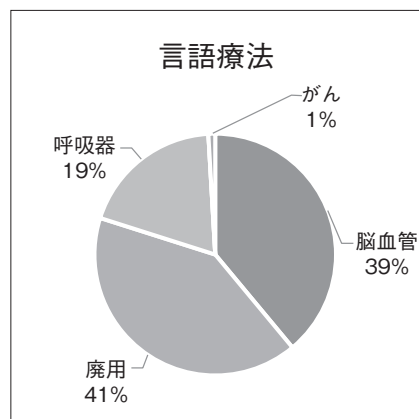
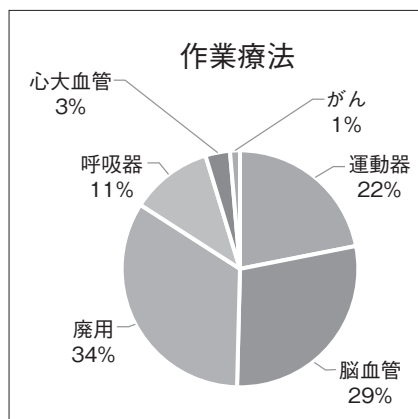
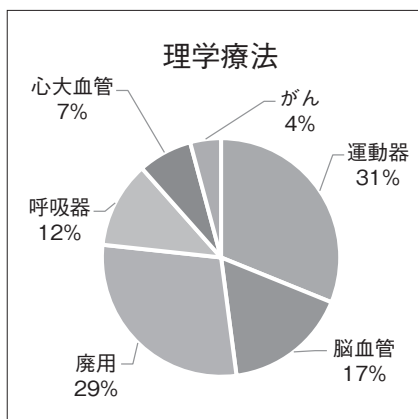
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
理学療法	4,418	4,062	4,772	4,235	4,013	4,441	4,008	4,156	4,561	4,730	4,921	4,965	4,440
作業療法	1,459	1,449	1,846	1,306	1,367	1,760	1,686	1,759	1,846	1,874	1,887	1,995	1,686
言語療法	1,456	1,181	1,532	1,312	1,312	1,511	1,500	1,472	1,632	1,667	1,734	1,710	1,502
合計	7,333	6,692	8,150	6,853	6,692	7,712	7,194	7,387	8,039	8,271	8,542	8,670	7,628



図表2. 疾患別リハビリテーション内訳

(単位：件)

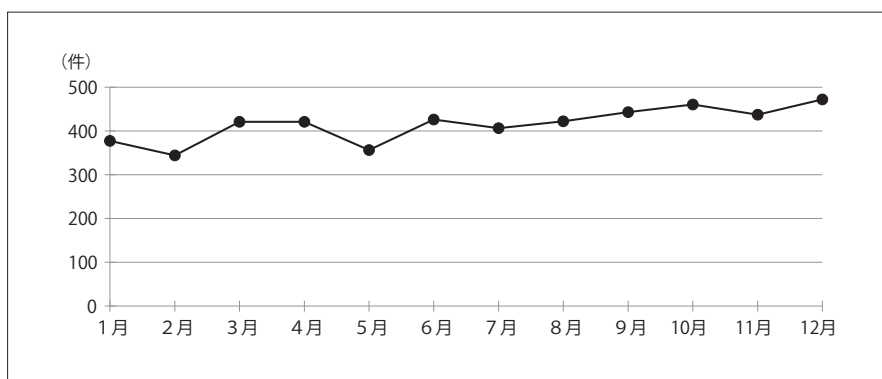
	運動器	脳血管	廃用	呼吸器	心大血管	がん
理学療法	9,633	5,196	8,904	3,632	2,283	1,294
作業療法	2,794	3,635	4,297	1,429	428	173
言語療法	—	4,152	4,364	2,046	—	97



図表3. 訪問リハビリテーション活動実績

(単位：件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実績	377	344	421	421	356	426	406	422	443	460	437	472	4,985



泌尿器科

スタッフ紹介

常勤医師	川口理作（1979年卒，部長） 樋口喜英（1997年卒，副院長） 花咲 毅（2010年卒，医長） 新開康弘（2013年卒，医員）
非常勤医師	野島道生 新開裕佳子

診療内容

腹腔鏡手術数（副腎腫瘍，腎癌，腎盂尿管癌，尿管摘除）は例年より多かった。ロボット支援腎部分切除は3症例，腹腔鏡下膀胱全摘は2症例，前立腺は21例であった。新型コロナウイルス感染症の波によるベッドコントロール上の成人系への影響が強かったが，小児泌尿器科領域は院内外の紹介があり症例数は維持された。近隣からの尿路結石や感染症，排尿障害への対応は素早く丁寧に対応しており，治療結果は良好である。腎移植を含めた腎代替療法の相談は増えており，腎不全外科領域のシャント手術は血管外科不在となったため再び泌尿器科が担当することになった。腎センター業務のうち，内科治療と透析管理以外を泌尿器科が請け負っている。

2021年のトピックス・実績

腎センター：シャント閉塞に対する血管内治療（VAIVT）を2021年5月から泌尿器科が担当している。

腹腔鏡下膀胱全摘術：自施設実施で合併症なく症例を重ねている。

排尿障害：接触式前立腺レーザー蒸散術は安全性を確保維持し症例を重ねることができている。肥満患者の排尿機能に関するデータ集計なども行っている。

外来処置検査：2021年4月からTV室でのステント交換や逆行性尿路造影検査などを開始している。

今後の展望

- ・腎センターの有効な活用による腎不全診療の質の向上。
- ・適応疾患への実施による腹腔鏡手術件数の増加。
- ・ロボット支援手術（ダヴィンチXi）実施症例数の増加。
- ・尿路結石に対するレーザー治療の利便性の向上。
- ・レーザー前立腺蒸散術の手術件数増加。
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術の実施。

表. 主要手術実績 (単位：件)

手術症例数	2021年
生体腎移植術	0
腹膜透析カテーテル留置	4
ブラッドアクセス造設術	16
腹腔鏡下副腎摘出術	3
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	17
ロボット支援下腹腔鏡下腎部分切除術	3
膀胱全摘・尿路変向術	3
経尿道的膀胱腫瘍切除術	49
ロボット支援下前立腺全摘除術	21
経尿道的前立腺レーザー蒸散術	16
体外衝撃波破碎術	15
経尿道的尿管碎石術	81
経尿道的膀胱結石碎石術	12
陰嚢水腫根治術	14
停留精巣固定術	11
精巣捻転手術	2
腹腔鏡下尿管摘除術	2
腎盂形成術（鏡視下手術含む）	2
尿道下裂形成手術	2

脳神経外科

スタッフ紹介

- 部長 朝田雅博（1973年卒）
日本脳神経外科学会専門医
- 医長 榎原史啓（2006年卒）
日本脳神経外科学会専門医、脳卒中学会専門医・
指導医、脳神経血管内治療学会専門医
- 医員 澤村 壮（2017年卒）

診療内容

2020年4月から榎原史啓先生が常勤医として当科に赴任、2021年4月には澤村 壮先生が赴任し、脳神経外科の常勤医は3名体制となった。現在、兵庫医科大学脳神経外科からの応援を得て、当直は週6日（日曜日以外）行っており、専門外来についてはそれぞれ、脊椎外科を陰山博人先生（火曜日）、小児脳神経外科・脳腫瘍を阪本大輔先生（水曜日）に、大学より出向で担当していただいている。

急性期脳主幹動脈閉塞症例については、大学との連携でdrip & shipシステムを確立している。また脊椎手術症例については、専門外来を通じて大学に紹介している。

2021年のトピックス・実績

救命医や内科医に協力いただき、脳卒中症例を24時間体制で受け入れている。なお、2021年の実績は表のとおり。2021年からは、日本脳卒中学会より一次脳卒中センターの認定を受け、それに伴い脳卒中ホットラインも開設した。

手術件数は前年より約1.5倍増加した。脳血管内治療に関しては、兵庫医科大学より指導医である蔵本要二先生をお呼びし、緊急での対応も行っている。

今後の展望

西淀川区唯一の総合病院脳神経外科として、外来診療及び救急医療を通して、患者一人ひとりに対して質が高く優しい医療を提供し、地域医療に貢献していく。また、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、t-PA静注療法を含む急性期診療を行える一次脳卒中センターとして、西大阪の脳卒中医療を支えていく。院外では引き続き兵庫医科大学脳神経外科と緊密に連携を取り、院内ではほ

かの診療科や看護師、リハビリスタッフといった多くの職種と円滑なチームワークを形成し、脳卒中診療体制を築いていく。

これまでに当科で初期研修を積んだ先生方が数名、兵庫医科大学脳神経外科に入局した実績もあり、今後も大学と連携しながら、若手の先生方の勧誘を行っていく。また、今後彼らが当科のスタッフとして本院に戻りたいと思えるような、やりがいのある職場を作っていきたい。

表. 2021年実績

(単位：件)

		2021年
脳血管障害	脳内出血	5
	くも膜下出血	6
	未破裂脳動脈瘤	3
	頸動脈内膜剥離術	5
	バイパス術	0
	血管内手術	21
脳腫瘍	髄膜腫	2
	神経膠腫	1
	転移性脳腫瘍	1
	海綿状血管腫	0
脊髄脊椎	頸椎前方固定	4
	頸椎椎弓形成術	3
	腰椎椎弓切除術	1
機能外科	水頭症	17
	神経血管減圧術	0
頭部外傷	急性硬膜下出血	5
	急性硬膜外出血	0
	慢性硬膜下血腫	20
その他		15
合計		109

皮膚科

スタッフ紹介

常勤医師：松本いづみ

診療内容

外来診療：

- ・皮膚科一般
- ・病棟依頼診察
- ・褥瘡回診
- ・ダーモスコピーによる非侵襲的検査・診断
- ・男性型脱毛症に対するプロペシア（自費）の処方

入院診療：

- ・带状疱疹，蜂窩織炎，褥瘡など
- 集学的治療の必要な悪性疾患，紫外線照射装置による検査・治療が必要な場合は，他院へ紹介している。

表. 外来診療体制

	月	火	水	木	金
午前	松本	松本	松本	松本	松本
午後	松本	褥瘡回診	褥瘡委員会 (第3水曜日)	松本	検査・処置

眼科

スタッフ紹介

主任部長 中村礼恵
 非常勤 中村 誠, 今井尚徳, 松宮 亘, 長井隆行,
 高野史生, 上村亜弥

今後の展望

白内障手術, 緑内障手術, 硝子体手術のできる環境を少しずつ整えて, 手術件数を増やしていきたい。

診療内容

外来では, 一般眼科, 小児眼科の診療を主に行っている。また, 月に一度緑内障, 神経眼科の専門外来も行っている。

手術は, 白内障手術を中心に, 硝子体手術, 緑内障手術, 外眼部手術を行っている。

また, 全身麻酔下にて小児の霰粒腫などの手術も行っている。さらに抗VEGF薬の硝子体注射も施行している。

表. 手術件数

(単位: 件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
白内障手術	8	8	15	12	13	13	14	11	9	14	13	10	140
緑内障+白内障手術	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
硝子体+白内障手術	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
外眼部手術	0	1	0	0	0	0	1	2	0	1	0	1	6

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介

常勤医師 伊集院隆宏
奥西真帆
鞆津匡宏
非常勤医師 原田倫子

診療内容

耳鼻咽喉科外来担当医表参照（表1）。

活動内容

診療体制は昨年と特に変わっていない。伊集院、鞆津が外来及び病棟、手術などの診療を、奥西は外来診療を主に行っている。原田医師は水曜日午前中の外来診察のみ担当いただいている。

表1. 外来担当医表

	月	火	水	木	金
午前	伊集院	伊集院	原田・手術	伊集院	奥西
	奥西	奥西		奥西	鞆津
午後	検査・外来手術 (完全予約制) 補聴器外来	検査・外来手術 (完全予約制) 補聴器外来	手術	検査・外来手術 (完全予約制)	検査・外来手術 (完全予約制)

表2. 手術状況（2021年1月1日～2021年12月31日）

(単位：件)

手術名		件数	手術名		件数
耳科領域	鼓膜チューブ留置	2	喉頭・気管・食道領域	喉頭良性腫瘍摘出術	1
	その他	0		音声機能改善手術	1
鼻・副鼻腔領域	鼻中隔矯正術	4		気管切開術	1
	内視鏡下鼻副鼻腔手術	13	その他	0	
	下鼻甲介手術	10	顔面・頸部領域	甲状腺良性腫瘍摘出術	2
	内視鏡下鼻性髄液漏閉鎖術	1		耳下腺良性腫瘍摘出術	0
	その他	0		頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	3
口腔・咽頭領域	口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術含む）	42	その他（リンパ節生検含む）	2	
	舌下腺摘出術（ガマ腫）	1			
	舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術	6			
	その他	4	合計（件）	93	

新型コロナウイルス感染症への対応は比較的安定的に行えるようになったが、流行の度に病床制限などによる当科手術加療の延期が重なっている。今後流行時の手術加療対応について再検討を行いたいと考えている。

今後の展望

引き続き近隣の開業医及び高次機能病院とのより丁寧な病診連携を行っていききたいと考えている。

小児科

スタッフ紹介

2021年の人事異動では、当院で初期研修を行った国本一輝医師、野間瑞希医師、石村怜子医師が当院の小児科専門医研修プログラムにて、山本香織医師が育休より復帰し、4月にスタッフとして加わった。福田拓弥医師、川村 葵医師、武田紗季医師は、各自の小児科専門医研修プログラムに沿い、関連施設での研修のため、異動した。榎本真由子医師が10月に産休・育休となった。2021年のスタッフは、吉井勝彦（1984年卒）、西野昌光（1978年卒）、牟禮岳男（2002年卒）、横田知之（2004年卒）、水野洋介（2006年卒）、木原沙紀（2007年卒）、藤坂方葉（2009年卒）、榎本真由子（2011年卒）、甲斐智彦（2013年卒）、古林真佐美（2013年卒）、井上翔太（2013年卒）、住吉倫卓（2014年卒）、山本香織（2017年卒）、横山陽子（2018年卒）、榊田千晶（2018年卒）、福田祥直（2018年卒業）、国本一輝（2019年卒）、野間瑞希（2019年卒）、石村怜子（2019年卒）の19名であった。

診療内容

外来診療

午前は一般診察を行い、午後是一般診察に併行して、予防接種、乳児健診、神経外来、発達外来、腎外来、アレルギー外来、心臓外来、内分泌代謝外来などの特殊専門外来を実施した。表1に月別1日平均外来患者数、表2に月別時間外外来総患者数を示す。

新生児センター

当院の分娩数は過去3年間、1,844、2,074、2,368例と、近隣の分娩施設の閉鎖に伴い急増し、大阪府1位となった。新生児センターへの入院数もそれを反映して1,048、1,235、1,320例と急増した。2,500g未満の低出生体重児の収容数も229、225、280例と増加した。死亡例は1例であった。超低出生体重児として出生された児で、肝被膜下出血の結果、腹部コンパートメント症候群を来し、腎不全のため、日齢11に死亡した。表3に2021年の新生児センターの保育成績を示す。地域周産期医療の啓蒙活動として、近隣の産科施設も参加可能な新生児蘇生講習会を定期的に行った。

一般病棟

表4に一般病棟の疾患別入院数を示す。入院数は過去3年間734、386、585例であった。新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、入院数の減少を認めていたが、

徐々に増加してきている。しかし、月別ではまだ入院数は安定しておらず、今後も推移に注意する必要がある。外来、救急搬送、紹介として入院経路を過去3年間で比較したが、入院経路は同様の傾向だった。死亡例は1例であり、当科でフォローを行っていた重症児だった。体調不良で受診されたが、敗血症性ショックを呈し、治療に反応なく死亡した。

レスパイト事業

大阪市より依頼があり、2019年4月より大阪市重症心身障がい児者など医療型短期入所事業の実施機関として、重症児の短期入所対応を開始した。新型コロナウイルス感染症流行下で、一時入所制限を要したが、2021年は延べ16名の短期入所を受け入れた。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症流行下であったが感染防止対策を徹底し、神戸大学医学部5年次、6年次、兵庫医科大学6年次の病院実習を受け入れた。また、当院は新専門医制度での小児科専門医研修プログラムの基幹病院に認定されており、小児科専攻医1年目、2年目の医師を各3名ずつ受け入れた。小児科専門医研修プログラム修了後の小児領域のsubspecialityとして、当院では新生児領域のほか、アレルギー領域の研修教育施設や小児神経領域の研修関連施設の認定を取得しており、将来のsubspecialityを考えることのできる環境を作っている。今期も、日本小児科学会兵庫県地方会、日本周産期新生児医学会、日本新生児成育医学会などでの学会活動を行った。地域での小児医療の研鑽として、西淀小児科懇話会で話題提供を行った。

今後の展望

小児科研修を志す初期研修医も多く、症例確保が重要な課題となるため、スタッフ数を維持し、精力的な医療活動を行っていききたい。小児科専門医研修プログラムでは、論文の作成が必須であるため、学術活動の幅を広げていくことが必要と考えられる。一方、スタッフが多くなれば、医療的知識だけでなく、スタッフ間の意思疎通の不備も見られてくる。回診時に、患者情報の共有を徹底し、スタッフ全員が同様の方針を確認できるよう配慮し、地域医療への貢献を進めていく。

表1. 月別1日平均外来患者数 (2021年1月~2021年12月)

(単位:名)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	65	65	73	74	80	89	79	79	75	80	84	84

表2. 月別時間外外来総患者数 (2021年1月~2021年12月)

(単位:名)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	51	43	70	111	123	122	110	104	82	93	86	93

表3. 新生児センター入院数 (2021年1月~2021年12月)

(単位:件)

出生体重 (g)	入院数	院内出生	緊急母体搬送	院外出生	人工換気数	転院数	死亡数	死亡率(%)
~499	3	3	1	0	2	2	0	0.0
500~999	14	13	8	1	14	1	1	7.1
1,000~1,499	26	26	9	0	23	1	0	0.0
1,500~1,999	49	49	6	0	27	0	0	0.0
2,000~2,499	188	184	12	4	40	1	0	0.0
2,500~	1,040	1,023	16	17	102	5	1	0.0
計	1,320	1,298	52	22	208	10	2	0.1

表4. 一般病棟入院数 (2021年1月~2021年12月)

(単位:件)

呼吸器疾患		感染症		その他	
気管支炎 (このうち RSV 33)	63	手足口病・ヘルパンギーナ	5	川崎病	27
		突発性発疹	3	アナフィラキシー	9
肺炎・気管支肺炎 (RSV 9, 肺炎球菌 2, インフルエンザ菌 1)	23	伝染性単核球症	2	ミルクアレルギー	2
		新生児・乳児発熱	17	IgA 血管炎	4
細気管支炎・喘息性気管支炎 (このうち RSV 31)	48	蜂窩織炎	8	免疫性血小板減少性紫斑病	4
		菌血症	3	骨折	2
気管支喘息	47	深頸部膿瘍・化膿性リンパ節炎	2	異物誤飲	4
クループ症候群	3	感染性発疹症	5	急性薬物中毒	4
急性扁桃炎・咽頭炎 (アデノウイルス 8)	16	単純ヘルペス感染症	1	血液腫瘍・固形腫瘍	2
		敗血症性ショック	1	在宅移行目的	3
急性中耳炎	9	代謝・内分泌疾患		予防接種副反応	4
急性上気道炎	16	周期性嘔吐症	4	自家感作性皮膚炎	1
誤嚥性肺炎	1	ケトン性低血糖症	2	若年性特発性関節炎	1
消化器疾患		1型糖尿病	1	心室中隔欠損症	1
感染性胃腸炎 (ノロウイルス 11, アデノウイルス 3)	29	バセドウ病	1	新生児黄疸	2
		神経疾患		熱中症	1
急性虫垂炎	1	熱性けいれん	68	点状出血・口腔出血	2
回腸末端炎	2	てんかん・無熱性痙攣	16	呑気症・哺乳不良	3
腸管膜リンパ節炎	2	胃腸炎関連痙攣	4	検査	
メッケル憩室穿孔	1	無菌性髄膜炎	1	成長ホルモン負荷試験	8
急性胃粘膜病変	1	頭部外傷・脳震盪	6	食物負荷支援	44
好酸球性胃腸炎	1	急性脳炎・脳症	3	下垂体機能負荷試験	1
上腸間膜動脈症候群	3	意識消失発作	2	検査鎮静後	3
肥厚性幽門狭窄症	1	憤怒けいれん	2	合計	
便秘症	2	慢性頭痛	2	585	
腎泌尿器疾患		シャント不全	1		
尿路感染症	21	ミトコンドリア病	2		
ネフローゼ症候群	1				

産婦人科

スタッフ紹介

- 本山 覚 1977年卒, 名誉院長
・専門: 婦人科腫瘍, 周産期, 性感染症, 女性漢方
- 吉田茂樹 1990年卒, 副院長・部長
・専門: 婦人科悪性腫瘍, 内視鏡技術認定医, 骨盤臓器脱, 周産期, 日本がん治療認定医機構・がん治療認定医, 同機構・暫定指導医
- 岡田十三 1994年卒, 周産期センター長・主任部長
・専門: 周産期, 産婦人科, 産婦人科救急, 子宮鏡手術
- 村越 誉 1996年卒, 先端医療分野主任部長
・専門: 婦人科悪性腫瘍, 周産期, 胎児超音波検査, 子宮筋腫, 内視鏡技術認定医, がん治療認定医
- 稲垣美恵子 1997年卒, 女性科主任部長
・専門: 生殖内分泌, 内視鏡技術認定医, 周産期, 日本頭痛学会認定専門医, がん治療認定医
- 安田立子 1998年卒, 産科主任部長
・専門: 周産期, 婦人科一般, 骨盤臓器脱, 腹腔鏡手術, マンモグラフィ読影, がん治療認定医
- 大木規義 1998年卒, 婦人科主任部長
・専門: 婦人科悪性腫瘍, 内視鏡技術認定医, 周産期, がん治療認定医
- 城 道久 2006年卒, 医長
・専門: 周産期医療, 内視鏡技術認定医, 超音波専門医, がん治療認定医
- 以下 専門: 周産期, 婦人科一般 各病院に6か月派遣
- 北井沙和 2016年卒, 医員 高槻病院
- 北口智美 2016年卒, 医員
- 荻本圭祐 2017年卒, 専攻医 国立がんセンター中央病院
- 小倉直子 2017年卒, 専攻医 西神戸医療センター
- 河谷春那 2017年卒, 専攻医 高槻病院
- 北 采加 2017年卒, 専攻医
- 三木玲奈 2017年卒, 専攻医
- 苔原つばさ 2018年卒, 専攻医 明石医療センター 高槻病院
- 徳永詩音 2018年卒, 専攻医
- 二木ひとみ 2018年卒, 専攻医 高槻病院 明石医療センター
- 荒木裕子 2018年卒, 専攻医 大阪母子医療センター 高槻病院
- 胡 脩平 2018年卒, 専攻医
- 小川史子 2018年卒, 専攻医
- 瀧川 若 2018年卒, 専攻医 明石医療センター
- 大和奈津子 2018年卒, 専攻医 甲南総合医療センター
- 伊賀川奨大 2019年卒, 専攻医 明石医療センター

- 清瀬ますみ 2019年卒, 専攻医 兵庫県がんセンター
- 米田圭明 2019年卒, 専攻医 加古川中央市民病院
- 田島史保子 2019年卒, 専攻医 大阪母子医療センター
- 中村達矢 2019年卒, 専攻医 淀川キリスト教病院
- 福田大輔 2019年卒, 専攻医 淀川キリスト教病院
- 光岡真優香 2019年卒, 専攻医 兵庫県がんセンター
- 吉武壮生舜 2019年卒, 専攻医 高槻病院

診療体制並びに活動目標

連携施設出向中の専攻医を除き, 産婦人科医師20名(名誉院長1名・部長6名, 医長1名, 医員2名, 専攻医10名)の体制で, 産科・婦人科の全領域をカバーしている。大阪府地域周産期母子医療センター指定により, 活発に同センター運営を行い母体搬送に対応するとともに, 大阪府産婦人科一次救急医療ネットワークにおいて府下産婦人科一次救急(年間約1,100台)の半数を超える約650台の救急車を受け入れ, 地域産婦人科救急の要として日々努力している(厚生労働省HP産婦人科救急DPC患者数 全国2位:1位は鹿児島市民病院)。

2021年のトピックス・実績

2019年, 当院の年間分娩数は1,846件と過去最高を記録し, 小阪産院を抜き大阪府下で分娩取扱い件数1位を達成した。さらに24時間対応の無痛分娩を開始したことから, これを上回るペースで増加し, 年間分娩数は, 2020年2,122件, 2021年2,373件と急速な勢いで増加し, 24時間対応無痛分娩は, 2021年766件と年間700件を超えた(図1)。

一方, 産科婦人科合わせた手術実績は, 新型コロナウイルス感染症による手術数制限にもかかわらず, 手術点数ベースで, 前年比113%, 10年連続増収で, 過去最高の実績(2019年3,971万点→2020年4,101万点→2021年4,639万点)を達成した(図2)。5名の産婦人科内視鏡技術認定医が中心となり, 鏡視下手術件数(2019年565件→2020年647件→2021年698件)が今期も増加したことが大きく寄与したものと考える。

特に婦人科領域において, より先進的な医療への取り組みを継続しており, da Vinci Xiを用いた婦人科ロボット手術件数(良性)は, 大阪市立総合医療センターに次いで大阪府下第2位, 全国第7位(表1 Intuitive Surgical社提供)となった。

また当院産婦人科は、『新専門医制度・産婦人科研修プログラムにおける基幹施設』に認定されており、2021年新たに8名の専攻医を採用した(全国12位・表2)。これら多数の専攻医採用を背景に、明石医療センターに2名、高槻病院に2名の専攻医を派遣し、両病院の産婦人科運営をサポートしている。

臨床成果の学術成果への記録活動も積極的に行っており、これら多数の専攻医の学会発表も積極的に行っている。

今後の展望

年間分娩取扱い件数は2019年1,846件と大阪府下第

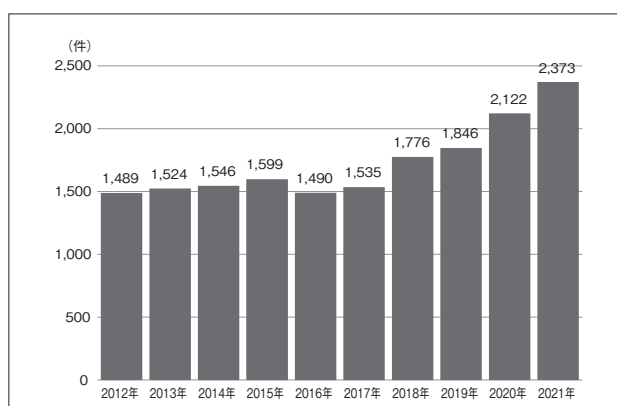


図1. 千船病院産婦人科 年間分娩件数の推移

1位、全国順位第9位を達成したが、2021年には更にこれを上回る2,373件を数えた(図1)。24時間対応可能な無痛分娩の導入により、大阪府における無痛分娩のメッカとなることを目指し、年間分娩数2,400件を目標に、更なる分娩数増加を目指す。

一方婦人科領域では、5名の内視鏡技術認定医を中心に、最新型「da Vinci Xi」を用いたロボット手術を積極的に行い、今後更なる婦人科手術件数の増加に貢献できるものと考えられる。

産婦人科救急医療、産科分娩件数、da Vinci Xiを含めた婦人科手術件数、並びに新専門医制度における基幹施設としての研修医獲得人数、これら産婦人科の全ての分野において全国10指に入る病院を目指す。

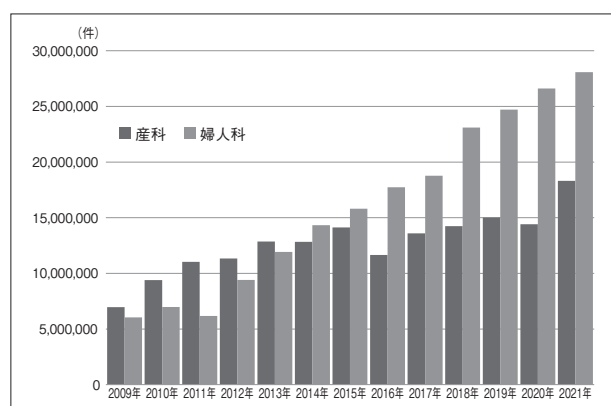


図2. 千船病院産婦人科 手術実績(手術点数)の年次推移

表1. 婦人科da Vinci Xi手術実施件数/全国順位 (全58施設) Intuitive Surgical社提供

(単位: 件)

全国順位	施設名	2021年症例数
1位	倉敷成人病センター	350
2位	横浜市立大学	152
3位	山梨県立中央病院	147
4位	豊橋市民病院	139
5位	大阪市立総合医療センター	124
6位	川崎医科大学附属病院	97
7位	千船病院	96
8位	藤田医科大学病院	86
9位	三重大学病院	70
10位	新百合丘病院	67

表2. 新専門医制度2021年 産婦人科専攻医採用人数/全国順位 (産婦人科領域基幹施設全156施設)

(単位: 名)

全国順位	基幹施設名	応募者数
1位	東京大学専門研修プログラム	35
2位	東京慈恵会医科大学産婦人科研修プログラム	17
3位	九州大学産婦人科研修プログラム	16
4位	昭和大学産婦人科専門研修プログラム	15
5位	大阪大学産婦人科研修プログラム	14
6位	東北大学産婦人科研修プログラム	13
7位	京都大学産婦人科研修プログラム	13
8位	名古屋大学産婦人科専門研修プログラム	12
9位	日本医科大学産婦人科研修プログラム	11
10位	名古屋市立大学産婦人科研修プログラム	10
11位	東京都立多摩総合医療センター産婦人科研修プログラム	9
12位	WIND北海道大学産婦人科	8
	群馬大学産婦人科研修プログラム	8
	東京医科歯科大学産婦人科研修プログラム	8
	東京医科大学産科婦人科専門研修プログラム	8
	北里大学産婦人科研修プログラム	8
	新潟大学産婦人科研修プログラム	8
	京都府立医科大学産婦人科研修プログラム	8
	千船病院産婦人科専門研修プログラム	8
	神戸大学産科婦人科研修プログラム	8
	兵庫医科大学産婦人科研修プログラム	8
	久留米大学産婦人科専門研修プログラム	8

麻 醉 科

スタッフ紹介

1. 常勤医

主任部長 水谷 光 (1993年卒, 専門医・指導医)
2021年4月入職

部長 河野克彬 (1967年卒, 専門医・指導医)

部長 魚川礼子 (1998年卒, 専門医・指導医)

医長 角 千里 (2005年卒, 専門医・指導医)

医長 星野和夫 (2007年卒, 専門医・指導医)

医長 大山泰幸 (2008年卒, 専門医)

医員 小川夏美 (2020年10月入職)

2021年3月退職

医員 安藝裕子 (2012年卒, 専門医)

2021年4月入職

専攻医 四宮沙理 (2016年卒)

2021年1月入職, 6月退職

大阪医科大学麻酔科専門研修プログラム

専攻医 宮井真唯子 (2018年卒)

2021年4月入職

2. 非常勤医

八木俊浩 (認定医)

ほか

診療内容

手術麻酔 麻酔科管理 3,744例/年
(うち全身麻酔 1,885例/年)

無痛分娩 694例/年

ICU管理

術前外来：月曜日から金曜日の午前

無痛分娩外来：月曜日と木曜日の午後

無痛分娩オンライン相談と無痛分娩教室：火曜日の午後

ペインクリニック外来：水曜日の午後

手術症例カンファレンス：毎朝

M&Mカンファレンス：月曜日の朝

抄読会：金曜日の朝

2021年のトピックス・実績

(論文)

水谷 光. 全身麻酔導入直後の無気肺. 麻酔 2021;70:676.

水谷 光. 再生処理方法に疑問のある医療機器添付文書の適正化. ICeberg 2021;18:2.

水谷 光. 徹底分析シリーズ「一時総括 COVID-19時代の麻酔」手術に携わる医療者の安全は確保されていたのかー医療材料逼迫と手術室空調によるエアロゾル除去. LiSA 2021;28:158-62. <https://doi.org/10.11477/mf.3101201900>

濱田蓉子, 水谷 光. 手術室看護師が知っておきたい洗浄・滅菌のポイントーより安全な手術のために. 3M Times Topics 29 2021.

水谷 光. 第1種滅菌技師を取得してーえ? 医者が滅菌技士・師やて? 感染と消毒 2021;28:66-8.

水谷 光. 症例カンファレンス「子宮を失うことになった新婚さんの術前診察」症例提示/キーポイント解説. LiSA 2021;28:657-8. <https://doi.org/10.11477/mf.3101202015>

水谷 光. 症例カンファレンス「子宮を失うことになった新婚さんの術前診察」本症例における診察の実際/次回に向けて. LiSA 2021;28:667-9. <https://doi.org/10.11477/mf.3101202015>

水谷 光. 徹底分析シリーズ「硬膜外さいこう」私の“こだわり”の硬膜外麻酔 The “whoosh” test. LiSA 2021;28:834-5. <https://doi.org/10.11477/mf.3101202057>

水谷 光. 手術室が手術室なわけー病室とどこが違う? 手術室の構造と設備. オペナーシング 2021;36:733-7.

水谷 光. 手術室が手術室なわけー病室とどこが違う? 手術室の空調. オペナーシング 2021;36: 837-41.

穴田夏樹, 桐山有紀, 豊田浩作, 水谷 光, 松岡 豊. リアル症例カンファレンスin Osaka Zoom「導入後の血圧低下」. LiSA 2021;28:851-62. <https://doi.org/10.11477/mf.3101202063>

水谷 光. 使用済みSUDを提供する医療施設の環境整備. レギュラトリーサイエンス学会誌 2021;11:191-4. <https://doi.org/10.14982/rsmp.11.191>

水谷 光. 滅菌は医療の基礎で担当者は病院を支えている. 首都圏滅菌管理研究会誌 2021;4:59-61.

水谷 光. 特集にあたってー手術部における事業継続計画 (BCP: Business Continuity Plan). 日本手術医学会誌 2021;42:227.

(著書)

水谷 光. 消毒と滅菌. In: 麻酔科プラクティス5 麻酔科必携 周術期のリスク管理 安全対策・感染予防・合併症管理. 水本一弘, 山本達郎, 垣花 学, 加藤

理恵, 佐藤暢一編集. 文光堂 2021. p120-4. 印刷版 ISBN:978-4-8306-2851-1

(書評)

水谷 光. 広い宇宙に地球人しか見当たらない75の理由 - フェルミのパラドックス LiSA 2021;28:422.

水谷 光. 食べもの記 LiSA 2021;28:528.

水谷 光. 樹木たちの知られざる生活 - 森林管理者が聴いた森の声 LiSA 2021;28:632.

水谷 光. 電柱鳥類学 - スズメはどこに止まっている? LiSA 2021;28:724.

水谷 光. 日本のお守り - 神さまとご利益がわかる LiSA 2021;28:838.

水谷 光. たのしい路上園芸観察 LiSA 2021;28:919.

水谷 光. フィンランドの不思議なことわざ - マツティの言葉の冒険 LiSA 2021;28:1023.

水谷 光. 世界の橋の秘密ヒストリア LiSA 2021;28:1118.

水谷 光. 干す - 日本の天日干しをめぐる LiSA 2021;28: 1224.

(学会一般演題)

旭爪章統, 山本陽子, 横川直美, 松尾 顯, 貴志暢之, 中本あい, 水谷 光. 脳外科手術中に生じた内頸動脈損傷における挿管下従命確認に上喉頭神経ブロックが有効であった1症例. 2021/4/9 第8回日本区域麻酔学会 岡山市 WEB開催

宮井真唯子, 水谷 光, 魚川礼子, 角 千里, 星野和夫, 大山泰幸. 口蓋扁桃摘出術を延期し肥満手術を先行させた病的肥満患者の麻酔管理: 症例報告. 2021/9/11 第67回日本麻酔科学会関西支部学術集会 WEB開催

甲斐幸樹, 水谷 光, 魚川礼子, 星野和夫, 宮井真唯子. 抜管時に投与したスガマデクスによりアナフィラキシーショックに陥った1例. 2021/11/5 第41回日本臨床麻酔学会 札幌市 口演

細川笑里, 魚川礼子, 安藝裕子, 四宮沙理, 大山泰幸, 星野和夫, 水谷 光. 妊娠20週で特発性腹腔内出血をきたし出血性ショックに陥った初妊婦の1例. 2021/11/6 第41回日本臨床麻酔学会 札幌市 示説

四宮沙理, 魚川礼子, 星野和夫, 大山泰幸, 宮井真唯子, 水谷 光. 緊急帝王切開術中に臨床的羊水塞栓症を呈した26週妊婦の麻酔経験. 2021/11/6 第41回日本臨床麻酔学会 札幌市 示説

(講演/講習)

角 千里. PDPHの治療の実践. 2021/8/7 第3回日本周産期麻酔科学会WEBセミナー

水谷 光. 麻酔セミナー 応用編~手術室看護師に必要な麻酔の知識. 2021/9/25 日本手術看護学会近畿地区セミナー 大阪市

水谷 光. マネジメントセミナー「さらに協働しよう! 滅菌技師と臨床工学技士」. 2021/11/15 第96回日本医療機器学会 大阪市

水谷 光. 滅菌は医療の基礎で担当者は病院を支えている. 2021/11/20 第19回首都圏滅菌研究会 東京

(シンポジウム)

水谷 光. 問題点と今後の方針「滅菌管理業務検討委員会活動内容の報告パート2」. 2021/11/17 第96回日本医療機器学会 大阪市

(Pros & Cons)

魚川礼子. 帝王切開に脊髄くも膜下麻酔only or 硬膜外麻酔併用か? 「帝王切開に硬膜外麻酔を使おう!!」. 2021/11/6 第41回日本臨床麻酔学会 札幌市

(座長)

水谷 光. 手術室での安全な器械提供のための洗浄・滅菌. 2021/1/28, 30 ナースの星 手術室での洗浄・滅菌WEBセミナー

水谷 光. ガイドライン改訂のポイントと解説①. 2021/4/17 第10回北摂セントラルサブライ研究会/第14回京滋滅菌業務研究会 京都市

水谷 光. 手術室看護師が知っておくべき洗浄・滅菌のポイント. 2021/8/6-9/30 スリーエム ジャパン WEBセミナー

水谷 光. 洗浄装置や滅菌装置に期待する機能~こんなあったらええなあ~. 2021/11/16 第96回日本医療機器学会 大阪市

水谷 光. 過酸化水素ガス滅菌の上手な付き合い方 (スリーエム ジャパン ランチョンセミナー). 2021/11/17 第96回日本医療機器学会 大阪市

(他)

水谷 光. 厚生労働省 再製造SUD基準策定等事業 再製造SUD推進検討委員会

今後の展望

これまで通り, 安全で快適で無駄のない麻酔診療と手術部運営を目指したい. 手術を行うには, 麻酔科医と手術部看護師が必要である. 現在は業務量に比して常勤麻酔科医が少ないので増員が必要だが, そのためには現職麻酔科医が幸せでなければならない. また, 薬剤師らへ

業務移行を進めたい。術後患者の安全と手術室の効率化のためにPACU（post-anesthesia care unit回復室）を開設したい。

無痛分娩についても、これまで通りの安全で快適で無駄のない鎮痛を提供したい。そのためにも、手術部で使っている部門システムを産科病棟へ拡張し、薬剤師らへ業務移行を進めたい。

帝王切開や無痛分娩、つまり産科麻酔の研修を外部医療施設から受け入れている。期間は6か月以上で、専門医取得の前でも後でも経験は問わない。

初期研修医や専攻医への教育についても、更に充実させたい。名取病院から歯科医の麻酔科研修も受け入れている。

画像診断科

スタッフ紹介

常勤医師 主任部長 田中 豊
 部長 前田哲雄
 非常勤医師 放射線科医師 2名
 (水曜日、金曜日午後、土曜日あるいは日
 曜日に交代で2名が隔週で読影)

診療体制

2021年は田中 豊部長、前田哲雄部長の常勤医師2名と非常勤医師4名の診療体制になった。

活動内容

I. 読影

CT, MRI, RI, 消化管透視などの読影を行っている。
 ドック胃透視・胸部の読影

II. 血管造影, IVR

肝癌のTACE, UAEなどの婦人科疾患のIVRを行っている。

III. 外科とのマンモグラフィーカンファレンス, 産婦人科・病理診断科との婦人科病理

今後の展望

新病院移転後、CTとMRI装置が各々2台体制になり、予約待ちの短縮や迅速な緊急検査に対応できている。また、MRI検査数、CT検査数は前年比較で増加している。

RI検査数は前年と変わりはないが以前との比較では減少している。

オープン検査に関しては、病診連携を強化し、地域の画像センターとしての役割を果たしていかなくてはならない。CT・MRIは以前と同様に土曜日にオープン検査のために対応している。

表1. 診療体制

	月	火	水	木	金
午前	読影 血管造影	読影	読影	読影	読影 血管造影
午後	読影	読影	読影	読影	読影

表2. 過去3年の主な検査件数

(単位: 件)

検査名		総件数
MRI	2021年	7,301
	2020年	6,571
	2019年	6,671
CT	2021年	15,253
	2020年	14,847
	2019年	13,972
腹部血管造影検査	2021年	24
	2020年	36
	2019年	28
核医学検査	2021年	495
	2020年	494
	2019年	581

病理診断科

スタッフ紹介

医師：

主任部長 名方保夫

(病理専門医, 1980年卒, 2004年7月着任)

部長 八十嶋 仁

(病理専門医, 1979年卒, 2014年4月着任)

医長 渡邊隆弘

(病理専門医, 2009年卒, 2019年4月着任)

臨床検査技師：常勤5名

伏見翔一郎 (国際細胞検査士)

佐藤 圭 (国際細胞検査士)

木下佳乃 (細胞検査士)

玉岡紗矢佳 (国際細胞検査士)

井上弘規 (細胞検査士)

診療内容

病理診断科(病理検査室)の主たる業務は、病理組織診断、術中迅速病理組織診断、細胞診断、術中迅速細胞診断及び病理解剖である。病理組織診断は、生検及び手術標本診断に分類される。生検では腫瘍性か非腫瘍性か、良性か悪性かの判定が、今後の患者の治療方針決定に重要である。手術標本診断は、腫瘍(特に悪性)において重要であり、その組織型の最終診断、切除標本における深達度、脈管侵襲の有無、切除断端における腫瘍細胞の有無及びリンパ節転移の有無などが、今後の治療方針決定の一助となり得る。術中迅速病理診断は、良性あるいは悪性の判定、リンパ節転移の有無及び切除断端の決定を短時間で標本作製診断し、術中における治療方針決定の一助となり得る。さらに細胞診断及び術中迅速細胞診断は、組織診断との併用や、組織採取が困難な部位(穿刺細胞診)あるいは体腔液診断に重要な場合が多い。病理解剖は、医師の卒前及び卒後の医学教育や今後の臨床医学の発展に多大の貢献をもたらすものであり、当科の業務としては極めて重要な位置付けにある。なお、CPCは原則として月に1度、午後5時15分より開催され、活発な議論も展開され、特に臨床研修医の卒後医学教育に役立っている。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症による病床の制限や職員の休職が相次ぐ中、臨床各診療科、臨床検査部門、事務部門、看護部門の多大な支援協力により、病理組織診断及び細胞診件数は例年の水準を維持し(各項目の2021年実績は、図表1~3を参照)、2021年病理診断科及び病理検査室の業務は円滑に遂行された。剖検数は減少に転じたが、初期臨床研修医に必要な症例数は維持された。昨年に緊急事態宣言が発令されて以降、カンファレンスは不定期開催となっていたが、万全の感染対策を施し、かつ感染状況を見極めた上でCPC及び阪神病理症例検討会は開催された。

今後の展望

当院では、新型コロナウイルス感染症流行の収束、医師数の増加に伴い、病理組織・細胞診断数の増加が予想されるので、迅速かつ正確な病理組織診断、病理細胞診断が遂行されるよう、臨床検査技師スタッフと協力して更に努力を重ねたい。

今後は田中智洋検査科科長の下、臨床検査部門とも密に連携しながら、迅速な業務の遂行に努めたい。

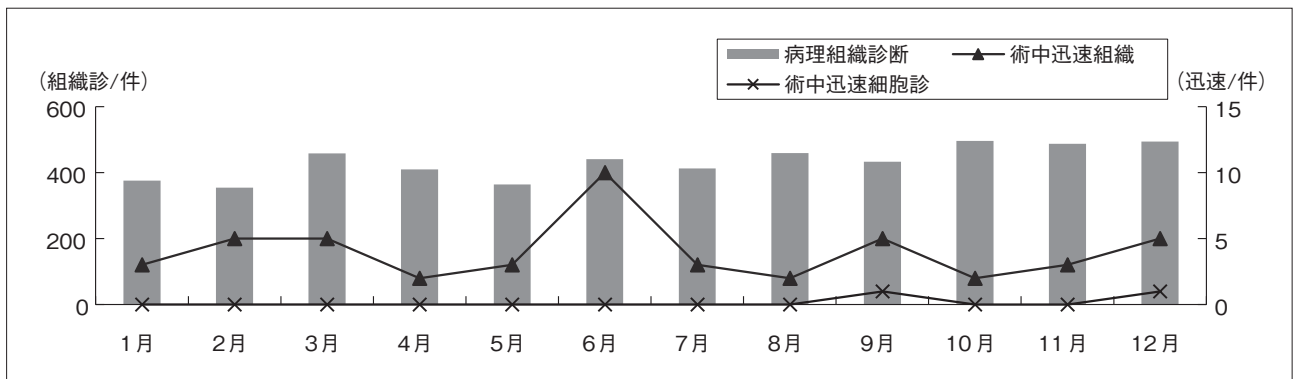
なお、2021年4月から、兵庫医科大学病院病理診断科(主任教授：廣田誠一先生)から和田沙由理先生が非常勤医師として当科に着任され、毎週火曜日午前診療いただいている。活発な人的交流による、更なる病理組織・細胞診断の精度向上が期待される。

最後に、卒前卒後の医学教育及び今後の臨床医学の発展のために、病理解剖を承諾された御遺族の御篤志に深甚なる敬意を表するとともに、多忙な臨床の場において病理解剖の承諾を得るべく努力された診療部スタッフに謝意を述べたい。

図表1. 病理組織診断・術中迅速診断件数

(単位: 件)

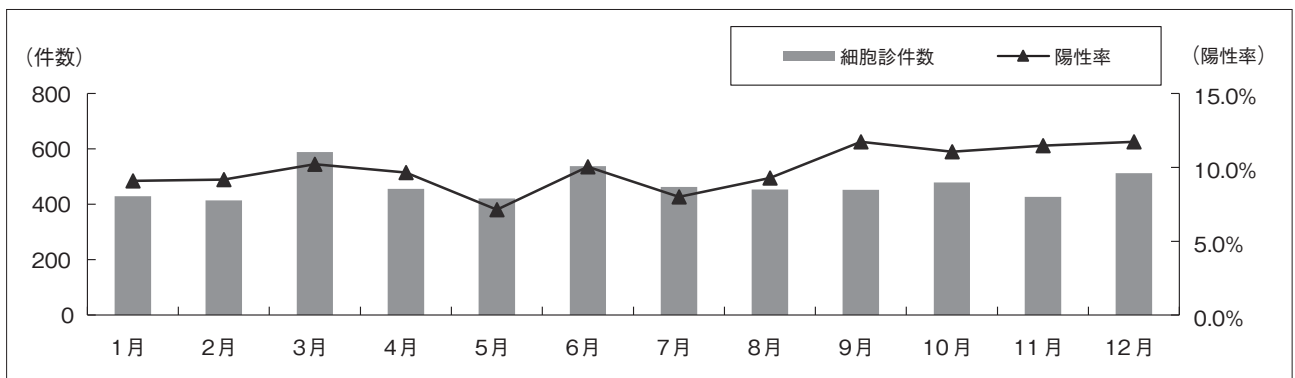
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
病理組織診断	376	355	459	410	364	441	413	460	433	496	488	495
術中迅速組織	3	5	5	2	3	10	3	2	5	2	3	5
術中迅速細胞診	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1



図表2. 細胞診件数

(単位: 件・率)

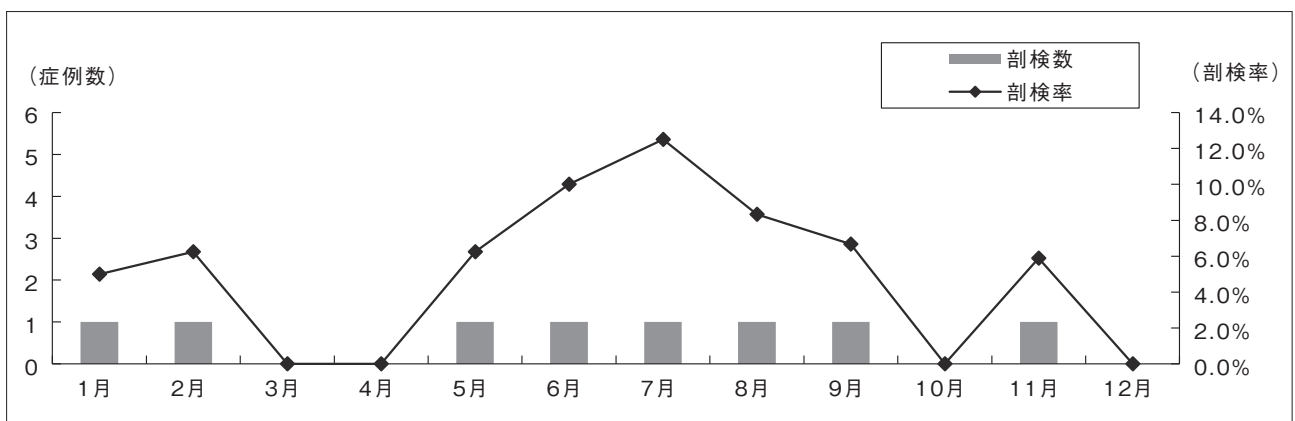
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細胞診件数	429	414	588	456	421	538	463	453	452	479	427	512
陽性数	39	38	60	44	30	54	37	42	53	53	49	60
陽性率	9.1%	9.2%	10.2%	9.6%	7.1%	10.0%	8.0%	9.3%	11.7%	11.1%	11.5%	11.7%



図表3. 病理解剖数と剖検率

(単位: 件・率)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
剖検数	1	1	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0
剖検率	5.0%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	10.0%	12.5%	8.3%	6.7%	0.0%	5.9%	0.0%



千船クリニック (透析室)

スタッフ紹介

高橋哲也：千船クリニック所長

日本糖尿病学会専門医，日本内科学会認定医・
総合内科専門医，日本内分泌学会専門医・指
導医，日本病態栄養学会専門医・指導医

金 鐘一：2021年10月退職

非常勤医師

神戸大学医学部附属病院腎臓内科医師ほか，計5名

診療内容

透析室

- ・対象：慢性腎臓病（CKD）の初期から末期（透析患者）
- ・診察室（2室）：主として透析未導入の慢性腎臓病
- ・透析ベッド40床＋隔離用個室3床：4クールの血液透析治療（血液透析濾過治療を含む）
- ・看護師外来：透析治療法選択時の情報提供，食事療法の食材など説明

2021年のトピックス・実績

- ①維持透析患者（血液透析HD）：維持透析患者数は2021年平均患者数でHD（含HDF）140名（前年139），年間総HD回数21,288回（前年20,977回）で前年から増となっている。
- ②栄養指導：栄養科の協力で，維持透析患者のベッドサイド栄養指導を継続。

今後の展望

透析部門は千船病院敷地内に新たに建築し移転する計画であったが，金所長の逝去により移転後の透析部門拡大のための医師確保ができなくなったため，当面現在地（アバリーナ千船）で診療を継続することを運営会で承認された。2030年まで継続使用の了承を得ている。

今後，透析患者の高齢化の影響による患者確保及び地域に根ざした医療提供を継続するためには，住民から選ばれる医療の提供と収益構造の安定化を図る必要がある。

新型コロナウイルス感染症流行により新たな問題が突きつけられているが，それらの問題を一つずつ解決し，慢性透析医療の患者の生活を支える医療の発展を今後も目指す。



尼崎だいもつ病院



回復期リハビリテーション病棟

地域包括ケア病棟

障がい者病棟

全199床

〒660-0828

兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号

TEL.06-6482-0001

院長 松森良信

診療部総括 (病棟, 外来)

スタッフ紹介

松森良信 (リハビリテーション科, 消化器内科, 院長), 竹中和弘 (呼吸器内科), 加東 武 (リハビリテーション科, 整形外科), 小牟禮 修 (神経内科) (3月末退職), 中村道三 (神経内科), 大東陽治 (リハビリテーション科), 飯野莉和 (リハビリテーション科), 村上昌宏 (リハビリテーション科), 前野良人 (総合診療科) (9月末退職), 荒川鉄雄 (循環器内科), 中田秀史 (リハビリテーション科), 山鳥嘉樹 (循環器内科), 嶋 聡子 (リハビリテーション科) で診療を開始, 瀧本 裕 (総合診療科, リハビリテーション科) (4月千船病院から異動), 濱浪嘉登 (リハビリテーション科, 専攻医) (10月入職) が加わった。

診療内容

回復期病院として初めて199床満床 (3階障害者病棟29床, 4階地域包括ケア病棟60床, 5階回復期病棟55床, 6階回復期病棟55床) で運用。急性期を脱しても, まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者に対して, 多職種がチームを組んで集中的なりハビリテーションを実施し, 心身共に回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくために入院医療を展開した。

入院相談外来以外に, 内科, 呼吸器内科, 消化器内科, 循環器内科, 糖尿病内分泌内科, 神経内科を標榜し, 午前診を中心に毎日2~3診体制で外来診療を行った。千船病院小児科の支援の下, シナジス外来も継続した。

2021年のトピックス・実績

2018年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミック, 感染者の増加を受け, 当院でも感染者用の病室, 外来発熱患者の診察場所, 各種マニュアルの整備など対策を行っていたが, クラスタ発生など認め感染管理の困難さを痛感した。

1年間の退院患者は1,292名であった (表1)。

病床稼働率は稼働病棟199床に対して, 平均198.8名, 99.9%であった。

主病名のICD-10による疾患大分類では, 3階障害者病棟では, パーキンソン病, ALS, 脊髄小脳変性症, 進行性核上性麻痺, 多系統萎縮症などの神経難病が116名

/176名と大部分を占めた。4階地域包括ケア病棟では, 回復期病棟でのリハビリテーションが困難な骨折・脳血管障害, 感染症治療後の廃用症候群の患者が多く, 循環器系の疾患が103名 (19.7%), 整形外科疾患が146名 (27.9%) を占めた。5階, 6階回復期病棟では, 脳血管障害を中心とした循環器系の疾患が268名 (45.3%), 大腿骨頸部骨折など骨折患者を含む損傷, 中毒及びその他の外因の影響が174名 (29.4%) と整形外科疾患の比率が減少した (表2)。新型コロナウイルス感染症拡大により急性期病院での手術制限の影響が考えられた。

紹介元は病院設立の経緯もあり, 尼崎総合医療センターが38.2%を占めたが, 50%を割り比率は低下してきている。尼崎市内の他病院が36.3%と増加, これも新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きいと考える (表3)。

退院時の転帰は自宅退院が60.2%, 病状悪化による急性期病院, 療養病院など他病院への転院は11.3%, 施設入所が15.5%と自宅退院が減少, 転院施設入所が増加している。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い外出自粛による転倒など受傷機会の減少, 急性期病院での予定手術の減少, 病院面会制限による急性期病院からの自宅退院増加など患者動向が変化, 受け入れ患者の重症度, 認知症比率の増加など患者層の変化の影響が大きいと考える。20名 (14%) の患者がお亡くなりになった (表4)。

診療報酬から計算した在宅復帰率は, 回復期病棟で86.0%, 87.0%, 地域包括ケア病棟では受け入れ患者層の変化により70%維持に苦労したが, 76.8%であり, いずれも診療報酬上の施設基準を満たした (表5)。

外来診療は予約制とし, 入院患者の退院時はかかりつけ医へ逆紹介することを原則とした。急性症状以外での受診は紹介状持参患者に限っており, 1日当たりの受診患者は平均30.2名であった。

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の拡大の中, 院内でのアウトブレイク発生を防ぎながら, 2022年診療報酬改定により厳しくなった地域包括ケア病棟1の施設基準, 回復期リハビリ病棟1の施設基準を堅持しつつ満床に近い利用を達成する。

表1. 病棟別・退院患者数, 平均在院日数 (単位:名)

病棟名	退院患者	平均在院 (平均在院日数)
3階障害者病棟	176	61.3
4階地域包括病棟	525	37.2
5階回復期リハ病棟	298	67.7
6階回復期リハ病棟	293	67.6
総計	1,292	54.4

表2. 疾患大分類 (ICD-10) 別・病棟別 退院患者数 (単位:名)

	3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
I. 感染症及び寄生虫症	3	7	0	1	11
II. 新生物	8	59	3	5	75
III. 血液及び造血器の疾患	2	5	0	0	7
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	2	19	2	2	25
V. 精神及び行動の障害	0	2	0	0	2
VI. 神経系の疾患	116	55	4	5	180
VII. 眼及び付属器疾患	0	1	0	0	1
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	0	1	0	0	1
IX. 循環器系の疾患	12	103	141	127	383
X. 呼吸器系の疾患	6	39	0	0	45
XI. 消化器系の疾患	8	28	0	0	36
XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	0	10	0	0	10
XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患	6	42	54	64	166
XIV. 尿路性器系の疾患	3	30	0	0	33
XV. 妊娠, 分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0
XVI. 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0
XVII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	0	0	0	0	0
XVIII. 症状, 徴候, 異常検査所見	3	12	0	1	16
XIX. 損傷, 中毒, 外因の影響	7	104	91	83	285
XX. 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0
XXI. 健康状態への影響要因	0	1	0	0	1
XXII. 特殊目的コード	0	6	3	5	14
総計	176	524	298	293	1,291

表3. 紹介元医療機関 (入院患者) (単位:名)

紹介元医療機関	紹介数	
尼崎総合医療センター・難病センター (うち 尼崎総合医療センター)	792	38.2%
(うち 難病センター)	438	34.1%
尼崎市	54	4.2%
兵庫県 (尼崎市外)	466	36.3%
大阪府	121	9.0%
他道府県	137	10.7%
他道府県	4	0.3%
当院外来	13	1.0%
ケアプランセンターだいもつ	52	4.0%
だいもつ訪問診療	0	0.0%
合計	1,285	

表4. 退院時の転帰 (単位:名)

	退院数	
自宅退院	871	60.2%
転院	163	11.3%
うち 尼崎総合医療センター	63	4.4%
転所	225	15.5%
うち 老健施設	106	7.3%
死亡退院	20	1.4%

表5. 在宅復帰率 (単位:名)

		3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
①	対象退院患者数	178	515	295	291	1,279
1	居宅 (自宅・特養・サ高住など)	124	384	240	235	983
	再掲: 自宅	109	329	221	212	871
	再掲: 特別養護老人ホーム	4	1	4	5	14
	再掲: 有料老人ホーム	7	17	5	9	38
	再掲: サービス付き高齢者住宅	2	24	7	4	37
	再計: ほか	2	13	3	5	23
2	老健	11	44	29	22	106
3	転院					
	急性期病院	29	36	15	20	100
	慢性期病院	7	12	6	5	30
	慢性期強化型病院	4	24	4	8	40
	転棟	1	0	0	1	2
(参照)	死亡	3	15	1	1	20
②	①のうち, 退院先が居宅などであった	124	384	240	235	983
③	在宅復帰率対象患者	178	500	279	270	1,227
④	居宅など復帰率 (%) $100 \times ② / ③$	69.7%	76.8%	86.0%	87.0%	80.1%



高槻病院



7:1急性期病院

総合周産期母子医療センター

小児救命救急センター

地域医療支援病院

JMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)認証医療機関

大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関

ICU・PICU・SCU/MFICU・NICU・GCU

全477床

〒569-1192

大阪府高槻市古曾部町1丁目3番13号

TEL.072-681-3801

院長 高岡秀幸

総合内科

スタッフ紹介 (2021年12月31日現在)

主任部長：筒泉貴彦
 医 長：濱田 治, 笹木 晋, 世戸博之
 医 員：恒光綾子 (2021年3月より産休),
 堀田亘馬, 中村真崇
 専 攻 医：山田真博, 加藤裕紀子
 診療看護師：向井拓也, 高石絵美, 小林達也, 猪熊咲子

診療内容

外来：

総合内科は高槻病院の初診外来を担当しており、種々の症状を呈する患者の初期評価を行っている。病態や疾病に合わせて総合内科での対応を継続して行うか、あるいは専門医の評価及び加療が必要であるかを判断する。再診外来では主に初診外来で対応した患者の加療が短期間である際のフォローアップ、あるいは総合内科に入院されていた患者の退院後の複数回のフォローアップに利用している。いずれも病態が安定した際は極力かかりつけ医に患者をお返すようにしており、急性期病院と開業医との良好な関係を維持できるように努力している。すなわち開業医からの紹介に対しては依頼内容に対して真摯に対応し、問題が解決したら患者をお返すことで高槻市の中核病院としての役割を果たすことを目指している。

入院：

一般外来及び救急外来からの急性期疾患が入院患者の多くを占めている。高齢者において頻度の高い誤嚥性肺炎、尿路感染症、複数の病態が関与する食欲不振や衰弱 (Failure to thrive) 症例が多いが、不明熱、多関節炎などの診断に難渋する症例も相談されるケースが増加している。基本的に入院依頼のあった症例については特殊な理由がない限り全例受け入れており、必要に応じて専門科と協力の上診療を行う。予定入院とは異なり、緊急性を伴う病態が多いが柔軟な対応を心掛けている。入院チームは科内2チームで構成されており、日替わりで入院の対応を行っている。各チームは1名の指導医、2名の後期研修医、初期研修医1~2名及び診療看護師で構成

されている。診療看護師も診療に関与しており、看護師としての側面から患者の診療の質の向上に大きく役立っている。初年度に引き続き、高齢患者の種々の病態の対応を行っていることに加えて非高齢患者の重症例や膠原病疾患の頻度も増加してきている。2018年より整形外科疾患であり大腿骨近位部骨折及び椎体骨折に対する診療を、当科を主科として整形外科と協力して行うことが開始されている。欧米ではOrthopedic Co-Management (OCM) と呼ばれており、整形外科の病態以外の種々の内科疾患、周術期管理、安全な退院のための準備などを包括的に診療することで患者への診療の質の向上を目指して行っている。高齢患者のニーズに即しているためか、1年を通じた入院患者数は1,000名以上と年々増加傾向であり、昨年同様、他科の外来及び入院患者のコンサルテーションも随時行っている。

教育：

若手医師及び看護師への教育面においても役立つべく、毎朝のカンファレンスや回診時の教育セッション、看護師勉強会において尽力している。

2021年のトピックス・実績

訪問診療：

高齢社会に伴い外来受診が困難な症例、終の棲家として自宅を選択するも依然として医療のニーズがある症例に対して総合内科主体の訪問診療を2020年度よりしんあい病院 (2021年10月~愛仁会しんあいクリニック) で始動しており患者数は順調に増加している。更なる拡大を目指していく。

今後の展望

高齢社会である本邦においてはますます種々の病態をバランスよく診療する総合内科医にニーズが高まることが予想される。高槻病院、訪問診療での診療を継続的に行っていき、社会への貢献を行う。また総合内科のニーズや功績、臨床研究を通じて発表することも引き続き積極的に行っていく。

呼吸器内科

スタッフ紹介

船田泰弘	1995年卒, 主任部長
金 永学	1996年卒, 部長 (～2021年12月)
中村美保	2002年卒, 医長
松村佳乃子	2009年卒, 医長
岩坪重彰	2009年卒, 医長 (2021年4月～)
小濱みずき	2013年卒, 医員 (～2021年3月)
福井崇文	2014年卒, 医員 (～2021年3月)
吉村遼佑	2015年卒, 専攻医 (～2021年3月)
岡本真理子	2015年卒, 専攻医
岩本夏彦	2015年卒, 専攻医
山岡貴志	2016年卒, 専攻医
大内愛子	2016年卒, 専攻医

診療内容

肺炎, 喘息, COPDなどのcommon diseaseを始め, 肺癌の集学的治療, 重症呼吸不全患者の集学的治療, チーム医療で取り組む慢性呼吸器疾患など幅広い診療を行っている。診療体制は従来どおり屋根瓦方式のチーム制(2チーム制)で診療及び初期研修医・専攻医の指導を行った。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い新型コロナウイルス感染症の患者が92名(昨年30名)と増加した。

入院患者数は延べ754名(昨年787名)であった。入院患者の内訳は, 新型コロナウイルス感染症90, 肺炎・気管支肺炎79, 誤嚥性肺炎45, 結核4, 肺膿瘍10, 胸部悪性腫瘍246(非小細胞肺癌164, 小細胞肺癌79, 悪性胸膜中皮腫3), 気管支喘息16, COPD増悪24, 間質性肺疾患49, 気胸27, 血痰・喀血3, 胸水貯留14, 肺膿瘍10, 膿胸2などであった。肺炎(誤嚥性肺炎含む)と肺癌で約半数を占める点は昨年までと同様であるが, 肺炎はやや減少し肺癌がやや増加した。死亡退院は63例であった。入院検査は終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)49, 気管支鏡検査37(外来検査103;総計140), 局所麻酔下胸腔鏡検査5(胸水入院患者に含む)であった。気管支鏡検査は新型コロナウイルス感染症の影響もあり伸び悩んだが, PSGは昨年と同数であった。なお, 今年も呼吸器内科・外科・放射線治療科・病理診断科・メディカルスタッフが参加する肺癌カンサーボード及び, 骨転移ボードを毎月開催した。また, 明石医療センターから専攻医2名(松尾, 山崎)のローテーションを受け入れた。

今後の展望

2021年は新型コロナウイルス感染症に対応しながら, 病床が逼迫する中でなんとか例年並みの活動を維持することができた。

2022年もまだ新型コロナウイルス感染症が続くと予想されるため, スタッフの力を結集して新型コロナウイルス感染症と通常診療の両方に対応したい。

表. 2021年の延べ入院患者数と転帰()内は昨年

(単位:名)

	患者数	死亡		患者数	死亡
呼吸器感染症			呼吸器悪性腫瘍		
新型コロナウイルス感染症	92(30)	5(0)	非小細胞肺癌	164(194)	14(18)
肺炎・気管支肺炎			小細胞肺癌	79(28)	3(3)
細菌性肺炎	66(109)	4(6)	悪性胸膜中皮腫/胸腺癌	3(7)/0(1)	2(1)/0(0)
ウイルス性肺炎	4(2)		閉塞性肺疾患		
レジオネラ肺炎	3(1)		気管支喘息	16(19)	
肺真菌症(アスペルギルス症)	6(0)		COPD増悪	24(33)	5(4)
誤嚥性肺炎	45(49)	10(10)	その他		
結核/非結核性抗酸菌症	4(10)/5(5)	2(2)	気胸	27(36)【手術11(22)】	
肺膿瘍	10(13)	1(0)	胸水	14(13)	1(0)
膿胸	2(14)		気管支拡張症	1(0)	
間質性肺疾患			血痰・喀血	3(3)	
肺線維症・非特異性間質性肺炎	29(41)	4(16)	血管炎・肺胞出血	3(4)	
特発性器質化肺炎	5(18)	0(4)	肺塞栓症	0(0)	
過敏性肺臓炎	4(2)		その他	48(82)	10(7)
薬剤性肺炎	1(4)		検査入院		
放射線肺臓炎	5(2)		終夜睡眠ポリグラフィ検査	49(49)	
慢性好酸球性肺炎	1(2)		気管支鏡検査	37(41)【入外合計140(125)】	
膠原病関連間質性肺炎	4(3)	2(0)	*局所麻酔下胸腔鏡検査(胸水入院)	5(1)	

循環器内科

スタッフ紹介

高岡秀幸	(1986年卒)	
中島健爾	(2002年卒)	
村井直樹	(2003年卒)	(~2021年10月)
松寺 亮	(2006年卒)	
佐野浩之	(2008年卒)	
湯口 賢	(2010年卒)	
谷村幸亮	(2012年卒)	
田中悠介	(2013年卒)	
片平龍太郎	(2017年卒)	
佐久間大輝	(2017年卒)	計10名

診療内容

入院患者は、主に救急外来からの直接入院や近隣医療機関からの外来紹介である。治療内容は、冠動脈インターベンション（PCI）、下肢動脈形成術（EVT）、救急心不全加療を主軸にしている。2年前に開始した心臓ホットラインは引き続き継続しており、日勤帯は救急総合診療科の稲本医師、増田医師のご協力をいただき24時間体制で開業医から直接電話を受けられるように対応している。また、平日は従来の内科当直に加えて循環器内科当直を立てて、夜間救急患者の受け入れを強化している。

2021年のトピックス・実績

これまで主軸であった待機的PCIは手術適応（機能的な虚血の証明が必須）などから引き続き全国的に減少することが予想される。当院においても今年235件と減少傾向であるが、急性冠症候群（ACS）に対する緊急PCI症例が増加したため（図1）200件台をキープしている。その理由として心臓ホットラインによる近隣へのアピール、後述する緊急症例対応の改善によるものと考え

る。ロータブレーター治療は16件、エキシマレーザー治療は22件であったが、昨年と比べ術後合併症が減少し安全に治療が行えるようになり入院日数減少にも寄与している。また、カテーテルを通して若手医師の育成にも力を入れ、昨年に引き続き、当院循環器内科への入職を希望する若手医師の数は安定している。末梢動脈インターベンションは、シャントPTA92件、下肢EVTは48件であった。PCIはもちろんのこと、末梢動脈インターベンションに関しても専門性をもって診療できている。緊急カテーテルに関して、昨年より開始した院内緊急カテーテルチャットグループにより、円滑な情報共有ができるようになり、緊急症例に対し迅速に対応できるようになった。それを裏付けるように院内死亡率を左右するDoor-to-balloon time（急性冠症候群の患者が病院に到着してから再灌流療法が開始されるまでの時間、90分以内が目標）は、2020年まで90分以内達成率は5割を切っていたが今年7割近くまでに至っている（図1）。近隣開業医からの紹介数増加を図って開始した心臓ホットラインの件数は34件で、内訳は急性冠症候群、心筋症、心筋炎、不整脈（心房細動、発作性上室性頻拍、洞不全症候群、房室ブロック）、肺塞栓、深部静脈血栓症、大血管疾患、心不全で多岐にわたって紹介いただいている（図2）。

今後の展望

今後も重点を置かれるのは急性冠症候群であり、心臓ホットラインの拡充は必要と考える。近隣開業医はもちろんのこと、茨木周辺の医療機関とも連携を図り症例数を確保したい。末梢動脈疾患に関してもより一層アピールしていきたい。これからも心臓血管外科、不整脈内科とともにハートチームとして相互関係強化を図り、患者の共有化を目指していきたいと考えている。

本年も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり発表機会が減少しており、これからも積極的に発表回数を増やしていきたい。

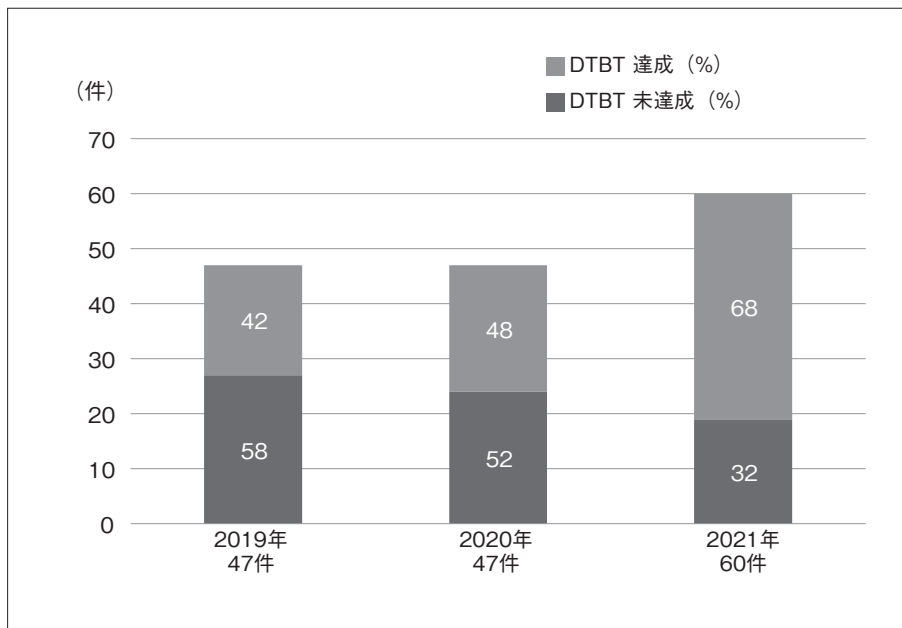


図1. 急性冠症候群（ACS）件数とそのDoor-to-balloon time（DTBT）の割合

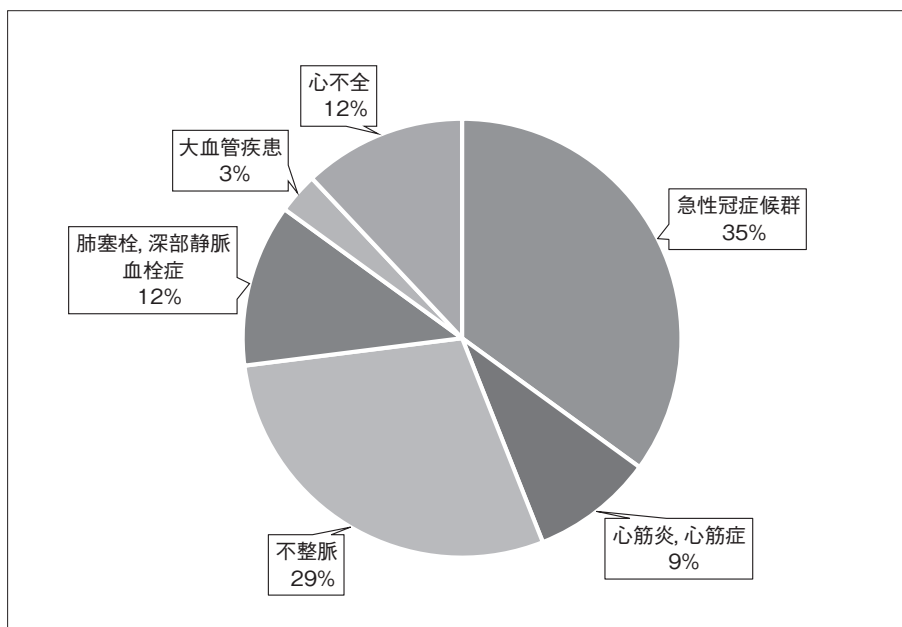


図2. 心臓ホットライン紹介疾患内訳

消化器内科

スタッフ紹介

中島卓利	(1985年卒)	主任部長	2021年3月まで)
長谷川和範	(1995年卒)	部長	2021年7月退職)
大須賀達也	(1997年卒)	主任部長	2021年4月より)
角山沙織	(2004年卒)	医長)	
澤井寛明	(2005年卒)	医長)	
小川浩史	(2007年卒)	医長)	
鍋嶋克敏	(2010年卒)	医長)	
谷本直紀	(2012年卒)	医員)	
池内愛実	(2013年卒)	医員)	
石田亮介	(2016年卒)	専攻医)	
南條 望	(2017年卒)	専攻医)	
石原美崎	(2018年卒)	専攻医	2021年4月～9月まで明石医療センター、 2021年10月～3月まで千船病院へ)
伊藤裕貴	(2018年卒)	専攻医)	
金丸薫子	(2018年卒)	専攻医	2021年4月～9月まで千船病院、 2021年10月～3月まで明石医療センターへ)
増田祥子	(2018年卒)	専攻医	2021年9月まで)
岩本陽菜	(2019年卒)	専攻医	2021年4月より)
影山達也	(2019年卒)	専攻医	2021年4月より)

診療内容

消化管や肝胆膵の良性・悪性疾患など多岐にわたる消化器領域の疾患に対し、弱点の少ない診療体制を構築している。消化器内科スタッフが専門性を生かし、救急外来や地域の医療機関と密接に連携し、オープン検査など内視鏡検査の積極的な受け入れを行い、質の高い医療の提供を目指している。

2021年のトピックス・実績

部長2名の異動、退職のため消化器初診を廃し、消化器内科医師の外来紹介枠を増やし、当日紹介にも柔軟

に対応できる体制にした。診療実績を下記の表にまとめた。入院は、診療パスの利用やMSW、入退院支援、リハビリの早期介入、病棟カンファレンスを行い、平均在院日数は短縮し、入院平均単価は上昇傾向である。化学療法は外来通院の割合が更に増加し、外来平均単価も上昇傾向である。内視鏡関連では、新型コロナウイルス感染症流行が続き、感染予防対策や件数の維持が課題であった。緊急内視鏡検査時に術者・介助者が専用ガウン、N95マスク、ゴーグル着用といった重装備で行わざるを得ないケースもあったが、被検者に穴あきマスクを着用してもらうなど飛沫対策を講じながら、検査枠をほぼ制限することなく実施できた。内視鏡を標榜するクリニックが増加する中、胃がん検診枠を設け上部消化管内視鏡の件数は前年より増加した。また学会発表など学術活動も精力的に行った。

今後の展望

2022年4月より石田亮介、伊藤裕貴が神戸大学（大学院入学）に異動し、岩本陽菜が千船病院に、影山達也が明石医療センターに異動する。一方、専攻医3年目となる石原美崎、金丸薫子が2022年4月より、増田祥子が10月より戻り、専攻医が神戸大学と明石医療センターから4月より各1名赴任する。日本専門医機構からのシーリング制度の影響は小さくなく、人材の確保には大学病院や連携病院との協力が必要となるだろう。化学療法の入院から通院加療への移行、内視鏡治療の外来治療への移行、入院期間の短縮化で、総入院数、新入院数とも減少傾向にある。また内視鏡を標榜するクリニックは増加しており検査数を維持・増加させることは容易ではなく、1次2次検診にも力を入れていきたい。ポスト新型コロナウイルス感染症への対応も含め、消化器疾患の新規患者の集患が引き続き重要であろう。高度急性期病院ならではの専門的かつ迅速な診療を必要とする症例や、併存疾患、問題点を有する症例にも幅広く対応し、質の高い消化器診療を行うことで地域医療に貢献していきたい。

表1. 診療活動実績

	2018年度	2019年度	2020年	2021年
新入院(名)	1,504	1,456	1,486	1,456
入院平均単価(円)	51,539	51,000	58,196	59,657
平均在院日数(日)	11	11	11	10
外来延べ患者数(月平均)(名)	1,478	1,537	1,431	1,442
平均単価(円)	23,089	24,208	26,452	27,320
化学療法(外来)(件)	902	1,007	809	926
化学療法(入院)(件)	229	190	119	102

※2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日

表2. 内視鏡活動実績

(単位:件)

	2018年度	2019年度	2020年	2021年
総数(うち治療)	6,216 (1,303)	6,302 (1,367)	6,008 (1,381)	5,956 (1,477)
上部(うち治療)	3,567 (268)	3,537 (249)	3,355 (313)	3,411 (252)
下部(うち治療)	2,410 (804)	2,484 (855)	2,301 (839)	2,203 (967)
ERCP関連(うち治療)	239 (231)	281 (263)	352 (229)	342 (258)
超音波内視鏡	166	188	170	185
EUS-FNA	33	35	43	45
ESD(食道・胃・大腸)	88	73	78	60

※2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日

表3. 学会・論文発表 2021年1月1日～12月31日

No.	学会名	表題	発表者
1	日本内科学会第233回近畿地方会	直視下に鉗子で碎石を行い治療し得た胆石イレウスの症例	増田祥子 岩本陽菜 影山達也 伊藤裕貴 南條 望 石田亮介 池内愛実 谷本直紀 鍋嶋克敏 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 長谷川和範 大須賀達也
2	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	横行結腸軸捻転に対し内視鏡的整復を繰り返した1例	岩本陽菜 影山達也 伊藤裕貴 増田祥子 南條 望 石田亮介 池内愛実 谷本直紀 鍋嶋克敏 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 大須賀達也
3	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	胆石性腸閉塞に対して、内視鏡的に胆石を採石し得た一例	影山達也 岩本陽菜 伊藤裕貴 増田祥子 南條 望 石田亮介 池内愛実 谷本直紀 鍋嶋克敏 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 大須賀達也
4	第107回日本消化管内視鏡学会近畿支部例会	長期にわたり内視鏡的に変化を認めずフォローアップされていたBrunner腺が癌化した一例	南條 望 影山達也 岩本陽菜 伊藤裕貴 石田亮介 池内愛実 谷本直紀 鍋嶋克敏 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 大須賀達也
5	第101回日本消化器内視鏡学会総会	当院における悪性大腸狭窄に対する姑息的大腸ステント留置術の有効性及び安全性の検討	石田亮介 岩本陽菜 影山達也 伊藤裕貴 増田祥子 南條 望 池内愛実 谷本直紀 鍋嶋克敏 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 長谷川和範 大須賀達也
6	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	胃ESD後の遅発性穿孔に対してポリグルコールシートが有効であった一例	伊藤裕貴 岩本陽菜 影山達也 増田祥子 南條 望 石田亮介 池内愛実 谷本直紀 鍋嶋克敏 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 長谷川和範 大須賀達也
7	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	肝臓癌を契機に判明した胆嚢胃瘻の一例	伊藤裕貴 岩本陽菜 影山達也 増田祥子 南條 望 石田亮介 池内愛実 谷本直紀 鍋嶋克敏 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 大須賀達也
8	JDDW2021	MTX肝障害病勢評価への肝線維化スコアの有用性	伊藤裕貴 大須賀達也 伊倉義弘
9	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	直腸神経内分泌腫瘍に対するendoscopic hemorrhoidal ligation (EHL) デバイスを利用したESMR-Lの有効性・安全性について	伊藤裕貴 大須賀達也 伊倉義弘
10	第232回日本内科学会近畿地方会	消化器症状を主訴とする悪性症候群が呼吸不全やDIC、出血性ショックを来しショックに至った1例	濱中統親 金丸薫子 石田亮介 谷本直紀 小川浩史 澤井寛明 角山沙織 大須賀達也

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁	掲載年	著者
1	Clin Case Rep.	Jejunal hemorrhage due to hemolymphangioma successfully detected and controlled by double-balloon enteroscopy	9 (12)	e05153	2021	Ito Y, Osuga T, Kawasaki K, Ikura Y
2	Dig Liver Dis.	Endoscopic detection of the lead-point of intussusception associated with ileal Burkitt's lymphoma	53 (5)	652-653	2021	Kaoruko Kanamaru, Chieko Hisamatsu, Tatsuya Osuga, Yoshihiro Ikura

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

3月までは陳 慶祥（1995年卒 主任部長）、吉田健一（2007年卒 医長）、岡 亜希子（2011年卒 医員）、平賀千尋（2013年卒 医員）の4名であったが、4月から岡が異動し、三浦 洋（2010年卒 医員）が着任した。

診療内容

糖尿病及び内分泌全般を主な対象としている。陳は外来及び科全体のマネジメントに徹している。吉田、岡（4月から三浦）、平賀は病棟での患者対応及び初期研修医の指導、他科からの血糖及び内分泌のコンサルトを引き受けている。吉田は内分泌専門医として内分泌負荷試験入院のマネジメント及びNST回診も行っている。外来では腎移植患者の糖尿病診療や産婦人科との連携での妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の管理も行っている。1型糖尿病患者においてインスリン強化療法でコントロール困難な患者に積極的にCSII（持続インスリン皮下注入）療法を導入している。血糖変動の激しい患者はFGM（Flash Glucose Monitoring）を用いてインスリンの微調整を行っている。NST委員会の下部組織である医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、事務員からなる「糖尿病ケアチーム」が2か月に1回糖尿病教育入院、外来糖尿病患者に関するミーティングを行っている。山下みどり糖尿病看護認定看護師が、糖尿病看護外来にて、糖尿病性腎症進展予防の指導、妊娠関連の糖尿病患者の指導、外来インスリン導入、CSII患者の療養指導、FGMの導入指導などを行っている。糖尿病足病変の患者の拾い上げを行い、外科外来に開設された「フットケア外来」にも加わり、足のケアや療養指導を行っている。診療支援科が中心となって糖尿病患者友の会（よもぎの会）のサポートを行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、よもぎの会は休会となっており、会員向けに定期的に会報を作成している。内分泌疾患が疑われる患者は、入院にて内分泌負荷試験を行い、詳細な病態解析を行っている。

2021年のトピックス・実績

学会発表は糖尿病関連2題、内分泌関連2題であった。全て研修医が筆頭者として発表した。

また、実績の数字には表せないが、外科系や産婦人科

の血糖コントロールの併診も当科が引き受けており、周術期の血糖管理に貢献している。

4月以降の糖尿病専門医数は4名（指導医1名）、内分泌専門医数2名（指導医2名）である。

今後の展望

4名体制となって1年が経過したが、新型コロナウイルス感染症の影響で内分泌疾患の患者数が伸び悩んでいることは否めない。

引き続き当地域の糖尿病及び内分泌の拠点であることを院内外にアピールし、地域からの紹介患者の受け入れ、病院全体からの血糖コントロール及び内分泌疾患のコンサルトを積極的に受ける。

同時に地域連携のため、血糖コントロールの安定した患者の逆紹介を更に進め、入院の必要な患者の紹介を増やし、入院患者増に繋げたい。

産婦人科との連携による妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠合併甲状腺疾患診療の強化、糖尿病患者の定期的な合併症精査による血管病変の早期発見により、虚血性心疾患、脳血管疾患、下肢閉塞性動脈硬化性疾患の新規患者の掘り起こしにも努め、他科との連携を強めたい。引き続き学会発表の件数を増加させ、研修医にも積極的に学会発表をさせたい。

表. 実績

(単位：名)

入院	
糖尿病内分泌内科の入院患者数	241
糖尿病の入院患者数	167
教育入院数(バス入院)	67
内分泌疾患入院患者数	
間脳・下垂体疾患	9
甲状腺疾患	9
副甲状腺疾患	0
カルシウム代謝異常	0
副腎疾患	13
性腺疾患	0
検査件数	
甲状腺穿刺又は針生検	69
副腎静脈サンプリング	0
外来糖尿病患者数	
1型糖尿病	131
2型糖尿病	1,212
妊娠糖尿病	81
その他の糖尿病	20
合計	1,444
外来インスリン症例数	870
外来インスリンポンプ使用者数	49

腎臓内科・血液浄化センター

スタッフ紹介

高橋利和（1994年卒）：

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
徳島大学臨床教授，大阪医科薬科大学臨床教育教授

辻本吉広（1995年卒）：

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本腹膜透析医学会認定医

黒川直基（2017年卒）：

後期研修医

診療内容

腎炎・ネフローゼ，透析導入などの入院受け入れを随時行っている。腎生検は検査日を火曜日午後とした。

人工透析科：2017年6月より高槻病院3階へ移転。25床で運用している。

重症患者に対してはICUにて血液透析や特殊血液浄化を行った。

2021年のトピックス・実績

- 腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の治療と末期腎不全の加療が入院患者の中心であった。
- 大阪医科薬科大学との腎臓内科症例検討会は感染対策のため2021年は休止した。
- 末期腎不全・透析に至る前の慢性腎臓病の段階での生活指導や病気に対する理解を深めることを目的とした腎臓病教育指導外来を2011年より開始。対象患者をCKDstageIIまで拡大し，今期は計60件行った。新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが，影響は軽微だった。また，腎臓病療法指導士の資格取得のための研修施設に今期も指定された。
- 各教育・施設認定に関する活動

2011年度より高橋が徳島大学臨床教授となり，徳島大学の学生の学外教育の受け入れを行っている。

また，2015年度より大阪医科薬科大学臨床教育教授

となり，大阪医科薬科大学6年生の学外実習も行うようになった。

5) 透析室としての活動

2017年6月に愛仁会リハビリテーション病院から高槻病院へ透析室が移転し，25床の透析室として運用。

LDLアフェレーシス，LCAP，PMAなどの特殊血液浄化も昨年同様積極的に行っている（表参照）。

2021年は44名の透析導入を行った。新型コロナウイルス感染症の影響はなく，昨年よりも増加した。

また，急性期病院の透析室としての活動に力を入れ，2021年は延べ247名の入院透析を行った。入院透析依頼に関しての応需率は100%を達成した。

6) 地域での活動

慢性腎臓病の啓発及びCKDネットワークの構築のため大阪医科薬科大学と協力し各方面へのWeb形式を中心に講演活動を行った。

今後の展望

当医療圏での腎臓内科の需要に対し専門医が不足している状況が続いている。今期は，大阪医科薬科大学泌尿器科・腎臓内科と定期的なカンファレンスや会合は行えなかったが，しっかり連携を取っていきたい。

三島医療圏における透析クリニックとは有機的に連携が取れており，今後更に深化させていきたい。

表. 特殊血液浄化件数

(単位：件)

GMA	PMX	CRRT	CART	PE
2	1	139	10	4

不整脈センター

スタッフ紹介

山城荒平：副院長、不整脈センター長
 坂田憲祐
 田中友望
 黒田奈巳：非常勤

診療内容

不整脈専門外来を月・火・水・金曜日の午前及び木曜午後に行っている。月・水曜日は山城が担当し、火曜日は黒田、木曜日は田中、金曜日は坂田が担当している。また、水曜日にデバイスチェックの外来を行っている。

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を月曜日から金曜日に、ペースメーカーなどデバイスの植え込みを適宜行っている。

2021年のトピックス・実績

持続性心房細動に対して洞調律中に多極カテーテルで心房細動基質を調べ、Non-PV triggerを検出する方法で良好な成績を上げている。

ブルガダ症候群に対する心外膜アブレーションや下大静脈欠損や、先天性心疾患術後に伴う頻脈に対するのアブレーションなど、他院で取り組むのが困難な症例に対してカテーテルアブレーションを施行してきた。

リモートマグネティックナビゲーションシステム（米国、ステレオタキシス社製）を有するため、今まで不可能であったカテーテル操作が可能になり、他院のアブレーション不成功例に対して不整脈の根治に成功している。

ホームページをリニューアルし、我々の施行可能な医療を伝えている。YouTube上で「不整脈センターちゃんねる」の動画を公開し、新型コロナウイルス感染症がまん延している中でも多くの方に情報が伝わるように工夫している。オンライン相談や心電図相談をリモートで施行している。

今後の展望

あらゆる不整脈に対応できる利点を活かして、より遠方からの紹介患者が増えるように広報活動を行う。

大阪高槻心房細動アブレーションライブは新型コロナウイルス感染症がまん延している中でも継続でき、市民講座、シンポジウム、ライブデモを一体として当院で開催している。市民講座などを通じて、アブレーション治療の有用性を今後も広めていく。

血液内科

スタッフ紹介

岡本雅司（1993年卒）

日本血液学会認定血液専門医

日本内科学会総合内科専門医

診療内容

火曜日

血液内科専門外来

月～金曜日

骨髄穿刺・生検

化学療法

病棟回診・処置

2021年のトピックス・実績

腫瘍性疾患（白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫・骨髄異形成症候群・骨髄増殖性疾患など）、免疫性疾患（再生

不良性貧血・免疫性血小板減少性紫斑病など）、血栓・出血性疾患（血友病・抗リン脂質抗体症候群など）といった幅広い領域の血液疾患を診療している。造血幹細胞移植や若年者の急性白血病など、当院の設備上の問題で高度な無菌管理を要する疾患の治療はできないため、これらの患者に対しては、整備の整った施設を紹介している。高齢の患者が多くなっていることと、疾患の専門性の高さから、他院への転院に時間が掛かり、どうしても入院日数が長くなる傾向にある。

今後の展望

可能であれば造血幹細胞移植を施行したいと考えている。自家末梢血幹細胞移植が施行可能になると、より若年の患者を診ることができ、患者数が増加することが見込める。非専門的な疾患から造血幹細胞移植まで幅広い血管疾患を診療してきた。その経験を活かしていきたい。

脳神経内科

スタッフ紹介

松下達生（1990年卒 主任部長）

日本内科学会 認定内科医・指導医
 日本神経学会 専門医・指導医・代議員
 日本頭痛学会 専門医

立花久嗣（2006年卒 医長）

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医
 日本神経学会 専門医・指導医
 日本脳卒中学会 専門医
 日本認知症学会 専門医・指導医

診療内容

専門医2名の体制で、月曜日から金曜日まで火曜日を
 除き午前は初診、紹介及び再診外来（月・水・金曜日：
 松下、木曜日：立花）、午後は週4日（月・水・金曜日：
 松下、木曜日：立花）の再診外来、また水・木曜日午前
 は神戸大学脳神経内科からの非常勤医の応援を得て2診
 体制での診療を行っている。基本的に予約外来だが当日
 来院も可及的に応需している。立花は第2、4火曜日午後
 に認知症専門外来を、松下は第3火曜日午後千船病院
 での外来診療を行っている。また神経救急については救
 急部からの要請に常時対応している。

針筋電図など侵襲検査を主に火・木曜日午後に行い、
 火曜日午前は病棟カンファレンスと全体回診、午後には
 リハビリテーション科とともに臨床カンファレンスを
 行っている。

2021年のトピックス・実績

スタッフ数は2名となり、外来患者数は初診518名、再
 診5,692名の計6,210名であった。入院患者数は233名、延
 べ4,187名で、1日平均11.5名、最大21名で主な疾患では
 脳血管障害、てんかん関連、パーキンソン病や多系統萎
 縮症、認知症など変性疾患、神経感染症、ギランバレー
 や多発性硬化症など神経免疫疾患、筋疾患の順であっ
 た。

脳血管障害については、超急性期のtPA治療を含めた
 急性期治療はSCUで行い、慢性期は地域連携パスにの
 っとりかかりつけ医での継続加療を依頼するが、合併症な
 ど複雑な例については当科外来にて一次・二次予防治療
 を継続し、また機能障害について適宜リハビリテーショ

ン科と連携し経時評価しつつ治療を行い、頸動脈高度狭
 窄など観血治療適応症例は脳神経外科へ血管内治療など
 を依頼している。医師会主導型脳卒中地域連携パスの
 利用件数も維持している。パーキンソン病313名を中心
 とした神経変性疾患、特に特定疾患対象患者の外来患者
 数は、高槻市で27.7%と大阪府平均よりも高い地域の高
 齢化を反映し、また75万人の三島二次医療圏に脳神経内
 科医常勤の急性期病院が少ないことから引き続き増加
 傾向にあり、やはり対応施設の少ないてんかんなどとと
 もにエリア内の多くを担当し、三島地区の基幹施設とし
 て活動している。大阪医科薬科大学脳神経内科、当科、
 藍野病院と近隣4医師会、歯科医師会、薬剤師会と保健
 所、地域包括センターなどによる三島圏域難病医療ネッ
 トワークにおいて、パーキンソン病類縁疾患やALSほか
 指定難病に対する基幹施設としても地域連携を進めてい
 る。また愛仁会リハビリテーション病院と連携したパー
 キンソン病入院リハビリプログラムなど、今後も利用者
 数を増やしていきたい。てんかん患者は近年社会的注目
 度が高いが、近隣に担当科が少なく、神戸大学からのて
 んかん専門医の応援もあり、他地域からの紹介や小児科
 からのcarry over例などを含めて救急からの入院、外来
 数とも増加し、検査部生理検査部門の迅速な対応を得て
 診療に当たっている。立花による認知症外来では治験も
 行っているが、認知症は当地域も高齢化とともにAD始
 めDLB、SD、VDなど増加傾向にあり、更に需要は高ま
 ると予想される。パーキンソニズムを呈する例について
 は、PD、DLBなどの鑑別診断にRI検査が有用視され診
 断基準にも組み込まれているが、当院で設備がなく行え
 ないものは近隣施設での協力を得て診断、治療に専門性
 を発揮できるよう努めている。また松下は頭痛学会専門
 医でネット上サイトを見ての片頭痛来院者も増加してい
 る。

今後の展望

学会専門医2名体制で、引き続き日本神経学会准教育
 施設認定を維持し、神経疾患の診療、教育に努める。
 また新たな治療手段が一般化してきた脳血管障害、認知
 症、てんかんや、新ガイドラインの下、新規薬剤が増え
 てきているパーキンソン病始め神経変性疾患、てんか
 ん、免疫性感染性神経疾患、片頭痛などの担当領域にお
 いて、更に専門性、先端性を高めていく。三島圏域に脳
 神経内科常勤の急性期病院が依然少なく、特に高齢化に

伴い増加していく変性疾患など、専門的治療を要する分野では今後も基幹施設として当圏域での診療の中心的役割を求められ、応需し得るべく引き続き努めていく。また生活習慣病の増加から脳血管疾患の増加、特にtPA症例の更なる増加も見込まれ、地域連携パスを通じ病診連携による近隣地域への逆紹介数の増加を目指したい。

総合救急医療センター(救急科)

スタッフ紹介

センター長：秋元 寛（1983年卒）（2019年4月着任）

主任部長（副院長）：稲本真也（1992年卒）
（2019年4月着任）

医長：増田 茂（2000年卒）（2020年4月着任）

医員：豊島千絵（2012年卒）（2020年5月着任）

初期研修医：2名

診療内容

高槻病院総合救急医療センターは3つの診療の柱を持っている。小児全般の救急である小児救命救急センター、成人の内因性救急である救急総合診療部門、外因性救急である急性期外科部門、である。また当センターは研修医の救急領域の研修の場として重要な位置を占めており、常に2名の研修医が交代で在籍している。

小児救命救急センターは小児科、小児外科、小児脳神経外科が主に担当し、成人救急は救急科が担当し、院内の各診療科と連携し、迅速な対応を行っている。脳卒中、急性冠症候群、急性腹症、消化管出血、外傷など重症救急にも対応できるよう、しっかりとした体制を整えている。脳出血、くも膜下出血、脳梗塞など脳卒中については一次脳卒中センターとして認定されている。また心筋梗塞、狭心症などについては迅速に対応できるように心臓ホットラインを設置している。

2021年のトピックス・実績

過去5年間の救急件数を示す（図1）。2019年までは救急搬送、直接来院や紹介来院、病院車で搬送など救急車以外の来院数とも年々増加していた、2019年には8,500件を超える救急搬送があったものの、2020年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、約1,100件減少した。

2021年は発熱患者に対応する院内体制を整え、救急センター内の隔離可能な診療ベッドをフル回転させながら「断らない救急」の維持に努め、8,277件まで回復した。しかしながら救急を断る件数が増加した（図2）。2020年11月から発熱外来を設置したが、2021年1月の第3波の時には発熱患者の対応ができず、不応需率は20.4%と急増した。その後院内体制の整備とともに不応需率は低下したが、1年を通しての不応需率は6.2%と例年の倍となった。

2021年の救急搬送患者数は8,277件で、高槻消防からの搬入が7割となっていた（図3）。三島医療圏以外からの救急搬送も10%程度あり、新型コロナウイルス感染症流行の影響も考えられた。

年代別救急搬送件数を示す（図4）。当センターは小児救命救急センターでもあるので、小児と高齢者に大きな山があるのが特徴である。成人に限ると救急搬送患者のうち57.1%が70歳以上の高齢者であった（図5）。

救急患者の転帰を図6に示す。1/3の患者は入院となり、2/3は治療後帰宅となっている。

当センターの救急患者の疾患別救急患者を示す（図7）。77.3%が内因性救急であり、高齢者の内因性が多いという我が国の救急医療の現状をそのまま表している。

当センターの救急患者の重症度を図8に示す。治療後帰宅可能な軽症患者は66.1%、入院が必要な中等症が31.3%、バイタルサインが不安定な重症・重篤患者が2.6%となっており、ほぼ三島医療圏の救急搬送患者の重症度比率と一致している。救急搬送患者の重症度を年齢別に見ると、成人では46.4%が入院の必要な中等症以上の患者であった（図9）のに対し、小児では約75%の患者が帰宅可能な軽症患者であり（図10）、救急車適正利用に向けての課題となっている。

当院は救急隊の搬送実施基準で脳卒中、急性冠症候群、吐下血、急性腹症、外傷などの特定病態対応医療機関となっており、大阪府情報収集システム（ORION）に従い特定病態別に搬入された患者を図11に示す。

今後の展望

いまだ新型コロナウイルス感染症流行の終息は見えないが、地域の行政、消防本部、医療機関と連携しながら救急医療体制を崩すことなく、円滑な救急医療の提供に寄与したい。

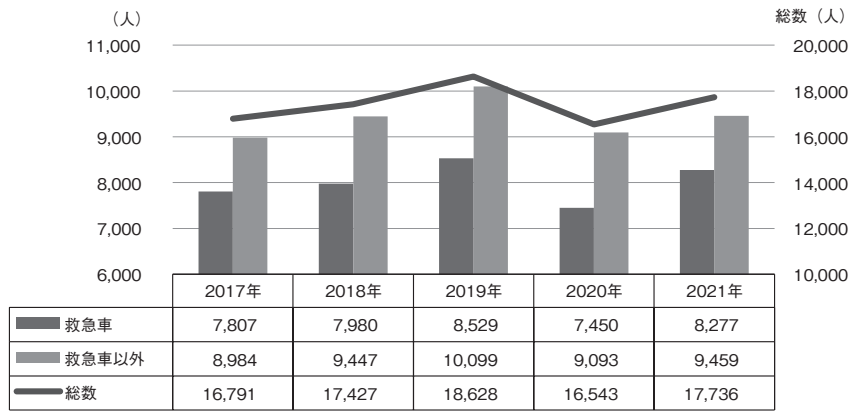


図1. 救急患者の推移

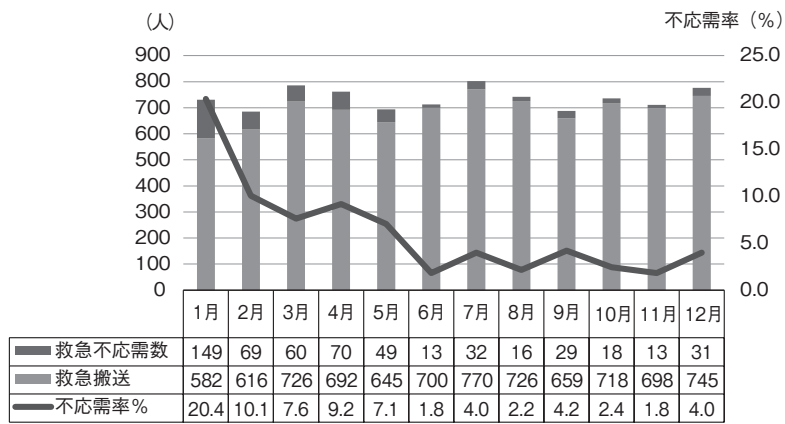


図2. 月別不応需症例

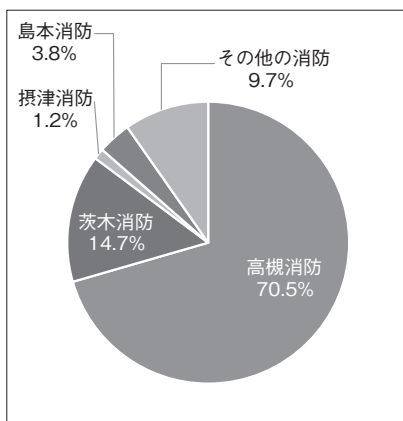


図3. 消防本部別救急搬送件数

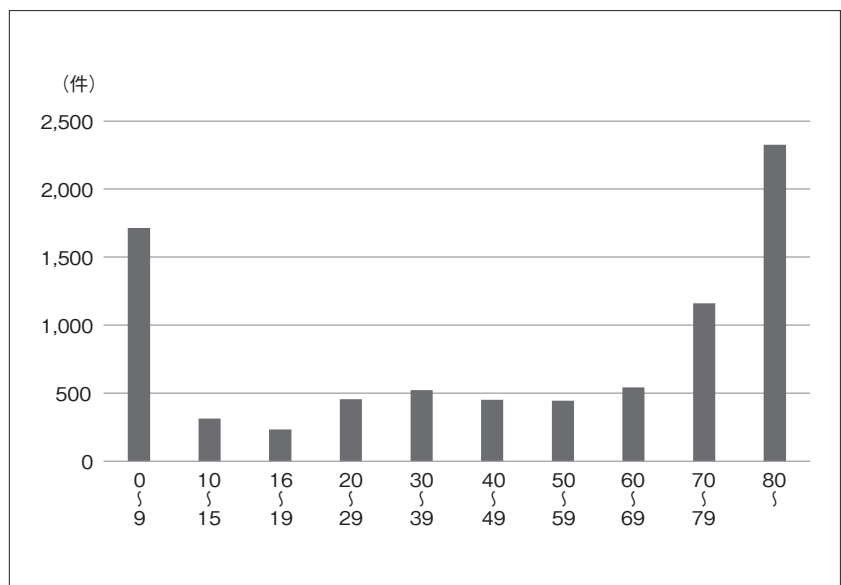


図4. 年代別救急搬送件数

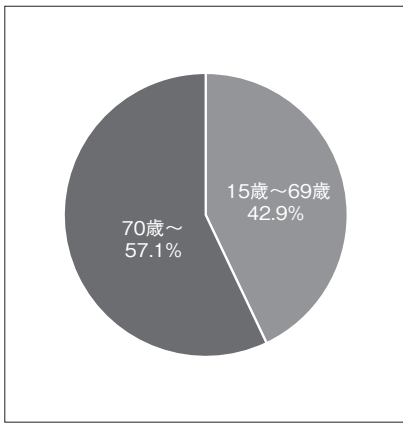


図5. 成人救急搬送患者の高齢者率

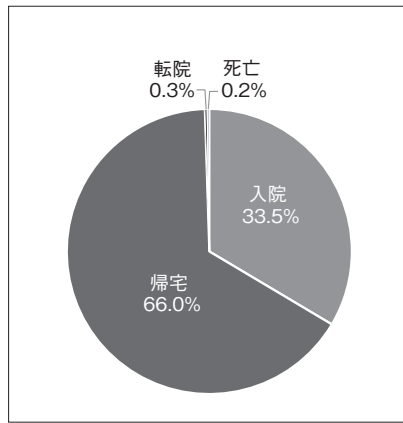


図6. 救急患者の転帰

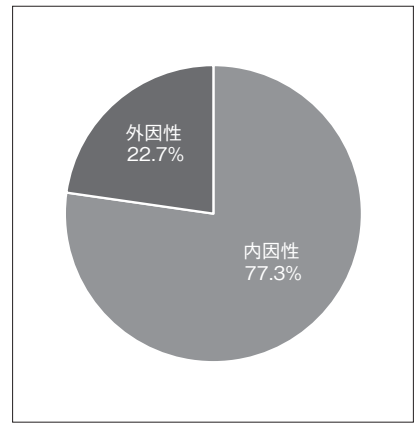


図7. 疾患別救急患者数

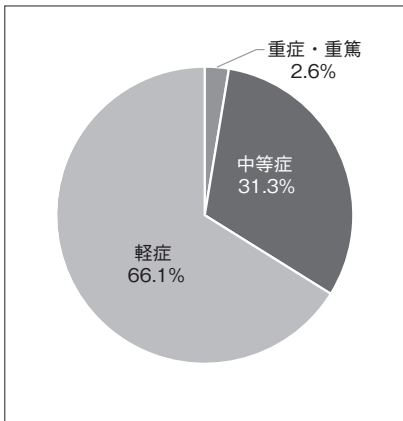


図8. 重症度別救急患者数

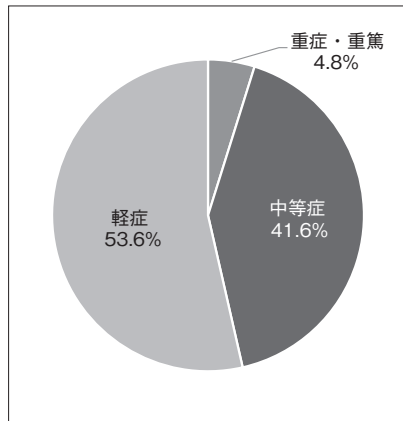


図9. 重症度別救急搬送患者数（成人）

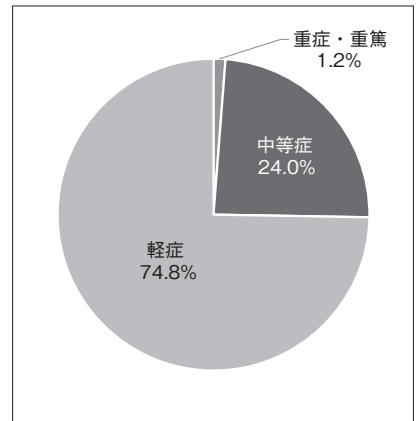


図10. 重症度別救急搬送患者数（小児）

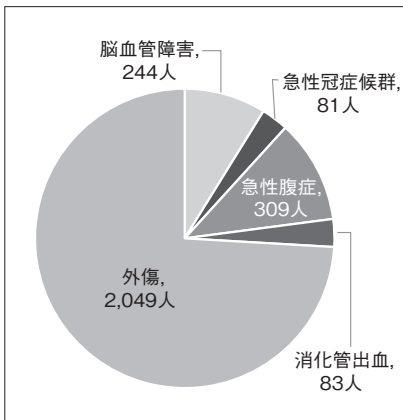


図11. 救急隊による特定病態救急患者数（ORIONデータより）

精神科

スタッフ紹介

2021年のスタッフは、杉林 稔主任部長、伊藤晴子医長、井上由香医長、家田麻紗医長、島田 稔医師（週半日非常勤）。

公認心理師は常勤5名（小寺智子、鈴木佳子、山本百合子、房岡 茜、松本千佳）。

診療内容

- (1) 外来診療の継続。
- (2) コンサルテーション・リエゾン活動の継続。
- (3) 精神科リエゾンチームの継続的活動。
- (4) 認知症ケアチームの活動開始。
- (5) 緩和ケアチームへの継続的参加。
- (6) 関連施設（ケアアイ）への週に1回の出向を継続。
- (7) 高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を継続。
- (8) 医師卒後研修における精神科の必修化に伴い、当院所属の臨床研修医全員に1か月、若しくはそれ以上の精神科研修指導。

2021年のトピックス・実績

・外来

2021年の初診患者数（院内他科からの紹介を含む）は532名〔前年499名〕であった。そのうち、院内他科からの紹介患者数は313名（58.8%）〔前年313名（62.7%）〕であった。

他病院・医院からの紹介患者は196名（36.8%）〔前年168名（33.7%）〕であった。

疾患別の患者数は、表1のとおりである。

・入院

精神科主科での入院治療は行っていない。

身体疾患を持つ患者に対する心理的ケアについて、他科の医師や看護スタッフの相談に乗り、連携して治療に当たるコンサルテーション・リエゾン活動を随時行い、精神科リエゾンチームによる介入を積極的に行った。

・認知症ケアチーム活動

週1回の定期回診により各病棟での認知症ケアの向上に努めている。

・その他

精神科リエゾンチームと臨床研修医指導については、家田医長を中心として常勤スタッフにて活動した。

緩和ケアチームについては、チーム員として伊藤医長が参加した。

認知症については、通常精神科外来での対応に加えて、介護老人保健施設ケアアイでのコンサルテーション・リエゾン活動、高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を井上医長が担当した。

・心理療法、心理検査

2021年の心理士による心理療法は1,061件〔前年1,011件〕、心理検査は22件〔前年33件〕であった。患者の様々な心理的問題に対し、カウンセリングなどを行った。NICU、周産期センター、小児センターでの心理ケアにも取り組み、心理士による訪床と随時カンファレンスを行った（表2～4）。

今後の展望

今後も他科との連携を深めながら、活発な臨床活動を展開していきたい。

表1. 精神科外来新患疾患分布

(単位：名)

	2019年度	2020年	2021年
器質性症状性精神障害			
認知症(アルツハイマー型、血管型、など)	107	117	135
軽度認知障害	30	29	36
せん妄	53	68	61
器質性精神障害	8	15	15
症状性精神障害	0	0	0
その他	0	0	8
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存症	10	8	5
薬物依存症	1	1	2
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害			
統合失調症(近縁疾患を含む)	20	11	14
妄想性障害	3	5	3
気分(感情)障害			
単極性うつ病	34	39	31
双極性障害(そううつ病)	5	7	5
単極性そう病	0	0	1
神経症性、ストレス関連性及び身体表現性障害			
不安神経症(パニック障害)	27	16	36
社会不安障害	1	20	0
恐怖症	0	1	1
心気症	1	1	1
強迫神経症	0	0	1
心因反応・適応障害	59	77	89
解離性障害	3	4	9
身体表現性障害(不定愁訴群を含む)	13	11	14
摂食障害	3	3	4
睡眠障害	20	20	27
人格障害	2	3	2
小児科領域			
発達障害	6	6	11
注意及び破壊的行動障害	1	4	1
摂食障害	0	0	0
心因反応、神経症	0	0	0
その他	7	5	0
その他			
心身症	0	0	0
その他	0	10	8
相談のみ(認知症を心配して受診した例含む)	10	1	3
精神疾患なし(同上)	11	17	9
合計	435	499	532

表2. 臨床心理活動報

(単位：件)

	新規ケース	精神科 カウンセリング	心理検査	オープン検査	小児科 発達検査	小児 カウンセリング	小児脳外 三角頭蓋 心理検査
1月	4	117	7	0	17	5	4
2月	4	112	7	0	21	1	2
3月	6	144	0	0	30	2	3
4月	2	134	5	0	25	1	6
5月	0	110	3	0	24	4	2
6月	6	130	2	0	26	4	2
7月	6	133	5	0	26	6	3
8月	4	132	0	0	23	5	2
9月	3	134	1	0	24	1	1
10月	7	131	3	0	25	4	4
11月	6	128	2	0	28	1	2
12月	4	129	1	0	29	3	2
合計	52	1,534	36	0	298	37	33

表4. 周産期センター面接延べ件数

(単位：件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産科/N/G	87	71	96	79	53	78	71	73	76	80	68	69	901
小児病棟	16	8	19	15	9	6	11	9	14	9	8	11	135
合計	103	79	115	94	62	84	82	82	90	89	76	80	1,036

表3. 精神科外来・心理新規ケース

(単位：件)

	2018年	2019年	2020年	2021年
精神作用物質使用による精神及び行動の障害				
アルコール依存	0	0	1	1
薬物依存	0	0	0	0
大量服薬後	0	0	0	0
統合失調症型障害	1	0	1	3
気分・感情障害				
単極性うつ病	3	12	2	5
単極性うつ病(産褥)	0	0	1	0
双極性障害	5	3	7	7
神経症性、ストレス関連障害及び身体表現性障害				
不安神経症	8	12	5	4
強迫神経症	4	2	0	0
心因反応・適応障害	14	23	16	19
解離性障害	0	2	1	1
身体表現性障害	4	10	1	1
摂食障害	3	1	2	1
人格障害	2	8	0	2
発達障害	5	6	2	2
知的障害	3	0	1	2
脳機能不全	0	0	0	1
小児科領域				
神経症	2	1	0	2
心身症	0	1	0	0
心因反応	4	1	1	1
発達障害(疑い)	0	0	0	0
知的障害	1	0	0	0
不登校・引きこもり	2	0	1	0
非行	0	0	0	0
抜毛	0	0	0	0
吃音	0	0	0	0
緘黙	0	0	0	0
大量服薬後	0	0	0	0
家族相談	0	0	0	0
計(うち再初回)	61(1)	82(33)	42(0)	52(7)

その他

- ・千船病院出向(小寺/毎週月曜日) 明石医療センター出向(松本/毎週月曜日・水曜日・金曜日)
- ・精神科リエゾンチーム回診参加(毎週火曜日15時~16時)
- ・プレネイタルサポートチーム会議参加(第1木曜日13時)
- ・NICU/GCU退院調整カンファレンス(隔週火曜日11時)
- ・小児在宅支援チーム会議(毎週金曜日13時~14時)
- ・実習生受け入れ(6月~橋大学大学院 毎週木曜日(集中実習7月)全22日・8月~奈良女子大学大学院 毎週木曜日(集中実習9月)全14日)
- ・第3回愛仁会公認心理師研修会(7月)
- ・法人内ケース相談(6月~愛仁会リハビリテーション病院・尼崎だもつ病院各1名)
- ・小児科自費カウンセリング2,000円/30分 2021年1月~
- ・サミティベート「オンライン心の健康相談」開始 2022年2月~
- ・愛仁会学術集会発表(2/20)「タスクシフトとタスクシェア」
- ・愛仁会医学研究誌「当院における極低出生体重児のフォローアップ発達検査における学齢期の現状」銀の鳩賞
- ・千船病院・高槻病院新型コロナウイルス感染症対応病棟における職員のメンタルヘルス支援(スクリーニング・個別面接)
- ・業務改善⑧「極低出生体重児の発達フォローアップのドロップアウトを防ごう~極低出生体重児の発達フォローアップシステムを整えよう」

病理診断科

スタッフ紹介

常勤医師：3名

伊倉義弘（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

大久保貴子（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

岩井泰博（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

非常勤医師：4名（全員が病理専門医）

検査技師：6名（うちサイトスクリーナー5名）

事務職員：1名

診療内容

病理科の業務は組織・細胞標本の診断と剖検とで構成される。主に病理標本の顕微鏡観察所見に基づいて、患者様の治療方針を決定する重要な病理診断を行っている。患者様が不幸にして亡くなられた場合には剖検を行い、臨床診断と治療が適切であったか否かを検証する。いずれも病院が提供する医療の質の維持に関わる重要な業務であり、スタッフはその重責に応えるべく、外部評価機関のサーベイへの参加などを通じて日々研鑽を積んでいる。

常勤医師3名に加え、4名の非常勤医師と、サイトスクリーナー5名を含む6名の病理検査技師で構成される診断チームが、迅速かつ質の高い病理・細胞診断、病理解剖症例の詳細な検討、臨床科カンファレンスへの参加、積極的な研究活動支援を目標に掲げ、精力的に取り組んでいる。

また当科は、新専門医制度の病理研修基幹・連携施設に指定され、独自の専門研修プログラムを持つ一方で、大学病院をはじめとする複数施設の病理診断科と協力し、病理医育成にも取り組んでいる。

2021年のトピックス・実績

- 1) 組織診断件数：5,382件
- 2) 術中迅速診断件数：135件
- 3) 細胞診断件数：6,431件
- 4) 剖検数（剖検率）：7例（1.9%）

新型コロナウイルス感染症がまん延している中での診療も2年目に入り、苦境を乗り越えるための知恵も十分に蓄えられ、オンライン会議ソフトを利用したカンファレンスやリモート診断など、平時には想像もできなかったような技術革新を実践している。リモート診断については病理学会でその具体例を報告し、取り組みに一定の評価を得ることができた。一方、全国的な傾向ではあるが、残念なことに剖検が激減しており、教育上の問題となりつつある。

今後の展望

前述のとおり、新型コロナウイルス感染症がまん延している中であっても生検・手術材料の診断については新規IT技術の導入でこれまでと同等あるいはそれ以上のパフォーマンスを維持しているが、剖検が極端に減り、CPC開催に支障を来しつつある。これからは剖検に依存しない、生検例や手術例を題材とした症例検討などを、CPCとして提供することを、積極的に考えていきたい。

小児科・新生児小児科(外来・小児病棟)

診療内容

外来は午前一般診療を3～4診体制で行い、午後は専門外来、乳児健診、予防接種を主に行っている。専門外来は当院スタッフのみならず他大学・施設スタッフとの連携で行い、アレルギー外来、心臓外来、神経外来、腎臓外来、内分泌・代謝外来、発達相談外来、在宅ケア外来を開設している。時間外、救急診療では、外傷も含めた二次、三次救急疾患の受け入れを断ることなく対応する体制を整えている。

小児病棟は初期研修医・後期研修医・指導医で構成する主治医グループ制をとり、日々の診療のみならず、プレゼンテーション、学会発表、論文作成などの教育も精力的に行っている。研修医の指導を目的とした朝、夕のカンファレンスや、部長・医長病棟回診、週1回の長期入院患者のカンファレンスを行い情報共有を行っている。その他看護師向けの勉強会や研修医向けの勉強会、英文論文の抄読会も定期的に開催している。当科は医学生の見学者も多く、熱心に対応している。

2021年のトピックス・実績

外来延べ患者数は33,089名であり、時間外患者は3,546名であった。入院患者数は4,397名で、日勤帯の入院患者数は3,571名、時間外入院患者数は826名であった。他院からの紹介患者数は2,143名であり、そのうち入院した患者数は685名であった。新型コロナウイルス感染症の影響で小児の市中感染が減少し例年に比べ患者数は減少した。外来で行っていた経口免疫療法を含めたアレルギー負荷試験を入院管理としたため入院疾患最多となった。

今後の展望

2017年度より小児センター(病棟)、小児科外来は新病院での運営が始まった。小児センターでは個室が増加し、感染隔離も徹底して行えるようになった。モニター設備もより一層充実し、厳密な管理を要する重症患者も併設するPICUと連携して受け入れ可能である。

感染症を中心とした入院以外にも、アレルギー・内分泌負荷試験、心臓・腹部超音波検査、心臓カテーテル検査、腎生検、排尿時膀胱造影検査、MRI、ビデオ脳波検査といった専門性の高い疾患に対する入院検査の更なる充実も図っていく。

表. 主な入院主病名

(2021/1/1～2021/12/31退院患者)

主な入院疾患名	2021年件数
アレルギー負荷試験	1,861
RSウイルス肺炎	176
咽頭炎/上気道炎/副鼻腔炎/中耳炎	133
ウイルス性肺炎/細菌性肺炎	128
腎炎/腎盂腎炎	106
ウイルス性腸炎/細菌性腸炎	88
川崎病	83
痙攣	76
てんかん発作/重積	65
頭蓋骨骨折/頭蓋内出血	48
頭部打撲/頭部外傷/脳振盪	43
アナフィラキシー	42
低身長症	32
心疾患(心臓カテーテル検査・治療を含む)	30
呼吸不全	29
新生児黄疸	27
腸重積症	25
虫垂炎	22
頭部以外の骨折/外傷	20
ケトン血性嘔吐症	20
小児喘息	19
急性薬物中毒	16
低血糖	14
熱傷	14
IgA血管炎/紫斑病	13
睡眠時無呼吸	13
リンパ節炎	11
消化管アレルギー	10
脳炎/脳症	9
腎尿路系の先天奇形	9
蜂窩織炎	8
急性/慢性腎不全	8
心身症	6
糖尿病	5
哺乳不全	5
突発性発疹症	5
イレウス	5

スタッフ紹介

2021年の新生児専任医師は9名、後期研修医3~4名、初期研修医1~2名である。専任医師は全員小児科学会専門医を取得しており、さらに上級医は周産期新生児専門医も取得している。専任スタッフはそれぞれが何らかのサブスペシャリティーを持っており、総合的な新生児医療のスキルUPはもちろんであるが、それぞれのサブスペシャリティーを活かしたより高度な新生児医療を提供できるように研鑽を積んでいる。後期研修医には将来新生児医療の道に積極的に進みたいと思ってもらえるような経験やサポートを行って、未来の新生児医療の担い手の育成を行っている。

診療内容

現在NICU21床、GCU27床で運営している。当直は2名体制で行っており、院内出生児のみならず、院外からの搬送入院に対しても、迅速に対応できるような態勢をとっている。朝の回診は看護師や理学療法士、臨床心理士、NICU薬剤師などコメディカルとともに患者の情報共有や、治療方針についてディスカッションを行い、夕方は主にNICUの重症児について医師のみの回診を行っている。またあらゆる新生児疾患に対応すべく、小児外科・小児脳神経外科疾患・先天性心疾患についても常時即応体制にあり、PICUとの連携により、ECMOや血液浄化・透析などが必要な症例の受け入れも行っている。また近年、胎児診断技術の向上によって、様々な疾患が胎児期よりわかるようになってきた。しかし、診断後にその分娩計画や児の治療計画、両親の心的面のサポートなどへの体制は十分ではない。このような胎児診断がされた胎児・両親を病院の総力を挙げてサポートするために、2012年より「プレネイタルサポートチーム」が発足した。

産科・新生児科・小児外科・小児脳神経外科による診

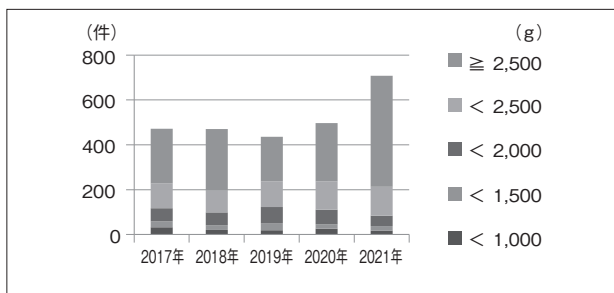


図1. 出生体重別入院数の変化

療部と各部門の看護師、SW、心理士、理学療法士などによる多職種カンファレンスを行っており、各部署での情報共有や診療方針についてディスカッションを行っている。

2021年のトピックス・実績

2021年を振り返ると、実績面では708名の入院数で、うち出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は17名、1,500g未満の極低出生体重児は38名と、どちらもこの数年で大きな増減はなかった(図1)。入院経路は緊急母体搬送からの入院数が95名、新生児搬送数も86名で共に大きな変化はなかった(図2)。トピックスとしては、死亡症例は3名のみであったことで、重症の新生児仮死の症例や極めて重症の先天異常の児であった。また外科手術を行った症例は13名で脊髄髄膜瘤などの脳外科疾患、動脈管閉鎖術が含まれていた。母体新型コロナウイルス感染症からの出生児は全例入院管理を行ったが、重症例はなかった。

今後の展望

今日の周産期医療の発展に伴い、合併症なく退院できる重症例が増加している。しかし入院中の母子分離がその後の発達へ影響を与えることや、NICU退院児に対する虐待などの問題が生じてきているのが現状である。そのような問題に対応すべく、2017年からNICUでは日本では初めての完全個室管理を行える11床のベッドを稼働して3年が経過し、ようやく家族が自宅で過ごせるような環境で集中治療を提供するということが安全にできるようになってきた。今後も高槻病院では集中治療の質を落とすことなく、家族が家族として過ごすことができるような環境の提供と家族全体のサポートを更に実践していき、日本の新生児医療の先駆けとしての取り組みを行っていく。

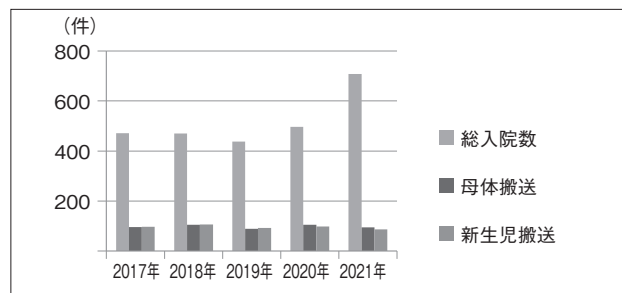


図2. 経路別入院数の変化

スタッフ紹介

起塚 庸, 大西 聡, 篠本匡志, 山本和宏が専従医として原則的にPICU内に常駐している。

業務内容

重症小児の集中治療を内因性/外因性にかかわらず対応している。

2021年のトピックス・実績

2021年の入室者は328例で昨年の373例と比較すると12%の減少となった。内訳では、術後管理が108例(33%)、肺炎などの呼吸器疾患が93例(28%)、痙攣重積・急性脳症などの神経疾患が57例(17%)であった。これらの症例のうちNIPPV、気管挿管などの人工呼吸管理を132例(40%)、脳平温療法などの脳保護療法を14例(0.4%)、血液浄化療法を6例に提供した。272例(83%)は手術室やERなど院内からの入室で、56例

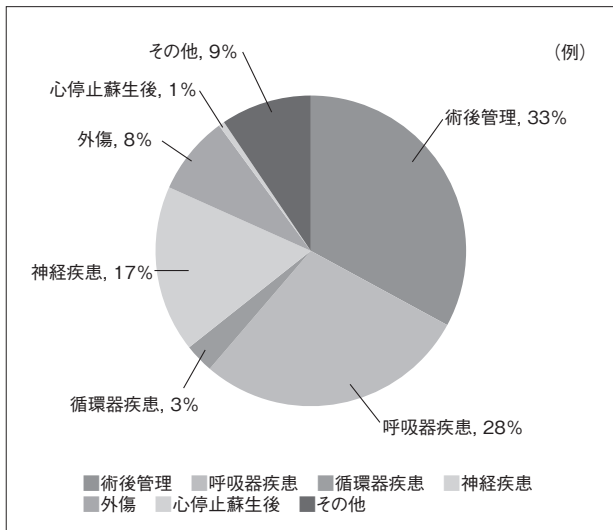


図. 入室内訳

(17%)はドクターカーによる迎え搬送などで他院から転院してきた症例であった。大阪府内はもちろんのこと、京都府や滋賀県からも症例を受け入れた。患者減少の影響は少子化傾向に加えて、新型コロナウイルス感染症の大流行が大きく影響したものと推察している。

当科では大阪府下の新型コロナウイルス感染症関連の重症小児を2例受けることができるようなベッドコントロールを前提に準備をした。しかし、実際には小児では新型コロナウイルス感染症関連の重症症例は発生しなかった。中等症症例や看護度の高い症例を積極的に受け入れる結果となった。このような状況においても近隣施設からの重症症例の紹介によって多くの重症症例を経験することができた。

今後の展望

地域のPICUとしての役割を担うために、2022年も新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを積極的に行うと同時に、通常疾患の重症例を断ることなく受け入れていきたい。

表1. 治療内容

(単位: 例)

人工呼吸管理	132
脳低温・平温療法	14
血液浄化	6

表2. 搬送手段

(単位: 例)

院内	272
術後	108
ER	92
一般病棟	65
外来	7
転院搬送	56
大阪	47
京都	7
滋賀	2

小児外科

スタッフ紹介

2021年の小児外科は小児外科主任部長 津川二郎（日本小児外科学会指導医・専門医）、小児外科部長 久松千恵子（日本小児外科学会指導医・専門医）、小児外科医 服部健吾（日本小児外科学会専門医）の3名のスタッフと後期研修医 田中聡志の4名体制で診療を行った。非常勤医師として小児外科部長 西島栄治（日本小児外科学会指導医・専門医）が週2回の診療を行った。津川は2020年4月から兵庫県立こども病院小児外科に異動していたが、2021年4月に高槻病院へ復職した。服部は、小児鏡視下手術の勉強のため2021年7月から2022年3月の予定で埼玉県立小児医療センター小児外科に長期国内留学した。

診療内容

日本小児外科学会認定施設であり、小児外科医療における高次医療機関として365日24時間小児外科患者を受け入れ、診療を行っている。診療内容は小児の胸部（肺・横隔膜・胸壁）や腹部（消化管・肝胆膵・腹壁）疾患、泌尿生殖器疾患、新生児外科疾患、気道外科疾患、固形腫瘍など多岐にわたり、その他外傷や異物誤嚥・誤飲などの救急疾患についても対応している。

外来診療はスタッフを中心に交代で月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午前診を、水曜日、木曜日、金曜日は午後にも学童を中心とした外来診療を行っている。金曜日の午前診では西島部長が小児排泄・便秘外来を行っている。この外来では皮膚・排泄ケア認定看護師とともに習慣性慢性便秘症や二分脊椎症に伴う管理困難な便秘に対して排泄管理・指導を行っている。病棟では毎朝8時からPICUでの小児科、小児脳神経外科、小児麻酔科との合同カンファレンスを行い、その後に小児センター、NICU、GCUの総回診を行っている。入院症例の定期手術日は月曜日、火曜日、木曜日、金曜日、日帰り手術を火曜日、木曜日、金曜日の午前に行っている。診療時間外は2名体制で24時間オンコール体制をとっており、常時患者の受け入れ及び緊急手術が施行できる体制となっている。

2021年のトピックス・実績

表に2021年の手術症例、新生児手術症例の内容を示

す。総手術数及び新生児外科手術症例は、2020年と比べて増加した。鼠径ヘルニア根治術は81例で2020年と比べて同程度であった。ほかの胸部・腹部疾患に対しても鏡視下手術や臍などを利用した傷跡が目立たない整容性を意識した手術の導入に積極的に取り組み、患者の早期回復や疼痛の緩和に繋がっている。急性虫垂炎は35例で全例腹腔鏡下手術を行った。新生児外科手術は13例で、2020年より5例減った。近年の出生数の低下が続いている影響は当科にとっても大きな問題である。小児泌尿器科疾患である膀胱尿管逆流症に対する外科的治療（内視鏡下 Deflux注入療法、Cohen手術）を行い、少しずつであるが手術症例数も増えつつある。Cohen手術は従来開腹手術であったが、低侵襲手術として腹腔鏡下（気膀胱下）手術が開発され、当科でも導入した。また重症心身障害児（者）に対する医療にも取り組み、気管切開や胃瘻造設術、誤嚥性肺炎に対する喉頭気管分離術などの手術件数は増加傾向にある。小児のみならず、成人診療科からの紹介症例に対しても喉頭気管分離術を行い、いずれもQOLの向上に繋がっている。

当科では開設当初から小児気道疾患に対する検査や治療に力を入れており他府県からの紹介も多い。近年では声門下腔狭窄症の難治症例に対するpartial cricotracheal resection (PCTR) 手術に組み込み、気管切開カニューレの抜管困難症の治療に成功している。2021年は5例のPCTR手術を行った。

今後の展望

当院は小児医療に強く、小児関連診療科（小児科、新生児科、小児集中治療科、小児外科、小児脳神経外科、小児麻酔科）や多職種がチーム一体となって治療に取り組んでいるのが強みだと思われる。小児医療の充実を院外にアピールして新生児・小児外科症例の増加に繋げたい。手術症例については治療対象となるこどもの苦痛や負担の軽減を図るべく、今後も低侵襲手術や創部が目立たない術式の可能性を追究していきたい。小児気道疾患についても引き続き積極的に治療に取り組んでいく。特に声門下腔狭窄症に関しては治療のゴールである気管切開からの抜管を目指したい。

日本小児外科学会認定施設として豊富な症例を生かして小児外科専門医の育成に力を入れており、初期・後期研修医の研修や小児外科に興味がある医学生の見学を積極的に受け入れていく方針である。

表. 2021年手術症例

(単位:例)

手術	手術症例数	新生児手術症例数
横隔膜ヘルニア, 弛緩症手術	1	
膿胸手術	1	
気胸手術	1	
肺葉切除術	0	
気管形成術 (喉頭気管形成術含む)	5	
動脈管開存症手術	2	2
漏斗胸手術	1	
喉頭気管分離術	6	
喉頭気管食道裂手術	0	
腕頭動脈離断術	2	
気管切開術	9	
食道閉鎖症根治術	1	1
気管食道瘻離断術	1	1
噴門形成術	4	
幽門筋切開術	2	1
十二指腸閉鎖症手術	0	
腸閉鎖症手術	2	2
腸回転異常症手術	2	
新生児消化管穿孔, 壊死性腸炎手術	0	
イレウス手術	4	
小腸切除術	3	1
メッケル憩室切除術	1	1
人工肛門造設術	0	
胃・腸瘻造設術	1	1
胃瘻・腸瘻・人工肛門閉鎖術	1	
腸重積症 (観血的整復)	1	
虫垂切除術	35	
Hirschsprung病根治術	1	
直腸生検術	1	
中間位・高位鎖肛手術	2	
低位鎖肛手術	1	
痔瘻・痔核手術	0	
胆道閉鎖症手術	1	
胆道拡張症手術	0	
鼠径ヘルニア手術	81	
卵巣腫瘍核出手術	3	
停留精巣手術	12	
精巣捻転手術	6	
精巣静脈瘤手術	1	
包茎手術	1	
膀胱尿管逆流症手術	2	
尿管遺残症手術	1	
臍帯ヘルニア・腹壁破裂手術	0	
腹壁癒痕ヘルニア手術	0	
臍ヘルニア手術	27	
仙尾部奇形腫摘出術	1	1
リンパ管腫硬化療法	0	
リンパ管腫摘出術	0	
副耳切除術	0	
耳前瘻孔摘出手術	4	
舌小帯切離手術	2	
気管支鏡検査, 処置	95	1
消化管内視鏡 (上部・下部) 検査, 処置	8	1
プロビアクカテーテル挿入・抜去術	1	
その他	57	
総症例数	394	13

千船病院

尼崎だいもつ病院

高槻病院

愛仁会リハビリ
テーション病院

しんあい病院

愛仁会しんあい
クリニック

しんあいクリニック

明石医療センター

井上病院

井上病院附属診療所

井上診療所

ICU

スタッフ紹介

部長：岡 隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構）、
日本外科学会指導医、日本胸部外科学会認定医

医長：高山千尋

集中治療専門医（日本集中治療医学会）
（2021年4月～2021年8月）

診療内容

毎日（土日祝日除く）：ICU回診・カンファレンス

2021年のトピックス・実績

毎朝8時半から医師（高岡院長・櫻副院長・大北心・
大血管センター長も含め）・看護師・臨床工学技士・理
学療法士・薬剤師・栄養士・事務職員で回診を行い、患
者の治療方針について検討を行っている。

現体制も8年目を迎え、“高槻病院の最後の砦”の役割も周知されてきたようである。新型コロナウイルス感染症の重症例も大阪府内のベッド状況次第で対応することもあり、レベルの高い集中治療を提供できるようになっている。スタッフのモチベーションも高く、all for the patientを合言葉に日々研鑽している。

今後の展望

スタッフ教育、特に日本集中治療学会総会への参加・発表、研修医・新人看護師の教育の充実を図りたい。

呼吸器外科

スタッフ紹介

主任部長：椎名祥隆（1986年卒）

日本外科学会専門医

日本外科学会指導医

胸部外科学会指導医

日本呼吸器外科学会専門医

医員：金 泰雄（2013年卒）

日本外科学会専門医

診療内容

日本呼吸器外科学会認定施設修練施設

外来：月曜日（午後）椎名・金

水曜日（午前）椎名・金

手術：予定手術は火曜日と木曜日に行い、緊急手術は随時行っている。

病棟：呼吸器外科病棟は7階南病棟で、症例によってはICUで術後管理を行った。

2021年のトピックス・実績

COPD・間質性肺炎などに起因した顕著な呼吸機能低下を伴う肺癌手術症例に対して、入院前からリハビリテーション外来を受診し呼吸リハビリを開始している。その結果、周術期における呼吸器合併症が減少している。

気胸手術方法の変更・気胸手術は肺嚢胞を自動縫合器で切除し閉鎖するが、術後にステイプル部分からリークを来すことがある。そのためステイプルラインをポリグリコール酸シートで被覆し、さらに自己血15mlを散布している。その結果は良好で術後リークは減少した。

神戸大学呼吸器外科の連携施設である住友病院や済生会中津病院の医師の手術応援を継続しており、以前は神戸大学医学部附属病院へ紹介していた重症な肺癌症例を当院で手術している。

しかし、新型コロナウイルス感染症流行の影響により手術数が前年と比較して減少している。

呼吸器・縦隔領域の悪性腫瘍に対しては、今後も大阪府がん診療拠点病院として呼吸器内科・呼吸器外科・放射線腫瘍科がこれまで以上に良好に連携し、効率的で専門化された治療を行う。

今後の展望

心疾患合併症例や呼吸機能低下を伴う肺癌手術症例がある。高齢者症例には多くの併存疾患があるので、術前評価として「運動能力・PS」「呼吸機能」「心機能」「併存疾患の管理・治療」が引き続き重要と考えている。

高齢者手術の基本方針

(1) 低侵襲手術

手術の9割以上を胸腔鏡手術で施行している。また、呼吸機能低下症例では積極的に肺切除量の少ない手術（縮小手術）を施行している。

(2) 包括的なりハビリ

肺切除後に呼吸機能は更に低下する上に、術前から併存疾患を有する症例が多いので外科手術のみでは良好な成績を出すことはできない。したがって、呼吸器外科領域でも呼吸だけでなく包括的なりハビリが重要かつ有用である。

低侵襲手術と有効性の高いリハビリを今年も継続していく必要があると考えている。

表. 手術数

(単位：例)

疾患名	例数
肺悪性腫瘍手術	42
【再掲】 原発性肺癌	38
【再掲】 転移性肺腫瘍	4
気胸	14
巨大肺嚢胞	1
血胸	1
外傷性血胸	1
縦隔腫瘍	6
【再掲】 胸腺腫	3
【再掲】 嚢胞性病変	3
胸壁腫瘍	1
膿胸	2
胸腔鏡下生検	5
外傷	1
その他	1
計	75

心臓血管外科

スタッフ紹介

心臓大血管センター センター長：大北 裕

日本外科学会専門医，日本胸部外科学会理事長，日本外科学会指導医，代議員，日本循環器学会専門医，評議員，日本脈管学会特別会員，日本血管外科学会名誉会員，日本心臓血管外科学会特別会員，日本心臓血管外科専門医認定機構委員，日本冠動脈外科学会評議員，日本心臓血管外科手術データベース機構委員，The Society of Thoracic Surgeon: Member (1996-)，The European Association for Cardio-Thoracic Surgery: Member (1996-)，The International Society of Cardiovascular Surgery: Member (1994-)，American Heart Association Fellow in the Council in Cardiovascular Surgery (2002-)，American Association for Thoracic Surgery: Member (1999-)，Asian Society for Cardio-Thoracic Surgery: Council (2011-)

主任部長：岡 隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，日本外科学会外科専門医，ヨーロッパ胸部外科学会正会員

部長：常深孝太郎

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医・認定医，日本心臓リハビリテーション学会指導士，日本脈管学会専門医，日本血管外科学会血管内治療医

専攻医：久保沙羅

吉谷信幸

林 裕之（2021年4月から）

診療看護師：金田伸哉

診療内容

成人心臓疾患・大血管（胸～腹部の動脈）疾患・末梢血管（手足の動脈）疾患・静脈疾患など。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症がまん延している中で手術件数の減少が見られた。

しかしながら大北センター長のもとに日本全国から難易度の高い手術依頼は一定数あり，存在感は発揮できたかと思われる。

特に大動脈弁の自己弁温存手術は日本トップクラスの症例数・成績を誇っている。

今後の展望

心臓血管疾患をオールラウンドにこなしていき，地域の方のニーズと期待に応えていきたい。

研修医教育にも力を注ぎたい。

消化器外科

スタッフ紹介

常務理事：家永徹也

主任部長：岡崎太郎

川崎健太郎（2021年9月退職）

医 長：大和田善之、細野雅義

医 員：池田太郎

専 攻 医：徳原佳織、立花崇明

診療内容

外来：一般外来は、月曜日から金曜日までの午前診として9時から12時まで、火曜日は午後診も行っている。専門外来として、火曜日から金曜日の午前ないしは午後に適宜ストーマ外来を行っている。

病棟：6階東病棟の21床が割り当てられている。毎朝8時40分から回診、火曜日の16時から多職種も交えたカンファレンス及び全体回診（現在は新型コロナウイルス感染症のため中止中）を行っている。大手術や重症例は3階のICUで管理している。

手術：予定手術は月曜日から金曜日まで行っている。緊急手術に対しては24時間体制で対応している。

2021年のトピックス・実績

消化器悪性及び良性疾患に対する外科治療を主として担当している。半年にわたり1名欠員となったが、手術件数は633件と前年並みを確保することができた。

・腹腔鏡手術

腹腔鏡手術を積極的に導入し、食道、胃、大腸、胆嚢、虫垂、ヘルニア、腸閉塞、消化管バイパス術などにも行い、幅広く対応している。症例によっては更なる整容性を目指したReduced Ports Surgeryも取り入れている。腹腔鏡手術実施件数は、2015年度は約190件であったが、近年では約350～400件と増加している。

・消化管悪性疾患に対する治療

診療ガイドラインに準拠して治療方針を決定している。手術は基本的に鏡視下手術を行っている。進行癌には術前や術後に化学療法を加えることにより生存率の向上を目指している。

食道癌には進行癌であっても、全例腹臥位鏡視下手術を行っている。積極的に三領域郭清の手術を行う。

胃癌は、早期癌はもとより進行癌に対しても腹腔鏡手

術で対応している。幽門輪温存などの機能温存も行っている。

大腸癌も大部分を腹腔鏡手術で対応している。下部直腸癌に対しては可能な限り肛門を温存するために、（場合により一時的回腸瘻造設）超低位前方切除術を、進行度を考慮して選択している。肝転移や肺転移に対しては、切除可能であれば切除を第一選択とし、切除できない場合には化学療法を行っている。

・肝胆膵悪性疾患に対する治療

肝癌、膵癌、及び胆道癌は悪性度が高く予後不良であるが、消化器内科や放射線診断科とも連携し、予後向上のために集学的治療を積極的に展開している。局所進行癌においても血管合併切除、他臓器合併切除を行って切除率を高めている。非切除例に対しては、基本的に放射線療法、化学療法を各科と連携して行い症状緩和に努めるが、腫瘍縮小が得られれば切除へのコンバージョンも検討している。肝悪性疾患においても腹腔鏡下手術を積極的に導入している。

・良性疾患に対する治療

胆嚢結石症や急性胆嚢炎も腹腔鏡で全例行っている。炎症の軽いものにはReduced Ports Surgeryを導入している。

急性虫垂炎は基本的に腹腔鏡で対応している。虫垂周囲膿瘍形成を伴う急性虫垂炎に対しては、侵襲を減らすため待機的腹腔鏡下虫垂切除術（IA）を導入している。2021年は急性虫垂炎の95%（59/62）を腹腔鏡で行った。

鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアも全麻可能症例には腹腔鏡で対応している。2021年は鼠径ヘルニアの75%（91/120）を腹腔鏡で行った。

今後の展望

・消化器外科診療のレベルアップ

地域医療支援病院、がん診療拠点病院の認定を受ける急性期病院では、救急診療、がん診療が消化器外科診療の2本柱となる。現在、高槻病院が三島医療圏救急医療の一翼を担っていることから、現在の緊急手術対応体制を維持しつつ、術後生存率や在宅復帰率の向上に努めていきたい。また、がん診療においては現在の消化器内科、放射線診断科、病理診断科との効率的な連携を維持しながら、治療方針の標準化と治療水準の向上をこれまで同様に目指していく。今後の外科診療は一層の高度な

専門性と高い治療成績が求められることが予想され、高槻病院消化器外科は今後も三島医療圏での確固たる地位確立を目指す。

表. 手術実績

(単位：件)

臓器	疾患	術式	開腹	腹腔鏡下	小計
食道	食道癌・その他		0	1	1
胃	胃癌	幽門側胃切除術	13	7	20
		胃全摘術	12	0	12
		その他	1	1	2
	その他（GIST含む）	胃部分切除術	0	6	6
結腸	結腸癌		18	36	54
	その他		1	5	6
	虫垂炎		3	59	62
直腸	直腸癌		5	9	14
	その他		2	2	4
肛門	痔核・痔瘻・肛門周囲膿瘍		19	0	19
	その他		2	2	4
肝	原発性若しくは転移性肝癌		12	2	14
	肝嚢胞		0	2	2
胆嚢	胆石症、総胆管結石		8	95	103
	胆嚢癌		2	0	2
胆管			2	0	2
膵臓	膵癌	膵頭十二指腸切除術	3	0	3
		膵体尾部切除	2	0	2
	その他		2	0	2
小腸	イレウス、腫瘍他		5	31	36
その他	単径/大腿ヘルニア		29	91	120
	腹壁癒痕/臍ヘルニア		2	7	9
	汎発性腹膜炎		15	0	15
	人工肛門造設術		10	0	10
	CVポート造設術		84	0	84
	その他		22	3	25
合 計			274	359	633

乳腺外科

スタッフ紹介

常勤医：三成善光，家永徹也

非常勤医：下山京子，吉川勝広

診療体制又は活動目標

週2日（月曜日/午前，火曜日/午前・午後）を手術日とし，週3～4例の乳癌手術を行う体制を整えている。

週1回（木曜日午後）を乳癌生検検査日に充て，ステレオタクティック吸引式針生検（マンモトーム生検），針生検（VAB，CNB），吸引細胞診を行っている。

外来は常勤医による週4日・6コマの外来，非常勤医による週3日・4コマの外来を行っている。

活動内容及びトピックス

当科では乳癌疾患全般に対して診療を行っている。乳癌については検診から検診精査，乳癌の診断，初期治療，再発治療，及び緩和ケアを行っている。医療の質の向上，医療の均てん化が重要であり，データやエビデンスに基づく標準的な診療を行うよう心掛けている。

乳癌の診断については，デジタルマンモグラフィ（トモグラフィ）装置，乳房超音波検査，MRIやCTなどの画像検査や，穿刺吸引細胞診，CNB，エコーガイド下VAB，ステレオタクティックマンモトーム生検装置などの生検デバイスを用いて，的確に病変部を描出，把握し，低侵襲に確定診断までができるようにしている。乳癌治療においては診断時に得られた腫瘍の情報（大きさ，リンパ節転移の有無，臨床病理学的な検索による癌の悪性度，Intrinsic subtype）から，より有効な治療法を検討している。症例によっては術前療法を行い，腫瘍の縮小，down stagingを行ってから，根治手術を行う。

乳癌手術については整容性，低侵襲性も考慮した乳房温存手術はもとより，cN0症例に対してはセンチネルリンパ節生検により腋窩郭清省略を行い，さらに非浸潤癌症例では腋窩手術そのものの省略も行い，術後の腕のリンパ浮腫の発生の低減を図っている。2021年は全乳癌手術症例86例中，73例にセンチネルリンパ節生検を行った。近年では乳房切除術を必要とする症例でも，整容性も考慮し，患者の要望によっては乳房全切除後にプレスト・インプラントを用いた乳房再建を検討している。乳

房切除後乳房再建が適切にできるように，形成外科と協力している。さらに早期の乳癌に対しては，二次再建だけでなく一次（同時）再建も行える体制を整えている。

術後の補助療法については，手術標本から得られた情報をもとにホルモン療法，化学療法，及び分子標的療法の薬物療法と放射線療法を適切に行えるようにしている。再発治療においては多数の新薬（分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬など）が登場し，治療が多様化，複雑化してきた。加えて，患者と医療者の協働意思決定（Shared decision making）が求められるようになってきており，患者が適切な治療法を選択できるようにデータやエビデンスを情報提供し，患者の状況や腫瘍の状態，悪性度を考慮して，より良い治療法を提案できるよう心掛けている。

乳癌診療において様々に変化する診療に対して，多職種との参画によるチーム医療が重要となってきている。当科でも多職種からなる高槻乳癌臨床支援チームで定期的な乳癌カンファレンスを行い，症例検討を行っている。近年のがん診療では，通常の診療に加え，がんリハビリテーションや，心のケア（サイコオンコロジー）などが求められてきており，外科医，放射線科医，形成外科医，精神科医，薬剤師，看護師，理学療法士，臨床心理士などの多くの専門職との連携を図っている。

来期方針・抱負又は将来展望

乳癌の治療成績の向上に加えて，より侵襲の少ない手術，患者のQOLを重視した治療を行うよう努める。また，若年齢層の乳癌患者に対しては，若年女性の抱える社会的な要因（妊娠性保持，授乳期乳癌，就労支援）に対しても配慮していく。

また，がんゲノム医療が徐々に普及してきており，今後，がん遺伝子に関わる診療が重要性を増してきている。乳癌領域では遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）が知られているが，2019年，当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設の施設認定を取得しており，遺伝診療センターと協力し，HBOCの診療に当たる。また，HBOCに対する予防的乳房切除術も保険適応となっており，当科はその要件を整えている。HBOCの患者に対しては本人とよく相談の上，患側の乳癌の治療とともに健側の予防的乳房切除術も行う。

地域連携は診療を幅広く行うために重要で，地域診療所との連携が必要である。従来，乳癌患者に対して地

域連携パスを用いて診療連携を行ってきたが、さらに、病院、診療所間の連続したきめの細かい診療を行えるよう、地域診療所とのWEBを用いた診療情報交換、WEBカンファレンスなどの実現に取り組んでいく。

表. 乳腺外科手術件数

(単位：件)

術式		症例数
乳房悪性腫瘍手術	乳房温存手術	36
	乳房切除術	50
	小計 (うちセンチネルリンパ節生検)	86 (73)
乳房良性腫瘍手術	乳房腫瘍切除術	10
CVポート造設・抜去術		52
その他（リンパ節生検など）		15
手術合計		163

脳神経外科

スタッフ紹介

前野和重
 福屋章悟
 川本有輝 (2021年3月退職)
 川本早希
 中村夏樹 (2021年9月退職)
 和田雄樹

診療内容

外 来 月曜日～金曜日・午前
 専門外来 水曜日・午後 脊椎脊髄専門外来
 木曜日・午前 脳血管内専門外来
 木曜日・午後 脳腫瘍専門外来
 検 査 月曜日・木曜日
 手 術 木曜日
 病 棟 8階東病棟 SCU

2021年のトピックス・実績

2021年も引き続き2人の後期研修医を大阪大学から受け入れることができた。中村先生は4月から成人脳外科から小児脳外科の臨床を担当となり、新しく入職した川本先生に脳外科の中心的な後期研修医として働いてもらった。10月からは中村先生が異動となり、和田先生が小児脳外科を担当することとなった。指導医として福屋先生が有田先生と交代となった。今年も新型コロナウイルス感染症の影響が持続したが、救急患者の受入制限や手術制限はなく手術件数を増やすことができた。2021年の手術件数は153件であった。脳卒中患者も増加している。これも地域から当院への信頼を得ることができたためと考えている。日本脳卒中学会から一次脳卒中センターに認定されたことが実績に繋がったと判断している。引き続き臨床成績を上げていきたい。さらに脊椎脊髄、脳血管内、脳腫瘍の専門外来とSCU（脳卒中専門ケアセンター）について地域の人達へ更なるアピールを続けていく。

今後の展望

現在、当科の臨床診療は安定期に入ったと思われる。更なる発展のために教育・研究に力を入れていきたい。研修医・看護師の教育を積極的に行い、未来に向けた活気ある診療体制を構築しなければならない。同時に学会発表、論文投稿を行い社会的に認知も広めていく必要がある。さらに周囲からの期待・信頼を勝ち得るためにも、確実に診療実績を積み上げることが必要である。急性期病院としての生き残りをかけるため、これまで以上に積極的に脳卒中・頭部外傷などの脳外科救急に取り組み、地域医療の充実に貢献したい。今後は重症意識障害の患者の受け入れ件数を増やしていきたい。24時間体制での診察加療を継続して急性期高度専門病院として体制を整えていく。

表. 手術実績 (単位: 件)

主な項目	手術数
脳腫瘍	11
開頭クリッピング術	5
脳血管内手術	8
ステント留置術	11
開頭血腫除去術	5
慢性硬膜下血腫洗浄ドレナージ術	47
総手術件数	153

小児脳神経外科

スタッフ紹介

- 原田敦子（1996年新潟大学医学部卒業）
 川本有輝（2017年大阪大学医学部卒業）
 （2021年3月退職，脳神経外科と併任）
 中村夏樹（2018年香川大学医学部卒業）
 （2021年9月退職，脳神経外科と併任）
 和田雄樹（2018年大阪大学医学部卒業）
 （2021年10月着任，脳神経外科と併任）

診療内容

脳神経外科の中で，子どもの中枢性疾患全てを取り扱う診療科であるが，日本で小児脳神経外科を標榜する医療機関は子ども病院を除くとまだ数か所しかない。当院は大阪府最大の総合周産期母子医療センターであり，全国でもトップクラスの周産期医療を担っている。また小児救急にも力を入れており，PICUを有し，小児救命救急センターにも認定されている。そうした中，小児脳神経外科は2012年4月に開設され，2022年3月で10年が経過する。開設当初より，頭部脊髄疾患の新生児搬送や頭部救急患者の受け入れを新生児科・小児科と連携して24時間体制で行ってきた。新型コロナウイルス感染症がまん延している中においても救急患者を断ることなく受け入れている。

救急疾患以外では，水頭症，二分脊椎症，頭蓋骨縫合早期癒合症などの先天性中枢神経疾患を主に扱っている。

2021年のトピックス・実績

2021年8月より月に1回二分脊椎外来を開始した。二分脊椎症は整形外科，泌尿器科，小児外科と連携して長期にわたって経過を見る必要のある疾患であり，以前から二分脊椎外来の開設が望まれていた。二分脊椎外来開設に伴い二分脊椎症の手術症例も増加しており，2021年は18件の手術を行った。

2015年に開設した「赤ちゃんの頭の形外来」の受診者数は年々増加しており，2021年は120例の頭位性頭蓋変形に対してヘルメット治療を行った。それに伴い，頭蓋骨縫合早期癒合症の手術症例も増加しており，2021年は22件の手術治療を行った。頭蓋骨縫合早期癒合症の症例の中には，顔面や手指の疾患を合併することが多いた

め，大阪医科薬科大学形成外科 上田晃一教授，市立奈良病院再建形成外科 久徳茂雄先生の協力体制の下，治療に当たっている。

北摂，京滋での小児脳神経外科の拠点病院としての役割を果たすだけでなく，臨床的・学術的な質の向上にも努めており，2021年は4編の論文を作成した。また，脳神経外科とともに大阪大学脳神経外科の研修プログラムに在籍する後期研修医を3名受け入れ，指導を行った。高槻病院は多くの初期研修医を受け入れているため，初期研修医の指導も行っている。

今後の展望

地域の救急医療に貢献しつつ，専門性のある高度医療を提供していきたい。

表. 手術実績内訳

(単位：例)

分類	疾患	術式	件数
先天性疾患	水頭症・くも膜嚢胞	シャント再建・抜去術	21
		脳室腹腔シャント術	10
		脳室ドレナージ術	5
		内視鏡手術	3
	二分脊椎・二分頭蓋	脊髄脂肪腫摘出術	7
		係留解除術	6
		先天性皮膚洞摘出術	3
		脊髄髄膜瘤修復術	2
		脊髄空洞シャント術	1
		頭蓋形成術	1
	頭蓋縫合早期癒合症	頭蓋形成術	22
		脳圧センサー設置術	4
		骨延長器抜去術	2
	その他		側弯固定術
外傷	硬膜下血腫	硬膜下腹腔シャント術	2
		硬膜下血腫ドレナージ術	2
		硬膜下シャント抜去術	2
		開頭血腫除去術	1
	陥没骨折	陥没骨折修復術	1
その他	デブリドマン	2	
血管障害	モヤモヤ病	バイパス術	3
	脳動静脈瘻・奇形	血管内手術	2
		動静脈奇形摘出術	2
		血腫除去術	1
計			106

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

コンサルタント（スタッフ医師）4名

平中崇文（1988年卒主任部長）人工膝関節・関節鏡

岡本剛治（1992年卒部長）脊椎外科

藤代高明（1997年卒部長）人工股関節

小出 基（2012年卒医員）膝関節鏡・スポーツ医学
レジデント（研修医）4名

栢田慶仁（2015年卒）、齋藤 亮（2016年卒）、田中惇
貴（2017年卒）、有本章彦（2018年卒）が神戸大学卒後研
修として勤務した。

診療内容

1. 人工膝関節（関節センター）

総手術症例数、部分人工関節手術症例数ともに国内
トップクラスの症例数である。手術数は年間約400例で
ある。

2. 人工股関節（関節センター）

手術数が増加しており、年間ほぼ100例に到達した。
人工股関節の手術数は近隣地域では最も多い。

3. 脊椎外科センター開設

専門性を活かして、脊椎外科センターを4月に開設し
た。その結果手術症例数は順調に増加し、年間100例に
到達した。高槻の診療圏では最大の入院患者数となって
いる。

4. 再生細胞

脂肪組織由来再生幹細胞治療（ADRC）を用いた膝軟
骨再生医療を行っている。2017年10月以来2021年12月末
まで102例に施行した。うち股関節が7症例である。

5. 医工連携

人工関節用レトラクター、指用レトラクター、アキレス
腱縫合糸など多くの製品を開発した。

2021年のトピックス・実績

1. YouTubeチャンネル開設

関節センターのYouTubeチャンネルを開設した。現
在まで動画数14、チャンネル登録者数6,140名、合計60万
ビューと好評である。また動画がきっかけで受診する方
が急増しており、一般紹介受診でも動画を視聴している
方が多く影響力が大きいと実感している。

2. 脊髄損傷再生医療

脊髄損傷に対する再生医療を愛仁会リハビリテーショ
ン病院と共同で開始した。2021年は3例を行い、いづれ
も効果が認められている。

3. 海外交流

新型コロナウイルス感染症流行のため海外交流の機会
はほぼないが、台湾の医師向けのセミナーを3回、タイ
の医師向けのセミナーを1回行った。

4. 学術活動

新型コロナウイルス感染症の影響で、学会活動は減
少している。しかし、近年学会発表より英文雑誌投稿
に注力している。2021年は合計9編の査読付き英文論文
がpublishされた。直近の3年間の英語論文数は37編であ
る。

5. 総合内科との共同治療

大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折を、総合内科主治医
の全身管理、整形外科医執刀とお互いの特徴を活かした
取り組みを行っており、有効に機能している。

6. 人工関節ロボットの導入

2021年1月より人工膝関節ロボットROSAを導入して
いる。既に使用件数は80件を超え、また同手術の手術見
学施設に指定され、各種講演を行うなど指導的な立場と
なっている。

7. 培養系再生医療の導入

現在は新鮮幹細胞を使用した再生医療を行っている
が、新たに培養系の幹細胞を導入予定である。

今後の展望

既存の分野（人工関節、脊椎外科）を更に堅実に発展
させるとともに、再生医療の更なる拡大を目指す。

講演、手術見学受け入れを広く行って人工関節分野で
のブランドを更に確固たるものとする。また、英語論文
を更に積極的に行い、海外においても知名度向上に努め
る。最終的には海外の患者の招致を目指す。

泌尿器科

スタッフ紹介

- ・主任部長 西田 剛 (2021年4月着任)
出身大学：大阪医科大学 (2000年卒)
専門分野：泌尿器科一般・癌治療・排尿機能
学会など：日本泌尿器科学会 専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本透析医学会透析専門医
大阪医科大学泌尿器科教育准教授
- ・主任部長 右梅貴信 (2021年3月井上病院へ異動)
出身大学：大阪医科大学 (1997年卒)
- ・専攻医 岡部知太 (2021年6月退職)
出身大学：大阪医科大学 (2017年卒)
- ・専攻医 寺本昌司 (2021年6月退職)
出身大学：大阪医科大学 (2017年卒)
- ・専攻医 高倉一平 (2021年7月着任)
出身大学：大阪医科大学 (2017年卒)
- ・専攻医 佐々木翔平 (2021年7月着任)
出身大学：大阪医科大学 (2018年卒)
- ・非常勤医師 濱田修史
- ・非常勤医師 小山耕平
- ・非常勤医師 枝川 右
- ・非常勤医師 反田直希

診療内容

泌尿器科では、泌尿器科領域でのがん治療、尿路結石治療、排尿障害及び尿路感染の治療を行っている。外来診療はこれまでと同様、毎日（月～金曜日）診療を行い、予約なしの患者も可能な限り対応している。緊急対応が必要な症例に関しても、救急科と連携を行いながら

対応している。入院診療においては患者に負担の少ない腹腔鏡を積極的に取り入れ、早期の回復を目指して診療を行っている。

尿路結石に関しては、負担の少ない体外衝撃波結石破碎と内視鏡下破碎術（結石除去効果が高いレーザー結石破碎装置を使用）を使い分けることで、より適切な加療を行っている。

また、大阪医科薬科大学泌尿器科と連携を取り、同院で行っている膀胱癌に対する膀胱温存治療症例に対する内視鏡手術も積極的に行っている。

2021年のトピックス・実績

尿路結石手術（体外衝撃波結石破碎、内視鏡下破碎）件数の増加を認め、近隣からの紹介数が増えてきている。

限局性前立腺癌に対する治療方法である強度変調放射線治療（IMRT：Intensity Modulated Radiation Therapy）が増加傾向であり、放射線療法の件数も増加している。

今後の展望

常勤医師が3名体制で丁寧な診療を心掛ける一方で、これまで難しかった緊急的な処置が必要な症例にも対応を行っている。また、以前より目標としている診療における患者のニーズに応えられるようにする。

今後は、特に尿路結石、前立腺癌患者の増加が顕著であり、治療の選択肢も増えたことによって患者の希望にあった治療ができるよう努力する。

表. 診療実績

(単位：件)

術式	件数	術式	件数
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術	172	経直腸的前立腺生検	80
経尿道的前立腺切除術	13	尿管ステント留置、抜去	362
f-TUL	65	経皮的腎瘻造設術	11
経尿道的膀胱結石摘出術	14	腹腔鏡下副腎摘除術	2
体外衝撃波腎・尿管結石破碎	141	腹腔鏡下腎摘除術	3
精巣摘出術	3	腹腔鏡下腎（尿管）腫瘍手術	18
陰嚢水腫根治術	10	前立腺悪性腫瘍手術	1
包茎手術	6	陰茎悪性腫瘍手術（陰茎切除）	2
陰茎折症	1	腹腔鏡下内精静脈結紮術	2
外尿道腫瘍切除術	2	尿失禁手術（ボツリヌス毒素）	1

腎移植科

スタッフ紹介

客野宮治：腎移植医，1979年大阪大学医学部医学科卒業，泌尿器科専門医，同指導医，日本移植学会移植認定医，日本臨床腎移植学会認定医

診療内容

現在，週5日1診の腎移植患者対象の外来診療を客野，高原史郎（関西メディカル病院），今村亮一（大阪大学），中澤成晃（大阪大学）が行っている。

また，腎移植患者の検査入院，急性疾患発病時の入院治療を担当している。

表. 腎移植科統計

(単位：件)

月平均外来数	10.2
年間入院数	54
年間手術件数	45

2021年のトピックス・実績

現在，外来にてレシピエント199人とそのドナーの方の腎機能維持並びに健康管理を担当している。

この1年間の平均外来人数は10.2人/日であった。

昨年1年間で大阪大学泌尿器科より13人の移植後の新患を受け入れた。

死亡された方は0人で，透析再導入になった方は3人であった。

残りの患者数の変化は転居・転院に伴うものである。

今後の展望

当院での腎移植開始を目指している。

皮膚科

スタッフ紹介

笹瀬玲奈	2017年卒	(2021年3月退職)
中村 彩	2014年卒	(2021年4月入職)
山田はるひ	2016年卒	(2021年4月退職)
山本哲久	1999年卒	(2021年5月入職)
瀬戸英伸	1984年卒	(1993年7月入職)

診療内容

【外来】

1日平均外来患者数：52人←50人(2020)←55人(2019)
 紹介患者数：691人←638人(2020)←680人(2019)
 生物学的製剤導入：18人←14人(2020)←13人(2019)
 JAK阻害薬導入：3件
 アレルギー検査：33件←30件(2020)←55件(2019)

【入院】

入院患者数：100人←84人(2020)←94人(2019)
 病棟依頼：1,093件←1,075件(2020)←1,019件(2019)
 往診：284件←379件(2020)←402件(2019)
 褥瘡回診：346件←331件(2020) (毎週月曜日)

【手術】

手術件数(手術室)：
 159件←167件(2020)←161件(2019)
 手術総件数(手術室+外来処置室)：
 295件←357件(2020)←348件(2019)

悪性腫瘍摘出術：17件←40件(2020)←43件(2019)
 有茎皮弁・植皮術：3件←9件(2020)←11件(2019)
 全身麻酔：18件←4件(2020)←6件(2019)

2021年のトピックス・実績

入院患者数もゆっくりと新型コロナウイルス感染症以前の状況に近づいてきた。前年同様多くの病棟依頼を受けたが、入院患者の新型コロナウイルス感染症の影響で往診は著明に減った。前年度のバリシチニブに続き、経口JAK阻害薬であるウパダシチニブ(リンヴォック)がアトピー性皮膚炎に適応追加となった。本剤は12才以上での使用が可能で、今まで難渋していた中学～高校の重症型の治療に光明が差すものと期待している。今期からJAK阻害薬導入も集計に加えた。

- ・入院患者内訳(表1)
- ・皮膚科の手術(表2)
- ・皮膚良性腫瘍(表3)
- ・皮膚悪性腫瘍(表4)
- ・炎症性皮膚疾患(表5)

今後の展望

高齢者の受診が多くなり、皮膚癌に遭遇する機会も増えてくるものと予想している。引き続き皮膚悪性腫瘍の手術に積極的に取り組んでいきたい。

表1. 入院患者内訳

(単位：人)

細菌感染症	
蜂窩織炎	18
丹毒	2
壊死性筋膜炎	0
ウイルス感染症	
帯状疱疹	28
水痘	0
カボジ水痘様発疹症	0
皮膚良性腫瘍	12
皮膚悪性腫瘍	14
中毒疹・薬疹	0
皮膚潰瘍・褥瘡・足壊疽	13
天疱瘡・類天疱瘡	1
湿疹皮膚炎	0
蕁麻疹・アナフィラキシー	0
紅斑症(EEM EN)	2
血管炎	3
乾癬など	3
その他	4
合計	100

表2. 皮膚科の手術

(単位：件)

良性腫瘍摘出術	172
悪性腫瘍摘出術	17
皮膚生検術	97
有茎皮弁作成術	0
遊離植皮術	3
デブリードマン	0
フェノール法	6
合計	295

表3. 皮膚良性腫瘍

(単位：件)

母斑細胞性母斑など	12
粉瘤など	53
脂漏性角化症	34
線維腫など	16
皮膚付属器腫瘍	12
脂肪腫など	14
血管腫など	10
日光角化症	12
その他	9
合計	172

表4. 皮膚悪性腫瘍

(単位：件)

基底細胞癌	8
有棘細胞癌	3
ボーエン病	12
バジレット病	0
悪性黒色腫	2
転移性皮膚癌	2
その他	2
合計	29

表5. 炎症性皮膚疾患(生検施行)

(単位：件)

水疱症	11
血管炎	10
肉芽腫	9
脂肪織炎	8
膿皮症など	6
炎症性角化症	4
その他皮膚炎	24
その他	5
合計	77

形成外科

スタッフ紹介

常勤医：黒川憲史
 出口 大
 東野えりか（2021年3月退職）

診療内容

常勤医2名で診察を行っている。外来は、月・火・木・金曜日の午前中、水曜日は午後に初診を受け入れている。手術は、月曜日午後に主に全身麻酔を要するもの、水曜日午前中に局所麻酔を要するものを行っている。

2021年のトピックス・実績

2021年の実績を表1, 2に示す。また、日本形成外科学会教育関連施設に認定されている。

今後の展望

従前どおり、適切な形成外科的な治療や手術を提供し、必要に応じて関連施設との連携をとり、良好な協力体制を維持していく。

表1. 形成外科新患者数・入院患者数・手術件数

形成外科新患者数	688名	形成外科手術件数	入院手術	全身麻酔	83件
形成外科入院患者数（重複入院は除く）	91名			腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	63件
			外来手術	全身麻酔	0件
				腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	183件

*その他：無麻酔や分類不明

表2. 手術内容区分

(単位：件)

疾患大分類手技数	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	24		14			76	114
先天異常	8		0			4	12
腫瘍	17		26			90	133
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	6		1			3	10
難治性潰瘍	26		23			5	54
炎症・変性疾患	1		0			5	6
美容（手術）	0		0			0	0
その他	1		2			0	3
Extra レーザー治療	0		0			0	0
大分類計	83	0	66	0	0	183	332

産科

スタッフ紹介

小辻文和 : 1971年卒 部長
 大石哲也 : 1983年卒 部長
 中後 聡 : 1988年卒 主任部長
 加藤大樹 : 2005年卒 医長
 徳田妃里 : 2007年卒 医長
 柴田貴司 : 2007年卒 医長
 細野佐代子 : 2008年卒 医員
 西川茂樹 : 2011年卒 医員
 福岡泰教 : 2012年卒 医員
 飯塚徳昭 : 2013年卒 医員
 菅田佳奈 : 2014年卒 医員
 荒木裕子 : 2018年卒 専攻医
 苔原つばさ : 2018年卒 専攻医
 新田勇人 : 2019年卒 専攻医
 産婦人科の常勤スタッフは以上14名であった。

診療内容

入院病床はMFICU6床を含め計54床で運用し、OGCS基幹病院、大阪北地区の産婦人科一次救急体制の中心である。大阪府の依頼でMFICU 2床を新型コロナウイルス感染症妊婦専用病床として運用し、多数の患者を受け入れている。通常の帝王切開は全てMFICU内に設置された産科専用手術室で行い、緊急時は病院到着後20分以内に児を出産できる。外来は専門外来制とし、業務を効率化して午前3診、午後2診体制とした。病棟は、2チームによるチーム診療制を採用し、円滑な運営のみならず教育面でも効果を発揮している。

2021年のトピックス・実績

本年も大阪府内の緊急母体搬送の受入数は1位で、243件であった。一方、近隣施設へのBack transferは86件で、周囲の医療施設から大きな信頼を勝ち得ている。

新型コロナウイルス感染症妊婦を受け入れながら、緊急母体搬送受け入れを続けることは容易ではなかったが、スタッフの尽力により、大きなクラスターを起こすことなく遂行できた。

本年より、当院所属の専攻医が1名誕生した一方、千船病院所属の医師が2~3名、6か月交替で定期的に当院で勤務いただいた。千船病院産婦人科関係者のご尽力

に、この紙面をお借りして、心より感謝を申し述べたい。

今後の展望

産科超音波技師エコーチームの尽力により、診断困難な胎児異常症例に対し、遠隔診断を依頼できる体制が整った。今後、遺伝部門と協力し新型出生前診断認可施設の取得を目指し、総合周産期母子医療センターにふさわしい出生前診断体制を構築したい。また、新たに当院所属の専攻医がスタッフに加わったこの機会に、医師教育にも改めて力を注ぎたい。

表. 実績

(単位: 件)

項目	件数
分娩件数 (母の数, 死産を含む)	976
帝王切開数 (帝王切開率 41%)	401
緊急帝王切開	198
腹膜外帝王切開	43
子宮底部横切開	8
妊娠子宮全摘数 (産褥期を含む)	2
子宮頸管縫縮術数	73
緊急母体搬送数	243
Back transfer症例数	86
妊娠28週未満の早産	15
胎児異常	28
FGR	30
多胎	49
切迫早産 (当院分娩例)	132
前置胎盤	10
常位胎盤早期剥離	6
妊娠高血圧症候群	46
糖尿病合併妊娠 (妊娠糖尿病含む)	77

婦人科

スタッフ紹介

産科とは区別せず千船病院から後期研修医2~3名の応援を受けて13~14名で業務に当たった。

2021年の診療内容とトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の影響により、症例数の減少を心配したがほぼ例年並みの婦人科症例数となった。ただし、高齢者の骨盤臓器脱症例は明らかに受診控えがあり減少した。

- ①手術数は横ばい。
- ②産科母体搬送の増加に伴い、婦人科症例も重症例や手術困難例が増加している。悪性腫瘍では高齢化と重症化により手術症例より放射線治療例が増加している。

表1. 良性疾患手術

(単位: 件)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
腹式単純子宮全摘術	53	53	64	59	45
開腹子宮筋腫核出術	18	21	11	15	17
開腹良性卵巣腫瘍手術	22	26	17	20	26
開腹子宮外妊娠手術・卵管切除術	7	7	8	8	4
骨盤臓器脱手術	56	50	40	41	23
腹腔鏡手術	98	104	96	98	126
TCR	20	15	23	30	42
その他	7	6	6	7	5
計	281	282	265	278	288

表2. 内視鏡手術

(単位: 件)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
卵巣腫瘍手術	83	65	64	41	49	85
腹腔鏡						
子宮筋腫核出術	3	3	2	1	0	0
子宮外妊娠	19	10	15	15	15	13
TLH	23	20	23	39	34	28
TCR	13	20	15	23	30	42

表3. 悪性腫瘍関連手術

(単位: 件)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮腔部円錐切除 (LEEP)	44	32	38	26	38	40
子宮頸がん手術	8	6	6	6	7	2
子宮体がん手術	12	13	16	18	13	16
卵巣がん手術	16	14	21	25	18	22
その他	2	2	2	1	2	4
計	82	67	83	76	78	84

今後の展望・目標

腹腔鏡専門医取得が喫緊の課題である。
多くのスタッフが精度の高い手術手技を持つに至り、全体的にレベルアップした。研修医にも正確に伝承していくことを目指す。

骨盤臓器脱手術で培った技術を生かし、腔式手術を増やし、腹腔鏡手術とともに低侵襲手術を増加させることにより手術数の回復を目指す。

婦人科腫瘍専門医 (現在1名)、細胞診専門医 (3名)、がん治療認定医 (6名) 取得を継続して努力する。

表4. 婦人科悪性腫瘍

(単位: 件)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸癌						
CIN3・AIS	35	27	43	25	35	40
I期	9	14	7	3	7	2
II	1	2	2	3	2	2
III	0	1	1	4	2	0
IV	0	1	1	1	2	1
計	45	45	54	36	48	45
子宮体癌						
AEH	1	0	2	1	2	1
I期	5	8	9	15	11	14
II	3	0	2	2	1	1
III	1	4	6	2	1	2
IV	3	1	2	0	0	1
計	13	13	21	20	15	19
卵巣癌						
I期	7	9	6	13	11	12
II	1	0	4	0	0	0
III	6	6	7	9	7	8
IV	2	5	3	4	3	4
計	16	20	20	26	21	24

眼科

スタッフ紹介

医師：清水一弘・宮本麻起子・奥田吉隆
 長嶋泰志・宮本朋美（2021年3月退職）
 ORT（視能訓練士）：中内・秋田・松原
 検査員：山本
 看護師：吉川・藤野・小柴・松原
 小児外来：渡邊浩子
 角膜外来：吉川大和

診療内容

一般外来：月～金曜日
 小児外来：木曜日午後
 検査：月～金曜日午後
 手術：月曜日午前・火曜日終日・木曜日終日

2021年のトピックス・実績

2021年4月 秋田ORT赴任
 2021年11月 松原ORT赴任

今後の展望

来年も眼科手術件数の増加と小児眼科の充実を目標としている。新型コロナウイルス感染症がまん延している中においても外来患者数は増加した。近隣のクリニックに眼科の特徴をアピールし、救急疾患も積極的に受け入れてきた結果と思われる。現在では手術室の時間割り振りを見直し、手術室稼働率の向上を目指している。新型コロナウイルス感染症の影響で手術件数は減少したが、高齢化社会となり手術適応例は増加に転じるようになると思われる。網膜剥離や眼内出血に対応できる硝子体手術は重要である。硝子体手術は高度に訓練された技量を要する手術なので、限られた施設でしか行うことができないが、当院でも行っている。最近では地域に硝子体手術ができる施設が減少しているのが現状だが、当院ではコンステレーショントリサイト付きルメラ手術用顕微鏡などの充実した設備で経験豊富な硝子体術者が担当している。白内障手術用機器はセンチリオン、手術用顕微鏡はサージカルガイダンス付きの最新型が入り、乱視矯正の精度も上がり、北摂地域では最も優れた機種で手術ができる環境が整っているため、高槻病院で行われている

白内障手術が秀でた手術であることをアピールしていきたい。多焦点眼内レンズも複数の種類を用意し、患者からの要望に応えている。2.2mmの極小切開や精度の高い乱視矯正は近隣の大学病院でも行われていない技術でLASIK眼や円錐角膜眼への眼内レンズ挿入も行っている。フェムトセカンドレーザー白内障手術システムが導入され7年が経過した。大阪府下で6施設あるが、手術用顕微鏡や周辺機器と連動したシステムである。

近年、斜視や弱視など小児眼科を専門とする眼科医が減少する傾向にある。当院では未熟児網膜症や眼科小児奇形などにも対応できる小児眼科専門医が診療に当たっており、3名の国家資格を持った視能訓練士とともに診療の充実を図っている。

大学病院にも設置されていない機器が導入され、眼科地域医療をリードし、貢献できる眼科を目指している。

表. 診療実績（2021年1月～2021年12月）

項目名		件数
外来総数	一般外来	12,522
検査総数	蛍光造影検査	12
	視野	695
	光干渉断層計	4,274
手術総数	白内障手術	736
	（再掲）ECCE	2
	（再掲）IOL縫着	4
	強膜内固定	0
	緑内障手術	0
	麦粒腫切開術	3
	霰粒腫切除術	2
	翼状片切除術	7
	腫瘍切除術	3
	斜視手術	0
	内反症手術	0
	眼瞼下垂	2
	硝子体切除術	76
	ケナコルトテノン嚢下注射	20
	硝子体注射	71
	YAGレーザー後嚢切開術	110
部分・汎網膜光凝固術	52	
未熟児網膜症光凝固術	2	

耳鼻いんこう科

スタッフ紹介

常勤医 星島秀昭

非常勤医 大阪医科薬科大学派遣医師

診療内容

昨年同様常勤医師1名と大阪医科薬科大学（大阪医科大学より改名）耳鼻咽喉科からの応援医師1名、大学医局出身者2名の応援医師とともに外来診療を実施している。外来診療について月曜日は原則初診患者のみの1診体制、火曜日と木曜日は非常勤医師とともに、2診体制で外来患者、病棟診療に当たっている。水曜日は手術日となっており、午後に関しては月曜日に外来手術若しくは検査、火、木、金曜日はエコーガイド下の細胞診検査、内視鏡下生検、検査室の静音と時間を要する特殊聴覚機能検査及び術後の処置などを行っている。入院については、未治療の高血圧や糖尿病などの基礎疾患を有する突発性難聴や顔面神経麻痺症例や、扁桃炎、扁桃周囲

膿瘍などの急性上気道感染症患者などの治療を行っており、切開処置を要する深頸部膿瘍や気道狭窄を伴う重度の喉頭浮腫など、緊急に外科的治療を必要とする重症疾患は、大阪医科薬科大学などのより専門性の高い医療機関に治療をお願いしている。

2021年のトピックス・実績

遷延する新型コロナウイルス感染症の関係から、他科と同様当科でも感染受診控えや、緊急事態宣言の発令で、外来患者数の変動がみられたが、各年齢層のワクチン接種普及に伴い流行前の状況に徐々に戻りつつある。

今後の展望

新型コロナウイルス感染症流行の終息とともに、外来患者数及び入院患者数も更に改善が見込めると考えられる。

放射線診断科

スタッフ紹介

部長 清水雅史
 部長 横川修作
 医員 中森美和
 医員 松田耕平（2021年3月退職）
 医員 林 和宏（2021年4月から）
 非常勤医師 6名
 部長 高橋 哲（イメージングリサーチセンター）

診療体制

2021年は、清水雅史部長、横川修作部長、中森美和医員、林 和宏医員、非常勤医師6名（神戸大学放射線科1名、大阪医科薬科大学放射線科5名）の診療体制であった。

活動内容

CT・MRIの件数と内訳、血管造影・IVR件数と内訳はそれぞれ表の如くである。

表1. 診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前	読影	読影/血管造影	読影/血管造影	読影	読影	休診
午後	読影	読影	読影	読影	読影	読影

表2. 血管造影・IVR内訳

(単位：件)

部位		IVR	合計
肝	肝癌	36 (TAE)	36
		1 (止血)	1
腓	出血	1 (止血)	1
大腿	出血	1 (止血)	1
子宮	産褥出血	1 (止血)	1
総計			40

CTの検査件数、MRI件数は順調に増加している。
 血管造影・IVR件数はほぼ同様である。

2021年のトピックス・実績

CTは2021年に80列Primeを導入した。従来の320列Aquilion ONE、64列Aquilionと16列治療用CTの4台体制で、特に心臓CTの件数は増加している。

MRIはSiemens社製3TMRI Skyraと1.5TMRI Aeraの2台体制で、心臓MRIの撮像も試みている。

腹部血管造影は、CT-like imageを用いて高精度の塞栓術を施行している。

今後とも病診連携を強化し、地域の画像センター、放射線治療センターとしての役割を務めていかなければならない。

表3. CT検査件数

(単位:件)

	2021-01	2021-02	2021-03	2021-04	2021-05	2021-06	2021-07	2021-08	2021-09	2021-10	2021-11	2021-12	合計
脳	344	387	486	387	333	338	339	318	347	382	369	440	4,470
眼窩	2	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	8
副鼻腔	2	7	6	4	4	5	5	4	7	8	8	8	68
中・内耳	2	1	4	2	2	1	4	6	2	2	2	1	29
上中咽頭	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	2	0	6
頭部その他	2	2	5	6	5	5	0	6	2	9	1	4	47
頭部小児(外傷)	13	23	17	33	25	20	19	21	23	29	22	33	278
鼻-Ⅲ	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	6
耳-Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
頭部小児	11	10	32	27	24	23	26	20	32	27	25	22	279
頭部CTA	0	2	2	0	3	1	3	5	5	1	4	4	30
頭部～頸部CTA	1	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	5
耳下腺・顎下腺	3	0	2	3	2	0	3	0	0	3	3	4	23
甲状腺	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2	0	6
頸部その他	8	1	5	6	2	4	5	3	3	4	5	5	51
下咽頭・喉頭	4	0	3	0	2	1	2	1	2	1	2	1	19
頸部小児	2	0	1	0	0	5	1	2	2	2	3	1	19
頸部CTA	3	1	0	2	2	1	1	3	3	0	1	2	19
胸部	216	224	263	240	195	208	209	232	228	265	270	280	0
肩	15	10	19	14	9	2	4	6	10	5	7	13	114
肩アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部その他	0	1	2	1	1	0	1	1	0	3	2	0	12
CT下肺生検	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	5
頸部上腹部	2	1	4	1	1	1	5	2	1	4	2	1	25
胸部上腹部	36	31	40	16	25	22	28	20	20	30	20	23	311
胸部小児	1	2	2	5	4	2	5	1	1	2	0	2	27
心臓	29	30	45	32	26	30	30	23	33	40	45	44	407
胸部CTA	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
心臓-大動脈	3	3	1	3	1	1	1	4	2	1	0	0	20
Ablation	24	26	25	35	23	29	34	30	28	30	33	30	347
Ablation+冠動脈	0	0	3	2	0	0	2	2	3	2	1	1	16
肺塞栓	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	6
肺塞栓+深部静脈血栓	4	6	4	2	4	7	3	4	6	5	5	7	57
肝臓～腎臓	18	19	36	19	4	16	14	28	14	23	24	27	242
肝臓～骨盤	242	258	352	312	241	277	327	313	324	341	344	312	3,643
肝臓	8	11	22	15	11	15	11	8	15	15	13	16	160
胆嚢	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	4
DIC-CT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾臓	0	3	4	3	1	4	1	3	1	1	10	4	35
腎臓	2	0	0	1	4	1	0	2	0	2	0	1	13
腹部その他	0	1	3	1	2	3	0	2	1	2	0	1	16
腹部小児	1	0	4	2	2	1	2	3	5	1	3	2	26
腹部CTA	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
Colonography	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤部	16	21	9	7	8	10	11	9	10	11	11	12	135
骨盤オリーブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右股関節	7	14	10	4	7	12	4	6	5	4	8	4	85
左股関節	11	12	10	5	3	5	5	2	6	6	7	4	76
両股関節	37	38	52	43	39	36	45	34	34	41	42	38	479
骨盤部その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
股関節アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤小児	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
骨盤CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上腕部	0	2	3	1	1	4	1	2	1	1	1	0	17
左上腕部	3	0	2	2	0	2	2	1	0	3	0	2	17
両上腕部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
右肘関節	5	4	3	4	1	2	5	3	1	2	5	1	36
左肘関節	0	3	1	2	2	0	6	2	5	3	0	3	27
両肘関節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右前腕部	0	1	2	1	0	0	0	1	0	1	4	0	10
左前腕部	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1	6
両前腕部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右手関節	7	4	6	0	4	5	2	1	3	3	7	4	46
左手関節	9	6	8	4	5	7	1	5	4	3	4	6	62
両手関節	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
右手部	3	2	2	0	1	3	0	0	3	3	3	2	22
左手部	0	7	2	0	1	0	0	2	1	2	4	2	21
両手部	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右上肢アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢小児	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
左上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
両上肢小児	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
右上肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢CTA	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
両上肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右大腿部	2	6	1	4	2	4	0	1	0	0	2	3	25
左大腿部	1	1	0	1	0	1	0	0	2	1	2	0	9
両大腿部	0	0	1	0	0	1	2	1	0	1	0	0	6
右膝部	7	8	4	3	6	4	4	4	4	3	10	9	66
左膝部	3	4	5	4	5	7	4	5	5	6	9	5	62
両膝部	16	17	25	21	14	12	22	22	21	35	20	20	245

	2021-01	2021-02	2021-03	2021-04	2021-05	2021-06	2021-07	2021-08	2021-09	2021-10	2021-11	2021-12	合計
右下腿部	3	4	2	1	0	2	2	3	1	1	3	0	22
左下腿部	2	0	0	3	1	1	0	3	3	1	0	1	15
両下腿部	0	1	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	6
右足関節	2	1	6	4	4	3	1	1	2	0	4	2	30
左足関節	6	4	7	3	4	9	2	4	5	0	1	5	50
両足関節	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右足部	1	4	4	4	0	2	0	1	2	5	4	1	28
左足部	1	1	7	2	1	2	1	0	2	1	5	1	24
両足部	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4
右下肢アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左下肢アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢アルト口後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢小児	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
左下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢 CTA	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
左下肢 CTA	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
両下肢 CTA	7	2	3	9	8	9	12	10	11	13	13	18	115
右下肢（骨盤～下腿）	0	0	3	3	3	0	3	0	2	2	1	3	20
左下肢（骨盤～下腿）	2	2	2	1	2	1	2	1	1	2	2	2	20
両下肢（骨盤～下腿）	20	17	22	23	26	20	14	27	26	27	27	34	283
頸椎	13	10	13	8	13	8	15	10	9	11	7	12	129
胸椎	10	3	3	3	5	0	2	2	4	6	6	5	49
腰椎	30	41	50	39	26	45	49	42	27	29	42	34	454
仙椎	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	4
脊椎小児	0	0	1	1	1	1	4	0	0	0	0	0	8
胸部～骨盤	484	483	590	554	467	569	556	579	500	597	599	570	6,548
大動脈（胸部～骨盤）	78	86	99	96	68	84	69	63	77	77	83	72	952
大動脈（骨盤～下腿）	3	4	4	2	5	1	3	3	3	10	3	9	50
頸部～骨盤	67	71	70	68	68	95	70	58	65	81	70	66	849
広範囲小児	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	1	0	5
広範囲 CTA	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	1	6
静脈（骨盤～下腿）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
広範囲 肺塞栓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
広範囲 肺塞栓 + 深部静脈血栓	14	11	12	12	6	10	9	10	9	11	6	11	121
下肢急性閉塞（胸部～下肢）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,872	1,959	2,449	2,126	1,773	2,009	2,020	2,001	1,980	2,253	2,252	2,255	24,949

表4. MRI検査件数

(単位：件)

	2021-01	2021-02	2021-03	2021-04	2021-05	2021-06	2021-07	2021-08	2021-09	2021-10	2021-11	2021-12	合計
脳+脳 MRA	221	226	319	259	251	272	274	277	270	311	276	290	3,246
下垂体	7	4	10	5	7	12	7	15	8	7	9	8	99
小脳橋角部	1	2	4	1	3	1	1	0	3	1	3	0	20
上中咽頭	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
副鼻腔	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
右眼窩	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	4
左眼窩	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
顎関節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
舌・唾液腺	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部 MRA	1	1	0	0	0	2	0	0	0	1	3	1	9
脳・眼窩	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4
頭部その他	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	5
脳ドック	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
脳	42	42	81	52	29	40	43	53	44	53	41	73	593
脳・小脳橋角部	5	3	4	6	3	0	2	3	3	1	2	2	34
脳・2方向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内耳	0	0	1	1	1	1	1	2	0	1	1	0	9
脳幹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳下腺	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
海馬	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脳梗塞急性期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳	51	56	52	44	40	57	54	43	48	24	29	47	545
ドック	12	15	16	11	13	12	12	12	15	18	15	15	166
脳 VSRAD	14	13	16	15	10	8	13	14	13	10	23	14	163
脳+脳 MRA (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頭部 MRA (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳ドック (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドック (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下垂体 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳幹 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳 + 脊椎 (鎮静下)	1	1	2	2	0	3	1	1	1	2	1	1	16
新生児脳 (NICU・GCU)	0	0	4	12	6	12	9	12	8	18	15	7	103
甲状腺・副甲状腺	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
下咽頭・喉頭	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頸部その他	1	0	1	2	4	3	2	2	3	0	1	1	20
頸部 MRA	0	0	2	1	2	1	1	2	1	1	1	3	15
小児頸部	0	0	0	0	1	3	3	0	0	1	0	0	8
頸部 MRA (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

	2021-01	2021-02	2021-03	2021-04	2021-05	2021-06	2021-07	2021-08	2021-09	2021-10	2021-11	2021-12	合計
縦隔	1	1	2	2	6	2	3	2	1	1	3	4	28
右乳房	1	2	3	4	1	3	2	3	3	4	4	3	33
左乳房	8	3	6	3	3	4	0	1	4	7	5	4	48
胸部 MRA	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
胸部その他	4	3	2	0	1	1	1	0	2	2	1	1	18
AORTA・胸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児胸部	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
CORONARY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心筋	1	7	2	2	3	5	3	1	1	6	4	3	38
肝臓	8	4	6	3	3	1	4	0	2	6	2	6	45
胆嚢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
膵臓	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	6
腎臓	2	1	2	0	5	2	2	1	4	3	4	2	28
副腎	2	1	4	0	1	1	0	2	0	2	1	1	15
MRUrography	1	1	0	1	1	0	1	2	0	1	0	0	8
腹部 MRA	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
腹部その他	0	1	5	3	3	2	5	0	2	0	1	0	22
小児腹部	0	0	1	0	0	0	2	3	0	0	1	1	8
MRCP	52	45	73	73	56	67	50	56	67	70	67	81	757
肝 SPIO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
AORTA・腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上腹部	2	3	5	3	2	5	2	1	1	5	3	6	38
肝 EOB	5	8	6	6	3	2	6	4	9	9	8	5	71
子宮卵巣部	64	69	75	84	79	71	76	77	65	66	82	78	886
膀胱部	0	1	2	2	1	4	6	4	4	3	3	7	37
前立腺	23	31	29	25	23	27	17	24	20	32	32	29	312
骨盤部 MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤部その他	3	4	9	10	7	10	7	4	5	7	5	7	78
小児骨盤部	1	0	1	0	1	0	2	1	1	0	1	0	8
骨盤部・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頸椎	39	31	37	51	30	45	43	32	43	31	32	35	449
胸椎	4	7	4	7	3	3	5	7	6	9	2	6	63
胸腰椎移行部	2	4	4	4	5	8	6	8	3	5	7	7	63
腰椎	115	92	105	118	110	135	130	99	101	98	105	114	1,322
仙椎	1	1	3	1	2	2	1	5	2	1	2	0	21
脊椎その他	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
全脊椎	3	4	5	7	5	4	6	4	9	9	6	6	68
脊椎・ミエロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頸椎 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脊椎	13	7	13	9	12	8	14	13	13	12	8	10	132
右肩関節	5	10	9	6	7	8	4	3	2	7	7	5	73
左肩関節	2	12	8	4	4	4	6	7	8	9	7	5	76
右肘関節	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	2	1	10
左肘関節	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3
右手関節	1	0	2	1	2	3	1	1	1	0	0	1	13
左手関節	3	2	4	0	0	0	0	3	1	3	2	0	18
右上腕部	1	0	0	1	0	2	3	1	0	0	0	0	8
左上腕部	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	6
右前腕部	0	0	2	0	0	1	0	0	1	2	0	0	6
左前腕部	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
右手部	5	3	5	5	1	1	1	1	1	0	6	1	30
左手部	0	0	1	2	3	1	1	2	3	1	2	1	17
上肢・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
左上肢その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右大腿部	2	3	3	2	1	1	0	0	1	0	2	1	16
左大腿部	0	1	1	1	0	2	0	1	1	0	1	1	9
右大腿部	0	0	2	0	0	0	1	3	0	0	0	0	6
左大腿部	0	0	3	2	2	1	0	1	0	1	1	0	11
右足部	0	1	0	2	0	0	3	1	1	0	4	2	14
左足部	4	0	2	0	2	0	2	0	2	1	1	0	14
右股関節	3	4	5	9	3	7	8	10	11	7	2	10	79
左股関節	5	5	3	2	6	4	3	3	1	4	1	2	39
右膝関節	31	27	23	32	22	37	29	44	40	37	39	41	402
左膝関節	35	27	21	30	20	39	25	30	27	28	39	37	358
右足関節	1	2	1	0	3	4	0	0	0	1	1	0	13
左足関節	1	1	1	2	4	2	1	3	2	1	1	3	22
下肢・MRA	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	2	11
右下肢その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
左下肢その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右膝関節 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左膝関節 (モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右小児下肢	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3
左小児下肢	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
大動脈	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
胸部大動脈	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
腹部大動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全下肢動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	820	794	1,019	936	831	963	910	910	893	950	930	996	10,952

千船病院

尼崎だいち病院

高槻病院

愛仁会リハビリテーション病院

しんあい病院

愛仁会しんあいクリニック

しんあいクリニック

明石医療センター

井上病院

井上病院附属診療所

井上診療所

放射線治療科

スタッフ紹介

放射線治療医：常勤 2名
 非常勤 2名
 放射線治療技師：8名
 うち、放射線治療専門放射線技師 2名
 うち、医学物理師 1名
 看護師：4名
 うち、専従 1名

診療内容

放射線治療の主な疾患

乳がん、肺がん、前立腺がん、脳転移、骨転移など

2021年のトピックス・実績

2021年の実績は表を参照されたい。

常勤医の充実に伴い、新患者数、総照射件数共に増加がみられた。特に、呼吸器系、前立腺がん、乳腺で患者数の増加がみられた。

今後の展望

高額医療である前立腺がんに対するIMRT、脳転移や肺がんに対する定位照射の件数を増やす。

表. 治療内訳

(単位：名・件)

件数	2019年度	2020年	2021年
新患者数	149	174	186
放射線治療部位数	192	238	242
総照射件数	3,529	4,051	4,651

新患原発部位別患者数

(単位：名)

新患原発部位別患者数	2019年度	2020年	2021年
脳・脊髄	3	1	3
頭頸部	1	0	0
肺・気管・縦隔	49	59	54
食道	4	2	2
胃・十二指腸・小腸	0	1	1
大腸・直腸・肛門	4	4	4
肝・胆・膵	4	2	0
乳腺	68	73	82
泌尿器（含 前立腺）	4	14	25
子宮	12	8	13
その他女性生殖器	0	7	0
骨・軟部腫瘍	0	1	0
悪性リンパ腫	0	1	2
その他造血器	0	0	0
原発不明癌	0	0	0
良性疾患	0	0	0
小児	0	0	0
その他	0	1	0
計	149	174	186

麻酔科

スタッフ紹介

主任部長	西田隆也
部長	中島正順
理事長	内藤嘉之
医長	棚田和子
医長	丸山祐子
医員	井川大輝
医員	齊藤健一 (2021年3月退職)

部長 土居ゆみ
(小児周術期センター センター長)

診療内容

手術室及び手術室外で全身麻酔管理症例を担当。それ以外に、リスクの高い患者の区域麻酔、局所麻酔管理を担当した。麻酔科術前外来を、水曜日、木曜日、金曜日の午前中に行った。

ICU患者に対して、担当科と協力して管理を行い、難易度の高い挿管やライン確保に協力した。また、新型コロナウイルス感染症陽性患者及び疑い患者の挿管を主として担当した。

従来麻酔科から独立して2020年度より小児周術期センターを発足した。より小児の周術期に特化した医療及び環境を提供している。

2021年のトピックス・実績

昨年に続き、新型コロナウイルス感染症の波が定期的に発生した。年間累計では麻酔科管理症例が2,998例から3,054例に増加した。手術部位別では、小児手術など全体的に麻酔件数の改善が見られたが、一方で整形外科領域の手術件数が減少するなど新型コロナウイルス感染症による影響が依然として認められた。

2021年3月に齊藤医師が退職した。

今後の展望

4月に周術期看護師1名が入職し、最大4名となった。周術期看護師と協力して、手術室での麻酔管理以外にも、MFICUでの麻酔管理、術後疼痛管理、麻酔科外来など、タスクシフトを進めていく。

新型コロナウイルス感染症が、依然として手術室運営やICU管理に影響を及ぼしている。新型コロナウイルス感染症の変異に伴い、ゼロコロナからウィズ(with)コロナへと対策が移行し、感染による重症化は軽減したものの、感染者数は容易に急増する傾向がある。感染状況に応じて、手術室関連スタッフのケア及び手術室運営の調整を行う必要がある。

診療報酬改定に伴う急性期充実体制加算新設により、全身麻酔での緊急手術の依頼が増加すると考えられる。年間400例の全身麻酔による緊急手術を目標として、麻酔科医及び関連スタッフの教育を図るほか、引き続き医師確保にも努める。

また、心臓血管麻酔専門医や集中治療医などの育成に尽力し、周術期看護師の育成、地域連携に協力する。

表1. 手術件数 3,054 (うち手術室内 3,054, 手術室外 0)

【ASA PS】

(単位：件)

予定1	2	3	4	5	6 (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
649	1,520	489	38	1	0	2,697
緊急1E	2E	3E	4E	5E	6E (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
101	167	76	10	3	0	357
合計						3,054

【手術部位】

(単位：件)

a.脳神経・脳血管	155	k.胸壁・腹壁・会陰	374
b.胸腔・縦隔	121	m.脊椎	109
c.心臓・血管	136	n.股関節・四肢(含：末梢神経)	920
d.胸腔+腹部	6	p.検査	102
e.上腹部内臓	223	q.MAC	1
f.下腹部内臓	628	r.ECT	0
g.分娩	121	x.その他	56
h.頭頸部・咽喉部	102	合計	3,054

【麻酔法】

(単位：件)

	a:全身麻酔 (吸入)	b:全身麻酔 (TIVA)	C:鎮静	Z:なし
1硬膜外麻酔	251	38	2	1
1硬膜外麻酔+ 2脊髄くも膜下麻酔	0	2	1	76
1硬膜外麻酔+ 2脊髄くも膜下麻酔+ 3伝達麻酔	0	0	0	0
1硬膜外麻酔+ 2脊髄くも膜下麻酔+ 3伝達麻酔+ 4その他局麻	0	0	0	0
1硬膜外麻酔+ 2脊髄くも膜下麻酔+ 4その他局麻	0	0	0	0
1硬膜外麻酔+ 3伝達麻酔	1	3	0	0
1硬膜外麻酔+ 3伝達麻酔+ 4その他局麻	0	0	0	0
1硬膜外麻酔+ 4その他局麻	0	0	0	1
2脊髄くも膜下麻酔	32	2	9	110
2脊髄くも膜下麻酔+ 3伝達麻酔	1	0	0	2
2脊髄くも膜下麻酔+ 3伝達麻酔+ 4その他局麻	0	0	0	0
2脊髄くも膜下麻酔+ 4その他局麻	1	0	0	1
3伝達麻酔	1,194	90	13	2
3伝達麻酔+ 4その他局麻	4	1	0	0
4その他局麻	637	77	8	6
5局麻なし	427	55	4	2
合計	2,548	268	37	201

旧分類【麻酔法】

(単位：件)

A.全身麻酔(吸入)	1,064	F.硬膜外麻酔	4
B.全身麻酔(TIVA)	132	G.脊髄くも膜下麻酔	122
C.全身麻酔(吸入)+ 硬, 脊, 伝麻	1,484	H.伝達麻酔	15
D.全身麻酔(TIVA)+ 硬, 脊, 伝麻	136	X.その他	20
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	77	合計	3,054

【年齢構成】

(単位：件)

	男性	女性	合計
AA.～4週未満	10	9	19
AB.～1歳未満	66	25	91
AC.～6歳未満	147	105	252
AD.～10歳未満	61	37	98
AE.～15歳未満	77	29	106
AF.～20歳未満	39	12	51
AG.～30歳未満	49	86	135
AH.～40歳未満	31	198	229
AI.～50歳未満	70	194	264
AJ.～60歳未満	98	168	266
AK.～65歳未満	56	99	155
AL.～70歳未満	84	124	208
AM.～80歳未満	308	385	693
AN.～85歳未満	109	156	265
AO.～90歳未満	45	102	147
AP.～100歳未満	11	63	74
AQ.100歳以上～	0	1	1
合計	1,261	1,793	3,054

旧分類【年齢構成】

(単位：件)

	男性	女性	合計
A.～1か月	10	9	19
B.～12か月	66	25	91
C.～5歳	147	105	252
D.～18歳	172	77	249
E.～65歳	323	765	1088
F.～85歳	497	668	1165
G.86歳～	46	144	190
合計	1,261	1,793	3,054

【体位】

(単位：件)

1.仰臥位	2,905	4.切石位	51
2.腹臥位	36	5.坐位	4
3.側臥位	54	6.その他	4
合計	3,054		

【性別】

(単位：件)

男性	女性	合計
1,261	1,793	3,054

【偶発症例】

(単位：件)

A.危機的偶発症	0	C.その他の神経系偶発症	0
B.神経系偶発症(脳・脊髄)	0	D.その他	0
A～D合計	0		

リハビリテーション科

スタッフ紹介

櫻 篤

1979年 名古屋大学医学部卒

1986年 京都大学医学部大学院卒

京都大学医学博士

副院長, 技術部長

リハビリテーションセンター長

リハビリテーション科 主任部長

リハビリテーション科専門医・指導医・認定臨床医

脳神経外科専門医

認知症専門医・指導医

認知症サポート医

摂食嚥下リハビリテーション認定士

心臓リハビリテーション指導士

初級・呼吸ケアリハビリテーション指導士

サルコペニア・フレイル学会 指導士

日本医師会認定 産業医・健康スポーツ医

日本リハビリテーション学会 代議員

同 近畿支部 幹事

日本脳神経外科学会近畿地方会 評議員

日本認知症学会 代議員

日本脳神経外科認知症学会 理事・総務委員長

関西脳神経外科認知症研究会 副代表世話人

診療内容

あらゆる急性期疾患に対応するリハビリテーション医療を行うべく、隣接する愛仁会リハビリテーション病院の回復期病棟、障害児（者）病棟、在宅部門と密接な連携を取り、新生児から高齢者まで、急性期から生活期まで連続したリハビリテーションを行う最初の窓口として機能できるように努めている。

脳卒中をはじめとする脳神経疾患などのリハビリテーション、整形外科の人工関節や脊椎・脊髄疾患にはクリニカルパスを運用した運動器リハビリテーションを、また循環器内科や心臓血管外科、呼吸器外科・内科とも連携し心大血管疾患、呼吸器リハビリテーションを行っている。また2012年秋から“がん患者リハビリテーション科”も算定実施できるようになった。大阪府のがん診療連携拠点病院として、がん患者に外科手術前後のみでなく、化学療法や放射線治療中も機能障害、能力低下を来すことなく治療が受けられるようにリハビリテーション医療を提供している。

活動内容

激増する高齢者の誤嚥性肺炎の原因となる嚥下機能障害に積極的に取り組み、入院直後の絶食期間中から鼻咽頭ファイバーによりベッドサイドで言語聴覚士や管理栄養士、看護師と嚥下機能の初期評価を行い、栄養提供方法を検討し間接あるいは直接嚥下機能訓練を開始している。頸部嚥下関連筋である舌骨上筋への電気刺激装置も導入され積極的に使用している。認知症に対してはリハビリテーションの視点から“認知症予防・初期もの忘れ外来”として特色のある診療を行っている。リハビリテーション科医師が診察を行い、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が神経心理検査のみでなく基本運動能力に加え体組成評価や口腔嚥下機能評価も同時に行う。これは認知症が高齢者の抱えるフレイル、ロコモ、サルコペニアといった運動器障害や誤嚥性肺炎の原因となる摂食嚥下機能障害と密接に関連していることにある。運動機能や摂食嚥下機能が低下すると認知症は確実に進行する。また認知症の進行に伴い注意機能が低下し転倒の危険性が高まり、嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を併発しやすくなるといった負のサイクルに陥る。それぞれの障害を早期に発見し訓練・指導を行うことにより、国民病となっている認知症の発症並びに進行抑制に寄与したいと考えている。

摂食嚥下支援チームを結成し、ST、OT、PTなどリハビリテーション専門職のみでなく看護師や管理栄養士、薬剤師も加わり、ベッドサイドでの嚥下内視鏡検査を行い、昼食時には食形態から食事姿勢を含めた環境、そして摂食嚥下状況をリハビリスタッフと管理栄養士を交えてラウンドするランチ（ミール）ラウンドも行っている。“いつまでも口から食べる楽しみをあきらめない”をモットーに夢のある摂食嚥下支援を行っていききたい。

ロボットスーツHALも導入され、脳卒中後の上肢麻痺や人工膝関節置換術後患者に対し効果的なりハビリテーションも行えるようになった。

2021年のトピックス・実績

昨年に引き続き、当科においても新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、昨年の経験を踏まえ、“正しく恐れる”姿勢で対応してきた。リハビリテーションを必要とされる新型コロナウイルス感染症の患者には可能な範囲でリハビリテーションが提供できたと思われる。

実績は表1～3を参照。

今後の展望

在院日数が短縮する中で急性期病院に特化した効率的かつ質の高いリハビリテーションをこれからも実施していきたい。

表1. 理学療法処方件数

(単位：件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	769	13.6%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	359	6.4%	皮膚科	21	0.4%
小児外科	14	0.2%	産婦人科	259	4.6%
消化器・一般外科	177	3.1%	泌尿器科	67	1.2%
心臓血管外科	127	2.2%	神経科	0	0.0%
呼吸器外科	87	1.5%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	29	0.5%	形成外科	19	0.3%
呼吸器内科	397	18.0%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	685	12.1%	小児脳神経外科	372	6.6%
循環器内科	543	9.6%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	11	0.2%	腎移植科	2	0.0%
脳神経内科	156	2.8%	乳腺外科	14	0.2%
血液内科	29	0.5%	不整脈内科	12	0.2%
小児科	324	5.7%	総合内科	1,093	19.4%
新生児科	64	1.1%	救急センター	14	0.2%
			合計	5,644	100.0%

表2. 作業療法処方件数

(単位：件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	173	7.0%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	359	14.6%	皮膚科	4	0.2%
小児外科	5	0.2%	産婦人科	12	0.5%
消化器・一般外科	36	1.5%	泌尿器科	13	0.5%
心臓血管外科	83	3.4%	神経科	0	0.0%
呼吸器外科	8	0.3%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	21	0.9%	形成外科	5	0.2%
呼吸器内科	193	7.8%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	241	9.8%	小児脳神経外科	1	0.0%
循環器内科	285	11.6%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	7	0.3%	腎移植科	0	0.0%
脳神経内科	143	5.8%	乳腺外科	1	0.0%
血液内科	4	0.2%	不整脈内科	3	0.1%
小児科	10	0.4%	総合内科	853	34.7%
新生児科	0	0.0%	救急センター	12	0.5%
			合計	2,472	100.0%

表3. 言語療法処方件数

(単位：件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	31	1.5%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	329	15.4%	皮膚科	5	0.2%
小児外科	15	0.7%	産婦人科	12	0.6%
消化器・一般外科	17	0.8%	泌尿器科	8	0.4%
心臓血管外科	45	2.1%	神経科	0	0.0%
呼吸器外科	2	0.1%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	4	0.2%	形成外科	3	0.1%
呼吸器内科	137	6.4%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	321	15.0%	小児脳神経外科	45	2.1%
循環器内科	115	5.4%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	5	0.2%	腎移植科	0	0.0%
脳神経内科	124	5.8%	乳腺外科	1	0.0%
血液内科	7	0.3%	不整脈内科	2	0.1%
小児科	65	3.0%	総合内科	824	38.6%
新生児科	18	0.8%	救急センター	9	0.4%
			合計	2,144	100.0%

IV

愛仁会リハビリテーション病院



回復期リハビリテーション病棟
障がい者病棟
全269床(うち障がい者54床)
訪問リハビリテーション

〒569-1116
大阪府高槻市白梅町5番7号
TEL.072-683-1212

院長 吉田和也

診療部総括

スタッフ紹介

リハビリテーション科は、全てのスタッフが何らかの専門医を保持しており、日本リハビリ医学会専門医を13名、同医学会指導医を4名擁している。吉田和也（日本整形外科学会専門医、院長）、砂田一郎（日本脳神経外科学会専門医、副院長）、磯島さおり（日本内科学会総合内科専門医、副院長）、兒島正裕（日本脳神経外科学会専門医、副院長）、清水洋志（日本循環器学会循環器専門医、副院長）、越智文雄（日本リハビリ医学会専門医）、李容桂（日本小児科学会専門医）、清水富男（日本整形外科学会専門医）、住田幹男（日本リハビリ医学会専門医）、城戸崎裕介（日本脳神経外科学会専門医）、湯川弘之（日本脳神経外科学会専門医）、福田和浩（日本神経学会神経内科専門医）、和田佳子（日本小児科学会専門医）、松岡美保子（日本リハビリ医学会専門医）、藤井優子（日本リハビリ医学会専門医）、磯山浩孝（日本リハビリ医学会専門医）、寺田明佳（日本小児科学会専門医）、中島敦史（日本神経学会神経内科専門医）、水野佐枝（日本内科学会総合内科専門医）、及び北垣次郎太（日本歯科保存学会専門医、歯科医師）の陣容で診療活動を行った（資格は代表1つのみ提示、リハビリはリハビリテーションの略）。

診療内容

年度初めから回復期リハビリ5病棟210床、障がい者病棟1病棟54床（重症心身障がい児病床を含む）にて入院診療を開始したが、2021年10月1日より回復期リハビリ病棟を5床増床して計269床となった。回復期リハビリ5病棟は、回復期リハビリ病棟入院基本料1と病棟専従医による体制強化加算を堅持した。外来診療は入院相談外来に加え、専門外来として脊損外来、装具外来、痙縮外来、心大血管疾患リハビリテーション外来（心リハ外来）、骨粗鬆症外来、書類外来、通院リハビリ、及び歯科診療を継続した。チーム医療の一環としては、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡、認知症ケア、脊髄損傷、排尿自立支援、整形外科、摂食機能の各専門チームによる回診を実施した。

併設する高槻在宅サービスセンターからのケアプラン作成や訪問看護・訪問介護・訪問リハビリを通じて、また本院のみなし事業としての訪問リハビリを通じて、在宅退院後の患者が質の高い豊かな生活を送れるように医

療・介護サービスの提供を行っている。引き続き三島圏域地域リハビリ地域支援センターや大阪府重度心身障がい児地域生活支援センターの責務も担っており、日本リハビリ医学会の研修施設として専門医の養成にも携わっている。ただ昨年に引き続いて、新型コロナウイルス感染症の拡大により、入院・外来診療を一部休止・制限せざるを得なかった。

2021年のトピックス・実績

2021年に入って第3波・第4波・第5波と新型コロナウイルス感染症の大きな流行を立て続けに経験したが、徹底した感染対策を施しながら、事業継続計画（BCP）を進め、診療実績の維持に努めた。退院患者数は1,800名（2020年は1,706名）と前年より増加し、平均在院期間は52.4日（2020年は56.2日）と前年より短縮している（表1）。主病名のICD-10による疾患大分類では、脳血管疾患を含む循環器疾患が28.0%（前年28.7%）、大腿骨頸部骨折など骨折患者を含む損傷・中毒外因疾患が34.7%（前年36.3%）と、当院の二大起因疾患の患者割合はいずれも減少していた（表2）。紹介元では、高槻病院は35.1%（前年31.3%）である一方、高槻市内の他医療機関は39.3%（前年41.4%）、大阪府下（高槻市外）の医療機関が21.3%（前年22.0%）、大阪府外の医療機関が4.1%（前年5.2%）と新型コロナウイルス感染症の影響が更になくなり、遠方の医療圏より、同法人の高槻病院からの受け入れが多くなっていた。退院後の転帰は自宅退院が77.0%、手術目的や病状悪化による急性期病院への転院は10.6%であった（表3）。診療報酬から計算した居宅など復帰率は81.3%（前年89.8%）と前年より低い比率となった（表4）。学会活動としては、筆頭演者として日本リハビリ医学会学術集会などに17演題の発表を行い、学会での座長を1件務めた。また5編の論文の投稿（2021年掲載分）を行っており、新型コロナウイルス感染症がまん延している中でも、例年以上に活発な学術活動を行うことができた。

今後の展望

2021年は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行で、外来診療・入院診療とも制限を行わざるを得ず、従来の診療体制の維持に努めた1年であった。2022年もその勢いはなかなか収まる気配が見られないが、そ

の中でも当院の基本理念である「再びその人らしい生活に」を堅持しながら、引き続き日本一のリハビリ専門病院を目指していく。入院診療に関しては、従来どおり回復期リハビリ5病棟の入院基本料1、体制強化加算を堅持し、障がい者病棟の有効な病床利用の検討を進めていく。さらに地域に向けて当院の資源と時間を有効に活用して、シームレスなリハビリテーションサービスを提供

できるような体制の構築を進めている。その一環の新たなサービスとして、2022年5月から、従来の嚥下評価入院に加えて「摂食嚥下リハビリテーション外来」を開設する予定としており、さらに法人内での初めての試みとして、公的保険外リハビリテーションの導入を行って、「リハビリ難民」を作り出すことのないように事業計画を進めている。

表1. 診療科別・在院期間 退院患者数 (単位:名)

診療科	退院患者	平均在院(日)
リハビリテーション科(回復期)	1,187	63.2
リハビリテーション科(障害成人)	273	37.8
リハビリテーション科(小児)	250	19.1
リハビリテーション科(その他)	90	47.7
計	1,800	52.4

表3. 紹介元医療機関 (単位:名)

紹介元医療機関	紹介数	
高槻病院	636	35.1%
高槻市内	712	39.3%
大阪府下(高槻市外)	386	21.3%
大阪府外	75	4.1%
当院外来	2	0.1%
計	1,811	100.0%

表2. 疾患大分類(ICD-10)別・診療科別 退院患者数 (単位:名)

	回復期	障害	小児	その他	総計
I 感染症及び寄生虫症	2	0	0	0	2
II 新生物	3	0	0	0	3
III 血液造血器疾患及び免疫疾患	2	1	0	0	3
IV 内分泌栄養代謝疾患	1	7	0	0	8
V 精神及び行動疾患	0	0	0	0	0
VI 神経系疾患	25	82	168	1	276
VII 眼及び付属器疾患	0	0	11	0	11
VIII 耳及び乳様突起疾患	0	0	0	0	0
IX 循環器疾患	418	54	0	32	504
X 呼吸器疾患	0	0	1	0	1
XI 消化器疾患	0	0	0	1	1
XII 皮膚皮下組織疾患	1	1	0	0	2
XIII 筋骨格結合組織疾患	169	1	0	18	188
XIV 泌尿生殖器疾患	0	0	0	0	0
XV 妊娠分娩産褥期疾患	0	0	0	0	0
XVI 周産期疾患	0	1	1	0	2
XVII 先天奇形・染色体異常	2	10	57	1	70
XVIII 症状・徴候・検査異常	0	7	2	0	9
XIX 損傷・中毒外因性疾患	482	105	10	28	625
XX 健康状態の影響要因	81	4	0	2	87
XXI その他の特殊目的用コード	1	0	0	7	8
計	1,187	273	250	90	1,800

退院時の転帰 (単位:名)

転帰先	退院数	
自宅退院	1,386	77.0%
転院	190	10.6%
うち 高槻病院	115	6.4%
転所	223	12.4%
うち 老健施設	86	4.8%
死亡退院	1	0.1%

表4. 在宅復帰率 (単位:名)

①対象退院患者数	1,198
1. 居宅	866
2. 介護老人福祉施設	18
3. 介護老人保健施設	84
4. 他の回復期リハ病棟	1
5. 4を除く病院, 有床診療所	16
転棟	11
高槻病院	73
その他	39
6. その他(有料老人ホームなど)	90
7. 再入院	0
② 上記①のうち, 退院先が居宅などであった	974
③ 居宅など復帰率 $100 \times ② / ①$	81.3%



しんあい病院



〒569-1123
大阪府高槻市芥川町2丁目3番5号
TEL.072-681-5533

院長 家永徹也

診療部総括

スタッフ紹介

常勤医師

外科：家永徹也（1981年卒・院長）

整形外科：辻 充男（1980年卒・部長）

内科：吉田公久（1987年卒・部長）

診療内容

2018年6月に発生した大阪府北部地震などによる建物の損壊で、同年11月末で病棟の運用を休止以降、かかりつけ医として外来診療の継続と、2020年8月より訪問診療を行っている。

内科は、常勤医が着任し、常勤医を中心に外来診療、各種健診、予防接種を行った。

整形外科では、骨粗鬆症マネージャーを中心に看護師と連携して、定期的な骨塩定量検査と治療を継続した結果、骨塩定量検査数が432件（前年比108%）（前年件数は9か月換算とする。以降の前年比も同様）となった。

小児科は、アレルギー専門外来と小児予防接種外来を継続して行っている。

訪問診療は、高槻病院総合内科チームの協力の下、訪問診療依頼当日に受入可否返答が可能なように、フローの見直しを行ったことで、順調に実績を伸ばし、訪問診療件数が月平均48件（前年比112%）となった。

表1. 検査数及び患者数

(単位：件、人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
骨塩定量検査数	19	27	31	71	39	49	57	65	74	432
予防接種患者数	43	55	93	24	85	606	619	221	208	1,954

表2. 実績

(単位：人、円)

入外区分	診療科	(1) 延べ患者数		(2) 平均単価	(3) 医業収入	
		対象期間実績 (延べ数)	1日平均	対象期間実績	実績金額	構成比
外来	内科	11,740	52	7,633	101,618,859	58.9%
	小児科	760	3	9,617	7,025,461	4.1%
	外科	3,851	17	4,824	17,594,093	10.2%
	整形外科	6,697	30	6,990	46,147,122	26.8%
	その他医業収入	0	0	0	6,545,679	3.8%
合計		23,048	103	(平均) 7,266	178,931,214	

※2021年1月～9月実績

2021年のトピックス・実績

延べ患者数は、合計23,048人（前年比100%）であった。新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えが落ち着いたものの、依然として戻ってはいない。

しかし、5月より新型コロナウイルス感染症ワクチンの予防接種が一般患者も対象となり、大混乱の中開始されたことで予防接種件数が1,954件（前年比106%）となった。

また、訪問診療では、西之川原のしんあいクリニックの休診・閉院に伴い、7月よりケアハウスますみの訪問診療を開始した。

以上により、外来医業収入は178,931千円（前年比105%）となった。

そして、40床の休止病床については、地域包括ケア病床5床を愛仁会リハビリテーション病院へ移動、35床を返還、しんあい病院を9月末で閉院とすることが法人内で決定した。10月からは、在宅療養支援診療所「愛仁会しんあいクリニック」として活動している。

今後の展望

しんあい病院から愛仁会しんあいクリニックとも、「患者さま本位の心安らぐ医療を提供し、地域の皆さまの健康増進を支援する」という理念に基づき、今まで以上にかかりつけ医としての役割を果たしていく。

VI

愛仁会しんあいクリニック



〒569-1123

大阪府高槻市芥川町2丁目3番5号

TEL.072-681-5533

院長 家永徹也

診療部総括

スタッフ紹介

常勤医師

外科：家永徹也（1981年卒・院長）

整形外科：辻 充男（1980年卒・部長）

内科：吉田公久（1987年卒・部長）

診療内容

2021年9月にしんあい病院を閉院し、10月より、新たに在宅療養支援診療所として開院した。当院は、かかりつけ医として、主として内科、外科、整形外科の診察、各種健診や予防接種などの外来診療と訪問診療を行っている。

2021年のトピックス・実績

2021年の最大のトピックスはクリニックの開院である。通常診療を維持しながら、約3か月で病院閉院とクリニック開院の準備を行うのは大変であったが、法人内施設の協力があり無事完遂した。

開院当初より、「かかりつけ医としての機能強化」と「訪問診療の拡充」を目標に掲げ、経営改善に取り組んでいる。

かかりつけ医としての機能強化は、診療所化を機に、「患者が、住み慣れた地域で安心して健康に過ごしていただく」ための取り組みとして地域包括診療を開始した。対象患者は限定されているが、13人に同意を得られ、医師と看護師、そして患者さんと年間目標を立て、それに基づき、検査や指導を行っている。ACPIについても触れており、家族と指導内容の共有や話し合いをするきっかけ作りになっていると大変好評である。

訪問診療の拡充では、当院看護師が訪問診療に同行を開始したことで、処置の幅が広がり、1日の訪問件数アップに繋がった。また、患者や家族に更に寄り添った対応が可能となった。

以上のことにより、外来医業収入は67,464千円となり、月平均：19,881千円から22,488千円と、僅かではあるが、病院時よりも増収となった。

今後の展望

健康寿命の延伸活動の一環として、骨粗鬆症の検査と治療について、外科・整形外科で継続的に取り組んでいるが、来期は、骨塩定量測定機器の更新を予定しているため、その活動を内科に拡大する。

訪問診療では、非常勤医師1人が増員となるため、営業・広報活動を行い、訪問患者の集患に努める。訪問診療には欠かせないケアマネジャーとの連携を図るため、ケアマネ研修会の講師を引き続き担当する。また、高槻病院の小児在宅患者のオーバーエイジ患者の受け入れを行うべく、関係部署との調整を引き続き行う。

また、国産の新型コロナワクチンの治験を予定しており、法人内施設の協力を得ながら、300症例の達成を目指し、国産ワクチンの承認にも貢献できるよう対応する。

さらに、新患の集患や情報発信に重要なホームページについては、見やすく、わかりやすいコンテンツで、様々なデバイスに対応したものにリニューアルする。

以上のような取り組みを全職員で行い、少しでも収支改善することが課題である。

表. 実績

(単位：人、円)

入外区分	診療科	(1) 延べ患者数		(2) 平均単価	(3) 医業収入	
		対象期間実績(延べ数)	1日平均	対象期間実績	実績金額	構成比
外来	内科	4,607	63	7,365	44,244,152	59.8%
	小児科	375	5	4,791	2,153,980	3.5%
	外科	1,229	17	4,866	6,207,115	9.4%
	整形外科	2,222	30	6,261	14,159,542	23.5%
	その他医業収入				66,764,789	3.8%
合計		8,433	116	(平均) 5,821	133,529,578	

※2021年10月～12月実績

VII

しんあいクリニック



診療所

〒569-1035

大阪府高槻市西之川原2丁目46番3号

TEL.072-668-5000

院長 前納一三

しんあいクリニック

スタッフ紹介

医師 1名
 看護師（パート） 1名
 事務職員 1名
 （上記以外で、事務長は他施設と兼任）

2021年のトピックス

2021年9月末でしんあい病院とともに閉院が決定したため、患者の逆紹介を7月末までに行った。8月～9月は閉院準備のため休診とし、9月末で閉院した。

診療内容・実績

2020年7月より、外来診療のみを行っており、2021年1月～7月の外来延べ患者数は652名（表参照）、1日平均7.9名であった。

表. 外来延べ患者数

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
患者数	88	90	115	106	92	89	72	0	0	652

VIII

明石医療センター



7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
ICU・HCU/NICU・GCU
全382床

〒674-0063
兵庫県明石市大久保町八木743番33号
TEL.078-936-1101

院長 大西 尚

総合内科

スタッフ紹介

主任部長：木南佐織
 部長：坂本 丞，石丸直人
 医 長：中島隆弘，河野 圭，官澤洋平
 医 員：大西 潤，水木真平
 専 攻 医：7名（2021年4月～）
 3名（連携病院へ出向）
 診療看護師：渡部秀悟

診療内容

外来：内科初診外来は，総合内科指導医と研修中の専攻医が中心となって担当し，プライマリケアの実践を行っている。再診外来は，生活習慣病などの慢性疾患や膠原病，精神疾患，難病に至るまで幅広く診療を行っている。初期研修医の外来は指導医が立ち合い，きめ細かく指導している。

入院：3チーム制でチーム医療を行っている。各チーム指導医2名，専攻医2名，初期研修医1名の構成で，屋根瓦式のチーム医療を行い，毎日カンファレンス・回診を行っている。また，多職種とのカンファレンスを定期的で開催している。

総合内科は，幅広い内科疾患の対応及び入院患者のマネージメントを行っている。病歴聴取や身体診察を重視し，適切な検査を行い，総合的な診断・診療を実践し，全人的な医療を行っている。入院診療では，チーム医療による安全で質の高い医療を提供できるよう努めている。

2021年のトピックス・実績

2021年4月より，診療看護師（NP）の渡部NPが着任し，診療チームに所属し，主に大腿骨近位部骨折，心不全患者のpost-acute careを行っている。原疾患の慢性期管理に加え，全例に高齢者総合機能評価を実施している。

整形外科領域の診療としては，2020年から引き続き大腿骨近位部骨折患者は全例総合内科が入院を担当し，Hip fracture templateを用いた周術期の全身管理を総合内科医が行い，術後の合併症の軽減，入院期間の短縮に寄与している。毎週，整形外科と合同でHip fractureカンファレンスを行い，周術期マネージメントから骨折予

防を脆弱性骨折リエゾンサービスの一環として行っている。

また，高齢者を中心に心不全診療を担い，心不全の初期治療から，アドバンス・ケア・プランニング（ACP）までトータルケアに力を入れている。毎週循環器内科と合同で心不全カンファレンスを行い，治療方針を決定している。

大腿骨近位部骨折患者や，一般的な積極的な入院受け入れ増加により，入院患者が昨年より12%増加した。

医学教育・医師育成も当科の重要な役割であり，指導医・専攻医によるレクチャーや，初期研修医による症例提示，臨床的疑問を解決するClinical question，コンピテンシー（医師としての特性や能力）のレクチャー，グラム染色勉強会，英語論文を批判的吟味しながら読み解くジャーナルクラブ，専攻医によるClinical jazz形式での新患外来症例の振り返り検討を定期的で開催している。また，総合内科・プライマリケア領域の医学誌（ホスピタリストや病棟マニュアルなど）の分担執筆を当院指導医中心に担当している。

臨床研究は，医療統計の講師として和歌山県立医科大学下川敏雄教授，英文抄録・論文の作成法や英文校閲・査読の講師としてBen Phillis先生を定期的に招聘し，症例報告や臨床研究のサポートを受けている。現在，官澤医師，世戸医師（高槻病院に異動）が主導の「高齢者の誤嚥性肺炎・摂食嚥下機能評価」，世戸医師が主導の「高齢整形外科入院患者のポリファーマシーに対する総合内科主導の多職種チームアプローチの検証」，官澤医師が主導の「心不全で入院した患者における病院総合医と循環器内科医の治療の比較」は論文投稿中である。また2021年は国内外の英文医学誌に原著論文1編（石丸医師：市中肺炎における非定型病原体の予測についての研究），多施設共同研究1編（石丸医師主導），英文症例報告7編（5編は初期研修医・専攻医が作成）が掲載された。

今後の展望

【診療の充実】

救急科との連携により，効率よく，幅広い疾患を受け入れ，心不全診療は循環器内科と連携しながら質の高い診療の充実を図っていく。また高齢者患者が増加しており，地域や多職種連携を密にし，高齢者診療に力を入れていく。

【資格, キャリアパス】

内科専門研修プログラム・総合診療専門医養成プログラムの基幹病院として専攻医が研修している。内科専攻医は必ず総合内科をローテートすることで、専門医プログラムの必要症例の多くをカバーできる。

【学術活動, 臨床研究の推進】

定期的に外部講師から臨床研究のサポートをいただき、質の高い臨床研究の実践を目指し、現在複数の論文が投稿中であり、実績に繋げたい。また指導医のサポートの下、今後も初期研修医・専攻医も英文の症例報告や臨床研究など発表・論文作成を実践していく。

表. 入院患者の内訳 (2020年以降は年報の対象期間が1月1日~12月31日)

(単位:名)

疾患群	2017年度	2018年度	2019年度	2020年	2021年
感染症	186	213	264	254	278
呼吸器疾患	151	210	241	193	207
循環器疾患	50	127	183	347	300
消化器疾患	53	76	83	81	96
糖尿病・内分泌疾患	63	124	64	55	75
膠原病・アレルギー疾患	74	66	75	79	73
血液疾患	27	27	31	28	21
脳・神経疾患	70	65	85	91	135
腎・泌尿器系疾患	84	70	87	120	136
整形疾患	0	0	9	176	294
その他	147	153	221	195	197
入院患者合計 (延べ人数)	905	1,131	1,343	1,619	1,812

救急科

スタッフ紹介

救急科 (2名)

医長：井上 彰 救急科専門医, 集中治療専門医

医長：蛭名正智 救急科専門医, 集中治療専門医

診療内容

<救急外来>

平日日中の救急外来受診患者の初療を担当。初期研修医とともに診療し、救急診療を通してのプライマリケア・救急医学の教育も行っている。

<その他>

消防事後検証委員会・MC協議会などへの参加、明石ICLSコースの開催、各種教育カンファレンスなどを開催している。

2021年のトピックス・実績

2019年度より新規に救急科を開設。前年度までは研修医が中心となり救急患者の対応が行われていたが、救急科開設に伴い平日日中の救急患者対応を救急科が初期診療を担当する体制となった。救急車の受け入れ件数は増加しており、開設前に比べ約20%増加した(図参照)。新型コロナウイルス感染症がまん延している中においても感染対策を行いながら新型コロナウイルス感染症感染患者も含めて救急患者の応需を継続しており、高い応需率を維持している。

救急診療は教育も重要な役目であり、研修医教育にも力を入れている。2019年度から初期研修医の救急科ブロック研修を開始し、内科外科を問わず救急対応を行いながらエビデンスに基づいた標準診療の実践を通して教育を行っている。

消防MC体制への参画や消防事後検証委員会への参加などを通じて地域の消防体制の向上へも貢献しており、明石消防を中心とした地域の消防組織との連携も強化した。

明石ICLSコース、明石MCLSコースなど、各種コースや勉強会への参加も多数行っている。

今後の展望

【診療の充実】

地域の救急医療の基幹病院として、更なる救急診療の質向上やより適切な応需体制の構築を進めていく。

【救急教育】

救急診療を通して初期研修医をはじめとした様々な立場への教育を実践していく。

【地域連携】

近隣施設との救急医療体制を通じた連携や、明石消防を中心に当該地域における病院前診療体制の向上を目指す。

【その他】

- ・集中治療科と連携した集中治療診療への参画
- ・各種教育コースへの参画
- ・災害医療体制の構築

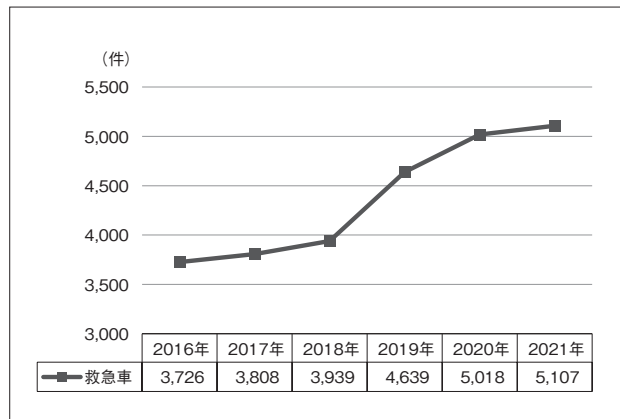


図. 救急車受け入れ件数の推移

呼吸器内科

スタッフ紹介

院長：大西 尚

部長：岡村佳代子， 畠山由記久

医員：池田美穂

専攻医：高宮 麗， 藤本昌大， 池内美貴（神鋼記念病院より6か月間出向）， 塚本 玲， 増田佳純， 山崎 菜々美， 松尾健二郎

診療内容

外来：明石市で唯一の呼吸器内科のある病院（癌専門病院を除く）として毎日呼吸器内科医による外来を行っている。2013年8月新病棟開設に合わせて呼吸器内科外来も1診体制から2診体制に増え、より多くの紹介患者に対応できるようになった。

入院：呼吸器内科は本館5階病棟を主体に入院診療を行っている。入院診療は上記スタッフを中心になされるが、臨床研修制度のため卒後1～2年目の研修医も病棟診療に加わる。

2006年度から当院は後期研修医を募集しているが、2021年には呼吸器内科に3名の後期研修医が新たに加わった。今年当院内科専門研修プログラムより2名、神鋼記念病院より1名が連携病院として当院で研修を行った。

週2回（月曜日・金曜日）チャートカンファレンスで各症例のプレゼンテーション、ディスカッションを行い、その後に病棟を回診している。また水曜日は後期研修医向けのレクチャー兼カンファレンスを行い、相談症例の検討や情報共有を行っている。

2021年のトピックス・実績

今までは内科・呼吸器内科として内科を全般的に診療していたが、2015年4月より総合内科が新設されたため、より専門性をもって診療していくことが求められるようになった。しかし今後も専門性を伸ばしながらも特化しすぎず、「患者から学べ」をモットーにベッドサイド診療の重要性を指導し、患者に起こっている事実や事象・本質を見抜くことを重要視し、現場での最適解を常に模索することを努力し呼吸器内科医として幅広く診療を行うことを心掛けていく。

診療対象疾患としては、①肺炎を始めとする呼吸器感染症、②肺癌の診断・治療、③びまん性肺疾患の診断と治療、④気管支喘息発作、COPD急性増悪や気胸など呼吸不全に対する急性期治療、⑤肺気腫、間質性肺炎などによる慢性呼吸不全に対する呼吸器リハビリテーション、在宅酸素療法の導入や在宅人工呼吸器療法の導入、⑥睡眠時無呼吸症候群に対するPSG検査（2014年度から入院でのCPAP導入は中止）などが挙げられる（表1）。

2021年も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症の流行による患者数減少も見られたものの、患者数の大幅な減少は見られず、気管支鏡検査や肺癌診断数は確保されており活動性の低下は見られなかった。

近隣の地域連携を更に強化し顔が見える繋がりを重視するため近隣のクリニック、医院、病院への訪問を積極的に行っている。今後も紹介数の増加を目指し更に訪問件数を増やし地域での信頼に繋がるような活動を強化する予定である。

2016年7月から医長以上のスタッフが5名体制となっていたが、2020年度から人事異動などで3名となっている。診療の活動度を落とすことなく、専攻医のリクルートもしっかり行っている。呼吸器専門医研修を踏まえて今後も神戸大学呼吸器内科との連携を図りながら更なる診療体制の強化に取り組む予定である。

病理解剖数は2021年の総数が8件、呼吸器内科からは5件であった。

今後の展望

明石医療センター呼吸器内科は、明石市・加古川市を含む東播磨地域で唯一の呼吸器疾患全般を診療可能な科であり、今後更に地域医療機関との連携が重要と考えている。近隣医院からより信頼されるよう絶え間ない診療を目指し、軽症から重症まで幅広く診療することを心掛けている。呼吸器中核病院として、また呼吸器内科を目指す後期研修医の教育・研鑽の場として今後もますます努力し、魅力的な呼吸器内科を目指していく。

表1. 診療実績 (2020年以降年報の対象期間が1月1日~12月31日)

呼吸器内科入院患者数 (人数は延べ人数) ~11.30 (単位:名)

年度	2019年度	2020年	2021年
呼吸器内科入院患者数	1,266	1,191	1,175

呼吸器疾患の内訳 (人数は延べ人数) ~11.30 (単位:名)

疾患	2019年度	2020年	2021年
肺癌	427 (169症例)	387 (191症例)	306 (135症例)
胸膜中皮腫	9 (8症例)	12 (10症例)	14 (7症例)
肺炎 (肺化膿症含む)	176	158	129
胸膜炎, 胸水貯留 (細菌性, 結核性など)	40	37	12
SAS (PSG/CPAP)	61 (61/0)	48 (48/0)	79 (79/0)
間質性肺炎	116	119	143
慢性呼吸不全 (COPD含む)	51	40	17
気管支喘息	35	30	33
気胸	57	86	39
喀血, 血痰など	27 (27症例)	25 (23症例)	13 (12症例)
その他	267	268	390

気管支鏡検査数 (単位:件)

年度	2019年度	2020年	2021年
件数	417	381	371

胸腔鏡検査数 (単位:件)

年度	2019年度	2020年	2021年
件数	37	35	28

循環器内科

スタッフ紹介

主任部長：民田浩一
 部長：平山恭孝
 医長：松尾真典，野田 翼，石橋健太
 医員：平井暁男

診療内容

2021年7月より民田主任部長，12月より石橋医長が赴任し，6名の新体制となった。循環器急性期診療の充実を図るため循環器ホットライン，循環器当直を導入。医局員増加に伴い虚血性心疾患や末梢血管疾患におけるカテーテル治療，不整脈アブレーション，デバイス治療の更なる充実を図った。大動脈弁狭窄症に対する順行性経皮の大動脈弁バルーン拡張術を定期的に施行している。心不全診療については，総合内科と合同カンファレンスや多職種カンファレンスを開催し，外来心臓リハビリテーションへ移行など多職種連携心不全診療の基盤を作り，心不全診療の充実，再入院率の低下などを目標に体制を構築した。

表. 活動実績

心臓カテーテル検査・治療件数 (単位：件)	
項目	件数
CAG (冠動脈造影, PCI含まない)	282
PCI (経皮的冠動脈形成術)	374
緊急PCI	129
待機的PCI	245
ロータブレーター	19
EVT (血管内治療)	66
BAV (経皮的大動脈弁拡張術)	3
PTSMA (経皮的中隔心筋焼灼術)	1
下大静脈フィルター	8

2021年のトピックス・実績

論文掲載
 Heart and Vessels 2021; 36 (12), 1784-1793; PMID 33997914
 循環器ホットライン開設 (2021.7-)
 総合内科との心不全合同カンファレンス (2021.9-)
 循環器内科当直 (2021.12-)
 ECPRシュミレーション (2021.11-)
 Impella導入 (2021.12-)

今後の展望

2022年4月から医局員が3名増え，9名体制となる。循環器当直体制の強化と循環器ホットラインを24時間365日体制へと移行させることで急性期循環器診療の更なる充実を図る。弁膜疾患に対するカテーテル治療 (TAVI, Mitraclip) を導入するための準備を行っていく。心不全予防のため外来心臓リハビリテーションの充実を予定している。

研修医・後期研修医，メディカルスタッフの指導・教育を充実することで院内の循環器診療の底上げを図りたい。

不整脈検査・治療報告 (単位：件)	
項目	件数
心臓電気生理学的検査 (アブレーション含まない)	0
経皮的カテーテル心筋焼灼術 (カテーテルアブレーション)	143
ペースメーカー植え込み術 (新規)	44
ペースメーカー植え込み術 (交換)	34
ICD (新規)	9
ICD (交換)	5
心臓再同期療法 (CRT) (新規)	2
心臓再同期療法 (CRT) (交換)	0
両室ペースメーカー機能付き植え込み型除細動器 (CRT-D) (新規)	0
両室ペースメーカー機能付き植え込み型除細動器 (CRT-D) (交換)	14

消化器内科

スタッフ紹介 (2021年4月1日時点)

名誉院長 澤井繁明
 主任部長 中島卓利
 部長 吉田俊一 門 卓生 石田 司
 医 長 古松恵介 當銘成友
 佐々木一就 (8月退職) 松岡晃生
 ベンスレイマン・ヤハヤ
 医 員 益子由佳子 (7月～産休)
 田中太郎 大西紘平
 専 攻 医 (3年目) 瀧本 将 法貴真也
 (2年目) 川瀬雄太 石原美崎 (4月～9月)
 金丸薫子 (10月～)
 (1年目) 橋本宏之 安部恵里佳

診療内容

2021年4月に体制を変更し、スタッフ12名、専攻医6名でスタートした。益子医員の産休、佐々木医長の退職後も混乱なく、外来、入院、救急及び内視鏡診療とも充実し、いずれも前年度を上回る実績であった。消化管及び胆膵領域の内視鏡検査及び治療は、質量とも地域の基幹病院にふさわしいレベルを維持できた。新入院患者カンファレンス、内視鏡治療カンファレンス、部長回診などを通じて、診療科として、外科との合同カンファレンスなどを通じ、病院として患者の診療情報の共有に努めた。新型コロナウイルス感染症の感染者・濃厚接触者もあったが、外来・入院・内視鏡診療の制限を行わずに、乗り切れた。

2021年のトピックス・実績

石田部長を中心に導入した胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的全層切除術 (EFTR) が、2021年5月に全国で3番目に先進医療Aの認定を受けた。

新入院数、総内視鏡検査数とも前年を上回り、当科の特徴である高度な内視鏡検査及び治療も質量とも十分であった。

今後の展望

2022年度もスタッフ、専攻医とも十分な人数を確保できたが、数年以内に、複数のスタッフの退職が予定されている。また、専門医研修プログラム上専攻医は1年ごとにはほぼ全てが入れ替わるが、専攻医にとって魅力的な診療内容及び体制の維持が必須である。外来入院診療、内視鏡診療、救急受け入れ態勢、緊急検査治療態勢などの維持、更なる向上には、専攻医を含めた充実したスタッフが必要であるため、神戸大学消化器内科医局との密接な連携、交流が不可欠である。

より高度な専門的かつ迅速な診療に加えて、多くの併存疾患、問題点を有した症例にも幅広く対応し、一般的な消化器診療に加え、質の高い診療を行うことを目指すことで、診療科及び医師としてのステップアップに繋げ、地域医療に貢献していきたい。

表. 主な内視鏡検査・治療件数

(単位: 件)

	2019年	2020年	2021年
新入院数	2,050	1,970	1,997
上部消化管総数	6,909	6,266	6,516
食道・胃ESD	110	100	101
止血術	79	85	107
食道静脈瘤治療	34	42	44
胃瘻造設	20	12	16
嚥下内視鏡	63	71	72
下部消化管総数	3,461	3,130	3,317
ポリペクトミー・EMR	1,245	1,143	1,283
大腸ESD	46	54	63
止血術	36	47	95
胆膵内視鏡総数	562	554	576
超音波内視鏡	332	309	316
EUS-FNA	38	40	36
小腸カプセル内視鏡	35	30	31
バルーン内視鏡	13	13	13

腎臓内科

スタッフ紹介

【常勤医師】

主任部長 米倉由利子 (2003年卒)

総合内科専門医, 日本透析医学会専門医, 日本腎臓学会専門医・指導医

医長 後藤公彦 (2008年卒)

総合内科専門医, 日本透析医学会専門医・指導医, 日本腎臓学会専門医・指導医

医長 大田健人 (2012年卒)

内科認定医, 日本腎臓学会専門医, 日本透析医学会専門医
専攻医 西願まどか (2018年卒) (2021年4月～)

【非常勤医師】

西 慎一: 神戸大学医学部腎臓内科 教授

河野圭志: 神戸大学医学部腎臓内科 助教

石井 圭: 神戸大学医学部腎臓内科 医員

診療内容

1) 腎炎検査・治療

①経皮的腎生検

例年, 慢性糸球体腎炎 (IgA腎症など) の症例が多いが, 高齢症例が増えている (表参照)。高齢者でも全身状態が良く, 腎生検実施可能な症例が増えていることが要因と考えられる。一方で, 活動性の腎炎が疑われるが, 抗血小板薬使用中, 萎縮腎など腎生検不能という症例も依然として多い。高齢であっても腎炎の診断, 治療を行うことで腎予後を改善できる。また病理学的な診断を踏まえてCKD管理を行えることは治療戦略, 薬剤選択において重要であり, 今後も積極的に実施していきたい。

②腎炎治療

・IgA腎症

活動性が高い症例では, 積極的にステロイド治療を行い, 完全寛解を目指している。ステロイドパルス連続3クール (仙台方式), またはステロイドパルス2か月間隔3クール (Pozzi方式) の選択肢があり, 特にPozzi方式では, 週末を利用した短期入院治療が可能であり, 患者の社会生活の維持と, 病床の効率的な利用に寄与している。

・ネフローゼ症候群, 急速進行性糸球体腎炎

高齢者のネフローゼ症候群, ANCA関連血管炎が増加傾向である。このような症例は長期ステロイド治療によ

る副作用のみならず, 加齢に伴う臓器合併症の増加が課題になり, 社会的背景としても個別性が高い。

2) 慢性腎臓病診療

CKD教育入院は, 感染対策のため集団指導を中止して全て個別指導で対応している。また患者教室である「いきいき腎臓病教室」も集合開催を見合わせて患者教育資料の作成, 配布を行った。

3) 腎代替療法, 血液浄化

【維持血液透析, 腹膜透析】

腹膜透析新規導入1名, 腹膜透析から血液透析への移行2名と入れ替わりがあった。透析室看護師により, 運動療法の啓蒙, 実践が活発に行われており, フレイル対策に重要な役割を果たしている。

【入院透析, 特殊血液浄化, アフェレシス治療】

炎症性腸疾患に対する顆粒球吸着療法, 難治性腹水に対する腹水ろ過濃縮再静注療法を, 消化器内科, 産婦人科から多数依頼いただいている。また, 開心術後や重症感染時のCHD/CHDFもその適応や条件設定を主治医団や集中治療科と相談しながら実施した。2021年は, ICUに加えてHCUでもCHDの実施症例が増え, 治療の幅が広がった。

2021年のトピックス・実績

【CKDシール】

CKD患者が処方を受ける際に, 薬手帳に貼付して腎機能に配慮した適切な処方, 用量調節を受けられるように, eGFR 60未満, eGFR 30未満の2種類のシールを作成した。明石市薬剤師会の協力を得て, 運用を拡充する予定である。

【SARS-CoV-2 mRNAワクチンと肉眼的血尿症例についての検討】

2021年にSARS-CoV-2 mRNAワクチンの接種が始まって以来, ワクチン接種後の肉眼的血尿を呈する症例が少なからず観察される。多くは慢性腎炎を背景としていることなど, 情報収集が進んでいるが, 当科においてもこのような症例の精査, 治療を積極的に行い, 大田医長を中心として学会発表, 論文作成を進めている。

今後の展望

①腎不全診療の強化

(ア) 通院維持透析患者のサルコペニア対策 (運動療法

の活発化), 患者数漸増.

(イ) 腹膜透析患者の増加 (新規導入数増加, 長期管理).

(ウ) 腎移植の啓蒙, 紹介拡充.

②腎炎, ネフローゼ症候群診療の充実

(ア) 早期発見・診断・治療介入のための啓蒙.

(イ) 寛解導入率の向上, 高齢者などハイリスク症例の治療の発展 (抗体製剤, アフェレシス治療など集学的治療により).

③学術活動

学会発表, 論文執筆の活性化

腎生検実施年齢

(単位: 歳)

	腎生検実施年齢 (平均値)	腎生検実施年齢 (中央値)	範囲
2019年度	43.8	41	16~79
2020年度	45.7	48	18~76
2021年	47.5	53	19~78

表. 実績

特殊治療

(単位: 件)

	2019年度	2020年度	2021年4月1日~ 11月30日
持続血液透析/持続血液濾過透析(患者数)	121名	122名	24名
LDL吸着療法	7	0	6
血漿交換療法	0	7	13
エンドキシン吸着療法	15	4	3
顆粒吸着療法	28	2	31
腹水ろ過濃縮再灌流法	24	53	30

通院透析患者数と血液透析実施回数

(単位: 件)

	2019年度	2020年度	2021年4月1日~ 11月30日
通院HD患者数	16名(離脱1名, 新規1名)	17名(離脱1名, 新規2名)	18名(離脱1名, 新規2名)
血液透析新規導入数*	38	43	35
腹膜透析新規導入数	0	2	1
血液透析延べ回数	4,304	4,772	3,003
経皮的腎生検件数	39	25	20

*自科症例のみ

腎生検症例病理診断

(単位: 件)

病理診断		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年
一次性糸球体疾患	IgA腎症	9	10	17	13	23
	微小変型ネフローゼ症候群	3	1	5	0	1
	膜性腎症	2	3	3	0	2
	膜性増殖性糸球体腎炎	1	2	1	4	0
	菲薄基底膜病	1	3	1	0	2
	巣状分節性糸球体硬化症	0	1	1	2	1
二次性腎疾患	アミロイドーシス	1	0	0	0	0
	ANCA関連血管炎	2	1	2	1	1
	紫斑病性腎炎 (IgA血管炎)	1	0	0	4	0
	ループス腎炎	1	0	1	1	1
	肥満関連腎症	1	2	1	0	0
	糖尿病性腎症	2	2	2	0	3
血管病変	良性腎硬化症	1	0	1	0	1
	悪性腎硬化症	1	0	0	0	0
	血栓性微小血管症	1	1	0	0	0
間質性病変	尿細管間質性腎炎	0	2	0	0	1
その他	微小糸球体変化	1	0	2	1	2
	oligomeganephronia	0	0	2	0	0

(一部病態の重複あり)

入院症例内訳

(単位: 件)

入院目的		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年
慢性腎臓病関連	慢性腎臓病教育入院 (バス)	31	29	21	16	39
	その他 (治療内容調整, 急性増悪, 感染症など)	88	67	102	83	84
血液透析関連	血液透析新規導入	47	55	38	43	48
	合併症入院 (うっ血性心不全, 感染症など)	35	9	19	31	28
	ブラッドアクセストラブル (閉塞, 感染)	1	1	1	3	3
腹膜透析関連	腹膜透析新規導入	2	0	0	2	1
	PD関連感染症 (腹膜炎, 出口部・トンネル感染)	2	2	2	5	4
	治療調整, その他	5	6	1	3	3
腎炎治療	IgA腎症	3	7	27	27	33
	一次性ネフローゼ症候群	14	13	6	9	15
	ANCA関連血管炎	8	4	8	6	3
	ループス腎炎	0	1	1	0	1
	紫斑病性腎炎	0	2	0	5	4
	その他の急速進行性糸球体腎炎	0	0	0	1	3
	IgG4関連腎疾患	2	0	0	0	0
	尿細管間質性腎炎	0	2	0	0	1
その他	急性腎傷害 (腎後性腎不全含む)	3	7	7	10	8
	電解質異常	データ集計なし			7	12
	腎生検入院	23	19	32	20	24

(一部病態の重複あり)

糖尿病・内分泌内科

スタッフ紹介

千原和夫（主任部長 1945年卒）
 中村友昭（医長 2006年卒）
 辻本泰貴（医員 2015年卒）（～2021年3月）
 新井尚樹（医員 2017年卒）（2021年4月～）

診療内容

当科は2017年4月新規の診療科として開設され、2021年12月末で4年9か月が過ぎた。辻本医師は2021年3月末で退職、2021年4月1日より新井医師が入職となりバトンを渡す形になったので、正味の常勤医師数は3名で変更なく診療に従事した。新井医師はかつて当院での診療経験がなかったので、諸事情に慣れるまでしばらく時間を必要としたが、診療チームの一員として力が発揮できるようにいろいろとアドバイスも行った。当科は月曜日から金曜日の週5日で毎日1枠の外来専門診療枠を頂いているが、専門医資格取得を目指す辻本医師や新井医師にできるだけ多くの紹介新規患者の診療を経験できるように取り計らった。紹介患者の中には診療上の判断に苦慮する 경우가多々あり、また紹介患者の誤診を避けるため、彼らの外来診察中、千原は電子カルテが直ぐ見られる場所に待機し、彼らが判断に困ったときにはリアルタイムで電子カルテを閲覧し、PHSで話しながら診断・診療上の指導を行ってきた。また、入院患者の診療も主治医として自ら考え、診断や治療方針を作成できるように彼らの主体性を重んじた。一方、彼らの診療録を上級専門医は常にチェックし、気付いた点はその時点で連絡をとり、また定期的に実施するオンラインカンファレンスでは、彼らが出す疑問点や課題を議論した。リアルタイムの個別指導は彼らの専門医としての実力を養う上で最良の手段であるだけでなく、当院の糖尿病及び内分泌疾患の診療レベルの向上、ひいては近隣の医療機関からの信頼を得る上でも重要と考えている。新型コロナウイルス感染症まん延下で患者の病院受診が相対的に縮小している中、当科の診療実績における外来、入院患者数は十分とは言えないまでも右肩上がりに増加してきている。また、院内他診療科からの紹介やコンサルテーションも増えてきている。他診療科、特に外科系診療科から周術期の血糖管理依頼件数や妊娠中及び周産期の甲状腺疾患の管理件数が増えているが、いともわずに対応するように心掛けていく。入院及び外来診療において、多職種で構成

された糖尿病ケアチーム（Diabetes Care Team: DCT）の活動が重要であることは論を待たないが、新型コロナウイルス感染症流行までは週1回集まり対面で情報共有と意見交換を行っていたDCTミーティングを中止、入院及び外来患者を対象とする糖尿病教室も中止せざるを得なかった。そのような状況にもかかわらずDCTメンバーの専門職資格取得などプロになるための向上心は旺盛で、看護師特定行為（インスリン投与量の調整）研修修了者や日本糖尿病療養指導士（CDEJ）資格取得者数が年ごとに増えており、糖尿病療養指導の内容は着実に向上している。

2021年のトピックス・実績

学会活動は、日本糖尿病学会年次学術集会及び近畿地方会、日本内分泌学会学術総会、臨床内分泌代謝updateに合計8演題を発表した。中でも日本内分泌学会総会で辻本医師が口演した臨床研究「グルココルチコイドがポジティブフィードバック作用を発揮するクッシング病のサブタイプが全クッシング病の約9%に存在することを世界で初めて報告した」は、その後米国内分泌学会機関誌Journal of The Endocrine Society 2021年6月に論文として掲載され、さらにChief Editorが影響力の大きい論文として選択するFeatured Articleにも選ばれた。後世にも名を残す可能性のある研究が当科から発信できたことを誇りに思うとともに若手医師の当院への呼び水になればと願っている。診療実績は表に示す。

今後の展望

ポストコロナからウィズ（with）コロナ時代への移行、一方では情報をキーワードとする第4次産業革命の真っ只中、医療分野を含めて様々な分野で急速に進むDX化の波に乗り遅れないように、アンテナを高く上げ最新の情報を入手しながら、新時代における診療体制、特に本院における当科の役割や立ち位置を模索していきたい。

表. 診療実績

(単位：名)

疾患分野	2019年	2020年	2021年
糖尿病			
外来診療	1,535	1,716	1,814
入院患者	259	327	347
甲状腺疾患	499	465	548
副腎疾患	132	129	144
下垂体疾患	42	37	49
副甲状腺・Ca代謝疾患	50	59	64

小児科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：横山直樹（1988年卒）
 部長：梁川裕司（1990年卒）
 部長：権東雅宏（1992年卒）（～2021年3月）
 部長：大西徳子（2007年卒）
 医長：藤井順子（2012年卒）
 医員：吉本啓修（2016年卒）
 非常勤医師ほか：藤井栄一（神経外来），吉川徳茂（腎外来），亀井直哉（心臓外来：兵庫県立こども病院），松本千佳（臨床心理士）

診療内容

専門外来：1か月健診，シナジス外来，心臓外来，腎外来，神経外来，アレルギー外来，予防接種，発達検査，心理相談

小児入院：小児10床

新生児入院：NICU6床，GCU10床

新生児特定集中治療室管理料2算定

救急外来：東播磨臨海小児二次救急輪番体制
 第2・3・5木曜日（明石市内のみ対応）

院外：明石市乳幼児健診，明石こどもセンター（児童相談所）検診，学校心臓検診

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症で一昨年減少した紹介患者数・分娩数が回復し，一般外来患者数，入院患者数共に増加した。

＜診療実績（表1～3）＞

- ・患児紹介受け入れ件数：(994→1,189)
- ・一般小児入院数：昨年より増加（396→717）
- ・新生児入院数：昨年より増加（553→593）
- ・院外新生児搬送入院数：減少（67→60）
- ・早産児，低出生体重児の入院数：在胎35週未満（26→36），出生体重2,000g未満（29→33）
- ・人工呼吸管理件数：(39→36)
- ・発達検査24件，心理療法67件
- ・心理士訪問：NICU 221件，産科110件，小児科23件

＜トピックス＞

- ・定期予防接種の再開
- ・アレルギー診療の取り組み
 食物負荷試験入院の増加（67→164）

＜教育＞

- ・初期研修医：院内ローテ研修10名（各1～5か月）を指導
- ・後期研修医：神戸大学小児科専門医研修プログラム3名を指導
- ・家庭医研修：総合内科医師1名を指導

＜地域に向けて開催＞

- ・東播小児臨床談話会
 新型コロナウイルス感染症の影響で開催なし
- ・第4回新生児蘇生法Sコース講習会 2021年7月31日
 インストラクター：大倉，三上，大西，梁川，横山
- ・第11回新生児蘇生法Aコース講習会 2021年8月21日
 インストラクター：神足，相田，大西，横山

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の外来・入院診療体制の構築

○一般小児

- ・時間外も含め入院受け入れ対応の強化
- ・アレルギー診療の質の向上
- ・予防接種外来の拡充

○周産期医療の拡充

- ・地域周産期母子医療センターとして，ハイリスク分娩・新生児に対する受け入れ強化
- ・院内分娩数増加に向けて新たな取り組み

○地域貢献

- ・親と子のすこやか広場，子育てステーション企画
 医療・育児面での情報提供など，現地開催以外の新たな方法を検討

○小児科専門医の育成

- ・複数の専門医研修プログラムの連携施設として，ローテ後期研修医を積極的に教育，指導し，当院で活躍できる次世代の人材を育てる

表1. 一般小児入院（疾患別）

(単位：件)

領域	主な疾患	件数
呼吸器系感染症	肺炎, 気管支炎, RSV感染症, クループ症候群, 急性上気道炎・咽頭炎, 扁桃炎	301
消化器系感染症	感染性胃腸炎, ノロウイルス感染症, 細菌性腸炎, 急性虫垂炎	50
その他感染症	尿路感染症, 化膿性リンパ節炎, 蜂窩織炎・アデノウイルス感染症, 熱源不明発熱	47
アレルギー・血管炎関連	気管支喘息, 川崎病, アナフィラキシー, IgA血管炎	77
神経・精神関連	熱性けいれん, 胃腸炎関連けいれん, 無熱性けいれん	18
消化器関連	腸重積症, 胆管炎	3
内分泌・代謝関連	アセトン血性嘔吐症, 糖尿病, 肥満症, ケトン性低血糖症	17
腎・泌尿器関連	ネフローゼ症候群	1
新生児関連	新生児黄疸, 発熱, 体重増加不良	10
食物経口負荷試験		164
成長ホルモン分泌刺激試験		18
その他	哺乳不良, 神経性やせ症, 嘔吐症, 発熱, 発疹(原因不明), 特発性血小板減少性紫斑病	11
合計		717

表2. 新生児入院（週数・体重別）

(単位：件)

入院児病名	件数
30-31週	3
32-34週	33
35-36週	69
37週-	488
計	593

(単位：件)

出生体重 (g)	件数
-1,499	4
1,500-1,999	29
2,000-2,499	79
2,500-3,999	475
4,000-	6
計	593

表3. 新生児入院（疾患別）

(単位：件)

主傷病名	件数
新生児一過性多呼吸	144
帝切児症候群	104
新生児黄疸	55
前期破水による新生児の障害	51
早産児	45
糖尿病母体児・妊娠糖尿病母体児症候群	35
低出生体重児	32
新生児嘔吐	26
新生児メレナ・急性胃粘膜病変	10
新生児感染症	9
胎便吸引症候群	9
新生児無呼吸発作	8
双胎児	6
新生児仮死	6
新生児特発性呼吸窮迫症候群	5
先天性心疾患	5
極低出生体重児	4
新生児気胸	4
新生児薬物離脱症候群	4
新生児血液型不適合	3
先天性水腎症	3
ダウン症候群	3
抗痙攣薬服用母体より出生した児	2
過体重児	2
新生児低血糖	2
先天性高インスリン血症	1
新生児赤血球増加症	1
新生児脳室内出血	1
口蓋裂	1
小腸閉鎖	1
その他	11
計	593

放射線科

スタッフ紹介

主任部長 鷲尾哲郎
 部長 牛尾啓二（～2021年5月）
 非常勤 山口雅人 神戸大学放射線科准教授
 その他数名

診療内容

通常の業務はCT, MRI, RIの読影が主である。至急読影にも可能な限り対応している。

IVRは肝癌の治療（TACE）、止血術（消化管出血、喀血）、CTガイド下生検、ドレナージ、心臓血管外科との大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を行っている。

表1. 読影件数 (単位：件)

項目	件数
消化管透視	263
CT	21,567
MRI	5,647
RI	174

2021年のトピックス・実績

常勤医の退職により非常に厳しい状態となったが、非常勤医の増員により乗り切ることができた。

読影件数はほぼ回復している。

IVR件数は血管系が増加している。TACEの減少は全国的な傾向である。

他の件数は依頼科の診療実績とともに増加すると思われる。

今後の展望

来期には常勤医の補充はあるが、この人員ではこれ以上の実績を達成することは困難であり、人員増に向けての準備も必要となる。

表2. IVR件数 (単位：件)

項目	件数
血管系（ステントグラフトなど）	68
TACE	38
止血（消化管出血、喀血）	15
BRTO	1
CTガイド下生検、ドレナージ	15
その他	4
計	141

病理診断科

スタッフ紹介

部長：佐野暢哉（病理専門医，分子病理専門医，細胞診専門医）
 医員：横川 暢（病理専門医）
 非常勤医：5名（全員病理専門医，細胞診専門医，うち3名 分子病理専門医）
 細胞検査士：小段敦美（主任），ほか4名
 臨床検査士：2名
 非常勤細胞検査士：1名

診療内容

組織診断：診断所要時間短縮，画像所見提示を目的として，Day Pathologyの実施，主要な免疫組織化学染色の院内処理，術中迅速診断，電子カルテ・病理診断システムに支援されたデジタル画像の提示を実施している。

専門性の異なった習熟度の高い非常勤病理医を確保し，診断精度，速度共に高いレベルで維持されている。

また，腎生検，脾生検，EBUS実施時，技師によるベッドサイドサポート（ROSE）を行っている。

細胞診断：後述のダブルチェック体制をとり，疑陽性以上の症例の細胞像を電子カルテ上に提示している。

Liquid Based Cytologyを導入し，検体処理・診断所要時間の短縮，診断再現性の向上，DNA遺伝子検査，個別化医療への対応を図っている。

病理解剖：全例CPCにて提示し，研修医など，医療スタッフ教育に貢献している。

他科研修医教育：上記CPCに加えて，個々の症例のコンサルテーション，報告を通じて病理，細胞診断に関する教育を行っている。

精度管理：組織診断はほぼ全例，細胞診断は全科疑陽性以上の全例，婦人科材料以外の陰性全例に対し指導医によるダブルチェックを行っている。診断困難例，疑問例については，高槻病院，兵庫県立がんセンター，神戸大学，徳島大学，姫路はりま総合医療センターなどにコンサルテーションを行っている。

2021年のトピックス・実績

・組織診断：5,608件，細胞診断：6,551件，病理解剖：9件

今後の展望

・FISH法など，新規診断手技の導入，検体取扱い手技の習得を目指す。

表. 組織診断数，細胞診断数，解剖数の年別推移

(単位：件)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
組織診断	1,908	2,482	4,161	5,620	5,466	5,387	5,595	5,337	5,585	5,786	5,757	5,773	6,045	5,612	5,608
細胞診断	3,983	4,782	5,314	5,195	5,262	5,574	6,129	6,382	6,890	6,921	6,636	6,481	6,618	6,352	6,551
解剖件数	14	11	21	8	10	11	11	7	12	14	8	9	8	12	9

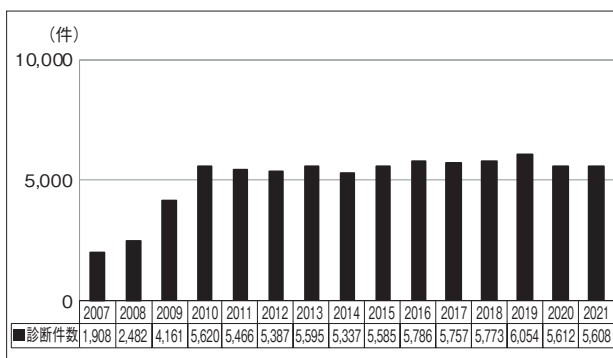


図1. 組織診断数年次別推移

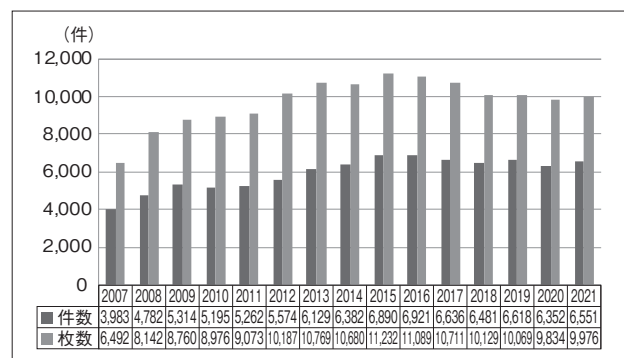


図2. 細胞診断数年次別推移

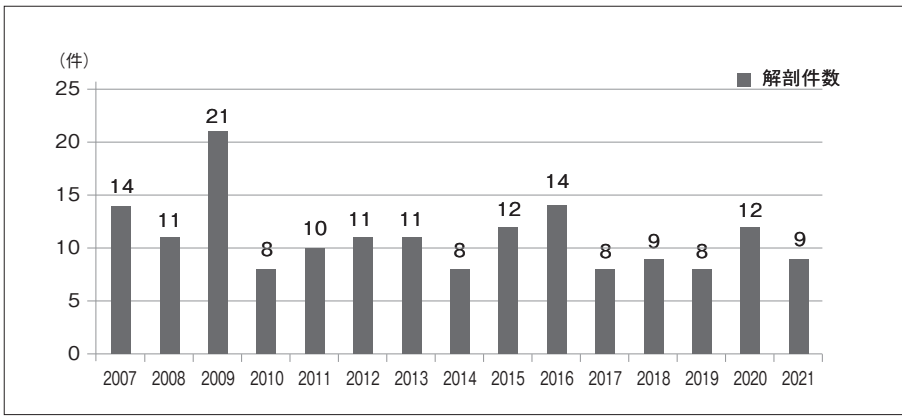


図3. 解剖件数年次別推移

外科

スタッフ紹介

副院長・外科主任部長 豊川晃弘
 外科部長 常見幸三
 外科部長 沢 秀博（～2021年3月）
 外科部長 芦谷博史（2021年4月～）
 外科医長 水田憲利
 外科医長 大坪 出
 外科医長 福田善之
 外科医員 藤木和也
 外科医員 菊地拓也

診療内容

2001年開院初年度の全手術件数は230件であったが、以後は順調に増加し2016年度には1,000件を超えた。しかし加古川中央市民病院の開設と2018年度に乳腺科が廃止となり手術件数は漸減していたが、スタッフの強化により、2019年度の全手術件数は前年の800件から約900件まで回復した。2020年は新型コロナウイルス感染症がまん延しているにもかかわらず全手術件数は前年から増加し938件になった。2021年は新型コロナウイルス感染症の爆発的流行により、手術件数はやや減少の873件となった。

当科は常時緊急手術に対応しており、2021年の緊急手術件数は218件あり全体の25%であった。

2021年のトピックス・実績

2019年より、豊川が外科責任者となるとともに、ロボット手術・低侵襲手術支援センター長、がん診療支援センター長を務めている。医局人事で芦谷医師（1996年卒）、大坪医師（2005年卒）、口分田医師（2018年卒）が派遣されてきた。大坪医師は内視鏡外科技術認定（胃）取得者で、芦谷医師、水田医師が2021年度に同技術認定医（大腸）を取得し、豊川を含め計4名の技術認定医で指導体制を組み腹腔鏡手術に当たっている。

病院として低侵襲手術に取り組んでおり、近年、外科でも腹腔鏡下手術が徐々に増加していたが、2019年度から急増し2020年は、切除ができた大腸癌139例のうち、112例（80%）が腹腔鏡下手術症例であった。2021年は、切除ができた大腸癌120例のうち、99例（83%）が腹腔鏡下手術症例であった。また、課題であったロボット支援下手術も2020年より直腸がんで開始し、2021年は12件、累計24件となった。その他胃癌、膵癌、ヘルニア、急性虫垂炎やイレウスなどの手術にも適応を広げている。学術面においては豊川、沢、水田、大坪が国内学会、研究会、講演会で17件の発表・司会を行い、3編の論文を発表した。

今後の展望

近年、低侵襲手術がほぼ標準術式と考えられるようになっており、消化器外科の領域でも腹腔鏡下手術の適応拡大は欠かせない課題である。現在、内視鏡外科の技術認定は4名であるが、取得者増加に向けて外科として取り組んでいる。並行してロボット支援手術の増加を図っていくとともに、がん手術件数の増加を図りたい。

表. 外科手術実績 (2021年1月1日~2021年12月31日施術分内訳)

(単位: 件)

食道	食道癌	(胸腔鏡)	0
		(ロボット支援)	0
		(縦隔鏡)	0
		(開胸)	0
	食道腫瘍	(鏡視下)	0
		(開胸)	0
	その他	(鏡視下)	0
	(開胸)	1	
二期再建		0	

胃	胃癌	(腹腔鏡)	胃全摘	6
			噴門側胃切除	0
			幽門側胃切除	16
			その他	1
		(ロボット支援)	胃全摘	0
			噴門側胃切除	0
			幽門側胃切除	0
			その他	0
		(開腹)	胃全摘	7
			噴門側胃切除	0
	胃腫瘍	(鏡視下)	2	
		(開腹)	3	
	その他	(鏡視下)	0	
		(開腹)	4	
十二指腸腫瘍 (早期癌・腺腫)		0		

小腸	小腸腫瘍	(鏡視下)	3
		(開腹)	0
	イレウス	(鏡視下)	5
		(開腹)	32
	その他	(鏡視下)	1
		(開腹)	7

大腸	結腸癌	(鏡視下)	68	
		(開腹)	16	
	結腸 その他	(鏡視下)	1	
		(開腹)	9	
	直腸癌	(腹腔鏡)	前方切除術	18
			直腸切断術	1
			ハルトマン手術	0
			直腸切除術	9
		(ロボット支援)	直腸切断術	3
			前方切除術	1
		(開腹)	直腸切断術	3
			ハルトマン手術	1
	その他		2	
	人工肛門造設術		10	
虫垂炎	(鏡視下)	61		
	(開腹)	8		
その他		16		

肛門	痔核	0
	痔瘻・肛門膿瘍	0
	その他	0

肝臓	肝切除術 ・肝細胞癌 ・肝内胆管癌 ・転移性肝癌 ・その他	開腹	2区域以上切除	5
			区域切除	3
			垂区域切除	0
		鏡視下	部分切除	9
			2区域以上切除	0
			区域切除	0
			垂区域切除	0
			部分切除	0
	術中RFA・MCT			0
	肝嚢胞開窓術			0
経皮的肝灌流化学療法			0	
その他			2	

胆道	胆道癌手術 ・肝門部領域 ・胆嚢癌 ・遠位胆管癌 ・乳頭部癌 (十二指腸癌含む)	肝切除+胆道再建		0
		膵頭十二指腸切除		5
		胆嚢床切除 (±胆道再建)		2
		胆管切除		0
		その他		1
	胆嚢摘出術 ・胆石, 胆嚢炎 ・その他	開腹	14	
		鏡視下	186	
		単孔式	2	
	総胆管 結石症手術	開腹	0	
		鏡視下	0	
合流異常症手術		0		
その他		3		

膵臓・膵臓	膵切除術 ・膵癌 (通常型) ・膵腫瘍 ・その他 (膵炎切除例含む)	開腹	膵頭十二指腸切除	3
			膵体尾部切除	6
			膵全摘	1
		鏡視下	膵中央切除	0
			膵核出	0
			膵頭十二指腸切除	0
	膵炎手術	膵管減圧術	1	
		その他	0	
	膵摘術	開腹	1	
		鏡視下	0	
その他		1		

臓器移植	肝移植術 (生体・脳死)	0
	脳死膵移植術 (膵腎同時)	0

腹壁・その他	鼠径ヘルニア	(鏡視下)	82
		(直達)	71
	腹壁癒痕ヘルニア	(鏡視下)	2
		(直達)	12
	上部消化管穿孔手術	9	
	下部消化管穿孔手術	14	
	審査腹腔鏡	5	
	スパーサー留置術	0	
中心静脈ポート留置術	56		
その他	47		

消化器外科手術件数合計	873
-------------	-----

心臓血管外科

スタッフ紹介

主任部長：林 太郎（心臓疾患，血管外科担当）
 医 長：三里卓也（心臓疾患，血管外科担当）
 医 長：安 健太（心臓疾患，血管外科担当）
 医 長：渡邊俊貴（心臓血管，血管外科担当）
 （～2021年3月）
 専 攻 医：吉谷信幸（心臓疾患，血管外科担当）
 専 攻 医：当 廣 遼（心臓疾患，血管外科担当）
 専 攻 医：川 端 良（心臓疾患，血管外科担当）
 （～2021年3月）

診療内容

心臓疾患：虚血性心疾患，弁膜症（大動脈弁，僧帽弁，三尖弁），不整脈（心房細動 など），先天性心疾患 など
 大動脈疾患：急性・慢性大動脈解離，胸部及び腹部大動脈瘤
 末梢血管疾患：急性・慢性動脈閉塞，閉塞性動脈硬化症，末梢動脈瘤，下肢静脈瘤，透析患者におけるシャント作製・シャントトラブル など

2021年のトピックス・実績

2021年の手術件数は，心大血管領域134例，血管外科領域 290例であった。近隣病院や開業医からの緊急手術依頼は，積極的に受け入れている。各症例で見ると，冠動脈疾患，大動脈解離や大動脈瘤といった大動脈疾患が増加している。院内紹介も増加している。

大動脈疾患では，解剖学的条件が合えば，胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を，frailty やリスクの高い症例で積極的に取り入れている。また，心房中隔欠損症・僧帽弁・三尖弁などの心臓弁膜症症例に対しては，複合疾患など難易度の高い症例が増えており胸骨正中切開症例の割合が増加しているが，適応症例があれば，低侵襲を目指し，右小開胸下手術を行っている。

また大動脈弁狭窄症に対する外科的大動脈弁置換術では，スーチャーレス人工弁を導入し，胸骨正中切開手術においても低侵襲化を進めている。

血管外科においては，急性動脈閉塞などの緊急手術症例，シャント作成症例やシャントトラブル症例が多いのも当科の特徴である。

今後の展望

- ・新型コロナウイルス感染症の影響でできていなかった近隣病院との紹介患者カンファレンスを，状況が落ち着けば再開していきたい。
- ・近隣医療機関との地域連携を強化する。

表. 手術症例数

(単位: 件)

心臓外科 (単位: 件)	
先天性心疾患	
ASD	2
ASD+PS	0
ASD+PAPVR	0
VSD	0
VSD+PS	0
VSD+AR	0
VSD+MR	0
VSD+2ch.RV	0
PDA	0
ECD	0
CoA complex	0
IAA complex	0
T/F	0
PA with VSD	0
PA with IVS	0
DORV	0
Taussig-Bing	0
TGA	0
TAPVR	0
Single Ventricle	0
Tricuspid atresia	0
Mitral atresia	0
HLHS	0
AS and/or AR	0
MS and/or MR	0
Rupt.aneurysm of	0
Sinus Valsalva	0
Others (cyanotic)	0
Others (non-cyanotic)	0
計	2

後天性心疾患・胸部大動脈瘤その他				
弁膜症		総数	弁形成	CABG 併設
Aortic		10	1	1
Mitral		12	9	3
Tricuspid		0	0	0
A+M		0	0	0
A+T		2	0	0
M+T		11	6	0
A+M+T		7	2	2
その他 (Pなど)		0	0	0
虚血性心疾患		総数	off pump CABG	動脈カテ使用例
単独CABG		22	3	22
心筋梗塞合併症に対する手術				
aneurysmectomy・左室形成術		1		
VSP		1		
cardiac rupture		1		
MR(乳頭筋断裂・虚血性)		2		
その他		5		

不整脈に対する手術 (Mazeなど)	6	
収縮性心膜炎に対する手術	0	
心臓腫瘍 (粘液腫など)	1	
その他の開心術	0	
胸部大動脈瘤		
解離性	Stanford A 急性期	19
	慢性期	8
	Stanford B 急性期	0
	慢性期	8
非解離	上行	0
	基部置換術	5
	弓部	14
	基部+上行+弓部	1
	弓部+下行	0
	下行	0
胸腹部	0	
肺塞栓症		2
ペースメーカー留置		0
計		134

血管外科

(単位: 件)

疾患名と術式	大動脈										末梢動脈										計												
	非解離	解離性				急性動脈閉塞	慢性動脈閉塞	末梢動脈瘤	急性動脈閉塞	慢性動脈閉塞	末梢動脈瘤	閉塞性動脈硬化症など	動静脈瘤	その他	その他	その他	その他																
		上行	弓部	下行	胸腹部													腹部	ステント留置	Stentless急性期(過半数)		慢性期	Stentless慢性期(過半数)	慢性期	ステント留置	血行再建術	血行再建術	その他・切断	血行再建術	交感神経切除	ステント・拡張	その他・切断	下肢静脈瘤
	68	0	3	2	0	66	34	10	0	0	1	4	5	6	28	27	0	1	17	13	0	4	0	0	0	23	23	0	0	0	29	21	290

呼吸器外科

スタッフ紹介

田内俊輔（主任部長）
 光井 卓（専攻医）（～2021年3月）
 大橋千裕（専攻医）（2021年4月～）
 高梨 碧（専攻医）（2021年4月～）

診療内容

原発性肺癌，転移性肺腫瘍などの胸腔内の腫瘍性疾患，気胸，膿胸などの胸腔内病変，縦隔・胸壁疾患などに対して主に手術療法を行う。

2021年のトピックス・実績

2020年8月よりda Vinci Xi Surgical Systemを用いたロボット支援胸腔鏡手術を開始した。現在100例を超え順調に症例数を積み重ねている。また気胸に対するReduced Port Surgeryを行い，より低侵襲な手術を心掛けている。

今後の展望

胸腔鏡手術を含む低侵襲手術から，心臓血管外科をはじめとした他科との連携を含む拡大手術まで行っている。今後も幅広い患者層の受け入れを行っていくため地域との連携を密に行い症例数の確保に努めたい。

表. 手術実績（2020年以降，年報の対象期間が1月1日～12月31日）

（単位：件）

	2018年度	2019年度	2020年	2021年
原発性肺癌	52	62	58	59
（うち胸腔鏡下手術）	(42)	(57)	(54)	(51)
転移性肺腫瘍	5	7	10	11
縦隔腫瘍，胸膜・胸壁腫瘍	8	13	7	12
気胸	47	39	38	29
感染性疾患（膿胸など）	14	7	7	21
その他	11	23	23	6
計	137	151	143	138

整形外科

スタッフ紹介

整形外科スタッフとしては、松島リハビリ主任部長、伊藤整形外科主任部長、矢野整形外科部長、脇整形外科医長の4名は昨年度と変わらず。レジデント（専攻医）は、3月末まで卒後6年目北澤医師、卒後5年目近藤医師の2名で、4月以降は卒後6年目大澤医師、後期2年目北村の2名で、1年間を6名の診療体制で行った。

松島は関節疾患、伊藤・矢野は脊椎疾患、脇は外傷～救急、専攻医は外傷～救急を中心に診療に当たった。

診療内容

1) 外来

整形外科としては、月・水・金曜日の初再診、木曜日の紹介初診という体制で臨んだ。救急科の対応により、手術中などでの人手不足時の診療断りが今年も大幅に減少した。救急科とは密に連携して、外来診療から入院への引継ぎを行った。

2) 手術

2021年（1月1日～12月31日）の手術件数は914件で、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり前年905件からの現状維持にとどまった。手術の内訳は外傷が中心であるが、脊椎外科、関節外科、手の外科、小児に至るまで症例は満遍なく、かつ豊富である。緊急度の高い感染症例、麻痺症例、開放骨折や脱臼に加え、小児の骨折や高齢者の大腿骨近位部骨折も準緊急として、可能な限り搬送当日の手術を行うように対応した。外傷手術が救急受け入れの数に応じて増加しており、手術内容も高度になってきている。

症例によっては、指導医を他機関より招聘して行い、更なるレベルアップを試みている。

内科的合併症を有する患者の手術への対応が引き続き必要とされており、周囲医療施設からの紹介も多い。全身状態が悪いケースが多く、難易度も高くなっているが、内科・麻酔科の強いバックアップと連携で対処している。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症がまん延している中で、周囲の基幹病院が新型コロナウイルス感染症対応に追われる中、当科としては整形外科疾患の地域救急医療を担う形となり、波はあったが整形外科疾患の救急対応が多い1年であった。スタッフ数増加のない中で経年的な実績維持は、救急科の助力、総合内科のバックアップなしでは到達が得られなかったと思われる。

ヒップフラクチャーセンターの運用が3年目となり、大腿骨近位部骨折の対応についての初療は救急科と連携し、入院が決定すれば総合内科と連携しながらの診療がスムーズに行えるようになった。1年365日24時間対応を目標に、できる限り患者受け入れを行い、2021年も年末年始とGWといった長期の休暇期間中に手術日を設け、準緊急手術施行を行った。麻酔科、手術室看護、病棟看護、技術部にも臨時体制で臨んでいただくことで早期手術、早期離床の目標を敢行することができた。

今後の展望

『医師の働き方改革』に沿う形で、時間外の手術対応、救急対応を現在のスタッフ数で維持することは不可能に近い。新型コロナウイルス感染症による病棟クラスターによる制限や閉鎖も頻発し、さらに受診控えも増えて、診療数の頭打ちは不可避と思われる。今後は、ヒップフラクチャーセンターから更に骨折リエゾンサービスへと質向上を行うことで、実績維持・増加を目指したい。

表. 2021年手術実績

【2021年1月1日～12月31日】

(単位: 件)

手術名	件数
脊椎外科	75
人工関節手術（股関節・膝関節・人工骨頭）	160 (22・31・107)
外傷（上肢・下肢・手部足部）	423 (71・237・115)
スポーツ	11
上肢・手	58
小児（主に外傷）	29
腫瘍（良性腫瘍）	3
その他（感染手術・抜釘など）	155
合計	914

産婦人科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：宮原義也（1996年卒）婦人科手術，婦人科化学療法，周産期管理 婦人科腫瘍専門医
部長：細谷俊光（1996年卒）婦人科手術，周産期管理
医長：林田恭子（2003年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医長：江島有香（2010年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医長：山崎 亮（2013年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医員：下川 航（2014年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般
医員：嶋村卓人（2016年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般
後期研修医：瀧川 若（2018年卒）産婦人科全般
後期研修医：苔原つばさ（2018年卒）産婦人科全般

診療体制

現在常勤9名で外来，病棟，手術，救急診療を行っている。そのうち産婦人科専門医は6名，指導医は2名である。神戸大学，千船病院及び高槻病院研修プログラムに属しており常時1-2名の後期研修医を受け入れている。

外来は婦人科及び初診は担当医制，産科はフレキシブルな対応が可能な交代制としている。午前3診，午後1診で1日平均100-120名の患者の診察に当たっている。

紹介元である医療機関は主に明石市内であるが，姫路，加古川，高砂から神戸まで非常に広範囲から初診紹介を受けており2021年は1,310件であった（図1）。

2021年のトピックス・実績

- ①2021年10月より手術支援ロボット（da Vinci Xi）によるロボット手術を再開し，12月までに7例のロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術を行った。
- ②腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体癌）を開始した。

活動内容

【産科領域】

東播磨地区の周産期医療における中心的基幹施設としての役割を果たしており，妊娠30週以降のハイリス

クの母体搬送を24時間体制で受け入れている。さらに2週間に1回開催する周産期カンファレンスでは，小児科医師，産婦人科医師，助産師，NICU看護師だけでなく，薬剤師，ソーシャルワーカー，臨床心理士が活発な議論を行っている。2021年の分娩件数は750件であり，昨年とほぼ同等であった。詳細は表1に示す。分娩件数の増加を図るため産科医療の充実のほか，待ち時間対策や食事その他のサービス部門も充実を図り大変好評である。周産期センター（ママ&ベビーセンター）の公式インスタグラムでリアルタイムの情報発信を行っておりフォロワー数も増加している（フォロワー数：約750名）。

【婦人科領域】

過去3年間で総手術件数は年々増加している（図2）。

良性卵巣腫瘍や子宮筋腫に対する低侵襲な腹腔鏡手術（約20件/月）を行っており，2019年から2021年にかけて年々低侵襲手術件数は増加している（図3）。また開腹手術は年々減少しているがこれは腹腔鏡手術へと移行したためと考えられた（表2）。

さらに良性疾患だけでなく悪性腫瘍手術も積極的に行っており，2021年は年間37例の初回悪性腫瘍手術を行った。さらに手術後の治療として，化学療法も行っている。また異所性妊娠（13例/年）をはじめとして卵巣腫瘍茎捻転，卵巣出血，不正性器出血などの婦人科救急患者も積極的に受け入れている。

今後の展望

- ①分娩数増加に向けた取り組みとして無痛分娩をできるだけ早く導入する。
 - ②ロボット支援下子宮全摘術手術の件数増加。
 - ③腹腔鏡下仙骨腔固定術及びロボット支援下仙骨腔固定術の開始。
 - ④悪性腫瘍手術の増加により日本婦人科腫瘍学会認定研修施設を目指す。
- 以上を今後の目標としたい。

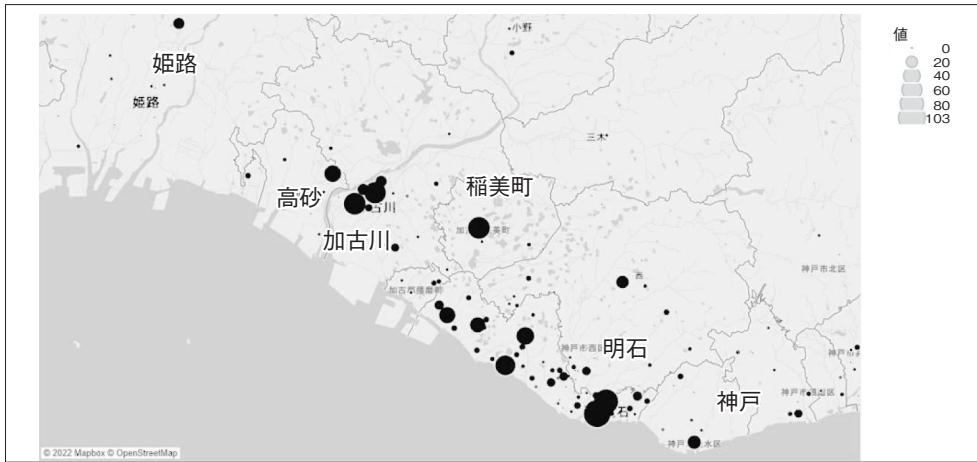


図1. 紹介元

表1.

	2021年
総分娩件数	750
分娩様式	
自然	314
誘発	58
促進	76
吸引	45
緊急帝王切開	104
予定帝王切開	140
死産	7
体重別	
～999g	8
1,000～1,499g	3
1,500～1,999g	27
2,000～2,499g	72
2,500～3,999g	659
4,000g～	6

(単位：件)

	2021年
週数別	
～21	7
22～29	0
30～31	2
32～34	29
35～36	48
37～41	665
多胎	25
院内助産	139

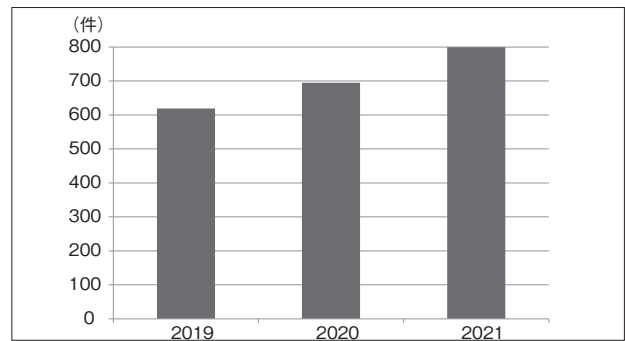


図2. 総手術件数

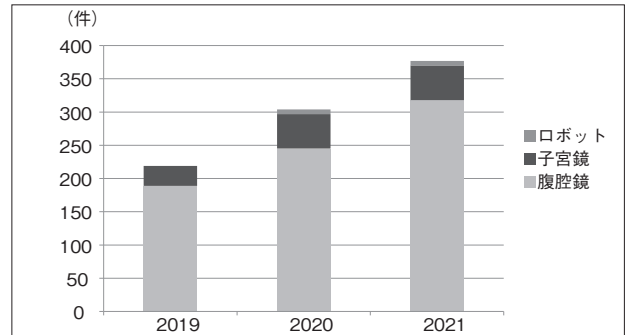


図3. 低侵襲手術件数

表2. 手術件数

	2019年	2020年	2021年
開腹手術			
単純子宮全摘術	58	55	30
付属器摘出術	57	11	1
子宮筋腫核出術	14	8	14
悪性腫瘍手術	20	34	37
異所性妊娠手術	2	2	0
その他	0	19	19
合計	151	129	101
腹腔鏡手術			
子宮全摘術	65	101	153
卵巣腫瘍摘出術	106	120	118
子宮筋腫核出術	9	8	26
ロボット手術	0	7	7
異所性妊娠手術	8	13	13
その他	0	0	7
合計	188	249	324

(単位：件)

	2019年	2020年	2021年
経腔手術			
円錐切除術	23	39	33
子宮鏡	30	52	54
腔式子宮全摘術	15	9	17
その他	7	18	28
合計	75	118	132
帝王切開術			
予定	105	114	140
緊急	84	81	104
合計	189	195	244

総合計	603	691	801
-----	-----	-----	-----

麻 酔 科

スタッフ紹介

主任部長	三宅隆一郎
部 長	河合 建 (～2021年3月)
	岡本健志
医 長	藤島佳世子
	松尾佳代子 (2021年8月～10月千船病院)
医 員	濱崎 豊
	松岡基行 (2021年12月で退職)
	米田優美
	山崎翔太
	田中 舞
	森本優佳子 (2021年11月～千船病院)
専 攻 医	小野嘉史 (2021年3月で退職)
	菅野 睦 (2021年5月から大阪市総合医療センター, 10月から神戸市立医療センター中央市民病院)
	小池紗季
	松本あい

診療内容

- 手術室・アンギオ室・内視鏡室・LDRでの麻酔業務を行った。
- 入退院支援での麻酔科術前診察を行い、家族を含めた麻酔の術前説明・周術期歯科連携の充実を図った。
- 夜間当直帯のICU業務と緊急麻酔を行った。

2021年のトピックス・実績

- 麻酔業務の実績を別表に示す。
- 連携施設の神戸市立医療センター中央市民病院より梶野超生麻酔科医師を心臓外科麻酔研修として受け入れた。
- 田中医師が明石医療センター麻酔科後期研修プログラムを終了し、2022年4月より専門医機構認定の麻酔科専門医となる。

- 麻酔科後期研修プログラムに小池専攻医、松本専攻医、井川専攻医、西専攻医が登録した。
- 井川専攻医は高槻病院にて研修開始し、西専攻医は大阪市総合医療センターにて研修を開始している。
- 年間を通じ週1回ほど神戸麻酔アソシエイツの心臓外科麻酔を専門とする麻酔科医を招聘した。
- 明石市消防局所属の救命士の挿管実習を行った。
- 松尾医長と森本専攻医が千船病院で無痛分娩の麻酔研修を行った。

今後の展望

日本麻酔科学会の専門医研修施設かつ心臓血管麻酔専門医修練施設であり、また集中治療学会の専門医研修指定病院であるのが特徴で、幅広い知識と必要な情報・経験を得られるよう麻酔研修プログラムを作成して、全国から麻酔科専攻医を受け入れている。連携施設からも研修を受け入れて相互連携を強めている。

手術室と南2階LDRにて新型コロナウイルス感染症に感染した妊婦の帝王切開を数件行った。今後も新型コロナウイルス感染症の後遺症が残存した患者でも麻酔科管理が必要となる症例が増えていくだろう。緊急手術が703件と全体の2割以上を占めており、増加傾向である。急な追加症例にも外科医と協力して適切に対応していくことで、東播地区の救急医療を支えていきたい。

今後も充実した研修を通して麻酔の人員を確保して、愛仁会の麻酔科医の増強を図り、継続して急性期医療の対応をしていきたい。

明石地区で無痛分娩の管理を積極的かつ戦略的に行うため、千船病院の魚川医師より助言をもらいながら実施計画を進めている。麻酔科による安全かつ満足度の高いlabor analgesiaを提供することで、周産期麻酔の件数と分娩件数増を目指す予定である。

表. 麻酔科実績

【合計】 (単位: 件)

手術件数	3,113	(うち手術室内 2,970, 手術室外 143)
提供停止症例数	0	

【ASA PS】 (単位: 件)

予定 1	2	3	4	5	6 (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
314	1,459	620	17	0	0	2,410
緊急 1 E	2 E	3 E	4 E	5 E	6E (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
70	349	258	26	0	0	703
						3,113

【手術部位】 (単位: 件)

a. 脳神経・脳血管	0	h. 頭頸部・咽喉部	5
b. 胸腔・縦隔	150	k. 胸壁・腹壁・会陰	174
c. 心臓・血管	430	m. 脊椎	64
d. 胸腔+腹部	1	n. 股関節・四肢 (含: 末梢神経)	816
e. 上腹部内臓	317	p. 検査	1
f. 下腹部内臓	852	x. その他	64
g. 帝王切開	239	合計	3,113

【麻酔法】 (単位: 件)

A. 全身麻酔 (吸入)	597	F. 硬膜外麻酔	0
B. 全身麻酔 (TIVA)	261	G. 脊髄くも膜下麻酔	463
C. 全身麻酔 (吸入) + 硬・脊, 伝麻	1,004	H. 伝達麻酔	3
D. 全身麻酔 (TIVA) + 硬・脊, 伝麻	562	X. その他	15
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 (CSEA)	208	合計	3,113

【年齢構成】 (単位: 件)

	男性	女性	合計
A. ~1か月	0	0	0
B. ~12か月	0	0	0
C. ~5歳	0	4	4
D. ~18歳	45	19	64
E. ~65歳	488	986	1,474
F. ~85歳	729	577	1,306
G. 86歳~	68	197	265
合計	1,330	1,783	3,113

【体位】 (単位: 件)

1. 仰臥位	2,036
2. 腹臥位	88
3. 側臥位	344
4. 切石位	493
5. 坐位	0
6. その他	152
合計	3,113

【偶発症例】 (単位: 件)

A. 危機的偶発症	1
B. 神経系偶発症 (脳・脊髄)	1
C. その他の神経系偶発症	0
D. その他	0
合計	2

【性別】 (単位: 件)

男性	1,330
女性	1,783
合計	3,113

【経験必要症例】 (単位: 件)

胸部外科	136
脳神経外科	0
心臓血管外科 (1群)	132
心臓血管外科 (2群)	313
帝王切開	239
小児 (6歳未満)	4
合計	824

集中治療科

スタッフ紹介

多田羅康章

納庄弘基

小野嘉史（～2021年3月）

診療内容

- ・集中治療室における患者管理
- ・ICU入室予定の緊急手術対応（麻酔科対応困難時）
- ・入退院支援室での周術期外来

2021年のトピックス・実績

他施設の認定看護師研修の代行

今後の展望

- ・専従医師の増加に伴うICUでの患者滞在期間の短縮
- ・NPプログラムを含めた看護師特定行為資格者の増加に向けた研修先の提供
- ・術後患者疼痛管理の強化やAPS回診の開始
- ・集中治療加算1取得に向けた施設設備面以外での準備



井上病院



10:1急性期病院
地域包括ケア病棟
慢性維持透析
訪問診療/訪問看護
全127床
外来透析200床

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町16番17号
TEL.06-6385-8651

院長 辻本吉広(～2021年3月)
右梅貴信(2021年4月～)

腎臓内科

スタッフ紹介

- 藤原木綿子：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
- 一居 充：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会腎臓専門医・指導医，日本医師会認定産業医
- 前田忠昭：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本腎臓学会専門医，日本透析医学会透析専門医
- 福永 慎：日本内科学会認定内科医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会腎臓専門医，日本透析アクセス医学会VA血管内治療認定医
- 奥手祐治郎：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本腎臓学会専門医

診療内容

(入院病棟)

- ・対象疾患：腎炎・ネフローゼ症候群（腎生検を含む），急性・慢性腎不全，血液透析や腹膜透析の導入，透析患者の合併症管理
- (腎専門外来) 月曜日～土曜日，専門医による腎専門外来
- ・対象：糸球体腎炎，多発性のう胞腎，慢性腎臓病

2021年のトピックス・実績

腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の腎生検診断・治療と，慢性腎不全患者の外来診療，透析導入，合併症加療を行った。

腎不全の入院部門では，新型コロナウイルス感染症の対応が続く中，腎生検を14件実施した。腎生検結果の内訳はIgA腎症3件，ANCA関連腎炎3件，微小変型ネフローゼ症候群3件，腎硬化症1件，糖尿病性腎症1件，メサングウム増殖性腎炎1件，ALアミロイドーシス1件，感染後腎炎1件と多彩な症例像であった。腎不全の教育入院は新型コロナウイルス感染症の影響で9件だった。

腎不全の外来部門では2018年から活動を開始したCKDチームが活躍した。2021年は内科外来へCKD患者380名が通院し，そのうちCKDG5期の115名全員にチーム介入した。腎臓内科医師・看護師（内科・腹膜透析科）・社会福祉士・栄養士・リハビリ・薬剤師・事務で構成された多職種によるチームが，診察待ち時間に患者に関わるようにしている。その中で看護師や社会福祉士により患者背景を把握し，半年から数年かけ均一なCKM（Conservative Kidney Management）含む腎代替療法選択説明を行っている。またCKDG36-4期には腎不全の進行を予防するため，腎臓リハビリを28名に介入した。現在腎臓病療養指導士は7名となった。

透析患者の入院部門では，透析導入43件，透析患者の合併症入院1,231件であった。透析患者の合併症の入院の1位は，シャント狭窄・閉塞で250件（20.3%）であった。

特殊血液浄化として，CHDF9件，血漿交換21件，レオカーナ165件を行った。

外来透析部門では，透析患者693名（2021年に当院に通院した人数）の管理を行った。その中でもオーバーナイト透析が前年に引き続き好評を得ており，31名と年々増加している。その他在宅透析5名，腹膜透析47名の診療を行った。

今後の展望

当院は腎臓に関して幅広く研修していただくために，日本腎臓学会，日本透析医学会，日本糖尿病学会の教育施設であり，2021年には腹膜透析研修施設の認定を受けた。病院の規模に比較し腎臓専門医がそろっており，今後も若手医師・看護師の育成を続けていきたい。

高齢化社会になっていく今後10年は，当院が実績をもつ幅広い透析の提供を継続して行うとともに，嚙下障害や骨折，閉塞性動脈硬化症など高齢に伴う合併症への対応を引き続き他科と協力して対応していく。また近隣のクリニックへの啓蒙を続け，保存時腎不全CKDG3bからのCKDチーム介入により，腎不全進行抑制や，腎代替療法選択説明にも引き続き力を入れていく。CKMのケースも増えてきており，その対応も形作る必要があるだろう。

循環器内科

スタッフ紹介

常勤医1名 高井栄治 1994年卒業
非常勤の循環器専門医2名（大阪大学医学部2名）

診療内容

主に透析患者，慢性腎臓病患者の循環器疾患に対して，循環器専門医として，入院，外来診療を行った。循環器合併症に際して，基幹病院と適切に連携を行った。

2021年のトピックス・実績

循環器外来受診患者数は延べ1,628名であった。その内訳は移植腎患者89名，透析患者361名と，腎臓，透析専門病院に特徴的な比率であった。

常勤医が受け持った，循環器入院患者は154名であった。

今後の展望

透析患者では，冠動脈疾患，閉塞性動脈硬化症など動脈硬化性疾患と，心臓弁膜症，不整脈が高頻度で出現している。

虚血性心疾患では，無症候性心筋虚血が多く，急性冠症候群の発症には注意が必要である。適切な時期に，心筋虚血，冠動脈病変の評価，治療が行えるよう，丁寧に

診療し，基幹病院と連携を行っている。

大動脈弁狭窄症では，病態管理と基幹病院との連携が特に重要である。治療については，人工弁置換術が中心であり，適切な手術時期の判断が重要である。透析患者における保険診療が開始されたTAVI治療も考慮して慎重に診療している。

透析患者での心房細動における抗凝固療法は，現状ワファリンのみであるが，人工弁患者など以外では禁忌とされている。しかし，心内血栓，脳血栓塞栓症2次予防には必要であると考えている。出血性合併症の懸念があり，導入，管理は慎重に行っている。

血栓塞栓症予防以外に，心不全や透析困難症回避のためカテーテルアブレーション治療が有効であり，基幹病院と適切に連携している。透析患者のアブレーション治療の成功率，再発率を懸念し，心拍数コントロールの重要性を再認識し，診療を行っている。

透析患者だけでなく，入院，外来の非透析患者に対しても真摯に丁寧な診療を行っている。近隣基幹病院だけでなく，法人内連携も積極的に行っている。

吹田，江坂地域の患者に役立つ医療を提供できる環境を，今後も強化していく方針である。

眼科

スタッフ紹介

眼科医 5名（常勤1名，非常勤4名）
検査員 3名

診療内容

外眼部疾患から眼底疾患までの診療を行い，必要時には症状に応じて専門医へ紹介している。

2021年のトピックス・実績

白内障手術や光凝固術のほか，硝子体注射治療も行っている。

視野検査	976件
白内障手術	92件
硝子体注射	37件
YAGレーザー	40件
レーザー光凝固術	23件

白内障手術，硝子体注射は兵庫医科大学からの非常勤医師とともに行っている。

第3水曜日の午後には視覚障害申請のための外来を行っている。

今後の展望

透析患者，糖尿病患者の眼合併症の診断・治療を適切に行い，長期に通院を継続できる眼科を目指す。また，白内障手術を積極的に行っていく。

糖尿病内科

スタッフ紹介

2021年は日本糖尿病学会認定教育施設として、研修指導医が1名（土蔵尚子）、専門医が3名（下村菜生子、木津あかね、宮部美月）在籍して臨床と研究に従事している。糖尿病療養指導士として11名（管理栄養士が2名、薬剤師が2名、看護師が7名）、糖尿病看護認定看護師が1名、フットケア指導士が4名活動している。

診療内容

糖尿病専門外来は毎日行う体制で、日本糖尿病学会指導医、専門医による糖尿病の診断・治療を行うとともに、外来糖尿病教室や糖尿病教育入院を担当している。さらに、地域医療を重要視し、糖尿病内科医師全員が他科と協力して一般内科の診断治療や救急対応の担当にも従事している。糖尿病合併症は、全身の合併症を診療する必要があり、他専門科と連携を行っている。糖尿病教育入院は、約1週間の入院期間中に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師とのチーム教育医療により、糖尿病の知識や自己管理の向上に寄与する。多様な要望に合わせ、注射手技の獲得や低血糖の対処法の指導など週末短期入院も行う。糖尿病性腎症は、早期の糖尿病性腎症から腎不全治療、透析導入まで一貫した治療が可能で、腎機能に合わせた血糖管理を行っている。フットケア外来は毎週1回開設しており糖尿病合併症管理料の算定ができています。地域の健康増進と疾病予防の目的のため行ってきた健康教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、引き続き2021年も開催は休止し、ホームページや待合室のテレビ放映での啓蒙活動を行った。

2021年のトピックス・実績

糖尿病の外来診療では、糖尿病の検査を行った人数は1,903名と減少傾向にあるものの、薬物・注射療法を行った人数は年間776名と毎年増加していた（図参照）。透析部門では、通院透析患者の糖尿病患者368名のうち、薬物・注射療法を229名に行った。また糖尿病透析予防指導は、2021年の登録者数は30名となった。フットケア外来では29名に糖尿病合併症管理料の算定がなされた。一方、入院については糖尿病教育クリニカルパスの運用数は10件であった。

今後の展望

依然として患者数が増加し続けている糖尿病は本院の基幹診療部門である慢性腎不全、人工透析の原疾患として、その初期診療から保存期、透析導入までの切れ目のない医療の重要性は、繰り返し強調されるべきである。糖尿病は種々の血管病変、各種の悪性腫瘍、そして今後更に増加する認知症などとの関連性も明らかであり、その診療の重要性は地域医療のためにゆるぎないものである。今後も糖尿病学の進歩に遅れることなく、最良の医療を提供できる体制を維持していきたい。

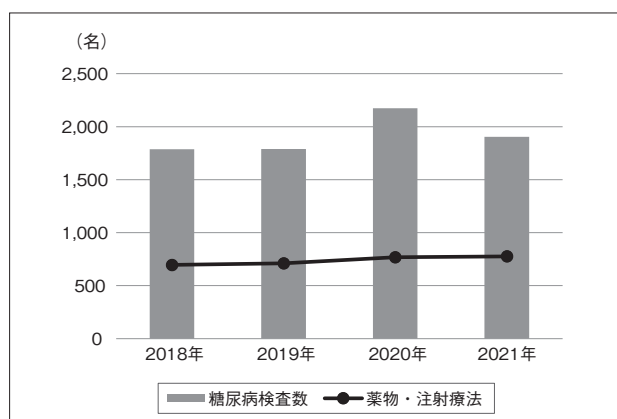


図. 糖尿病患者数の推移

消化器内科

スタッフ紹介

2021年も2020年と同様に、上部消化管内視鏡検査は大野恭太、下村菜生子が、下部消化管内視鏡検査、嚥下内視鏡検査、内視鏡的治療の止血術、大腸ポリープ切除術、内視鏡的胃瘻造設術、胃瘻ボタン交換は大野恭太が担当した。胃瘻造設は下村菜生子の協力の下に施行した。消化器専門外来は大野恭太が担当した。他には非常勤医が肝臓専門外来を開いている。本院の診療機能から見ると、マンパワーとしては十分と考えている。

診療内容

消化器外来は従来どおり週2回、定期的上部消化管内視鏡検査は週3回、下部消化管内視鏡検査は週2回である。嚥下内視鏡検査は火曜日、あるいは金曜日の午後、胃瘻交換は月2回金曜日午後、内視鏡治療については必要時に随時施行した。非透析患者の消化器関連の入院患者は可能な限り大野が担当していることも2020年同様であった。

2021年のトピックス・実績

2021年（1/1から12/31、以下同様）の上部消化管内視鏡検査は507例であり前年（2020/1/1から2020/12/31、以下同様）の458例より増加した。前年の新型コロナウイルス感染症流行の影響が薄れたものと思われる。また下部消化管内視鏡検査は2021年281例であり、前年216例より、やはり増加となった。消化管出血の内視鏡的止血術は14例、大腸ポリープ切除術は86例であり、回復してきている。嚥下内視鏡検査は15例（前年13例）とこちらも増加した。内視鏡的胃瘻造設術が12例（前年8例）、胃瘻交換が36例（前年37例）であった。胃瘻造設は本院の透析患者が長期経口摂取不能な場合に、主治医の依頼で行っている。胃瘻交換の大半は院外の施設からの紹介患者であり、法人（愛仁会）の老健施設からの依頼が多かったが、他施設や在宅からの紹介も本院での造設例以外の症例も一定数認められる。

今後の展望

消化器外科のない本院での消化器内科の活動には限界があることには変わらない。特に緊急性のある胆道系の疾患を扱うためには、複数の熟達した消化器内科医と、そのバックアップとなる消化器外科の存在が必須であるため対応できない。また緊急での外科対応が、ある確率で必要となる腸閉塞は、仮に内科単独で完結可能な症例であっても、切れ目のない経過観察とそれに付随した対応が必要であり、今の体制では受け入れ困難である。消化管出血も対応する医師が一人であれば、時間帯によっては対応困難となる。本院の消化器内科は、本院の維持透析患者の消化管出血が本院で対応できるか否かの見極めのために存在意義があると考え、抗血栓剤を内服している患者が多く、微細な病変から繰り返し出血するケースが多数を占め、出血性ショックには至らないのが通常であり、一人医長体制でも対応可能である。嚥下内視鏡検査は嚥下造影検査に比べて、ベッドサイドで被爆することなく容易に施行でき、これからますます増加してくる誤嚥性肺炎の患者の嚥下機能の評価、嚥下リハビリの効果判定には有力なメソッドでありNSTチームを通じての依頼が多くを占めている。誤嚥性肺炎を本院で積極的に診療する体制が整い、今後も安定した需要が見込まれる。下部消化管内視鏡検査においては本院で検査が再開されて7年目となり、2回目、3回目の大腸内視鏡検査を希望されるリピーターの増加が検査数の維持、増加に大切である。消化器外科がないことから、内視鏡検査、治療において事故を起こさない安全な対応を行うことに、十分な注意をもって、施行している。これまでのところ大腸ポリープ切除後、あるいはほかの内視鏡手技後の重篤なトラブルゼロは更新されている。

今後もこの安全な内視鏡検査、内視鏡的治療を維持することが第一であることには変わらない。

泌尿器科

スタッフ紹介

右梅貴信，大北恭平
本年4月より常勤医2名での診療体制となっている。

診療内容

外来診療，入院診療及び手術加療を行っている。詳細は後述する。

2021年のトピックス・実績

尿路悪性腫瘍手術（副腎，腎，膀胱，前立腺，陰囊）を行っている。昨年度に引き続き，経直腸的前立腺生検，経尿道の手術，尿管ステント留置術，腎瘻造設術などを行っている。

また，昨年に引き続き，腎腫瘍に関しては腹腔鏡下手術も積極的に行っている。

さらに今期より経尿道的尿管結石破碎術（f-TUL）を導入し，結石治療も積極的に行っている。

2021年泌尿器科手術件数を以下に示す。

今後の展望

本年4月より右梅院長が着任され，泌尿器科は2名体制となった。外来診療枠の増設を行い，日々の外来診療に努めている。

また，手術でも今期より経尿道的尿管結石破碎術（f-TUL）を導入した。来期も引き続き，結石治療をはじめ，前立腺生検，経尿道の手術や腹腔鏡手術も継続し，更なる手術件数の上昇を目指したい。

表. 手術件数

(単位：件)

手術名称	件数
経尿道的尿管ステント留置術	25
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	8
膀胱悪性腫瘍術（経尿道・電解質溶液利用）	8
経尿道的尿管ステント抜去術	7
経尿道的尿路結石除去術（f-TUL）	6
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	5
皮膚切開（長径10cm未満）	3
膀胱腫瘍摘出術	2
膀胱瘻造設術	2
陰囊水腫手術（その他）	1
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）	1
精巣悪性腫瘍手術	1
膀胱結石摘出術 経尿道の手術	1
総計	70

透析内科

スタッフ紹介

常勤透析専門医や常勤腎臓内科医及び糖尿病専門医が中心となって、約600名の患者の透析回診を行っている。

診療内容

当院には外来透析200床の透析ベッドがあり、常勤透析専門医が中心となって透析管理を行っている。

基本的に1名の患者に対してデータ回診医1名と透析管理医師2名で回診しており、複数の目で患者の状態を把握できる診療体制となっている。

様々な透析合併症の早期発見を行うために、回診医の指示などにより各種アセスメントの充実、様々な指導が行われている。

2021年のトピックス・実績

2018年9月からオーバーナイト透析を開始した。2021年は、オーバーナイト透析患者が28名から32名まで増加した。開始後3年以上が経過し順調に患者数が増えていることから、さらに受け入れ確保をするため日中の透析患者の透析フロアの調整を行った。また至適透析を勧め、臨床工学技士と連携し、オンラインHDFが、2021年40%から43%へ増加した。

また透析棟6階では、水素水使用による透析を開始し、疲労の改善がみられる結果が報告された。今後も水素水使用を継続している。

感染管理については、2021年も全体研修を行い、透析室においてビニールカーテン廃止や消毒物品の適正化及び消毒液のエタプラスゲル使用状況を確認し、標準予防策が徹底され質の高い感染管理を実施できている。

2021年も新型コロナウイルス感染症に対し感染管理の徹底が必要となった。血液透析治療は週に3回通院があり、集団での同フロア利用のため他者と接触しやすい環境である。また医療従事者も患者と接する機会が多く、日頃から感染予防策を心掛けることを互いに認識するようになり、大規模な感染拡大に至らず経過している。

そのほか2020年より入院透析患者の安定した食事摂取の確保と病棟でのケアを行うことを目的に、午後透析を開始した。以後積極的なリハビリの実施に繋がっている。

また2021年から通院透析患者に対し新たに栄養評価としてNRI-JHの評価を開始した。栄養状態が悪い患者に対しては、栄養士が直接患者に聞き取りを行い、栄養状態改善を目指す取り組みを実施している。

今後の展望

維持透析患者の高齢化により、これまでのような広域からの透析患者の集客が難しくなってきた。これまでは送迎サービスによる集患に頼ってきたが、近隣クリニックのほとんどが送迎サービスを行うようになっており、送迎サービスによる集患も厳しくなってきた。

また北摂地域は日本でも有数の腎臓内科医の多い地域となっており、地域基幹病院から保存期の状態で紹介されることが減少している。

以上の状況を踏まえて下記の取り組みを開始している。

透析患者の新たな集患を目的に、オーバーナイト透析を立ち上げ順調に進んでいる。希望者があれば引き続き行えるような体制を準備している。また当院の強みである医療と介護の連携を活かして、在宅医療としての腹膜透析診療の強化を行っていくため、内科外来での腎代替療法への取り組みに注力している。こちらも多職種が連携して、透析の療法選択を行った上で腹膜透析も選択できる環境が整ってきており、引き続き取り組んでいく予定である。

放射線科

スタッフ紹介

森本 章

田中佐織

応援スタッフ

読影：非常勤医師 3名

透析シャントPTA：常勤内科医師 3名
非常勤医師 4名

2020年件数

CT 5,067件

MRI 1,856件

シャントPTA 1,231件

2021年件数

CT 5,178件

MRI 1,873件

シャントPTA 1,381件

診療内容

(画像診断)

CT・MRIなどの検査依頼が他科の医師からあった場合に、最も適切な撮影方法を診療放射線技師に指示し、安全で最適な検査を提供し、翌営業日までに速やかに検査報告書を作成するように努めている。また非常勤医師の作成した検査報告書に関してもダブルチェックすることで画像診断の質向上に努めている。

(透析シャントPTA治療)

狭窄や閉塞が原因で生じているシャントトラブルに対し、カテーテル治療を行っている。予約受付スタッフによる適切な予約振り分けにより、予約枠はほぼ埋まっている状態を維持しており、シャント血栓性閉塞などの準緊急症例に対してもほぼ当日に予約外で対応を行っている。

今後の展望

CT・MRI・シャントPTA共に徐々に増加しているが、さらに多くの施設の先生方からの紹介をいただけるように広報も積極的に行っていきたい。

当院のX線TV装置の更新が必要となる。シャントPTAでの血管造影室のバックアップ、泌尿器科治療、健診胃透視、透析カテーテル留置などで使用しているため、計画的な更新が求められる。

透析シャント治療ではウロキナーゼ供給停止となり、再販の目途が立たない状況であるが、シャント閉塞治療への影響が最小限となるように対応していきたい。またシャントPTA治療に関しては後進育成にも貢献していきたい。

2021年のトピックス・実績

2019年件数

CT 4,804件

MRI 1,710件

シャントPTA 1,160件

麻 醉 科

スタッフ紹介

坂本 元 主任部長
稲田拓治 部長

2021年のトピックス・実績

1. 活動実績

麻酔科管理症例数は、362件であった。昨年と比較して微増となった。362件のうち、重症に該当する患者は261件（72.1%）であった。全身麻酔症例数は、347件であり同様に昨年と比較して微増であった。麻酔科管理症例数の77.3%に、エコーガイド下神経ブロック又は硬膜外麻酔を施行した。

2. 診療内容

2020年4月より日本麻酔科学会麻酔科認定病院に認定された。当院は、透析患者が多いためリスクが高い症例が多い。そのため、麻酔科医2名体制で患者の安全・安心を目指して、日々の麻酔業務を行っている。また、末期腎不全患者や透析患者に対する緩和医療を、内科医と協力しながら積極的に行っている。麻酔科医と手術室看護師及び外科医とのチームワークは良好であり、働きやすい環境である。

3. 業績

日本麻酔科学会第68回学術集会において、稲田部長が「術中PEEPとリクルートメントの至適圧に関する研究」の発表を行った。

今後の展望

1. 麻酔科管理症例数及び全身麻酔症例数の増加が急務
当院は、2019年4月より麻酔科医2名体制となっているため、24時間365日いつでも麻酔を引き受けられる体制となった。一方で、外科系診療科の体制に2021年も変化がないため、大幅な手術件数の増加は期待できない。今後、外科系診療科医師の増員や新たな外科系診療科の新設が早急に求められる。麻酔科医的にも、まだ余力があるので積極的にどんどん麻酔業務を行っていききたい。また、泌尿器科医師及び手術室看護師と検討した結果、2022年1月より透析患者以外の経尿道的膀胱腫瘍切除術に対して「脊髄くも膜下麻酔」を行うことに決定した。

2. 自己研鑽

今後も学術集会での発表及び論文の執筆を積極的に行う。学術集会の発表は、1人年1回以上を目標とする。

3. その他

ホームページやYouTube、地域医療連携の会などを通して、「井上病院は透析だけでなく手術と麻酔も積極的に行っている」という認知度を広めていきたい。さらに、外科系医師との連携をより深めることで、手術件数及び麻酔件数を上昇させていけるよう努力したい。

表1. 麻酔方法別

(単位：件)	
方法	件数
全身麻酔	72
全身麻酔+硬・伝達麻酔	275
伝達麻酔	5
その他	10
計	362

表2. ASA PS (リスク分類)

(単位：件)	
分類	件数
1 (健康)	11
2 (軽症)	85
3 (重症)	234
4 (瀕死)	16
1-4 (緊急)	17

表3. 年齢別

(単位：件)	
年齢	件数
～18歳	0
～65歳	88
～85歳	230
86歳～	44

外科

スタッフ紹介

藤原一郎 主任部長

福永 慎 医長

診療内容

- ・血液透析関連手術
- ・腹膜透析関連手術
- ・その他：鼠径ヘルニア，内痔核など簡単手術

2021年のトピックス・実績

- ・昨年に続き新型コロナウイルス感染症と予防に大きな労力を要した。

- ・全手術件数は微増であった。
- ・CAPD関連が激減したので今後注力していきたい。
- ・AVFのPTA治療が充実してきており簡単なAVF再建はほぼ無くなり困難なAVG作製が増えてきた。CAPDFの導入困難症例も多い。

今後の展望

当院の血液透析や腹膜透析医療をVAIVTやCAPD担当科と連携し維持していきたい。近隣のクリニックや病院のアクセストラブルの治療にも積極的に取り組み当院が透析医療の先進的立場を維持していきたい。

表. 2021年外科手術件数

(単位：件)

AVF 79件 (△9)	造設	42	CAPD 23件 (▲21)	SMAP	6	
	再建	15		チューブ留置	2	
	瘤切除	1		出口部作成	4	
	静脈バイパス	1		出口部変更	2	
	血流抑制	4		抜去	8	
	バンデング解除	0		腸管癒着剥離術，固定	1	
	血栓除去	0		留置型Wルーメン 50件 (△0)	留置，入れ替え	35
	閉鎖	16			抜去	15
AVG 82件 (△12)	造設	44	その他 27件 (△5)	鼠径ヘルニア (腹腔鏡)	9	
	バイパス	17		鼠径ヘルニア (切開)	1	
	抜去	3		痔核切除	0	
	置換	6		ジオン硬化療法	6	
	血栓除去	8		CVポート	6	
	閉鎖	3		イレウス	1	
	グラフト縫合	1		腹壁癒着ヘルニア	2	
動脈表在化 0件 (△0)		0	臍ヘルニア	1		
			アテローム切除	1		
			その他，創処置	0		
			総計		261	

心臓血管外科

スタッフ紹介

副院長・心臓血管外科主任部長 谷村信宏
 心臓血管外科専門医・修練指導者
 日本外科学会指導医・専門医
 日本脈管学会認定脈管専門医
 日本フットケア・足病医学会評議員、フットケア指導士及び学会認定師
 日本胸部外科学会専門医会員（認定医）
 ICD（インフェクションコントロールドクター）
 近畿外科学会評議員
 日本心臓血管外科学会，日本血管外科学会，
 日本静脈学会 など

診療体制

主に末梢血管外科診療を行っているが、必要に応じて一般外科診療・外科救急診療にも対応している。

手術・血管内治療

月曜日：下肢静脈瘤硬化療法，局所麻酔下小手術
 火曜日：全身麻酔下血管外科手術
 水曜日：血管内治療
 金曜日：血管内治療，全身麻酔下血管外科手術
 ※緊急手術に関しては，随時対応している。

活動内容及びトピックス

1. 患者数の推移

外来患者数は年ごとに増加していた。また，今期も紹介患者は院内紹介だけでなく，院外からの紹介が増加しており，血管外科診療における施設間連携も功を奏していると考えられる。

2. 血管造影室使用状況（血管造影及び血管内治療）

下肢血管内治療症例数は昨年よりも増加し，血管外科施設として，大阪府下でも有数の血管内治療実施施設であることに変わりはない。スタッフとしては，住友病院・大阪市立大学医学部附属病院からの非常勤医師だけでなく，放射線科 森本副院長を始め，放射線科スタッフ及び看護部の多大な協力に感謝している。

3. 外科的手術症例の推移

手術に関しては，2021年は昨年と比べて減少したが，

当院の末梢血管症例においては，透析を伴った重症例が多いため，血管内治療で対応することが多かった。ただし，当科の十八番であるdistal bypass術の症例数はほぼ同数であり，麻酔科常勤医が2人になったこと，また神経ブロックを多用する低侵襲麻酔で，高齢者・重症患者に対しても安全に手術を行うことができるため，他院で手術不能とされた症例でも，必要に応じて手術することが可能であることが功を奏している。これらの成績は，学会などでも積極的に発表しており，可能な限り外科的の血行再建術に移行するように方針転換してきた成果が認められてきている。全国的にも，重症透析例に対する末梢血管手術を行っている施設が少ないため，今後も積極的に進めていきたいところである。さらに，足部壊死に対する下肢切断も形成外科医の協力の下，自科で行うことによって，包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対する一貫治療を行っている。

4. 院内フットケアチームの創設

糖尿病内科木津部長とも協力し，院内のフットケア指導士・特定看護師などを中心に，院内フットケアチームを創設した。定期的に会合を持ち，情報共有を図りつつ勉強会も開催している。院内全体での下肢救済への取り組みを更に進めていきたい。

5. 新しい治療法の導入

慢性疼痛，特に下肢虚血による疼痛コントロールを目的に，脊髄刺激療法（SCS）を導入した。また，HGF 遺伝子治療用製品（コラテジェン[®]）及び新しいLDL-aphereis（レオカーナ[®]）を導入し，包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）への治療選択肢が増加した。レオカーナ[®]については関西一の使用症例があり，今後の治療成績に期待したい。

今後の展望

1. 院内フットケアチームもできており，今後も院内スタッフ教育に力を入れ，地域医療面でも市民公開講座や研究会などを主催して地域連携を深めたい。その他，当院で主催している北大阪フットケア勉強会，更に関西血管外科倶楽部やOASIS（大阪重症虚血肢救済に対する集学的シンポジウム）などに参加して関西の血管治療医やフットケアに携わる医療従事者と広く連携しており，今後もこの活動を更に広めていきたい。
2. 学会及び研究会などにて引き続き発表を行ってお

り、愛仁会井上病院の知名度も上がってきている。
今後も引き続き活動を広めていきたい。

3. 当院は元々透析患者の診療が得意であり、他施設ではまねのできない部分である。この強みを活かし、

今後も透析症例の包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）
に対して積極的に診療を行いたい。

4. 今後も当院での診療拡大を図るべく、新たな人材確保にも留意したい。

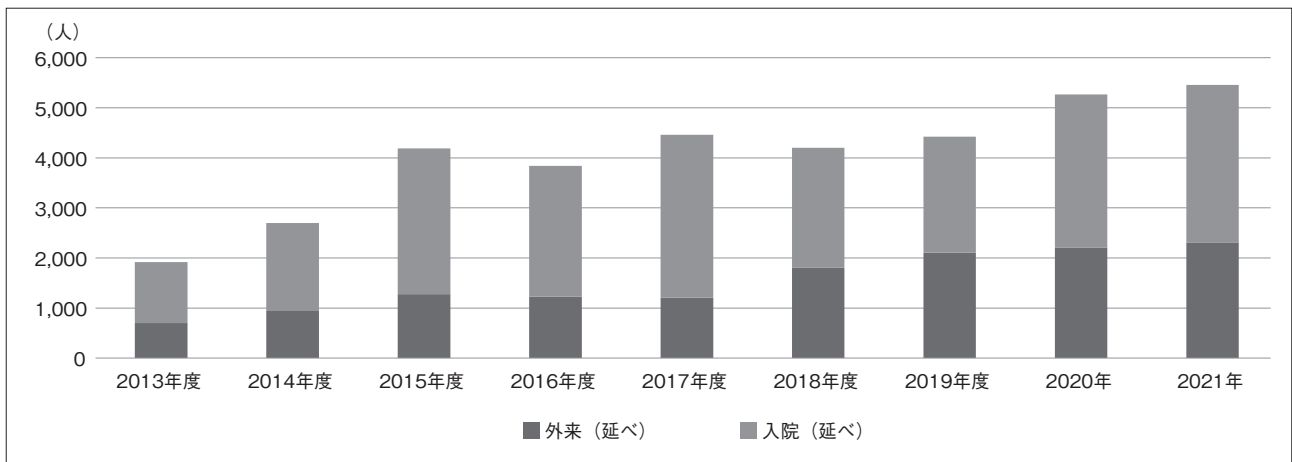


図1. 患者数の年次推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

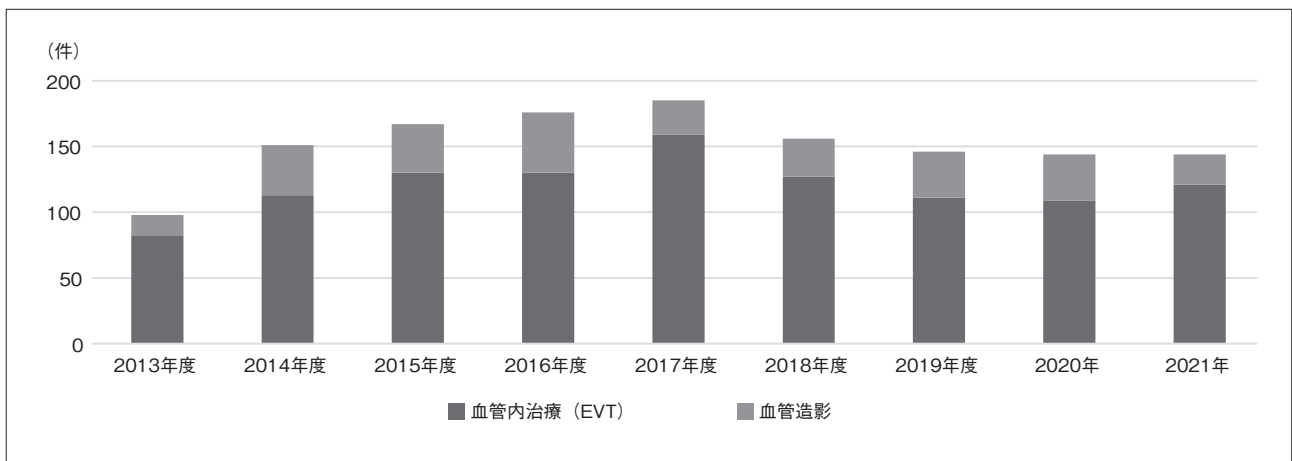


図2. 血液造影及び血管内治療の年次推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

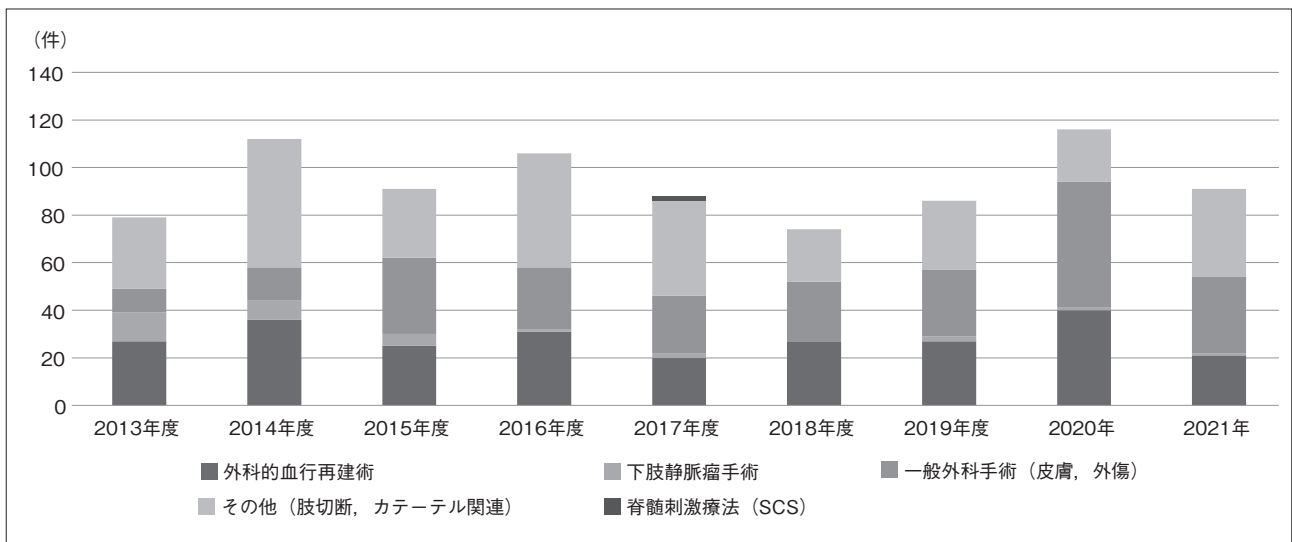


図3. 手術症例数の推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

リハビリテーション科

スタッフ紹介

リハビリテーション科
 担当副院長 佐藤宗彦
 リハビリテーション科
 科長 山口勝生
 主任 松藤勝太
 主任 田邊晃平
 <理学療法士> 15名
 <作業療法士> 3名
 <言語聴覚士> 2名
 <健康運動指導士> 2名

診療内容

- ①地域包括ケア病棟の運営
- ②入院患者のリハビリテーション
- ③外来患者のリハビリテーション
- ④透析患者の“いつまでも元気にプロジェクト”
- ⑤法人内の医療・介護施設と一体化したリハビリテーション運営

2021年のトピックス・実績

- ①2020年4月から作業療法士の確保・環境整備により、PT・OT・ST三位一体のリハビリテーション遂行という悲願を達成できた。さらに作業療法士を3名体制に強化した。それにより疾患別リハビリテーションの施設基準が上がり、脳血管・廃用症候群がⅡからⅠとなったので、スタッフのモチベーションという点からも、収益の点からも、大きな進歩となった。
- ②2020年4月からリハビリテーション室が従来の2倍の広さとなり、窓も大きく、明るく広いリハビリ室となった。さらに3階に移動することにより、病棟からリハビリ室への患者移動の利便性が大きく向上した。これにより患者の満足度も向上している。
- ③2018年1月より地域包括ケア病棟の施設基準Ⅰを取得した。開設以来、PTの山崎勇人を中心として順調に運営している。

- ④透析患者の健康寿命延伸のため、“いつまでも元気にプロジェクト”という、健康度チェック・生活運動指導を行っている。
- ⑤誤嚥性肺炎治療プロジェクトの一環として、入院患者の嚥下リハビリテーションにも力を入れている。研修を受けて、吸引実施資格を取得したPT4名、ST2名がおり、プロジェクトに貢献している。
- ⑥腎臓リハビリテーションを行っている。CKDの患者の治療を、リハビリテーションという面からもサポートしており、重要な役割を果たしている。

今後の展望

- ①作業療法士を4名体制にすることによって、増加している作業療法の需要に応えていく。
- ②需要の多い訪問リハビリテーションを開始する。
- ③地域包括ケア病棟を更に発展させる。具体的には、様々な部署との連携・家庭訪問などの積極的実施などにより、稼働率100%を達成し、在宅復帰率70%以上をキープする。
- ④透析患者の健康寿命延伸という目的に対し、リハビリテーション科として、運動・作業・言語聴覚嚥下機能の向上という視点から、三位一体の最大限の貢献を行う。臨床研究も更に推進していく。
- ⑤腎・糖尿病・骨粗鬆症専門病院として、それぞれ腎臓・糖尿病・骨粗鬆症リハビリテーションに力を入れていく。
- ⑥病院として誤嚥性肺炎治療に力を入れるとの方針があり、言語聴覚士もチームの一員として最大限のパフォーマンスを発揮する。胃瘻造設術加算施設基準と経口摂取回復促進加算取得を目指す。実績で示した吸引実施資格取得したPTを増やしていく。
- ⑦愛仁会グループ施設の力添えもあり、リハビリテーション科の人的資源であるスタッフも、年々充実してきている。新たな仲間も増えお互い切磋琢磨している。モチベーションの高いスタッフが、三位一体となり、明るく広くなったリハビリ室を活かし、ポテンシャルを最大限に発揮していきたい。

リウマチ科

スタッフ紹介

リウマチ科担当副院長

佐藤宗彦

日本リウマチ財団登録ケア看護師 2名

診療内容

関節リウマチ・乾癬・脊椎関節炎患者に対する、投薬・手術・リハビリテーション加療を行っている。

2021年のトピックス・実績

①当院では、500名以上の関節リウマチ・乾癬・脊椎関節炎患者の継続加療を行っており、そのうち約350名に生物学的製剤・JAK阻害剤を使用している。バイオシミラーを含む9種類の生物学的製剤、5種類のJAK阻害剤を患者の症状に応じて、適切に使い分け使用している。

②学術的には、講演が87件であった。講演を聴いた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった。

今後の展望

- ①北摂の関節リウマチの拠点病院になるように、600名以上の関節リウマチ・乾癬・強直性脊椎炎患者の継続加療を目指していく。
- ②リウマチケアナース、薬剤師、リウマチ科に従事する事務職員など、モチベーションの高いスタッフに恵まれており、“リウマチチーム医療によるリウマチ患者のトータルケアの推進”を基本理念として、臨床でも学術部門でも更なる高みを目指していく。
- ③医療経済的にも、減薬・スパーシング・バイオシミラーなどの導入により、永続的な高品質の医療を追求していく。

整形外科

スタッフ紹介

整形外科担当副院長 佐藤宗彦

診療内容

①透析整形外科、②関節疾患、③脊椎脊髄疾患、④外傷・骨折、⑤骨粗鬆症に対する診療を行っている。

それぞれに対し、保存加療・手術加療を行っている。

2021年のトピックス・実績

I：トピックス

骨粗鬆症に対する有効性が最も高い骨形成促進薬であるロモソズマブは、当院の導入症例が世界で最も多いため、様々な情報発信を行った。

II：実績

- ①手術：件数は月平均14.1件であった。昨年に比べ、脊椎外科・股関節周囲骨折・手の外科の手術が増加した。切断は血管外科が行うようになり減少した。2019年9月より高槻病院の平中崇文センター長を招聘し、人工膝関節手術をしていただいている。手術時間も驚くほど短く、出血も少量で、侵襲も少なく、患者満足度の高い手術である。
- ②入院：1日平均入院患者数は、26.3人であった。新型コロナウイルス感染症対応のため、入院制限・救急受け入れを制限せざるを得ない場合もあり、入院患者は変動が大きかった。救急の受け入れ

を積極的に行っているが、吹田周辺には救急を受け入れている基幹病院が数多くあるため、手術に結びつくような救急患者の来院数が十分ではなかった。

- ③外来：1日平均外来患者数は、70.8人であった。2017年12月よりDXAが導入され、骨粗鬆症外来をスタートし、骨粗鬆症が著しく増加した。
- ④学術：学会・英文論文1編、和文論文1編、研究会発表1件、講演が38件であった。講演を聴いていた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった。

今後の展望

- ①手術：救急を始めとし、前記全ての分野における前進。継続して、手術に繋がる救急を積極的に受け入れていく。平中崇文先生のお力をお借りしたハイレベルな人工膝関節手術、並びに当院の従来からの特色である脊椎手術を多くの患者に提供していく。
- ②入院：上記の手術目的入院を増やす。継続して、手術に繋がらない救急も積極的に受け入れていく。他院からの地域包括病棟などへの紹介患者も積極的に受け入れているので、それを継続する。
- ③外来：救急を始めとし、全ての分野における前進。特にDXAの有効利用による骨粗鬆症患者の増患・個別化精密医療の推進。
- ④学術：透析整形疾患の研究。一般整形疾患の患者啓発活動の更なる前進。骨粗鬆症研究の推進。

表. 手術症例

症例	件数
手術症例（うち透析患者）{うち移植患者}	169(44){3}
関節外科	84(10){1}
人工関節 股関節	10(3)
膝関節	26(3){1}
膝関節再置換術	0
足関節	0
人工骨頭挿入術 股関節	14(1)
股関節周囲骨折整復固定術	25(3)
肩腱板手術	2
膝肩関節滑膜切除半月板手術（鏡視下含む）	4
関節形成術	1
人工関節抜去	1
関節リウマチ足	1
手の外科	29(15)
手根管症候群	22(11)
バネ指	7(4)
腱縫合・移行	0
その他	0

(単位：件)

症例	件数
脊椎外科	24(10){2}
頸椎	7(6){1}
胸腰椎	0
腰椎	17(4){1}
外傷外科	14(3)
骨折整復固定術	11(3)
腱縫合術	3
切断術	2(2)
大腿	1(1)
下腿	1(1)
足趾	0
断端形成	0
抜釘術	3(1)
脱臼整復術	6
腫瘍	2
その他	5(3)



井上病院附属診療所



健診センター
ケアプランセンター
ヘルパーステーション

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町14番11号
TEL.06-6386-9525

院長 石津弘視

腎移植外来

スタッフ紹介

非常勤医師 5名
 看護師 2名（非常勤1名）
 認定レシピエント移植コーディネーター 1名
 （井上病院附属診療所看護・保健科長兼任）
 看護助手 1名
 移植事務 2名

業務内容

大阪大学医学部附属病院で腎移植手術を受けた後の患者の長期的なフォローアップを行っている。移植腎が長期に生着することを目的とし、移植腎が機能喪失する前に生命を失うことがないように、癌検診の充実、合併症予防に力を入れており、患者ごとに個別的な定期検査スケジュールを計画している。移植月に患者面談を実施し、療養生活への支援を行っている。

患者の高齢化により、在宅療養生活を送るのが困難な患者には、ケアマネージャー、訪問看護ステーションと連携を図り、在宅での療養生活支援を協力し行っている。

2021年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の流行により、発熱時、症状出現時には、診療棟での抗原定量検査を実施し外来での環境を整え、アウトブレイクが発生しないよう感染対策に注力した。他院検査で新型コロナウイルス感染症陽性となった患者の報告はあったものの、当院では陽性者は認めなかった。

また、移植患者の指導強化については、移植外来看護師だけでなく、附属診療所の一員として健診センターの看護師も患者指導に参画した。

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の流行は、しばらく継続すると考えられ、腎移植後患者は免疫抑制剤服用のため増悪のリスクも高く、医療従事者、患者共に感染制御に関する知識を向上させ、対応していく必要がある。

移植腎の長期生着、患者の高齢化により、通院困難や在宅療養が困難なケースが増加しており、その患者が望むことは何か、最適な支援は何かを常に念頭に置き看護していくことが重要である。

表. 移植後定期検査の実施率

検査項目	実施率
胸部レントゲン	93.1%
心電図	92.1%
胸部CT	91.6%
腹部CT	92.1%
副甲状腺エコー	71.4%
IMT/PWV	82.3%
腹部エコー	78.3%
胃カメラ *1	41.9%
便潜血	78.3%
乳癌検診	47.0%
子宮がん検診	36.1%

*1：隔年検査対象の方を含む

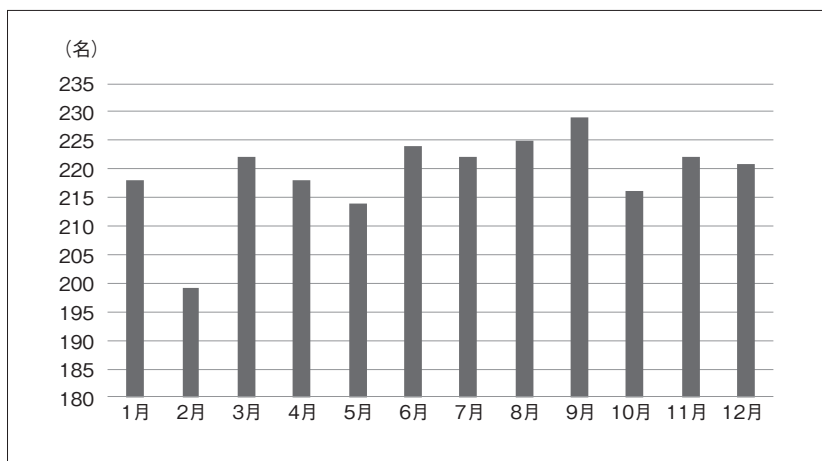


図. 月別外来受診者

XI

井上診療所



慢性維持透析
外来透析30床

〒567-0046
大阪府茨木市南春日丘7丁目9番19号
TEL.072-620-0700

院長 辻本大治

井上診療所

スタッフ紹介

今期の人員配置は、以下の通りであった。

医師：4名（辻本大治院長，非常勤医師3名）

看護師：8名，准看護師2名，看護助手：3名

臨床工学技士：7名

事務職員：1名

診療内容

透析ベッド数は30床で、オンラインHDF対応コンソール15台，HD対応15台で、午前，午後の透析を実施している。

老健ひまわり入所者への透析治療と近隣の通院患者や老人ホームからの透析患者を受け入れている。

2021年のトピックス・実績

2021年は、2020年同様に新型コロナウイルス感染症の度重なる感染拡大の状況に応じて、柔軟に感染防止策を実践しながら診療活動を行った。

3月末に老健ひまわりで1例目の新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生し、老健ひまわり職員とともに感染拡大防止に向けて対応した。また、新型コロナウイルス感染症に関するBCPを作成して、備蓄管理や感染発生時のゾーニング対応などを具体化した。

透析治療では、G-CAPやレオカーナの導入を進めて実施症例は少なかったが、来期に繋がる活動となった。

職員教育では、看護職員を対象に目標管理シートの作成を行った。施設内研修を計画的に実施して、全職員への参加を促すことができた。

2021年の実績は、延べ透析患者数が13,592名（前年15,218）で前年の延べ人数を1,626名下回る結果となった。※以下（ ）内は前年数を示す。

透析患者数の内訳は、延べ外来患者数が4,870名（5,713）、延べ老健ひまわり利用者が8,722名（9,505）で患者数が共に減少した（表1）。2021年12月の実人員数は94名（97）で、前年同月よりも3名の減少となった。

2021年は年間で転入が41名（38）であり、そのうち井上病院からは17名（16）で他施設からは24名（22）と転

入数は増加した。一方、転出が20名（28）、死亡が23名（21）であり、前年と比較して死亡数は増加したが、転出数は減少した（表2）。

また、透析患者数のうち外来（通院）患者数33名（35）、老健ひまわり利用者数61名（62）で、前年同様に老健ひまわり利用の患者数が占める割合が高かった。

2020年以降は、年々透析患者数が減少傾向であり、新規患者の獲得に向けて、近隣医療機関や居宅支援事業所への営業活動を老健ひまわり及び井上病院と連携して行った。

今後の展望

来期は、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて柔軟に対応しながら、在宅及び老健ひまわりで入所（生活）している透析患者が安心して透析治療を継続できるように、地域に根差した診療所としての役割を果たす。

そのために、透析患者の病変を早期発見・早期対応できるように、井上病院及び老健ひまわりとのスムーズな連携体制を整備すること、職員各自のキャリアアップの支援及び風通しの良い職場環境作りが重要である。

来期は、以下の内容について重点的に取り組む。

- ①フットケアを推進し、早期の病変把握と早期治療の開始が行えるように、井上診療所と老健ひまわりの職員が協働で、患者の病変に早期対応できる体制を整備する。
- ②職員の研修機会の充実を図り、各専門職のキャリアアップに向けた研修体制を整備する。
- ③長時間透析の体制の定着を進め、外来患者及び老健ひまわり患者など高齢者に負担の少ない透析治療を実践する。
- ④透析治療で使用している機器のメンテナンス及び計画的な更新を実施して、透析機器を適切に維持管理する。
- ⑤2022年4月の診療報酬改定へ早期対応できるように、診療報酬改定に関する情報収集を行い、単価増に向けて早期に対応する。

表1. 透析患者数（利用者数）とコンソール1台当たりの生産性

(単位：名)

	外来患者数		ひまわり利用者数		合計	生産性 (/1台)
	実人員	延べ数	実人員	延べ数		
2020年合計	477	5,713	799	9,505	15,218	3.3
2021年1月	35	405	63	744	1,149	2.9
2月	34	379	64	691	1,070	3.0
3月	35	445	63	806	1,251	3.1
4月	35	427	58	712	1,139	3.2
5月	35	443	56	702	1,145	3.2
6月	34	411	57	627	1,038	3.1
7月	34	404	60	711	1,115	3.1
8月	33	404	61	738	1,142	3.0
9月	33	367	62	714	1,081	3.0
10月	33	395	63	751	1,146	3.0
11月	33	384	61	754	1,138	3.0
12月	33	406	61	772	1,178	3.0
2021年合計	407	4,870	729	8,722	13,592	3.1

表2. 透析患者の転入・転出件数

(単位：件)

	転入				転出			
	井上病院	他病院	その他	合計	井上病院	その他	死亡	合計
2020年合計	16	22	0	38	11	17	21	49
2021年1月	1	2	0	3	0	0	2	2
2月	2	0	0	2	1	1	0	2
3月	1	2	0	3	2	1	0	3
4月	0	0	0	0	0	1	4	5
5月	0	2	0	2	0	1	3	4
6月	1	3	0	4	0	2	2	4
7月	2	3	0	5	1	1	0	2
8月	2	2	0	4	1	2	1	4
9月	1	3	0	4	1	0	2	3
10月	3	5	0	8	1	2	4	7
11月	3	0	0	3	1	0	3	4
12月	1	2	0	3	1	0	2	3
2021年合計	17	24	0	41	9	11	23	43

統計総括

愛仁会グループ活動統計（2021年1月～2021年12月）

千船病院

入院 入院延べ患者数 96,455 人 (前年比 -4.3 %減)		1日平均入院患者数 264 人 新入院患者数 10,877 人 退院患者数 10,890 人 病床利用率 80.3 % 平均在院日数 7.9 日 入院平均単価 80,538 円		新生児数 延べ新生児数 5,890 人 分娩数 2,374 人	
外来 外来延べ患者数 207,277 人 (前年比 7.3 %増) 1日平均外来患者数 849 人 外来平均単価 10,821 円		紹介 開業医紹介数 12,951 件		救急搬送数 5,524 件 入院救急搬送数 1,932 人 外来救急搬送数 3,592 人	
手術件数 合計 2,502 件 内科 3 件 外科 434 件 脳神経外科 65 件				剖検数 泌尿器科 317 件 整形外科 429 件 産婦人科 1,082 件 眼科 127 件 耳鼻咽喉科 32 件 麻酔科 13 件	
				剖検数 8 件 剖検率 4.7 %	
				死亡数 死亡数 171 人	

尼崎だいもつ病院

入院 入院延べ患者数 70,668 人 (前年比 -1.2 %減)		1日平均入院患者数 194 人 新入院患者数 1,289 人 退院患者数 1,292 人 病床利用率 95.5 % 平均在院日数 53.8 日 入院平均単価 38,286 円		新患者数 初診料算定対象患者数 320 人	
--	--	--	--	---	--

統計総括

<p>外 来</p> <p>外来延べ患者数</p> <p>5,353 人</p> <p>(前年比 -1.5 %減)</p> <p>1日平均外来患者数 22 人</p> <p>外来平均単価 13,025 円</p>	<p>紹 介</p> <p>開業医紹介数</p> <p>1,512 件</p>	<p>剖 検 数</p> <p>剖検数 0 件</p> <p>剖検率 0.0 %</p> <hr/> <p>死 亡 数</p> <p>死亡数</p> <p>23 人</p>
--	---	---

高槻病院

<p>入 院</p> <p>入院延べ患者数</p> <p>161,900 人</p> <p>(前年比 2.0 %増)</p> <p>1日平均入院患者数 444 人</p> <p>新入院患者数 16,395 人</p> <p>退院患者数 16,421 人</p> <p>病床利用率 83.6 %</p> <p>平均在院日数 8.9 日</p> <p>入院平均単価 83,733 円</p>	<p>新 生 児 数</p> <p>延べ新生児数 8,770 人</p> <p>分娩数 1,012 人</p> <hr/> <p>新 患 者 数</p> <p>初診料算定対象患者数</p> <p>26,145 件</p>
---	---

<p>外 来</p> <p>外来延べ患者数</p> <p>259,410 人</p> <p>(前年比 6.0 %増)</p> <p>1日平均外来患者数 1,063 人</p> <p>外来平均単価 17,107 円</p>	<p>紹 介</p> <p>開業医紹介数</p> <p>28,961 件</p>	<p>救 急 搬 送 数</p> <p>8,150 件</p> <p>入院救急搬送数 3,221 人</p> <p>外来救急搬送数 4,929 人</p>
--	--	---

手術件数			
合計			
5,472 件		消化器外科 621 件	形成外科 182 件
消化器内科 7 件	急性期外科 0 件	乳腺外科 168 件	腎移植科 49 件
循環器内科 3 件	脳神経外科 145 件	小児脳神経外科 108 件	麻酔科 9 件
呼吸器内科・糖尿病 内分泌内科 0 件	泌尿器科 330 件	整形外科 1,106 件	小児科 18 件
不整脈内科 74 件	産婦人科 930 件	眼科 866 件	
小児外科 358 件	耳鼻咽喉科 14 件	皮膚科 159 件	
呼吸器外科 76 件			
心臓血管外科 249 件			
		剖 検 数	
		剖検数 7 件	
		剖検率 2.1 %	
		死 亡 数	
		死亡数	
		341 人	

愛仁会リハビリテーション病院

入院			新患者数	
入院延べ患者数	1日平均入院患者数	257 人	初診料算定対象患者数	
93,744 人	新入院患者数	1,811 人	407 件	
	退院患者数	1,800 人		
	病床利用率	93.6 %	死亡数	
	平均在院日数	50.9 日	0 人	
入院平均単価	42,338 円			
(前年比 -0.7 %減)				

外来	
外来延べ患者数	
4,843 人	
(前年比 32.2 %増)	
1日平均外来患者数	20 人
外来平均単価	15,115 円

しんあい病院

外来			新患者数	
外来延べ患者数	1日平均外来患者数	105 人	初診料算定対象患者数	
23,048 人	外来平均単価	6,842 円	936 件	
	(前年比 -25.1 %減)			
※2021年9月末閉院				

愛仁会しんあいクリニック

外来			新患者数	
外来延べ患者数	1日平均外来患者数	116 人	初診料算定対象患者数	
8,433 人	外来平均単価	6,595 円	325 件	
	(前年比 -25.1 %減)			
※2021年10月開院				

明石医療センター

入院			新生児数	
入院延べ患者数	1日平均入院患者数	349 人	延べ新生児数	1,731 人
127,354 人	新入院患者数	11,510 人	分娩数	768 人
	退院患者数	11,543 人	新患者数	
	病床利用率	83.1 %	初診料算定対象患者数	
	平均在院日数	10 日	20,358 件	
(前年比 -0.3 %減)	入院平均単価	78,507 円		
外来		紹介		
外来延べ患者数	開業医紹介数		救急搬送数	
144,881 人	14,132 件		5,109 件	
			入院救急搬送数	2,886 人
(前年比 2.0 %増)	1日平均外来患者数	594 人	外来救急搬送数	2,223 人
外来平均単価	19,588 円			
手術件数			剖検数	
合計			剖検数	
3,306 件			10 件	
外科			剖検率	
866 件			2.5 %	
泌尿器科			死亡数	
0 件			死亡数	
整形外科			395 人	
905 件				
内科	3 件	心臓血管外科	458 件	
消化器内科	41 件	呼吸器外科	139 件	
循環器内科	97 件	産婦人科	797 件	

井上病院

入院			新患者数	
入院延べ患者数	1日平均入院患者数	100 人	初診料算定対象患者数	
36,346 人	新入院患者数	2,058 人	4,789 件	
	退院患者数	2,069 人		
	病床利用率	73.9 %		
	平均在院日数	17 日		
(前年比 0.4 %増)	入院平均単価	52,669 円		

外 来		紹 介			
外来延べ患者数		開業医紹介数			
57,119 人		2,634 件			
(前年比 4.8%増)					
1日平均外来患者数	194 人				
外来平均単価	21,022 円				
手術件数					
合計	781 件	外科	262 件	血管外科	85 件
		整形外科	170 件	麻酔科	0 件
		泌尿器科	67 件		
		眼科	135 件		
		内科	62 件		

外部研修・研究実績

千船病院

口頭発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	Seminar for Empowerment Team in Kobe 2021	肥満・糖尿病に対する外科治療：チーム医療	'21/1	神戸市	診療部 外科	北濱誠一
2	京都肥満・糖尿病外科治療セミナー	減量・代謝改善手術におけるチームビルディング	'21/1	Web	診療部 外科	北濱誠一
3	地域で見守る心不全	当院の心不全治療と地域連携に向けて	'21/2	Web	診療部 循環器内科	濱田晶子, 尾崎正憲
4	第282回小児科学会兵庫県地方会	新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN) を呈した先天梅毒の一例	'21/2	Web	診療部 小児科	岩橋怜子, 横田知之, 榊田千晶, 川村 葵, 福田拓弥, 武田紗季, 住吉倫卓, 古林真佐美, 井上翔太, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
5	第282回小児科学会兵庫県地方会	発熱と紅斑を主訴に受診した小児期シェーグレン症候群の一例	'21/2	Web	診療部 小児科	田丸瑞希, 牟禮岳男, 榊田千晶, 川村 葵, 福田拓弥, 武田紗季, 住吉倫卓, 古林真佐美, 井上翔太, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 西野昌光, 吉井勝彦
6	第338回NMCS例会	定型管理を施行したが再発を認めた、新生児ヘルペスの1例	'21/2	Web	診療部 小児科	国本一輝, 野間瑞希, 岩橋怜子, 横山陽子, 福田祥直, 榊田千晶, 福田拓弥, 武田紗季, 住吉倫卓, 井上翔太, 甲斐智彦, 古林真佐美, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
7	第33回日本内視鏡外科学会総会	Three casos of giant hepatic cyst treated with laparoscopic deroofing and omentoplasty	'21/3	Web	診療部 外科	田中 聡
8	第41回日本肥満学会/ 第38回日本肥満治療学会 学術集会	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術とGERD：修正Roux-en-Y胃バイパス術の短期成績	'21/3	富山市	診療部 外科	北濱誠一, 中島進介 ¹⁾ , 三原俊彦, 桃野鉄平, 山元康義, 向井友一郎, 佐々木百合子 ¹⁾ , 廣野康子 ²⁾ , 高橋哲也 ¹⁾ 1) 糖尿病内分泌内科 2) 事務部
9	第26回日本災害医学会学術集会	新型コロナウイルス禍の豪雨災害支援活動における衛生材料の支援について	'21/3	Web	診療部 救急診療部	山下公子
10	第231回日本内科学会近畿地方会	髄液ADA高値より結核性髄膜炎と診断し抗結核薬治療が奏功した1例	'21/3	Web	診療部 総合内科	上門弘宜, 依藤兼太郎, 宮井佑也, 黒川 晟, 二宮幸三, 藤田芳正, 島田天美子 ¹⁾ , 濱田晶子 ²⁾ , 尾崎正憲 ²⁾ , 大西 尚 ¹⁾ 1) 呼吸器内科 2) 循環器内科
11	第231回日本内科学会近畿地方会	胆嚢炎術中にSGLT2阻害薬関連正常血糖糖尿病性ケトアシドーシスを来した1型糖尿病の1例	'21/3	Web	診療部 糖尿病 内分泌内科	吉岡愛可, 佐々木百合子, 大島令子, 中島進介, 高橋哲也
12	第231回日本内科学会近畿地方会	緩徐進行1型糖尿病に併発した腎膿瘍の1例	'21/3	Web	診療部 糖尿病 内分泌内科	稲月あさひ, 佐々木百合子, 大島令子, 中島進介, 高橋哲也

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
13	第34回日本内視鏡外科学会総会	Medium-Term Results of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy-A Single-Surgeon Study From Japan	'21/3	横浜市	診療部 外科	北濱誠一
14	第41回日本肥満学会	当院で施行されたスリーブ胃切除後の糖尿病非寛解例に対する薬物療法の現状について	'21/3	Web	診療部 糖尿病 内分泌内科	佐々木百合子, 藤林令子, 中島進介, 高橋哲也, 北濱誠一
15	第38回日本肥満症治療学会学術集会	効果的なMetabolic Surgeryを目標して	'21/3	富山市	診療部 外科	北濱誠一
16	第38回日本肥満症治療学会学術集会	糖尿病における減量・代謝改善手術	'21/3	富山市	診療部 外科	北濱誠一
17	第8回日本区域麻酔学会	脳外科手術中に生じた内頸動脈損傷における挿管下従命確認に上喉頭神経ブロックが有効であった1症例	'21/4	Web	診療部 麻酔科	旭爪章統, 山本陽子, 横川直美, 松尾 顯, 貴志暢之, 中本あい, 水谷 光
18	第124回日本小児科学会学術集会	経過中にクレアチンキナーゼ値が正常化したBecker型筋ジストロフィーの2例	'21/4	京都市	診療部 小児科	武田紗季, 吉井勝彦
19	第73回日本産科婦人科学術講演会	新型コロナウイルス感染症拡大期における救急受診者数はどのように変化したか	'21/4	新潟市	診療部 産婦人科	岡田十三, 加嶋洋子, 細川雅代, 山崎 亮, 大木規義, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 本山 覚, 吉田茂樹
20	第73回日本産科婦人科学術講演会	硬膜外麻酔による無痛分娩中の発熱と児の予後の関係	'21/4	新潟市	診療部 産婦人科	荒木裕子, 岡田十三, 加嶋洋子, 細川雅代, 山崎 亮, 大木規義, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 本山 覚, 吉田茂樹
21	第73回日本産科婦人科学術講演会	「MRIで内子宮口近傍にlobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH) が疑われ確定診断目的に行った円錐切除術の工夫」	'21/4	新潟市	診療部 産婦人科	田中美喜歩 ¹⁾ , 新井隆成 ²⁾ , 碓井 愛 ³⁾ , 安田幸矢 ⁴⁾ , 東 恭子 ³⁾ , 安田 豊 ²⁾ , 岡田十三 ¹⁾ 1) 社会医療法人 愛仁会 千船病院 産婦人科 2) 社会医療法人 薫仙会 恵寿総合病院 産婦人科 3) 石川県立中央病院 産婦人科 4) 医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院 産婦人科
22	第65回日本リウマチ学会総会・学術集会	足部痛の原因として足部第2楔状骨の不顕性骨折と診断しえた関節リウマチ患者の1例	'21/4	Web	診療部 整形外科	松田 茂
23	Robotic Hysterectomy Webinar2 難渋症例に対する安全実施のコツ	ロボット支援下子宮全摘術の定型化 - 深部内膜症の治療戦略 -	'21/5	Web	診療部 産婦人科	大木規義
24	第27回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	フレイルを有する高齢心不全入院患者の等尺性膝伸筋力の変化量と予測因子の検討	'21/6	千葉市	診療部 リハビリテーション科 循環器内科	氏家康友, 小宗英貴, 尾崎正憲
25	第10回 Kitakawachi Diabetes Forum	糖尿病にたいする外科治療の実際とそのメカニズム	'21/6	大阪市	診療部 糖尿病・ 減量外科	北濱誠一
26	第66回日本透析医学会学術集会・総会	小腸型ALP (ALP5) 活性比率を利用した, JSCC法とIFCC法とのALP活性値の変換式の考案	'21/6	横浜市	診療部 腎臓内科	金 鐘一, 山本真有佳, 齊藤 慶, 服部英明, 中西昌平
27	第144回近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会	癒着胎盤に対し胎盤を一定期間子宮内に遺残した後子宮鏡手術で摘出し、子宮を温存できた2例	'21/6	神戸市	診療部 産婦人科	二木ひとみ, 吉田茂樹, 胡 脩平, 大和奈津子, 荻本圭介, 北 采加, 城 道久, 安田立子, 大木規義, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
28	West Osaka GI Symposium	胃食道逆流症について	'21/6	Web	診療部 糖尿病・減量外科	北濱誠一
29	第29回日本乳癌学会学術総会	脳原発乳房悪性リンパ腫の1例	'21/7	横浜市	診療部 外科	向井友一郎
30	第29回日本乳癌学会学術総会	モーズ軟膏によりQOLの改善が得られた両側局所進行乳癌の1例	'21/7	横浜市	診療部 外科	桃野鉄平
31	第57回日本周産期・新生児医学会学術集会	定型管理を施行したが再発を認めた新生児ヘルペスの1例	'21/7	宮崎市	診療部 小児科	国本一輝, 福田祥直, 横山陽子, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
32	第57回日本周産期・新生児医学会学術集会	PPHNを呈した先天梅毒の一例	'21/7	宮崎市	診療部 小児科	横山陽子, 国本一輝, 福田祥直, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
33	第57回日本周産期・新生児医学会学術集会	集中管理を要した双胎間貧血多血症(TAPS)の双胎児例	'21/7	宮崎市	診療部 小児科	福田祥直, 国本一輝, 横山陽子, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
34	第23回西淀小児科懇話会	BCG接種後に潰瘍を形成した一例	'21/7	大阪市	診療部 小児科	岩橋怜子, 野間瑞希, 国本一輝, 福田祥直, 榊田千晶, 横山陽子, 山本香織, 住吉倫卓, 井上翔太, 甲斐智彦, 古林真佐美, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
35	第23回西淀小児科懇話会	Streptococcus milleri group性菌血症を伴った細菌性肺炎	'21/7	大阪市	診療部 小児科	野間瑞希, 岩橋怜子, 国本一輝, 福田祥直, 榊田千晶, 横山陽子, 山本香織, 住吉倫卓, 井上翔太, 甲斐智彦, 古林真佐美, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
36	第57回日本周産期・新生児医学会学術総会	COVID-19流行下において、家族の立会いや面会を制限された妊婦は、どのように感じながら分娩に臨んでいたか	'21/7	宮崎市	診療部 産婦人科	岡田十三, 胡 脩平, 大和奈津子, 北 采加, 山崎 亮, 城 道久, 大木規義, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 吉田茂樹
37	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	茎捻転を生じた卵巣腫瘍を腹腔鏡下に摘出し、後に悪性腫瘍と診断された卵巣高異型度漿液性癌の1例	'21/7	大阪市	診療部 産婦人科	城 道久, 細川雅代, 大和奈津子, 二木ひとみ, 胡 脩平, 大木規義, 村越 誉, 吉田茂樹
38	Covidien Japan Webinar	骨盤解剖学から解き明かすTLHの基本戦略	'21/7	Web	診療部 産婦人科	大木規義
39	第51回日本人工関節学会	ナビゲーションシステムを用いたTKAの術前後における内外旋の変化と術後成績の関連性	'21/7	Web	診療部 整形外科	尾上雲花, 鄭 克真, 蓑田正也, 松田 茂
40	第51回日本人工関節学会	Advanced Gap Sizer (AGS) を用いた大腿骨後顆骨切りは内側および前後不安定性を回避しうる～TKA術中ナビゲーションシステムを用いた定量的評価～	'21/7	Web	診療部 整形外科	鄭 克真, 蓑田正也, 加藤 領, 松田 茂

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
41	第51回日本人工関節学会	TKAにおける周術期のビスホスホネート製剤の有効性	'21/7	Web	診療部 整形外科	石村颯貴, 鄭 克真, 襄田正也, 松田 茂
42	第3回日本周産期麻酔科学会	PDPHの治療の実践	'21/8	Web	診療部 麻酔科	角 千里
43	第3回日本周産期麻酔科	JAPAからのお知らせ	'21/8	Web	診療部 麻酔科	魚川礼子
44	ARNI Expert Meeting, ～ARNIが適する患者像 と新たな心不全治療を考 える～	今後の心不全治療について思うこと	'21/8	大阪市	診療部 循環器内科	尾崎正憲
45	イグザレルト WEBカン ファレンス	Multimorbidityを意識した心房細動 診療	'21/8	Web	診療部 循環器内科	足立和正
46	肥満治療と呼吸器疾患 について考えるWEB seminar	睡眠時無呼吸の治療介入を考えたい 内科疾患	'21/8	Web	診療部 呼吸器内科	住谷充弘
47	肥満治療と呼吸器疾患 について考えるWEB seminar	高度肥満症に対する集学的治療	'21/8	Web	診療部 糖尿病・ 減量外科	北濱誠一
48	第67回日本麻酔科学会関 西支部学術集会	口蓋扁桃摘出術を延期し肥満手術を 先行させた病的肥満患者の麻酔管理	'21/9	Web	診療部 麻酔科	宮井真唯子, 水谷 光, 魚川礼子, 角 千里, 星野和夫, 大山泰幸
49	日本消化器病学会近畿支 部第115回例会	肋骨転移巣破裂によって血胸, 出血 性ショックを来した肝細胞癌の1例	'21/9	Web	診療部 消化器内科	金丸薫子
50	日本消化器病学会近畿支 部第116回例会	イレウスを契機に濾胞性リンパ腫の 診断に至った一例	'21/9	Web	診療部 消化器内科	中村碩孝
51	第34回近畿内視鏡外科研 究会	減量・代謝改善手術 ～外科治療の実際・合併症対策の実際～ スリーブバイパス術の導入に際する 注意点	'21/9	Web	診療部 糖尿病・ 減量外科	北濱誠一
52	第61回日本産科婦人科内 視鏡学会学術講演会	茎捻転を生じた卵巣腫瘍を腹腔鏡下 に摘出し, 後に悪性腫瘍と診断され た卵巣高異型度漿液性癌の1例	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	城 道久, 胡 脩平, 北 采加, 荻本圭祐, 大木規義, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹, 名方保夫
53	第61回日本産科婦人科内 視鏡学会学術講演会	腹腔鏡下子宮全摘術の際に予防的卵 管摘出を行い, 左卵管采に稀な頸管 内膜症を認めた1例	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	城 道久, 田島史保子, 胡 脩平, 三木玲奈, 北 采加, 荻本圭祐, 北口智美, 京本 萌, 安田立子, 稲垣美恵子, 大木規義, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹, 渡邊隆弘
54	第61回日本産科婦人科内 視鏡学会学術講演会	巨大子宮筋腫に対する腹腔鏡下腔式 子宮全摘術 (TLH) における安全 な経腔回収法の検討	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	荻本圭祐, 大木規義, 伊賀川奨大, 田島史保子, 中村達矢, 光岡真優香, 吉武壮生舜, 胡 脩平, 小川史子, 徳永詩音, 北 采加, 三木玲奈, 北口智美, 京本 萌, 城 道久, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
55	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	ロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術における腔管切開の工夫（ストラップ法）	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	荻本圭祐, 大木規義, 伊賀川奨大, 田島史保子, 中村達矢, 光岡真優香, 吉武壮生舜, 胡 脩平, 小川史子, 徳永詩音, 北 采加, 三木玲奈, 北口智美, 京本 萌, 城 道久, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
56	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	ロボット支援下手術に適した剥離手技の検討－疎な結合織を形成する繊維組織を1本ずつ視認し処理する－	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	荻本圭祐, 大木規義, 伊賀川奨大, 田島史保子, 中村達矢, 光岡真優香, 吉武壮生舜, 胡 脩平, 小川史子, 徳永詩音, 北 采加, 三木玲奈, 北口智美, 京本 萌, 城 道久, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
57	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	術前検査でMRIゼリー法を施行したことにより腸管子宮内膜症を診断できた一例	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	北 采加, 佐伯 愛, 大木規義, 大浦康宏, 荻本圭祐, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
58	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	腹腔鏡手術のトラブルシューティング	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	大木規義
59	21st APAGE Annual Congress	A case of ovarian torsion with laparoscopic adnexectomy, revealed high grade serous carcinoma after operation	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	Shiro Michihisa, Ebisu Shuhei, Kita Ayaka, Ogimoto Keisuke, Ooki Noriyoshi, Yasuda Ritsuko, Inagaki Mieko, Murakoshi Homare, Yoshida Shigeki, Nakata Yasuo
60	21st APAGE Annual Congress	A rare case of endocervicosis on the left fallopian tube resected with total laparoscopic hysterectomy	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	Shiro Michihisa, Tajima Shihoko, Kita Ayaka, Ogimoto Keisuke, Ooki Noriyoshi, Yasuda Ritsuko, Inagaki Mieko, Murakoshi Homare, Yoshida Shigeki, Watanabe Takahiro
61	第19回兵庫県産婦人科内視鏡手術懇話会	ロボット腹腔鏡下子宮全摘術における腔管切開法（ストラップ法）	'21/9	神戸市	診療部 産婦人科	小川史子, 大木規義, 荻本圭祐, 吉武壮生舜, 光岡真優香, 中村達也, 田島史保子, 伊賀川奨大, 徳永詩音, 胡 脩平, 三木玲奈, 北 采加, 北口智美, 京本 萌, 城 道久, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
62	第284回小児科学会兵庫県地方会	BCG接種後に潰瘍を形成した一例	'21/9	Web	診療部 小児科	松本聡太郎, 岩橋怜子, 野間瑞希, 榎田千晶, 住吉倫卓, 井上翔太, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
63	日本小児麻酔学会第26回大会	産科救急への麻酔科医の役割	'21/10	仙台市	診療部 麻酔科	魚川礼子

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
64	医療のTQM推進協議会 第22回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 大阪	コロナ診療により高めることができた院内医療連携と地域医療連携	'21/10	Web	診療部 消化器内科	船津英司
65	第12回ISMSJ（日本臨床睡眠医学会）学術集会	教育プログラム1・睡眠診療における各科からのワンポイントレクチャー 呼吸器内科医から見た睡眠呼吸障害の視点	'21/10	大阪市	診療部 呼吸器内科	住谷充弘
66	第83回日本臨床外科学会総会	治療に難渋した外傷性十二指腸損傷の1手術症例	'21/11	東京都	診療部 外科	三原俊彦
67	JDDW21KOBE第29回日本消化器関連学会週間	慢性突発性大腸偽性閉塞症に透視下大腸内視鏡が有用であった1手術症例	'21/11	神戸市	診療部 外科	三原俊彦
68	第49回日本救急医学会総会学術集会	コロナ禍における院外心停止症例への当院での気管挿管プロトコルの検討	'21/11	東京都	診療部 救急診療部	山内智瑛, 山下公子
69	第29回病診連携DM懇談会	減量・代謝改善手術の手術適応について	'21/11	守口市	診療部 糖尿病・減量外科	北濱誠一
70	第49回日本救急医学会総会学術集会	感染予防対策としての簡易ストレッチャーフードの作成	'21/11	東京都	診療部 救急診療部	山下公子
71	第83回日本臨床外科学会総会	産褥期の進行大腸癌の1例	'21/11	東京都	診療部 外科	永山明穂, 向井友一郎, 山元康義, 北濱誠一, 大浦康広, 三原俊彦
72	第49回日本頭痛学会総会	子宮内膜症 女性の健康問題としての現状と課題	'21/11	静岡市	診療部 産婦人科	稲垣美恵子
73	第49回日本頭痛学会総会	女性の頭痛の“Ask Now?”女性のデリケートな状況を男性医師にもわかるように	'21/11	静岡市	診療部 産婦人科	稲垣美恵子
74	第36回日本女性医学会総会	産後2ヶ月にMRIで診断した、キアリ奇形1型による頭痛	'21/11	大阪市	診療部 産婦人科	山崎 亮, 稲垣美恵子, 安田立子, 村越 誉, 岡田十三
75	第12回Kobe Nephrology Forum	子宮体癌術後の腎機能障害に対する精査で抗核抗体陽性を指摘された1例	'21/11	神戸市	診療部 腎臓内科	服部英明, 堂崎良大, 宇高千恵, 中西昌平
76	第15回神戸内科学セミナー	うつ病加療中にSARS-CoV-2ワクチン接種後発症した糖尿病性ケトアシドーシス症例の検討	'21/11	Web	診療部 糖尿病 内分泌内科	大江晃央, 高橋哲也, 中島進介, 大島令子, 岡 亜希子
77	日本臨床麻酔学会第41回大会	帝王切開に脊髄も膜下麻酔only or 硬膜外麻酔併用か? 「帝王切開に硬膜外麻酔を使おう!!」	'21/11	札幌市	診療部 麻酔科	魚川礼子
78	日本臨床麻酔学会第41回大会	抜管時に投与したスガマデクスによりアナフィラキシーショックに陥った1例	'21/11	札幌市	診療部 麻酔科,(初期研修医)	甲斐幸樹, 水谷 光, 魚川礼子, 星野和夫, 宮井真唯子
79	日本臨床麻酔学会第41回大会	妊娠20週でShiPをきたし出血性ショックに陥った初妊婦の1例	'21/11	札幌市	診療部 麻酔科,(初期研修医)	細川笑里, 魚川礼子, 水谷 光, 星野和夫, 四宮沙里
80	日本臨床麻酔学会第41回大会	緊急帝王切開術中に臨床的羊水塞栓症を呈した26週妊婦の麻酔経験	'21/11	札幌市	診療部 麻酔科	四宮沙理, 魚川礼子, 星野和夫, 大山泰幸, 宮井真唯子, 水谷 光
81	第96回日本医療機器学会	さらに協働しよう! 減菌技師と臨床工学技士	'21/11	Web	診療部 麻酔科	水谷 光
82	第19回首都圏減菌研究会	減菌は医療の基礎で担当者は病院を支えている	'21/11	Web	診療部 麻酔科	水谷 光
83	千船/神戸 減量・代謝改善手術チーム医療セミナー	当院の減量・代謝改善手術における糖尿病内分泌内科の役割	'21/11	Web	診療部 糖尿病 内分泌内科	中島進介

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
84	第31回日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会学術集会	①シンポジウム3・スペシャリストの技と多職種連携 “呼吸器診療における多職種連携としての医師の役割”	'21/11	高松市	診療部 呼吸器内科	住谷充弘
85	第31回日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会学術集会	②肥満性低過換気症候群におけるNPPV治療前後のCMRを用いた心機能評価2例の検討	'21/11	高松市	診療部 呼吸器内科	住谷充弘
86	第34回日本内視鏡外科学会総会	本邦における減量・代謝改善手術の現状と課題	'21/12	神戸市	診療部 肥満・減量 外科	北濱誠一, 三原俊彦, 桃野鉄平, 大浦康広, 山元康義, 向井友一郎, 住谷充弘, 大島令子, 岡 亜希子, 中島進介
87	第231回日本循環器学会近畿地方会	虚血解除後も残存したnarrow QRS PVCによりTorsade de pointes stormとなった一例	'21/12	Web	診療部 循環器内科	井上拓弥, 黒瀬 潤, 好木康明, 濱田晶子, 二宮幸三, 板垣 毅, 尾崎正憲
88	婦人科ロボット支援下手術セミナー	膜解剖に基づくロボット子宮全摘術の定型化	'21/12	京都市	診療部 産婦人科	大木規義

論文発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	Journal of Clinical Gynecology & Obstetrics	Myxoid Leiomyosarcoma of the Uterus: A Case Report With Magnetic Resonance Imaging Findings	10(1)	18-21, 2021	診療部 画像診断科	Aya Tanabe, Tetsuo Maeda, et al.
2	Circulation Journal	Multi-Institutional Prospective Cohort Study of Patients With Pulmonary Hypertension Associated With Respiratory Disease	85(4)	333-342, 2021	診療部 呼吸器内科 リハビリテーション科 (大阪市立総合医療センター呼吸器内科)	Nobuhiro Tanabe, Hiraku Kumamaru, Yuichi Tamura, Hiroyuki Taniguchi, Noriaki Emoto, Yoshihito Yamada, Osamu Nishiyama, Ichizo Tsujino, Hiroshi Kuraishi, Yoshihiro Nishimura, Hiroshi Kimura, Yoshikazu Inoue, Yoshiteru Morio, Yasuto Nakatsumi, Toru Satoh, Masayuki Hanaoka, Kei Kusaka, Mitsuhiro Sumitani, Tomohiro Handa, Seiichihiro Sakao, Tomoki Kimura, Yasuhiro Kondoh, Kazuhiko Nakayama, Kensuke Tanaka, Hiroshi Ohira, Masaharu Nishimura, Hiroaki Miyata, Koichiro Tatsumi; JRPBS Group
3	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	急性期病院における慢性呼吸器疾患患者の終末期インフォームド・コンセントの現状調査	29巻3号	492-497, 2021	診療部 呼吸器内科 リハビリテーション科	藤原美紀, 真柳紀子, 住谷充弘, 西村美沙子, 三木雄三, 阪本敦子, 亀井靖子, 杉山由香里, 少路 誠一
4	日本婦人科病理学会誌	広範な粘液性分化を示した子宮体部原発類内膜癌 (G1) の1例	11	45-50, 2021	診療部 産婦人科	北口智美, 名方保夫, 吉田茂樹, 渡邊隆弘, 村越 誉, 岡田十三, 本山 寛

外部研修・研究実績

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
5	日本女性医学学会雑誌	腹腔内に迷入したLevonorgestrel-intrauterine system (LNG-IUS) の診断に3D構築画像が有用であった一例	28	571-576, 2021	診療部 産婦人科	北井沙和, 村越 誉, 河谷春那, 山崎 亮, 稲垣美恵子, 安田立子, 岡田十三
6	産婦人科の進歩	腹腔鏡下子宮全摘出術後に発症した卵巢茎捻転の1例	73	340-344, 2021	診療部 産婦人科	杉野祥代, 森田宏紀, 田邊 文, 横山信喜, 山崎友維, 小嶋伸恵, 城 道久, 武内享介
7	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	多量性器出血を契機に発見され腹腔鏡下に摘出した膈平滑筋種の一例	37巻1号	106-111, 2021	診療部 産婦人科	田中美喜歩, 稲垣美恵子, 嶋村卓人, 細川雅代, 山崎 亮, 大木規義, 村越 誉, 吉田茂樹
8	産婦人科漢方研究の歩み	漢方医学的「証」に関する問診票を用いた中高年女性の病態増の比較検討 更年期外来受診患者 V.S. 頭痛外来を受診した片頭痛患者	37号	24-30, 2021	診療部 産婦人科	牧田和也, 北村重和, 稲垣美恵子, 立岡良久, 團野大介, 仁平敦子
9	BJR case reports	A vaginal fibroepithelial stromal polyp: a case report with magnetic resonance images	vol.8	2021	診療部 産婦人科 画像診断科	Naoko Ogura, Mieko Inagaki, Ritsuko Yasuda, Shigeki Yoshida, Tetsuo Maeda (画像診断科)
10	Circulation Journal	Incidence and Characteristics of Coronary Artery Spasms Related to Atrial Fibrillation Ablation Procedures - Large-Scale Multicenter Analysis.	vol.35 no3	264-271, 2021	診療部 循環器内科	Takami M, Fukuzawa K, Kiuchi K, Kono H, Kobori A, Sakamoto Y, Watanabe R, Okumura Y, Yamashita S, Yamashiro K, Miyamoto K, Kusano K, Kanda T, Masuda M, Yoshitani K, Yoshida A, Hirayama Y, Adachi K, Mine T, Shimane A, Takeda M, Takei A, Okajima K, Fujiwara R, Hirata K
11	小児科	蜂窩織炎を伴うリンパ節腫脹が診断に有用であった不全型川崎病の1例	Vol.62 No.6	603-607, 2021	診療部 小児科	川村 葵, 木原沙紀, 榎本真由子, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
12	小児科臨床	直接検鏡は陰性で培養検査で診断に至ったケルスス禿瘡の1例	74巻10号	1223-1228, 2021	診療部 小児科	福田拓弥, 井上翔太, 榎本真由子, 藤坂方葉, 木原沙紀, 水野洋介, 横田知之, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
13	日本小児科学会雑誌	Duchenne型筋ジストロフィーにおける生後早期の血清クレアチニンキナーゼ値の推移	125巻9号	1301-1305, 2021	診療部 小児科	片山慈之 ¹⁾ , 藤坂方葉, 吉井勝彦 1) 兵庫医科大学
14	日本周産期新生児学会雑誌	在胎週数から見たハイリスク児 積極的治療を行った在胎22週, 23週児の予後の検討	57巻2号	S14-15, 2021	診療部 小児科	長坂美和子 ¹⁾ , 横田知之 1) 高槻病院
15	小児科臨床	肺炎罹患時にcreatinine値が一時的に正常化していたBecker型筋ジストロフィーの1例	74巻3号	295-298, 2021	診療部 小児科	武田紗季, 吉井勝彦
16	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	Reducing the risk of developing walled-off necrosis in patients with acute necrotic collection using recombinant human soluble thrombomodulin	28	788-797, 2021	診療部 消化器内科	船津英司
17	愛仁会医学研究誌5	人工膝関節全置換術における術後早期の患者満足度に影響する因子の検討 (原著論文)	52巻	Page1-4, 2021	診療部 整形外科	鄭 克真
18	Pharmacoepidemiol Drug Saf	Effect of concomitant antiplatelet therapy on ischemic and hemorrhagic events in patients taking oral anticoagulants for nonvalvular atrial fibrillation in daily clinical practice.		2021	診療部 脳神経外科	Morimoto T, Uchida K, Sakakibara F, Kinjo N, Ueda S

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
19	臨床泌尿器科	精巣鞘膜に発生したhCG産生悪性中皮腫	Vol.75	73-76, 2021	診療部 泌尿器科	楊 東益, 樋口喜英, 川口理作, 他
20	レギュラトリーサイエンス 学会誌	使用済みSUDを提供する医療施設の 環境整備	11	191-194, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
21	首都圏滅菌管理研究会誌	滅菌は医療の基礎で担当者は病院を 支えている	4	59-61, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
22	麻酔科	全身麻酔導入直後の無気肺	70	676, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
23	LiSA	症例カンファレンス「子宮を失うこ とになった新婚さんの術前診察」症 例提示/キーポイント解説	28	657-658, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
24	LiSA	症例カンファレンス「子宮を失うこ とになった新婚さんの術前診察」本 症例における診察の実際/次回に向 けて	28	667-669, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
25	LiSA	徹底分析シリーズ「硬膜外さいこ う」無痛分娩!今は硬膜外鎮痛だけ れども、いつかはほかの鎮痛が勝 つ??	28	808-811, 2021	診療部 麻酔科	魚川礼子, 角 千里
26	LiSA	徹底分析シリーズ「硬膜外さいこ う」私の“こだわり”の硬膜外麻酔 The “whoosh” test	28	834-835, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
27	LiSA	リアル症例カンファレンスin Osaka Zoom「導入後の血圧低下」	28	851-62, 2021	診療部 麻酔科	穴田夏樹, 桐山有紀, 豊田浩作, 水谷 光, 松岡 豊
28	LiSA	徹底分析シリーズ「帝王切開の全身 麻酔を紐解く」母乳に移行するから、 痛みは我慢? -授乳を考慮した 術後鎮痛	28	1098-1102, 2021	診療部 麻酔科	魚川礼子
29	オペナーシング	手術室が手術室なわけ-病室とどこ が違う?手術室の構造と設備	36	733-737, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
30	オペナーシング	手術室が手術室なわけ-病室とどこ が違う?手術室の空調	36	837-841, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
31	日本手術医学会誌	特集にあたって-手術部における 事業継続計画 (BCP: Business Continuity Plan)	42	227, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光
32	臨床外科 特集「肥満外 科 A to Z」	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術に対す る修正手術 腹腔鏡下修正Roux-en-Y胃バイパス 術の手術手技	76巻 4号	453-459, 2021	診療部 糖尿病・ 減量外科	北濱誠一
33	Journal of Diabetes Investigation	Metabolic alterations in plasma after laparoscopic sleeve gastrectomy	Vol.12 No.1	123-129, 2021	診療部 Department of Metabolic and Bariatric Surgery	Yoshida N, Kitahama S, Yamashita T, Hirono Y, Tabata T, Saito Y, Shinohara R, Nakashima H, Emoto T, Hirota Y, Takahashi T, Ogawa W, Hirata KI

著書発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署名	著者
1	実践!小児・周産期医療現場の災害対策テキスト いま小児周産期リエゾンと共に未来を守る	メディカ出版		163-168, 2021	診療部 救急診療部	山下公子
2	一般病棟での呼吸管理と退院に向けての介入	メディカ出版: みんなの呼吸器 RESPICA	Vol.19, No.4	454-465, 2021	診療部 呼吸器内科・リハビリテーション科 (元 大阪市立総合医療センター呼吸器内科)	住谷充弘, 藤原美紀
3	with NEO	メディカ出版	Vol.34 NO.1	129-136, 2021	診療部 小児科	横田知之
4	小腸型ALP (ALP5) 活性比率を利用した, JSCC法とIFCC法とのALP活性値の変換式の考案	大阪透析研究会会誌	38巻 2号	224-224, 2021	診療部 腎臓内科	金 鐘一
5	麻酔科プラクティス5 麻酔科必携 周術期のリスク管理 安全対策・感染予防・合併症管理	文光堂	B5判	120-124, 2021	診療部 麻酔科	水谷 光

高槻病院

口頭発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	第55回日本小児腎臓病学会学術集会	発熱性尿路感染症における急性期一過性腎腫瘍大は再発のリスク因子である	'21/1	Web	診療部 小児科 外来・小児病棟	石森真吾, 藤村順也 ¹⁾ , 大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 米谷昌彦 ¹⁾ , 南 宏尚 1) 加古川中央市民病院小児科
2	第29回日本小児泌尿器科学会	発熱性尿路感染症における急性期一過性腎腫瘍大は再発のリスク因子である	'21/1	Web	診療部 小児科 外来・小児病棟	石森真吾, 藤村順也 ¹⁾ , 篠本匡志, 大西 聡, 服部有香, 服部健吾 ²⁾ , 今出 礼, 起塚 庸, 内山敬達, 米谷昌彦 ¹⁾ , 南 宏尚 1) 加古川中央市民病院小児科 2) 高槻病院小児外科
3	第44回日本小児皮膚科学会学術大会	BCG接種後に副反応が生じた2例	'21/1	Web	診療部 皮膚科	笹瀬玲奈, 瀬戸英伸
4	第62回婦人科腫瘍学会学術講演会	原発性子宮内膜癌を模倣した子宮体部病変を伴う子宮頸部異型粘液性癌の一例	'21/1	仙台市	診療部 産婦人科	飯塚徳昭, 小寺知揮, 細野佐代子, 柴田貴司, 加藤大樹, 大石哲也
5	第51回日本心臓血管外科学会学術総会	ビデオシンポジウム3 急性大動脈解離に対する大動脈基部置換術	'21/2	京都市	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
6	第48回日本集中治療医学学会学術集会	急性脳症の症状が先行し、後に川崎病と診断した一例	'21/2	Web	診療部 小児科 外来・小児病棟	篠本匡志, 西田敬弘, 大西 聡, 内山敬道, 起塚 庸
7	第48回日本集中治療医学学会学術集会	レベチラセタムを被疑薬とする重症化した悪性症候群の1例	'21/2	Web	診療部 麻酔科	齊藤健一, 田原慎太郎 ¹⁾ 1) 兵庫県立加古川医療センター救急科
8	第33回日本内視鏡外科学会総会	Roles of a fixed team and standardization of the procedures in pediatric minimally invasive surgery	'21/3	横浜市	診療部 小児外科	Kengo Hattori
9	第33回日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下S状結腸切除術が有用であった繰り返すS状結腸捻転の6例	'21/3	横浜市	診療部 小児外科	岩淵瀧奈, 川崎健太郎, 川端 良, 山田康太, 田中聡志, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
10	第83回小児外科わからん会	外傷性白線ヘルニアは手術が必要か？	'21/3	大阪市	診療部 小児外科	岩淵瀧奈, 久松千恵子, 辻 恵未, 服部健吾, 西島栄治
11	第33回日本内視鏡外科学会総会	Pitfall of laparoscopy in searching for the intraluminal lead point of intussusception: Case report	'21/3	横浜市	診療部 小児外科	Chieko Hisamatsu, Kengo Hattori, Jiro Tsugawa
12	第93回胃腸学会総会	貧血が契機となり診断された胃全摘術後44年目に発症した盲係蹄症候群の1例	'21/3	大阪市	診療部 消化器外科	細野雅義, 徳原佳織, 田中聡志, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎, 家永徹也
13	第93回日本胃腸学会総会	A case of blind loop syndrome combined anemia diagnosed 44 years after total gastrectomy	'21/3	大阪市	診療部 消化器外科	Hosono M, Tokuhara K, Tanaka S, Oowada Y, Okazaki T, Kawasaki K, Ienaga T
14	第33回日本内視鏡外科学会総会	TAPP is effective to learn the basic laparoscopic procedure for senior residents	'21/3	横浜市	診療部 消化器外科	細野雅義, 岩淵瀧奈, 田中聡志, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎, 家永徹也
15	第33回日本内視鏡外科学会総会	Trans abdominal preperitoneal inguinal herniorrhapy (TAPP) is effective to learn the basic laparoscopic procedure for senior residents.	'21/3	横浜市	診療部 消化器外科	Masayoshi Hosono

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
16	第21回日本再生医療学会	ショートプレゼンテーション18 運動器3～末期変形性膝関節症に 対する脂肪組織由来再生幹細胞 (ADRC)治療は人工関節置換術を 回避できるか?	'21/3	Web	診療部 整形外科	平中崇文
17	日本神経学会第118回近 畿地方会	繰り返す画像評価により診断に至 った子宮筋腫に伴う鉄欠乏症貧血に合 併した脳皮質静脈血栓症の1例	'21/3	Web	診療部 脳神経内科	影山智子, 立花久嗣, 松下達生, 前野和重 ¹⁾ , 高橋 哲 ²⁾ 1) 脳血管外科 2) イメージングリサーチ センター
18	第3回岡山周産期研究会	今日の帝王切開に求められるもの ～先人の偉業に思うこと, 私たちの 取り組みの現状～	'21/3	岡山市	診療部 産婦人科	小辻文和
19	第484回日本皮膚科学会 大阪地方会-錦織千佳子教 授退官記念地方会-	水疱性類天疱瘡の治療中に後天性血 友病Aを併発した1例	'21/3	神戸市	診療部 皮膚科	笹瀬玲奈, 山田はるひ, 瀬戸英伸, 鶴田慧司郎
20	第231回日本内科学会近 畿地方会	自殺企図でインスリンデグルデグ80 単位を皮下注射した後にFGMによ り血糖変動を観察しえた1型糖尿病 の1例	'21/3	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	渡真奈武, 吉田健一, 平賀千尋, 岡垂希子, 陳 慶祥
21	The 18th JAPAN- KOREA-CHINA Pediatric Nephrology Seminar 2021	Possible deleterious effect of iron deposition and CD163-positive macrophage in macrohematuria induced acute kidney injury of IgA nephropathy	'21/4	Web	診療部 小児科 外来・小児病棟	Shingo ISHIMORI, Hiroshi KAITO ¹⁾ , Yuriko TANAKA ²⁾ , Naofumi IMAI ⁴⁾ , Shigeo HARA ⁵⁾ , Kandai NOZU ⁶⁾ , Kazumoto IJIMA ⁶⁾ 1) Hyogo Prefectural Children Hospital 2) Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital 3) Saiseikai Toyama Hospital 4) Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences 5) Kobe City Medical Center General Hospital 6) Kobe University Graduate School of Medicine
22	第58回日本小児外科学会 学術集会	小児気道疾患を有する成人気管切開 患者の問題点	'21/4	横浜市	診療部 小児外科	久松千恵子, 岩瀬瀨怜奈, 辻 恵未, 服部健吾, 西島栄治
23	第58回日本小児外科学会 学術集会	声門下腔狭窄症に対するPartial Crico-Tracheal Resectionの機能的 予後の検討	'21/4	横浜市	診療部 小児外科	服部健吾, 西島栄治, 岩瀬瀨怜奈, 辻 恵未, 久松千恵子, 津川二郎
24	第136回中部日本整形外科 災害外科学会・学術集会	Kinematic alignment TKAによる Oxford UKA再置換術	'21/4	Web	診療部 整形外科	平中崇文, 置村健二郎, 藤代高明, 重本理花, 荒木禰太郎, 岡本剛治
25	第110回日本病理学会総会	肝疾患の病理: 基本からガイドライ ン・WHO分類の最新動向まで 脂 肪性肝疾患 NAFLDからMAFLD へ (ワークショップ)	'21/4	Web	診療部 病理科	伊倉義弘
26	第110回日本病理学会総会	胃癌全摘26年後に発症した pulmonary tumor thrombotic microangiopathyの一剖検例	'21/4	Web	診療部 病理科	大久保貴子, 湯口 賢, 伊倉義弘, 高岡秀幸, 岩井泰博
27	第30回脳神経外科手術と 機器学会	小児水頭症に対する手術手技選択	'21/4	札幌市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 川本有輝, 中村夏樹 ¹⁾ , 有田英之 ¹⁾ , 前野和重 ¹⁾ , 阪本大輔 ²⁾ , 山中 巧 ³⁾ 1) 愛仁会高槻病院脳神経 外科 2) 兵庫医科大学脳神経外科 3) 京都府立医科大学脳神 経外科

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
28	第23回北摂皮膚科医会	臨床診断が困難であったMobile Encapsulated Fat Necrosisの1例	'21/4	大阪市	診療部 皮膚科	山田はるひ
29	第73回日本産科婦人科学会学術集会	ビデオセッション9) 腹膜外帝王切開：正中臍索切開によるSupravesical Approachの試み	'21/4	新潟市	診療部 産婦人科	小辻文和
30	第73回日本産科婦人科学会学術集会	ビデオセッション11) 骨盤臓器脱手術	'21/4	新潟市	診療部 産婦人科	小辻文和
31	第62回日本神経学会学術大会	Clinical evaluation and analysis of outpatients with epilepsy in a general hospital	'21/5	京都市	診療部 Dept.of.Neurol	Naohiko Seike, Norio Chihara, Tatsuo Matsushita
32	第62回日本神経病理学会総会学術研究会	An autopsy case of intravascular large B-cell lymphoma (IVLBCL), showing transient cerebral hemispheric swelling	'21/5	Web	診療部 Dept.of.Neurol.	Naohiko Seike, Takako Okubo, Mayu Asai, Riki Matsumoto, Yoshihiro Ikura, Tatsuo Matsushita
33	第66回新生児育成医学会	超早産児における同胞の有無と暦3歳発達予後についての検討	'21/5	Web	診療部 小児科・新生児科	長坂美和子, 片山義規
34	第63回日本小児神経学会学術集会	Transient central diabetes insipidus in an AERRPS patient (治療経過中に中枢性尿崩症を認めた難治部分発作重積方急性脳炎の1例) C8 : C10	'21/5	福岡市	診療部 小児科 外来・小児病棟	服部有香, 起塚 庸 ¹⁾ , 大西 聡, 九鬼一郎 ²⁾ , 1) 高槻病院小児集中治療科 2) 大阪市立総合医療センター小児医療センター 小児神経内科
35	第43回日本癌局所療法研究会	胃原発MANECに対して外科的切除を施行した2例	'21/5	横浜市	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 岡崎太郎, 徳原佳織, 中西 崇, 細野雅義, 家永哲也
36	第43回日本癌局所療法研究会	子宮体癌晩期再発の巨大腫瘍に対し外科的切除で生存期間の延長が得られた1例	'21/5	横浜市	診療部 消化器外科	徳原佳織, 川崎健太郎, 大和田善之, 山田康太, 中西 崇, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也, 飯塚徳昭, 反田直希
37	第43回日本癌局所療法研究会	胃原発MANECに対して外科的切除を施行した2例	'21/5	横浜市	診療部 消化器外科	大和田善之, 立花崇明, 徳原佳織, 細野雅義, 岡崎太郎, 川崎健太郎
38	第41回日本脳神経外科コンgres総会	一般病院における小児頭部外傷	'21/5	横浜市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 山中 巧 ¹⁾ 1) 京都府立医科大学脳神経外科
39	第95回日本感染症学会学術講演会 第69回日本化学療法学会総会 合同学会	慢性腎臓病の成人男性に発症したRaoutella ornithiolyticaによる尿路感染症の一例	'21/5	横浜市	総合救急医療センター 救急科	豊島千絵, 稲本真也
40	2021年静岡市産婦人科医会	今日の帝王切開に求められるもの ～先人の偉業に思うこと, 私たちの取り組みの現状～	'21/5	静岡市	診療部 産婦人科	小辻文和
41	爪白癬診療セミナーin 三島	一般演題 ホスラブコナゾールの使用経験	'21/5	Web	診療部 皮膚科	山本哲久
42	令和3年度大阪泌尿器科臨床医会 第77回 学術集会	シンポジウム 『過活動膀胱と間質性膀胱炎の治療』 骨盤臓器脱を伴う過活動膀胱	'21/5	大阪市	診療部 泌尿器科	西田 剛
43	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	認知症外来患者における身体組成, 運動機能, 認知機能の関係	'21/6	京都市	診療部 リハビリテーション科	櫻 篤, 村川佳太
44	日本神経学会第119回近畿地方会	症候性てんかんが疑われた成人発症2型シトルリン血症の一例	'21/6	奈良市	診療部 脳神経内科 遺伝子診療部	立花久嗣, 松下達生, 四本由都, 玉置知子

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
45	第34回日本小児救急医学会学術集会	入院加療を要した外傷性腎損傷8例の検討	'21/6	奈良市	診療部 小児科 外来・小児病棟	江國 哲 ¹⁾ , 石森真吾 ¹⁾ , 高成田祐希 ³⁾ , 篠本匡志 ^{1, 2)} , 服部健吾 ³⁾ , 大西 聡 ^{1, 2)} , 起塚 庸 ^{1, 2)} , 久松千恵子 ³⁾ , 津川二郎 ³⁾ 1) 小児科 2) 小児集中治療科 3) 小児外科
46	第34回日本小児救急医学会学術集会	小児RSV感染症に対する体外式持続陰圧換気 (Continuous negative extrathoracic pressure: CNEP) の検討	'21/6	奈良市	診療部 小児科 外来・小児病棟	石森真吾, 篠本匡志 ¹⁾ , 大西 聡 ¹⁾ , 服部有香, 今出 礼, 起塚 庸 ¹⁾ , 南 宏尚 1) 小児集中治療科
47	第34回日本小児救急医学会学術集会	小児における硬性気管支鏡検査の適応と検査所見	'21/6	Web	診療部 小児外科	久松千恵子, 津川二郎
48	第34回日本小児救急医学会学術集会	腸重積症のリスクマネジメントとロタウイルスワクチンの適正使用を考える	'21/6	奈良市	診療部 小児外科	津川二郎
49	第35回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	瘻孔関連合併症を減らすための胃瘻造設術	'21/6	松本市	診療部 小児外科	田中聡志, 服部健吾, 辻 恵未, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治, 根岸 睦 ¹⁾ 1) 看護部
50	第35回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	巨大腹壁破裂症例における陰圧閉鎖療法～急性期と慢性期での異なる使用経験から～	'21/6	松本市	診療部 小児外科	服部健吾, 田中聡志, 辻 恵未, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治, 根岸 睦 ¹⁾ 1) 看護部
51	第13回JOSKAS	Calipered kinematic alignment TKAにおいて大腿骨遠位骨切り厚が大腿骨遠位外反角に与える影響	'21/6	Web	診療部 整形外科	重本理花, 平中崇文, 下園涼太, 岡田 亮, 荒木祥太郎, 置村健二郎
52	ACP(米国内科学会)日本支部年次総会・講演会2021	ここでしか言えない男女のホンネ 異性の医師にお互い職場では言えない密かなお悩み, 解決します	'21/6	Web	診療部 総合内科	恒光綾子, 松本衣里 ¹⁾ , 川嶋乃理子 ²⁾ , 山本典子 ³⁾ , 新井圭子 ⁴⁾ , 濱田 治, 宮田仁美 ⁵⁾ , 郷間 厳 ⁶⁾ , 田中啓之 ⁷⁾ , 羽田俊彦 ⁸⁾ 1) 松本内科眼科 2) 川嶋神経内科クリニック 3) やまもとクリニック 4) あらいクリニック 5) 京都桂病院腎臓内科 6) 市立堺病院呼吸器内科 7) 横須賀共済病院腎臓内科 8) 甲府共立病院内科
53	第62回日本臨床細胞学会春期大会	術中捺印細胞診が診断の一助となった肋骨・肋軟骨原発軟骨肉腫の一例	'21/6	Web	診療部 病理科	飯塚梨沙, 平尾美智, 谷口由美, 井本智子, 仲谷武史, 横川 暢, 大久保貴子, 伊倉義弘, 椎名祥隆, 岩井泰博
54	第49回日本小児神経外科学会	先天性小児神経外科疾患における遺伝学的検査の意義	'21/6	福島市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 四本由郁 ¹⁾ , 金村米博 ²⁾ , 宇都宮英綱 ³⁾ , 玉置知子 ¹⁾ 1) 高槻病院遺伝医療部門 2) 国立病院機構大阪医療センター臨床研究センター先進医療研究開発部 脳神経外科 3) 帝京大学放射線科
55	第49回日本小児神経外科学会	小児神経外科教育セミナー2021 水頭症・頭蓋内嚢胞性疾患	'21/6	福島市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
56	第17回クラニオシノストーシス研究会	分娩時頭蓋骨骨折を機に頭蓋骨縫合早期癒合症が発覚した一例	'21/6	岡山市	診療部 小児脳神経外科	中村夏樹, 米村優仁, 川本有輝, 前野和重 ¹⁾ , 原田敦子, 川端恵理奈 ³⁾ , 久徳茂雄 ²⁾ , 上田晃一 ³⁾ 1) 高槻病院脳神経外科 2) 私立奈良病院再建形成外科 3) 大阪医科薬科大学形成外科
57	第49回日本小児神経外科学会	矢状縫合早期癒合症を合併したSotos症候群の一例	'21/6	福島市	診療部 小児脳神経外科	中村夏樹, 川本有輝, 原田敦子, 有田英之, 前野和重, 久徳茂雄, 上田晃一
58	第49回日本小児神経外科学会	先天性皮膚洞と連続性を認めなかったLimited dorsal myeloschisisの1例	'21/6	福島市	診療部 小児脳神経外科	川本有輝, 中村夏樹, 有田英之, 前野和重, 宇都宮英綱, 森岡隆人, 原田敦子
59	第49回日本小児神経外科学会	後頭静脈洞近傍の類皮腫を合併した後頭部先天性皮膚洞の一例	'21/6	福島市	診療部 小児脳神経外科	里井文香, 中村夏樹, 川本有輝, 中川智義, 有田英之, 前野和重, 山中 巧, 原田敦子
60	第49回日本小児神経外科学会	診断に難渋した感染性硬膜下血腫の1例	'21/6	福島市	診療部 小児脳神経外科	西澤和輝, 里井文香, 中村夏樹, 川本有輝, 宇津木玲奈, 有田英之, 前野和重, 石森真吾, 原田敦子
61	第120回日本皮膚科学会総会	過去5年間に当科で経験したNodular-Cystic Fat Necrosiの4例	'21/6	横浜市	診療部 皮膚科	山田はるひ, 瀬戸英伸, 笹瀬玲奈
62	第131回日本循環器学会近畿地方会	大動脈弁形成術におけるresuspension法の短期成績	'21/6	Web	診療部 心臓血管外科	久保沙羅, 林 裕之, 常深孝太郎, 岡 隆紀, 大北 裕
63	北撰四医師会医学会総会	大動脈弁形成術における術式毎の早期成績の比較検討	'21/6	Web	診療部 心臓血管外科	林 裕之, 岡 隆紀, 常深孝太郎, 久保沙羅, 大北 裕
64	第13回日本創傷外科学会総会・学術集会	高齢者の皮膚潰瘍に対するmicro skin graftの小経験	'21/7	北九州市	診療部 形成外科	黒川憲史
65	第57回周産期新生児医学会	在胎22週23週の超早産児の急性期管理について	'21/7	宮崎市	診療部 小児科・新生児科	長坂美和子, 近藤雅楽子, 小田 新
66	第12回日本子ども虐待医学会学術集会	親権者が宗教上の理由のために輸血拒否をした重症消化管アレルギーの乳児例	'21/7	京都市	診療部 小児科 外来・小児病棟	土肥周平, 起塚 庸 ¹⁾ , 芝田祐子 ¹⁾ , 橋倉尚美 ¹⁾ , 篠本匡志, 大西 聡, 今出 礼, 谷内昇一郎 1) こどもと家族の支援センター
67	第30回小児泌尿器病学会	多嚢胞性異形成腎における腎内レニンアンジオテンシン系の関連：パイロットスタディ	'21/7	大阪市	診療部 小児科 外来・小児病棟	石森真吾, 藤村順也 ¹⁾ , 堀之内智子 ²⁾ , 山村智彦 ²⁾ , 楠原菜々 ²⁾ , 長野智那 ²⁾ , 西田浩輔 ²⁾ , 藤岡一路 ²⁾ , 忍頂寺毅史 ²⁾ , 野津寛大 ²⁾ 1) 加古川中央市民病院小児科 2) 神戸大学大学院内科系講座 小児科学分野

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
68	第56回日本小児腎臓病学会学術集会	小児突発性ネフローゼ症候群全国疫学調査 (JP-SHINE study) :インフルエンザウイルスワクチンの有効性とネフローゼ再発への影響	'21/7	高知市	診療部 小児科 外来・小児病棟	石森真吾, 安藤高志 ¹⁾ , 菊永佳織 ²⁾ , 寺野千香子 ²⁾ , 佐藤舞 ³⁾ , 濱崎祐子 ⁴⁾ , 伊藤秀一 ⁵⁾ , 本田雅敬 ²⁾ , 石倉健司 ^{3), 6)} 1) 国際医療福祉大学病院 腎泌尿器科外科 2) 東京都立小児総合医療センター腎臓内科 3) 国立成育医療研究センター腎臓・リウマチ膠原病科 4) 東邦大学腎臓学講座 5) 横浜市立大学発生成育小児医療学 6) 北里大学小児科
69	第57回日本周産期・新生児医学会学術集会	新生児・乳児の気道精査における硬性気管支鏡検査の位置づけ	'21/7	宮崎市	診療部 小児外科	久松千恵子, 津川二郎
70	第51回日本人工関節学会	POLARSTEMを用いた人工股関節全置換術における術後2年までのステム周囲骨密度変化の検討	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	藤代高明, 平中崇文, 置村健二郎, 橋本慎吾 ¹⁾ , 林申也 ¹⁾ , 黒田雄一 ¹⁾ , 黒田良祐 ¹⁾ 1) 神戸大学大学院整形外科
71	第51回日本人工関節学会	Oxford UKAにおけるベアリングのスピニングを防止するために脛骨トレイの位置を調節する手技	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	平中崇文他
72	第51回日本人工関節学会	Kinematically-aligned TKAの遠位骨きりでは骨欠損も考慮する必要がある	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	平中崇文他
73	第51回日本人工関節学会	Oxford UKAにおける脛骨内反骨きりジグの開発	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	平中崇文他
74	第51回日本人工関節学会	経膝蓋腱のアプローチによる外側UKA脛骨矢状面骨切りの手術手技とその短期成績	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	重本理花他
75	第51回日本人工関節学会	日本人変形性関節症膝における立位時脛骨および大腿骨関節面傾斜	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	荒木祥太郎他
76	第51回日本人工関節学会	Oxford UKAでは20° 屈曲位とともに完全伸展位でも伸展ギャップを評価すべきである	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	荒木祥太郎他
77	第51回日本人工関節学会	内側単顆型人工膝関節置換術後に脛骨部品下骨折を生じ、保存的に治療しえた5例	'21/7	横浜市	診療部 整形外科	岡田 亮他
78	第47回日本骨折治療学会	医療現場ニーズからの医療機器開発	'21/7	神戸市	診療部 整形外科	平中崇文
79	第29回日本乳癌学会学術総会	妊娠授乳期に発生し診断・治療に難渋した悪性葉状腫瘍の1例	'21/7	横浜市	診療部 乳腺外科	三成善光, 下山京子, 溝口 綾, 伊倉義弘 ¹⁾ 1) 病理診断科
80	第29回日本乳癌学会学術総会	転移乳がん治療中にHER2陽転化のち再陰転化を来しlong CR中の1例	'21/7	神奈川県	診療部 病理科	下山京子, 三成善光, 溝口 綾, 伊倉義弘
81	第29回日本乳癌学会学術総会	妊娠授乳期に発生し診断・治療に難渋した悪性葉状腫瘍の1例	'21/7	神奈川県	診療部 病理科	三成善光, 下山京子, 溝口 綾, 伊倉義弘
82	第38回日本こども病院神経外科医会	軽微な外傷により硬膜下血腫と眼底出血を呈した骨形成不全症の一例	'21/7	Web	診療部 小児脳神経外科	中村夏樹, 土肥周平, 山本和宏, 起塚 庸, 四本由郁, 玉置知子, 宇都宮英綱, 原田敦子
83	第26・27回合同学術大会日本摂食嚥下リハビリテーション学会	認知症外来患者における摂食嚥下機能と認知, 身体運動機能の関係	'21/8	名古屋市	診療部 リハビリテーション科	櫻 篤, 俵屋章則, 輪田 梢

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
84	第57回日本小児外科学会近畿地方会	患者ファーストと内視鏡手術トレーニングの矛盾の解消を目指して 当院における虫垂炎での取り組み	'21/8	吹田市	診療部 小児外科	田中聡志, 服部健吾, 辻 恵未, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治
85	Lilly AD Dermatology Meeting	アトピー性皮膚炎診療の現状と今後の展望	'21/8	Web	診療部 皮膚科	瀬戸英伸(ディスカッサー)
86	第233回日本内科学会近畿地方会	多彩な病態を呈した心アミロイドシスに対して心不全治療に難渋した1例	'21/9	Web	診療部 循環器内科	佐久間大輝, 佐野浩之, 片平龍太郎, 田中悠介, 谷村幸亮, 湯口 賢, 松寺 亮, 村井直樹, 中島健爾, 高岡秀幸
87	第54回日本てんかん学会学術集会	当院における頭蓋内出血を伴う小児外傷後てんかんの検討	'21/9	名古屋市	診療部 小児科 外来・小児病棟	服部有香, 原田敦子 ¹⁾ , 川本有輝 ¹⁾ , 篠本匡志 ²⁾ , 大西 聡 ²⁾ , 起塚 庸 ²⁾ 1) 高槻病院小児脳神経外科 2) 高槻病院小児集中治療科
88	第34回近畿内視鏡外科学会	閉鎖孔ヘルニアに対するTAPPの有用性の検討	'21/9	大阪市	診療部 消化器外科	細野雅義, 立花崇明, 徳原佳織, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎
89	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	肝膿瘍を契機に判明した胆嚢胃瘻の一例	'21/9	Web	診療部 消化器内科	伊藤裕貴, 角山沙織, 増田祥子, 石田亮介, 池内愛実, 谷本直紀, 鍋嶋克敏, 小川浩史, 澤井寛明, 長谷川和範, 大須賀達也
90	日本内科学会近畿支部主催第233回近畿地方会	当院でのPembrolizumab投与によるACTH分泌不全症の2症例の検討	'21/9	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	日詰健太郎, 吉田健一, 影山智子, 平賀千尋, 岡重希子, 三浦 洋, 大内愛子 ¹⁾ , 松村佳乃子 ¹⁾ , 陳 慶祥 1) 呼吸器内科
91	JSAWI 第22回シンポジウム	胎児期水頭症の治療と予後	'21/9	淡路市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
92	第6回頭蓋形状誘導療法研究会	頭蓋形状誘導療法 ガイドライン作成に向けて	'21/9	岡山市	診療部 小児脳外科	原田敦子, 岡本豊子, 高松亜子, 金子 剛
93	第67回関西支部学術集会	仙骨部巨大クモ膜嚢胞を伴うMarfan症候群にSpinal drainageと胸部硬膜外麻酔を施行した1例	'21/9	Web	診療部 麻酔科	棚田和子, 西田隆也
94	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	妊娠33週の卵管捻転～特異な症状・経過の発症要因解明と治療完遂に試験腹腔鏡が有用であった症例～	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	菅田佳奈, 加藤大樹
95	オンラインで繋がる皮膚疾患外用療法勉強会	皮膚科における外用療法について～あなたの常識ありますか？～	'21/9	Web	診療部 皮膚科	山本哲久
96	第80回日本脳神経外科学会学術総会	身体組成分析, 運動活動評価を含んだ包括的認知症診療	'21/10	横浜市	診療部 リハビリテーション科	櫻 篤
97	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	大動脈弁輪部膿瘍に対する外科治療	'21/10	東京都	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
98	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	AYA (Adolescent and Young Adult) 世代の大動脈弁病変に対する外科治療 (15-39才)	'21/10	東京都	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
99	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	“Shaggy Aorta”を合併した弓部大動脈病変に対する外科治療戦略	'21/10	東京都	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
100	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	ビデオワークショップ 心臓 TEVAR後の人工血管置換術	'21/10	東京都	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
101	日本人類遺伝学会第66回大会・第28回日本遺伝子診療学会大会	A case with Potter sequence derived from 22q11.2 deletion syndrome	'21/10	横浜市	診療部 小児科・ 新生児科	Miwako Nagasaka, Yuka Yotsumoto, Naoya Morisada, Tomoko Tamaoki
102	日本人類遺伝学会第66回大会・第28回日本遺伝子診療学会大会	胆汁うっ滞性肝障害を合併したミオチューブラーミオパチーの乳児例	'21/10	横浜市	診療部 小児科・ 新生児科	中田有記, 四本由郁 ¹⁾ , 長坂美和子 ¹⁾ , 西野一三 ²⁾ , 玉置美和子 ¹⁾ 1) 高槻病院遺伝診療センター 2) 国立精神・神経医療研究センターメディカルゲノム・センター
103	Heiner症候群の1例	第70回日本アレルギー学会学術大会	'21/10	横浜市	診療部 小児科 外来・小児病棟	谷内昇一郎, 近藤 淳 ¹⁾ , 石森 真吾, 内山敬達, 今出 礼, 榎本真宏, 起塚 庸, 山田佳之 ²⁾ 1) 神戸大学小児科 2) 東海大学医学部医学科 総合診療系小児科
104	第53回日本小児呼吸器学会	RSV感染病日に着目した, 小児RSV感染に対する体外式持続陰圧換気(Continuous negative extrathoracic pressure:CNEP)不成功例の検討	'21/10	Web	診療部 小児科 外来・小児病棟	石森真吾, 山本和宏, 篠本匡志, 大西 聡, 服部有香, 今出 礼, 起塚 庸, 内山敬達, 南 宏尚
105	日本人類遺伝学会第66回大会・第28回日本遺伝子診療学会大会	CPLANE1に病的バリエントを認めたJoubert症候群関連疾患の一例 A case of Joubert syndrome-related disease with a pathogenic variant in CPLANE1	'21/10	Web	診療部 小児科 外来・小児病棟	四本由郁 ^{1, 2)} , 原田敦子 ^{1, 3)} , 玉置知子 ¹⁾ 1) 遺伝診療センター 2) 小児科 3) 小児脳神経外科
106	第89回醤油研究会	醤油醸造における大豆アレルゲンの分解・除去に関する研究(日本醤油協会技術賞受賞)	'21/10	東京都	診療部 小児科 外来・小児病棟	真岸範浩 ¹⁾ , 古林万木夫 ¹⁾ , 谷内昇一郎 1) ヒガシマル醤油株式会社
107	第70回日本アレルギー学会	Heiner症候群の1例	'21/10	横浜市	診療部 小児科 外来・小児病棟	谷内昇一郎, 近藤 淳 ¹⁾ , 石森真吾, 起塚 庸, 内山敬達, 今出 礼, 榎本真宏, 片田竜一 ²⁾ , 山田佳之 ³⁾ 1) 神戸大学小児科 2) 大阪大学法医学 3) 東海大学医学部小児科
108	JP-SHINE study: 小児特発性ネフローゼ症候群レジストリプロトコール検討会議	小児特発性ネフローゼ症候群全国疫学調査	'21/10	Web	診療部 小児科 外来・小児病棟	石森真吾
109	第37回日本小児外科学会秋季シンポジウム	気管切開孔を有する喉頭気管食道裂術後の嚥下障害に対してスピーチバルブ装着が有効であった1例	'21/10	東京都	診療部 小児外科	久松千恵子, 俵屋章則 ¹⁾ , 田中聡志, 辻 恵未, 服部健吾, 津川二郎, 櫻 篤 ¹⁾ , 西島栄治 1) リハビリテーション科
110	第31回日本小児外科QOL研究会	長期にわたり適切なフォローアップが受けられていなかった2例	'21/10	Web	診療部 小児外科	田中聡志, 久松千恵子, 辻 恵未, 服部健吾, 津川二郎, 西島栄治
111	第7回関西小児内視鏡外科研究会	患者ファーストと内視鏡手術トレーニングの矛盾の解消を目指して当院における虫垂炎での取り組み	'21/10	大阪市	診療部 小児外科	田中聡志, 服部健吾, 辻 恵未, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治
112	第137回中部日本整形外科学会・学術集会	単関節人工膝関節置換術後にベアリングの関節外後方脱臼を認めた一例	'21/10	Web	診療部 整形外科	有本章彦, 田中惇貴, 齋藤 亮, 小出 基, 岡本剛治, 平中崇文
113	第137回中部日本整形外科学会・学術集会	Oxford UKAにおける屈曲時下腿内外旋時のベアリングの動きに関する検討	'21/10	Web	診療部 整形外科	平中 崇文, 栖田慶仁, 齋藤 遼, 田中惇貴, 有本章彦, 岡本剛治
114	第137回中部日本整形外科学会・学術集会	Robotic-assisted kinematic alignment TKAではmid-flexionでの安定が得られる	'21/10	Web	診療部 整形外科	平中 崇文, 栖田慶仁, 齋藤 遼, 田中惇貴, 有本章彦, 岡本剛治

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
115	第58回糖尿病学会近畿地方会	突然発症した舞蹈病を契機に糖尿病と診断された2例	'21/10	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	林 友貴, 三浦 洋, 谷田梨乃, 平賀千尋, 吉田健一, 陳 慶祥
116	日本心臓血管麻酔学会第26回学術大会	右室血管肉腫摘出術の麻酔経験	'21/10	Web	診療部 麻酔科	丸山祐子, 西田隆也, 棚田和子, 三宅隆一郎 ¹⁾ 1) 明石医療センター麻酔科
117	小児麻酔学会第26回大会	小児における脳・脊髄機能モニタリングの実際～当院における神経生理学的手技の実践～	'21/10	仙台市	診療部 麻酔科	土居ゆみ
118	第69回日本小児神経学会近畿地方会	異なる契機で診断に至ったメルセデスベンツ症候群の3例	'21/10	大阪市	診療部 小児脳外科	米村優仁, 中村夏樹, 原田敦子, 久徳茂雄 ¹⁾ , 上田晃一 ²⁾ 1) 市立奈良病院 再建形成外科 2) 大阪医科大学 形成外科
119	日本小児麻酔学会第26回大会	逆行性に留置した末梢静脈路は小児脳外科手術における希釈式自己血輸血のための貯血速度が速い	'21/10	仙台市	診療部 麻酔科	土居ゆみ, 齊藤健一, 濱崎 豊, 三宅隆一郎
120	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	Bentall手術および下行大動脈置換後のMarfan患者に対してstraight rib-cross incisionで弓部大動脈全置換術および胸腹部大動脈置換術を一期的に施行した経験	'21/10	東京都	診療部 心臓血管外科	久保沙羅, 林 裕之, 常深孝太郎, 岡 隆紀, 大北 裕
121	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	自己弁温存大動脈弁基部置換術におけるcusp resuspension法の経験	'21/10	東京都	診療部 心臓血管外科	林 裕之, 岡 隆紀, 常深孝太郎, 久保沙羅, 大北 裕
122	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	Early results of aortic valve sparing operation for patients with aortic regurgitation	'21/10	東京都	診療部 心臓血管外科	林 裕之, 岡 隆紀, 常深孝太郎, 久保沙羅, 大北 裕
123	第129回関西形成外科学会学術集会	iSAP・iMAPに腓骨動脈穿通枝皮弁を併用し救肢した一例	'21/11	京都市	診療部 形成外科	出口 大, 黒川憲史
124	35th EACTS Annual Meeting	Surgical strategy to approach the re-do root	'21/11	Italy	診療部 心臓・大血管センター	Y Okita
125	第58回日本小児アレルギー学会学術大会	エリスリトールが原因でアナフィラキシーを呈した2症例	'21/11	横浜市	診療部 小児科 外来・小児病棟	谷内昇一郎, 副島和彦 ¹⁾ , 畑埜泰子 ¹⁾ , 高橋雅也 ¹⁾ , 今出 礼, 西田敬弘, 郷間 環, 榎本真宏, 西野昌光, 石森真吾, 内山敬達, 起塚 庸 1) 関西医科大学小児科教室
126	15th Congress of the European Society of Pediatric Otorhinolaryngology	SUBGLOTTIC RESTENOSIS REQUIRING REVISION SURGERY AFTER DECANULATION BY LARYGOTRACHEAL RECONSTRUCTION: CASE REPORTS	'21/11	Marseille	診療部 小児外科	Chieko Hisamatsu, Jiro Tsugawa, Satoshi Tanaka, Emi Tsuji, Kengo Hattori, Eiji Nishijima
127	第83回日本臨床外科学会	肝膿瘍による敗血症性ショックで見つかった胆嚢胃瘻の1例	'21/11	Web	診療部 消化器外科	濱中統親, 立花崇明, 徳原佳織, 細野雅義, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎
128	第83回日本臨床外科学会	十二指腸憩室内の腸石落下が原因として疑われた小腸イレウスの一例	'21/11	Web	診療部 消化器外科	立花崇明, 徳原佳織, 細野雅義, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎
129	第232回日本内科学会近畿地方会	消化器症状を主訴とする悪性症候群が呼吸不全やDIC, 消化管出血を来したショックに至った1例	'21/11	Web	診療部 消化器内科	濱中統親, 金丸薫子, 石田亮介, 谷本直紀, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也
130	第31回臨床内分泌代謝Update	SGLT 2 阻害薬内服下気腫性腎盂腎炎と甲状腺クリーゼを併発した1例	'21/11	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	鈴木里咲, 吉田健一, 平賀千尋, 岡亜希子, 三浦 洋, 坂田憲祐 ¹⁾ , 村井直樹 ²⁾ , 陳 慶祥 1) 不整脈内科 2) 循環器内科

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
131	第35回日本脳神経外科国際学会フォーラム	Limited Dorsal Myeloschisis without Extradural Stalk of Coexisting Congenital Dermal Sinus and Dorsal Lipoma with Osteochondral Tissue Migration	'21/11	Web	診療部 小児脳神経外科	Yuki Kawamoto, Natsuki Nakamura, Hideyuki Arita, Kazushige Maeno, Hidetsuma Utsunomiya, Takato Morioka, Atsuko Harada
132	第63回日本消化器病学会大会	メトトレキサート肝障害病勢評価への肝線維化スコアの有用性	'21/11	兵庫県	診療部 病理科	伊藤裕貴, 伊倉義弘, 大須賀達也
133	第29回日本消化器関連学会週間	メトトレキサート長期投与による肝傷害度評価における肝線維化スコアの有用性	'21/11	神戸市	診療部 消化器内科	伊藤, 伊倉, 大須賀
134	第一回夜間頻尿セミナー	『夜間頻尿：最近の話題』	'21/11	大阪市	診療部 泌尿器科	西田 剛
135	第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会	硬結性紅斑を伴った小児Crohn病の1例	'21/11	奈良市	診療部 皮膚科	中村 彩, 笹瀬玲奈, 山田はるひ, 山本哲久, 瀬戸英伸, 土肥周平, 長谷川和範
136	第49回日本救急医学会総会・学術集会	歯科治療直後に発症した皮下・縦郭気腫の一例	'21/11	東京都	総合救急医療センター 救急科	豊島千絵, 稲本真也, 秋元 寛
137	Fuji symposium	First Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation	'21/12	USA	診療部 Heart Rhythm Center	Kohei Yamashiro
138	日本不整脈心電学会近畿支部会	～心電図検定に向けて、心電図の基本を学ぼう！～	'21/12	大阪市	診療部 不整脈	山城荒平
139	日本不整脈心電学会近畿支部会	Remote magnetic navigation systemを用いて治療しえた乳頭筋起源の心室頻拍の一例	'21/12	大阪市	診療部 不整脈	田中友望, 坂田憲佑, 山城荒平
140	第98回日本呼吸器学会近畿地方会	両肺にすりガラス状濃度の小葉中心性結節を多数認め過敏性肺炎との鑑別を要した浸潤性肺腺癌の1例	'21/12	Web	診療部 呼吸器内科	松村雅生, 岩本夏彦, 大内愛子, 山岡貴志, 岡本真理子, 岩坪重彰, 松村佳乃子, 中村美保, 金 永学, 船田泰弘
141	第98回日本呼吸器学会近畿地方会	肺結核加療後に急激に増大した肺空洞性病変の一例	'21/12	Web	診療部 呼吸器内科	大内愛子, 松村佳乃子, 山崎菜々美, 山岡貴志, 岩本夏彦, 岡本真理子, 岩坪重彰, 中村美保, 金 永学, 船田泰弘
142	第98回日本呼吸器学会近畿地方会	癌性リンパ管症, サルコイドーシスと鑑別を要したリンパ節結核の一例	'21/12	Web	診療部 呼吸器内科	岡本真理子, 松村佳乃子, 山崎菜々美, 山岡貴志, 大内愛子, 岩本夏彦, 岩坪重彰, 中村美保, 金 永学, 船田泰弘
143	第99回日本呼吸器学会近畿地方会	両側胸水貯留から両側性結核性胸膜炎と診断した一例	'21/12	Web	診療部 呼吸器内科	岩本夏彦, 大内愛子, 山岡貴志, 岡本真理子, 岩坪重彰, 松村佳乃子, 中村美保, 金 永学, 船田泰弘
144	日本内科学会近畿支部主催第234回近畿地方会	誘因のない急性の両下肢脱力でギラン・バレー症候群と鑑別を要した腰部脊柱管狭窄症	'21/12	Web	診療部 脳神経内科	西村瞭佑, 立花久嗣, 真鍋裕宇, 齊藤 亮 ¹⁾ , 岡本剛治 ¹⁾ , 松下達生 ¹⁾ 整形外科
145	第34回日本内視鏡外科学会総会	脾嚢胞に対し腹腔鏡下天蓋切除および大網被覆術を施行した4例の検討	'21/12	神戸市	診療部 消化器外科	徳原佳織, 岡崎太郎, 立花崇明, 細野雅義, 大和田善之, 川崎健太郎
146	第34回日本内視鏡外科学会総会	乳癌の胆嚢転移を合併した急性胆石性胆嚢炎の一例	'21/12	神戸市	診療部 消化器外科	細野雅義, 立花崇明, 徳原佳織, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
147	ACP India Chapter	Primary health care in Japan: Challenges of super aged society social distance, & poverty	'21/12	Goa, India	診療部 総合内科	Takahiko Tsutsumi
148	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	下部消化管疾患における内視鏡治療の工夫 直腸NETに対するEHLデバイスを利用したESMR-Lの有効性・安全性について (パネルディスカッション)	'21/12	神戸市	診療部 病理科	伊藤裕貴, 伊倉義弘, 大須賀達也
149	日本内科学会近畿支部主催第234回近畿地方会	遷延する意識障害で救急受診され経時的評価で診断しえたクロイツフェルト・ヤコブ病	'21/12	Web	診療部 脳神経内科	林 友貴, 立花久嗣, 阪本萌永子, 松下達生
150	第132回日本循環器学会近畿地方会	黄色ブドウ球菌による急性細菌性心膜炎の治療経過中に心破裂を来した1例	'21/12	Web	愛仁会高槻病院 循環器内科/心臓血管外科	片平龍太郎, 佐野浩之, 佐久間大輝, 田中悠介, 谷村幸亮, 湯口 賢, 松寺 亮, 村井直樹, 中島健爾, 常深孝太郎, 岡 隆紀, 高岡秀幸, 大北 裕
151	第132回日本循環器学会近畿地方会	大動脈弁輪・基部拡大を伴った大動脈弁置換術の検討	'21/12	Web	診療部 心臓血管外科	久保沙羅, 林 裕之, 常深孝太郎, 岡 隆紀, 大北 裕
152	第132回日本循環器学会近畿地方会	大動脈弁閉鎖不全症に対して大動脈弁輪・上行大動脈接合部縫縮術を施行した一例	'21/12	Web	診療部 心臓血管外科	林 裕之, 岡 隆紀, 常深孝太郎, 久保沙羅, 大北 裕

論文発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	J Card Surg.	Treatment strategies for malperfusion syndrome secondary to acute aortic dissection	36(5)	1745-1752, 2021	診療部 心臓・大血管外科 センター	Okita Y, Okada K.
2	J Thorac Cardiovasc Surg.	Reply from authors: We still have more to do in our life	161(5)	e365-e366, 2021	診療部 心臓・大血管外科 センター	Okita Y, Ikeno Y, Okada K
3	Circ J.	Two-Year Results of the 17-mm Avalus Aortic Valve in the PERIGON Japan Trial	85(7)	1035-1041, 2021	診療部 心臓・大血管外科 センター	Yutaka Okita, Tomoyuki Fujita, Kenta Zaikokuji, Hiroyuki Nakajima, Katsuhiko Yamanaka, Yoshiaki Fukumura, Atsushi Yamaguchi, Hirohisa Murakami, Hitoshi Yaku, Elizabeth Gearhart, Tatsuhiko Komiya
4	Asian Cardiovasc Thorac Ann.	Frozen elephant trunk usage in acute aortic dissection	29(7)	612-618, 2021	診療部 心臓・大血管外科 センター	Yutaka Okita
5	Eur J Cardiothorac Surg.	Need more cells and cytokine	30-Jul	ezab260, 2021	診療部 心臓・大血管外科 センター	Yutaka Okita
6	PEPARS	遠位茎腓膜皮弁による足の再建	174	1-8, 2021	診療部 形成外科	黒川憲史, 久徳茂雄, 大谷一弘
7	胸部外科	心臓圧迫により左室機能障害をきたした巨大孤立性線維性腫瘍の1例 (原著論文)	74(13)	1122-1125, 2021	診療部 呼吸器外科	椎名祥隆, 吉村雅裕, 岡本武士

外部研修・研究実績

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
8	J Thorac Dis.	Re-thinking about prophylactic cranial irradiation for small cell lung cancer in the MRI era	13(8)	5115-5116, 2021	診療部 呼吸器内科	Akiko Ouchi, Young Hak Kim, Shigeaki Iwatsubo, Yoshihiro Nishimura, Yasuhiro Funada
9	Respir Med Case Rep.	Exacerbation of nontuberculous mycobacterial pulmonary disease in a patient with advanced non-small-cell lung cancer during treatment with PD-1 inhibitor and chemotherapy	34	101529, 2021	診療部 呼吸器内科	Mariko Okamoto, Young Hak Kim, Aiko Ouchi, Takashi Yamaoka, Natsuhiko Iwamoto, Shigeaki Iwatsubo, Kanoko Matsumura, Miho Nakamura, Yasuo Kin, Yoshitaka Shina, Yasuhiro Funada
10	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	子宮頸管・卵管同時妊娠の1例診断と治療戦略策定の思考過程(原著論文)	37(1)	171-175, 2021	診療部 産婦人科	加藤大樹, 小寺知揮, 萩本圭祐, 菅田佳奈, 飯塚徳昭, 西川茂樹, 柴田貴司, 中後 聡
11	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Minimizing abdominal incision for transverse uterine fundal incision by aspiration of amniotic fluid and reduction of uterine size.(原著論文)	47(3)	900-903, 2021	診療部 産婦人科	Nakago Satoshi, Kato Hiroki, Shibata Takashi, Nishijima Koji, Kotsuji Fumikazu
12	日本骨盤底医学会雑誌	McDonald頸管縫縮術後に尿管開口部付近に生じた膀胱陰癭の修復～修復を成功させ尿管膀胱移植を回避するための手技と思考～	18(1)	p11-16, 2021	診療部 産婦人科	大石哲也, 柴田貴司, 加藤大樹, 中後 聡, 小辻文和, 右梅貴信
13	Cardiovasc Interv Ther.	Integrated backscatter-intravascular ultrasound and modification of plaque during excimer laser coronary angioplasty	31	doi: 10.1007/s12928-021-00797-0. Online ahead of print, 2021	診療部 循環器内科	Satoru Sasaki, Kenji Nakajima, Keizo Watanabe, Yudai Nozaki, Tadashi Yuguchi, Hiroyuki Sano, Ryo Matsutera, Naoki Murai, Hiroaki Abe, Hideyuki Takaoka
14	BMJ Case Rep.	Cardiac angiosarcoma in the right ventricle treated by surgical resection	2;14(3)	e238736. doi: 10.1136/bcr-2020-238736, 2021	診療部 循環器内科/心臓血管外科	Uemura K, Sano H, Takaoka H, Okita Y
15	Pediatr Pulmonol.	Effect of oral care in reducing the incidence of early-onset ventilator-associated pneumonia in preterm infants	56(8)	2570-2575, 2021	診療部 小児科・新生児科	Katayama Y, Takanishi H, Sato Y, Fujita S, Enomoto M
16	日本小児救急医学会雑誌	食道入口部に嵌した異物によって気道緊急に陥った11カ月女児例(原著論文)	20(3)	446-450, 2021	診療部 PICU	山根弘美, 起塚 庸, 大西 聡, 篠本匡志, 李 崇至, 石森真吾, 田原慎太郎, 土居ゆみ, 岡本光正, 津川二郎
17	Sci Rep.	Predictive factors of continuous negative extrathoracic pressure management failure in children with moderate to severe respiratory syncytial virus infection	11(1)	8063, 2021	診療部 小児科・新生児科 (外来・小児病棟)	Ishimori S, Okizuka Y, Onishi S, Shinomoto T, Minami H
18	Pediatr Int.	Modified setting of negative pressure in children with mild respiratory disease	63(7)	838-844, 2021	診療部 小児科・新生児科 (外来・小児病棟)	Ishimori S, Nagase S, Kanagawa A, Nakajiri T, Okita S, Oyazato Y, Nishiyama A, Yonetani M

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
19	Sci Rep.	Influenza virus vaccination in pediatric nephrotic syndrome significantly reduces rate of relapse and influenza virus infection as assessed in a nationwide survey	11 (1)	23305, 2021	診療部 小児科・新生児科 (外来・小児病棟)	Ishimori S, Ando T, Kikunaga K, Terano C, Sato M, Komaki F, Hamada R, Hamasaki Y, Araki Y, Gotoh Y, Nakanishi K, Nakazato H, Matsuyama T, Iijima K, Yoshikawa N, Ito S, Honda M, Ishikura K
20	小児耳鼻咽喉科	ex utero intrapartum treatment (EXIT) により出生した先天性声門下腔狭窄症に対してpartial cricotracheal resection (PCTR) を行い気管切開チューブの抜去に成功した1例 (原著論文)	42(3)	375-382, 2021	診療部 小児外科	高成田祐希, 津川二郎
21	愛仁会医学研究誌	先天性Y型重複尿道 同所性の尿道を利用する一時的再建が試みられた1例 (Congenital Y-type Urethral Duplication: A Case in which One-Stage Reconstruction Utilizing an Prthotopic Urethra was Attempted) (原著論文)	52	39-42, 2021	診療部 小児外科	Hattori Kengo, Iwabuchi Serena, Tsuji Emi, Hisamatsu Chieko, Nishijima Eiji
22	日本小児外科学会雑誌	偶発的に発見された mesodiverticular band の1例 (原著論文)	57(5)	860-865, 2021	診療部 小児外科	辻 恵美, 服部健吾, 岩瀨瀬怜奈, 久松千恵子, 西島栄治
23	日本小児外科学会雑誌	寄生体由来と考えられる両側盲端の腸管を臍帯ヘルニア内に認めた上腹部Heteropagusの1例 (原著論文)	57(3)	663-667, 2021	診療部 小児外科	岩瀨瀬怜奈, 服部健吾, 津川二郎, 西島栄治, 渡部 彩, 田中聡志, 中田有紀, 岸上 真, 長坂美和子, 池上 等
24	日本小児外科学会雑誌	声門下嚢胞の治療適応と手術術式に関する検討 (原著論文)	57(1)	44851, 2021	診療部 小児外科	高成田祐希, 津川二郎, 服部健吾, 久松千恵子, 土居ゆみ, 西島栄治
25	小児看護	【子どもの排尿・排便】基礎知識 排便について 排便機能と排便障害	44(4)	399-403, 2021	診療部 小児外科	西島栄治
26	癌と化学療法	胃原発MANECに対して外科的切除を施行した2例 (原著論文)	48(13)	1661-1663, 2021	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 立花崇明, 徳原佳織, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也, 伊倉義弘, 岩井泰博
27	Dig Liver Dis.	Endoscopic detection of the lead-point of intussusception associated with ileal Burkitt's lymphoma	2021 May: 53 (5) ※ Epub 2020 Jun 16.	652-653, 2021	診療部 消化器内科	Kaoruko Kanamaru, Chieko Hisamatsu, Tatsuya Osuga, Yoshihiro Ikura
28	愛仁会医学研究誌	変形性膝関節症の日本人膝におけるHKAAとT-JLOAとの関係 (原著論文)	52	44847, 2021	診療部 整形外科	荒木祥太郎, 平中崇文, 名古竜平, 岡田 亮, 重本理花, 置村健二郎, 田中聡一, 藤代高明, 岡本剛治
29	整形外科	問題点の検討 Oxford単顆型人工膝関節置換術後における脛骨骨折の保存的治療 (原著論文)	72(13)	1371-1374, 2021	診療部 整形外科	岡田 亮, 平中崇文, 置村健二郎, 藤代高明, 岡本剛治
30	愛仁会医学研究誌	変形性膝関節症の日本人膝におけるHKAAとT-JLOAとの関係(原著論文)	2021	44847, 2021	診療部 整形外科	荒木祥太郎, 平中崇文, 名古竜平, 岡田 亮, 重本理花, 置村健二郎, 田中聡一, 藤代高明, 岡本剛治
31	臨床整形外科	鎖骨遠位橋骨折の治療成績 フックプレートvs. ロッキングプレート (原著論文)	2021	1093-1097, 2021	診療部 整形外科	齊藤 亮
32	Acta Ortop Bras	Clinical outcomes After unicompartmental knee arthroplasty for osteonecrosis of the knee	29	44911, 2021	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T*, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K

外部研修・研究実績

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
33	Knee.	External rotation of the tibial component should be avoided in lateral unicompartmental knee arthroplasty	30	70-77, 2021	診療部 整形外科	Fujita M, Hiranaka T*, Brang Mai, Kamenaga T, Tsubosaka M, Takayama K, Kuroda R, Matsumoto T
34	Knee.	Impact of joint line orientation on clinical outcomes in bilateral Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty	28	186-187, 2021	診療部 整形外科	Nishida R, Hiranaka T, Kamenaga T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K, Kuroda R, Matsumoto T
35	Clin Orthop Surg.	Manipulation of Tibial Component to Ensure Avoidance of Bearing Separation from the Vertical Wall of Tibial Component in Oxford Unicompartmental Arthroplasty	13	123-126, 2021	診療部 整形外科	Hiranaka T, Tanaka T, Okimura K, Fujishiro T, Shigemoto R, Araki S, Okada R, Nako R, Kamenaga T, Okamoto K Manipulation of Tibial Component to Ensure Avoidance of Bearing Separation from the Vertical Wall of Tibial Component in Oxford Unicompartmental Arthroplasty.
36	Knee.	Response to Letter to the Editor "Nishida et al: Impact of joint line orientation on clinical outcomes in bilateral Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty"	31	195-197, 2021	診療部 整形外科	Nishida R, Hiranaka T
37	Clin Orthop Surg.	Clinical Results of Dual SC Screw: A Mini-Sliding Hip Screw with an Anti-rotating Screw for Femoral Neck Fractures	13	449-455, 2021	診療部 整形外科	Hiranaka T, Tanaka T, Okumura K, Fujishiro T, Shigemoto R, Araki S, Okada R, Nako R, Okamoto K
38	J Arthroplasty	Anterior Cruciate Ligament Deficiency is Not Always a Contraindication for Medial Unicompartmental Knee Arthroplasty: A Retrospective Study in Nondesigner's Japanese Hospital	36	495-500, 2021	診療部 整形外科	Anterior Cruciate Ligament Deficiency is Not Always a Contraindication for Medial Unicompartmental Knee Arthroplasty: A Retrospective Study in Nondesigner's Japanese Hospital.
39	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.	Lateral osteoarthritis progression is associated with a postoperative residual tibiofemoral subluxation in Oxford UKA	30	3236-3243, 2021	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Nakano N, Kuroda Y, Tsubosaka M, Hayashi S, Kuroda R, Matsumoto T.
40	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.	Short distance from the keel to the posterior tibial cortex is associated with fracture after cementless Oxford UKA in Asian patients.	30	1220-1230, 2021	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Nakano N, Hayashi S, Fujishiro T, Okamoto K, Kuroda R, Matsumoto T
41	日本病跡学雑誌	車寅次郎の虎気質について(原著論文)	102	23-30, 2021	診療部 精神科	杉林 稔
42	週刊 医学のあゆみ	天才の精神分析 病跡学(パトグラフィ)への誘い10 庄野潤三と暦時間 健康を考える病跡学	276	181-183, 2021	診療部 精神科	杉林 稔
43	臨床精神病理	うつ病と暦時間「あとの祭り」と「きのうの祭り」	42	78-83, 2021	診療部 精神科	杉林 稔
44	総合病院精神医学雑誌	自閉症スペクトラム障害の現象学: 目立たない特性を記述する試み	33	65-71, 2021	診療部 精神科	小林道太郎 ¹⁾ , 杉林 稔 1) 大阪医科大学看護部

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
45	愛仁会医学研究誌	経口摂取量が不十分な高齢患者に対する人工的水分・栄養補給法に関するカウンセリングの効果 単一施設前向きコホート研究 (Impact of Counseling on Artificial Hydration and Nutrition for Elderly Patients with Insufficient Oral Intake: Single Center Prospective Cohort Study) (原著論文)	52	14-21, 2021	診療部 総合内科	恒光綾子, 筒泉貴彦, 福井崇文, 下川敏雄, 今中雄一
46	Internal Medicine	Deciduosis of the Appendix During Pregnancy	60(10)	1641-1644, 2021	診療部 総合内科	Tsunemitsu Ayako, Tsutsumi Takahiko, Ikura Yoshihiro
47	皮膚科の臨床	著明な顔面・口腔内病変から診断し得た多発性骨髄腫に伴う全身性アミロイドーシスの1例	第63巻 第8号	1293-1296, 2021	診療部 皮膚科	大桑槿子, 高山恵律子, 恒光綾子, 岡本雅司, 瀬戸英伸
48	The Journal of Dermatology	Successful excision of localized bullous pemphigoid on the unilateral areola	48(7)	349-350, 2021	診療部 皮膚科	Takayama E, Seto H
49	Dig Liver Dis	Endoscopic detection of the lead-point of intussusception associated with ileal Burkitt's lymphoma.	53(5)	652-653, 2021	診療部 病理科	Kanamaru K, Hisamatsu C, Osuga T, Ikura Y
50	Intern Med	Deciduosis of the Appendix During Pregnancy	60(10)	1641-1644, 2021	診療部 病理科	Tsunemitsu A, Tsutsumi T, Ikura Y
51	Thorac Cancer	Malignant pleural mesothelioma in a patient with pneumothorax: A cumbersome subtype both clinically and pathologically	12(6)	974-977, 2021	診療部 病理科	Fukui T, Okubo T, Tanimoto N, Okuma H, Shiina Y, Kohama M, Yamada J, Funada Y, Ikura Y
52	Clin Case Rep	Jejunal hemorrhage due to hemolymphangioma successfully detected and controlled by double-balloon enteroscopy	9(12)	e05153, 2021	診療部 病理科	Ito Y, Osuga T, Kawasaki K, Ikura Y
53	癌と化学療法	胃原発MANECに対して外科的切除を施行した2例	48(13)	1661-1663, 2021	診療部 病理科	大和田善之, 川崎健太郎, 立花崇明, 徳原佳織, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也, 伊倉義弘, 岩井泰博
54	International Journal of Anesthetics and Anesthesiology	Rapid Progression of Neonatal Respiratory Distress from Laryngeal Cleft Type I: A Case Report	8	127, 2021	診療部 Department of Anesthesia	Yumi Doi, Eiji Nishijima
55	小児の脳神経	当院における脊髄髄膜瘤の診断, 治療, 機能予後 2012年から2019年の報告 (原著論文)	46(4)	279-283, 2021	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 阪本大輔, 山中 巧, 宇都宮英綱
56	小児の脳神経	頭位性斜頭との鑑別が困難であった片側ラムダ縫合早期癒合症の1乳児例 (原著論文)	46(1)	50-55, 2021	診療部 小児脳神経外科	木本優希, 原田敦子, 宇津木玲奈, 岡本豊子, 久徳茂雄, 上田晃一
57	小児の脳神経	正期産児における表在脳実質性髄膜出血の画像所見と臨床像 (原著論文)	46(1)	44568, 2021	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 宇都宮英綱, 藤永貴大, 有田英之, 前野和重, 原田敦子
58	脳外誌	小児水頭症における最良の手術とデバイスの選択	30(6)	432-437, 2021	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
59	Digestive and Liver Disease	Endoscopic detection of the lead-point of intussusception associated with ileal Burkitt's lymphoma	53(5)	652-653, 2021	診療部 消化器内科, 小児外科, 病理診断科	Kanamaru Kaoruko, Hisamatsu Chieko, Osuga Tatsuya, Ikura Yoshihiro

著書発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署名	著者
1	α -Dystronglycanopathy: Molecular mechanism, clinical manifestations, and therapeutic approaches	Elsevier USA	Comprehensive Glycoscience Second Edition	335-345, 2021	診療部 小児科・新生児科	Nagasaka M, Taniguchi-Ikeda M
2	精神科シンプマトロジー 症状学入門	医学書院・東京	初版	100-101, 124-125, 170-171, 188-189, 2021	診療部 精神科	杉林 稔 (分担執筆)

その他 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第44回日本小児皮膚科学会 学会学術大会	一般演題6 口演「薬疹・中毒疹」「物理的科学的障害」	'21/1	Web	診療部 皮膚科	座長：瀬戸英伸
2	Parkinson's Disease Seminar in 三島	サフィナミド初期使用経験	'21/1	大阪市	診療部 脳神経内科	松下達生
3	第51回日本心臓血管外科学会 学会学術総会	ビデオシンポジウム3 急性大動脈解離に対する大動脈基部置換術	'21/2	京都市	診療部 心臓・大血管センター	座長：大北 裕, 湊谷謙司 ¹⁾ 1) 京都大学心臓血管外科
4	第4回大阪発達障害支援 ネットワーク研究会	演題I	'21/3	Web	診療部 精神科	座長：杉林 稔
5	第61回日本呼吸器学会学術 講演集会	気管支喘息 ABPM2	'21/4	東京都	診療部 呼吸器内科	座長：松村佳之子 原田紀宏 ¹⁾ 1) 順天堂大学医学部附属 順天堂医院
6	第23回北摂皮膚科医会	一般演題	'21/4	大阪市	診療部 皮膚科	司会 瀬戸英伸
7	第24回日本臨床救急医学会 総会・学術集会	「消化器系の疾患・病態」	'21/6	Live配信・ オンタイム配信	診療部 急性期外科	座長：庄古知久 ¹⁾ , 則尾弘文 ²⁾ , 爲廣一任 ³⁾ , 秋元 寛 ⁴⁾ 1) 東京女子医科大学東医療センター 救命救急センター・救急医療家 2) 済生会福岡総合病院 救命救急センター 3) コメンテーター 聖マリア病院 救命救急センター 集中治療科 4) 高槻病院 総合救急医療センター
8	第34回日本小児救急医学会 学術集会	消化管1	'21/6	奈良市	診療部 PICU	座長：古田繁行 ¹⁾ , 起塚 庸 1) 聖マリアンナ医科大学
9	第35回日本小児ストーマ・ 排泄・創傷管理研究会	要望演題1 「胃瘻管理の合併症とその対策」	'21/6	松本市	診療部 小児外科	座長：津川二郎, 松尾規佐 ¹⁾ 1) 大阪母子医療センター 看護部
10	第49回小児神経外科学会	一般口演1 頭蓋骨縫合早期癒合症1	'21/6	福島市	診療部 小児脳神経外科	座長：原田敦子, 藍原康雄 ¹⁾ 1) 東京女子医科大学脳神経外科
11	第17回Craniosynostosis 研究会	一般口演II 治療①	'21/6	岡山市	診療部 小児脳神経外科	座長：原田敦子

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
12	WEP2021	Session 1	'21/7	Web	診療部 心臓・大血管センター	座長：大北 裕, 湊谷謙司 ¹⁾ 1) 京都大学
13	高槻ポータルWebカンファレンス	肺扁平上皮がんの新しい治療戦略について～ポータルをどのように組み込むか	'21/7	Web	診療部 呼吸器内科	岩坪重彰
14	第57回日本周産期・新生児医学会学術集会	シンポジウム5「在胎22～23週の急性期管理」「在胎22～23週の超早産児の急性期管理について～施設比較」	'21/7	宮崎市	診療部 小児科・新生児科	長坂美和子, 小田 新 ¹⁾ , 近藤雅楽子 ²⁾ 1) 長野県立こども病院新生児科 2) 東京都立墨東病院新生児科
15	第47回日本骨折治療学会	AI および画像評価	'21/7	神戸市	診療部 整形外科	座長：平中崇文
16	第47回日本骨折治療学会	シンポジウム8 医工連携	'21/7	神戸市	診療部 整形外科	座長：谷下一夫 ¹⁾ , 平中崇文 1) 日本医工ものづくりコモンズ 研究センター
17	第12回日本子ども虐待医学会学術集会	BEAMS stage1 医療機関向けの虐待対応啓発プログラム	'21/7	京都市	診療部 PICU	座長：仙田昌義 ¹⁾ 講師：起塚 庸 1) 総合病院国保旭中央病院小児科
18	Astrazeneca SCLC 1st Anniversary Symposium	進展型小細胞肺癌治療におけるCASPIANレジメンの検討	'21/8	Web	診療部 呼吸器内科	ディスカッサント：岩坪重彰
19	Lilly AD Dermatology Meeting	これからのアトピー性皮膚炎治療パラダイムシフト	'21/8	Web	診療部 皮膚科	座長：瀬戸英伸
20	Lilly AD Dermatology Meeting	アトピー性皮膚炎診療の現状と今後の展望	'21/8	Web	診療部 皮膚科	座長：山本哲久
21	第70回東日本整形災害外科学会ランチョンセミナー5	大腿骨頸部骨折の新たな治療選択肢～17年の伝統、そして進化～	'21/9	盛岡市	診療部 整形外科	座長：正田悦朗 ¹⁾ 演者：平中崇文 1) 兵庫県立西宮病院 整形外科部長
22	地域で見守る脳神経疾患Webセミナー	当院における脳卒中診療について～Time is brain～	'21/9	Web	診療部 脳神経内科	松下達生
23	オンラインで繋がる皮膚疾患外用法勉強会	皮膚科における外用療法について～あなたの常識ありますか？～	'21/9	Web	診療部 皮膚科	座長：瀬戸英伸
24	第58回日本糖尿病学会近畿地方会	一般演題29 インスリン治療	'21/10	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	座長：金子至寿佳 ¹⁾ , 陳 慶祥 1) 高槻赤十字病院・内分泌・代謝内科
25	第44回日本精神病理学会	教育講演2	'21/10	Web	診療部 精神科	座長：杉林 稔
26	地域で見守る片頭痛治療Webセミナー	片頭痛治療の新時代	'21/10	Web	診療部 脳神経内科	松下達生
27	片頭痛治療Webセミナー in 三島	高槻市における頭痛診療について	'21/11	Web	診療部 脳神経内科	松下達生
28	第62回日本肺癌学会学術集会	ポスター座長ハイライト発表2-4 免疫関連有害事象・肺障害	'21/11	横浜市	診療部 呼吸器内科	座長：金 永学
29	Lung Cancer Seminar in MISHIMA	気管支鏡を考える	'21/11	Web	診療部 呼吸器内科	座長：岩坪重彰
30	第6回神戸肝胆膵外科ビデオクリニック	高度技能医 提出ビデオ	'21/11	Web	診療部 消化器外科	座長・司会：岡崎太郎

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
31	Aimovig Web Symposium in 北摂	新しい抗体医薬品による片頭痛 治療の現場から	'21/12	Web	診療部 脳神経内科	松下達生
32	中外製薬社内講演会	肺癌2021	'21/12	Web	診療部 呼吸器内科	講師：岩坪重彰
33	中外製薬社内講演会	肺癌2022	'21/12	Web	診療部 呼吸器内科	講師：岩坪重彰
34	第68回日本病跡学会総会	一般演題A1-A3	'21/12	大分市	診療部 精神科	座長：杉林 稔

愛仁会リハビリテーション病院

口頭発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	第63回日本小児神経学会 学術集会	気管切開を要する医療的ケア児への在宅療 養支援の実績報告	'21/5	Web	診療部 小児科	李 容桂, 寺田明佳, 和田佳子
2	第58回日本リハビリテーション 医学会学術集会	脳卒中片麻痺患者への装具処方とその帰結	'21/6	京都市	診療部 リハビリテー ション科	越智文雄
3	第58回日本リハビリテーション 医学会学術集会	度重なる感染で難渋した頭部外傷の1例	'21/6	京都市	診療部 リハビリテー ション科	砂田一郎
4	第58回日本リハビリテーション 医学会学術集会	摂食嚥下障害 (地域連携) ポスター 座長	'21/6	京都市	診療部 リハビリテー ション科	中島敦史
5	第49回日本リハビリテーション 医学会近畿地方会	段差昇降訓練で膝蓋骨骨折を発症した 人工膝関節置換術後患者の1例	'21/8	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	越智文雄
6	第49回日本リハビリテーション 医学会近畿地方会	髄腔内バクロフェン (ITB) 療法でのボツ リヌス毒素療法の併用	'21/8	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	砂田一郎
7	第49回日本リハビリテーション 医学会近畿地方会	両側前頭葉の脳挫傷後の歩行障害にドパミ ン製剤が有効であった1例	'21/8	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	福田和浩
8	第37回日本義肢装具学会 学術大会	シリコンライナーの内側に断端袋を装着す ることで断端の皮膚障害が改善し義足歩行 が自立した下腿切断の1例	'21/10	Web	診療部 リハビリテー ション科	越智文雄
9	第19回日本新生児黄疸研究会	在胎36週以上の新生児のビリルビン/アル ブミン比によるUB値の予測可能性	'21/10	Web	診療部 小児科	李 容桂
10	第21回大阪病院学会	回復期リハビリテーション病院における 装具検討会の効果	'21/11	Web	診療部 リハビリテー ション科	越智文雄
11	第5回日本リハビリテーション医 学会秋季学術集会	予後予測に苦慮した回復遅延型ギラン・ バレー症候群の一例	'21/11	名古屋市	診療部 リハビリテー ション科	中島敦史
12	第5回日本リハビリテーション医 学会秋季学術集会	ウイズコロナ時代における高齢頸髄損傷患 者の退院支援	'21/11	名古屋市	診療部 リハビリテー ション科	松岡美保子
13	第56回脊髄障害医学会	Expert Opinion 症例報告：頸髄不全損傷 AIS Cに対してどう対処するか	'21/11	Web	診療部 リハビリテー ション科	住田幹男, 松岡美保子
14	第56回脊髄障害医学会	退院後の脊髄損傷患者へのアンケート調査 におけるwebの活用	'21/11	Web	診療部 リハビリテー ション科	藤井優子, 松岡美保子
15	第56回脊髄障害医学会	①間欠式バルーンカテーテル併用の有無別 にみた脊髄障害患者における尿路感染症 の発生状況 ②清潔間欠導尿を行っている脊髄障害患者 の生活満足度調査 ③Web調査に基づく脊髄障害患者における 尿路感染症の発生状況：間欠自己導尿vs カテーテル留置	'21/11	Web	診療部 リハビリテー ション科	松岡美保子
16	第120回日本神経学会 近畿地方会	右前頭葉内側面・脳梁梗塞後に吃音を呈し た症例のリハビリテーション経験	'21/12	大阪市	診療部 リハビリテー ション科	福田和浩

論文発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁,年	部署名	著者
1	日本医療マネジメント学会雑誌	回復期リハビリテーション病床におけるCVP分析を用いた損益分岐点の比較研究	22. Vol.2	71-76, 2021	診療部 リハビリテー ション科	磯山浩孝, 吉田和也
2	愛仁会医学研究誌	自発性欠如と前頭葉失調に影響で日常生活動作全般に介助を要した脳挫傷の1例	53巻	掲載予定, 2021	診療部 リハビリテー ション科	福田和浩
3	The Journal of spinal cord medicine	The effect of the COVID-19 pandemic on the health-related quality of life in home-based patients with spinal cord injuries in Japan	—	Published online, 2021	診療部 リハビリテー ション科	松岡美保子
4	日本脊髄障害医学会誌	尿路カテーテルを使用している脊髄障害患者における症候性尿路感染の発生率 Web調査のpreliminary results	Vol.34	44-48, 2021	診療部 リハビリテー ション科	松岡美保子

その他 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	摂食・嚥下障害 一般演題 座長	'21/6	京都市	診療部 リハビリテー ション科	磯山浩孝
2	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	脊髄損傷・骨粗しょう症 一般演題 座長	'21/6	京都市	診療部 リハビリテー ション科	松岡美保子
3	北摂・北河内痙縮セミナー	患者満足度向上を目指した上肢・下肢痙縮の治療	'21/7	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	砂田一郎
4	第49回日本リハビリテーション医学会近畿地方会	大会長	'21/8	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	磯山浩孝
5	第49回日本リハビリテーション医学会近畿地方会	教育講演 座長	'21/8	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	越智文雄
6	第49回日本リハビリテーション医学会近畿地方会	一般演題座長代行	'21/8	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	松岡美保子
7	高槻市介護予防マイスター養成講座	フレイル予防について	'21/9	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	砂田一郎
8	GSK Spasticity Web Conference	患者満足度向上を目指した上肢・下肢痙縮の治療	'21/11	高槻市	診療部 リハビリテー ション科	砂田一郎
9	痙縮治療 Meet the Expert in 大阪	座長	'21/11	大阪市	診療部 リハビリテー ション科	砂田一郎
10	三島圏域多職種連携セミナー	地域で取り組む痙縮治療	'21/11	Web	診療部 リハビリテー ション科	砂田一郎

明石医療センター

口頭発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	第357回東播小児臨床談話会	5歳児検尿をきっかけに発見されたSchimke症候群の1症例	'21/1	明石市	診療部 小児科	藤井順子
2	第62回日本婦人科腫瘍学会 学術講演会	原発性卵巣癌との鑑別が困難であった悪性リンパ腫の2症例	'21/1	Web	診療部 産婦人科	宮原義也
3	第43回日本エンドメトリオー シス学会学術講演会	再発卵巣子宮内膜症性嚢胞からの悪性転化でプラチナ製剤抵抗性を示した粘液性癌の1例	'21/1	東京都	診療部 産婦人科	細谷俊光
4	BASICS Scotland Hypothermia Conference	Hypothermia in Japan: A Perspective from a Sub-tropical Climate	'21/2	Web	診療部 総合内科	石丸直人
5	第51回日本心臓血管外科学会 学術集会	胸腔鏡下僧帽弁手術の高齢者、メイズ手術、再手術への適応拡大の安全性検証	'21/2	東京都	診療部 心臓血管低 浸襲治療セ ンター	岡本一真
6	第51回日本心臓血管外科学会 学術集会	腹部ステントグラフト後の人工血管置換術	'21/2	Web	診療部 心臓血管外 科	渡邊俊貴
7	第33回日本肘関節学会	上腕骨外側顆骨折を伴った小児上腕骨遠位部colonal shear fractureの1例	'21/2	Web	診療部 整形外科	脇 貴洋
8	明石市医師会明石透析医会 Web学術講演会	高尿酸血症の病態と治療	'21/2	Web	診療部 腎臓内科	米倉由利子
9	第51回心臓血管外科学会総会	心臓再手術における胸腔鏡下右小開胸アプローチの手術成績	'21/2	Web	診療部 心臓血管外 科	当广 遼
10	第13回近畿家庭医療・総合診療 専攻医ポートフォリオ発表会	総合診療専攻医ポートフォリオ発表会 P-FES	'21/2	Web	診療部 総合内科	官澤洋平
11	第33回日本内視鏡外科学会 総会	Laparoscopic surgery for colorectal cancer patients over 80 years old in our institution.	'21/3	Web	診療部 外科	水田憲利, 福田善之, 沢 秀博, 小管浩文, 豊川 晃弘
12	MKSAPで学ぶプライマリケア 疾患 Part 2	メンタルヘルス 頭頸部疾患・食道疾患と徴候	'21/3	Web	診療部 総合内科	河野 圭
13	第136回中部日本整形外科学会	ライブセッション6「成人の上腕骨遠位端骨折の治療」	'21/4	Web	診療部 整形外科	脇 貴洋
14	第136回中部日本整形外科学会	大腿骨頸部骨折に対して入院日同日に施行した人工骨頭置換術の治療成績	'21/4	Web	診療部 整形外科	近藤飛馬
15	第136回中部日本整形外科学会	当院における人工膝・股関節置換術患者の骨粗鬆症有病率 入院時DEXAの有用性	'21/4	Web	診療部 整形外科	北澤大也
16	医学生・研修医の日本内科学会 ことはじめ 2021	汎血球減少、脾腫をきたした骨髄・脾臓サルコイドーシスの剖検例	'21/4	Web	診療部 総合内科	前田葉月
17	第94回日本内分泌学会学術集会	妊娠後期に発症し、分娩後に軽快した部分型中枢性尿崩症の一例	'21/4	Web	診療部 糖尿病・内分 泌	中村友昭, 他2名
18	第94回日本内分泌学会学術集会	糖質コルチコイドによる正のフィードバック機構の関与が想定されるクッシング病 (YTC再発表)	'21/4	Web	診療部 糖尿病・内分 泌	辻本泰貴, 他9名

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
19	第94回日本内分泌学会学術集会	糖尿病性ケトアシドーシスに甲状腺クリーゼが合併し緊急症となったAPS3型の女児例	'21/4	Web	診療部 糖尿病・内分泌	辻本泰貴, 他2名
20	第61回日本呼吸器学会学術講演会	CDDP + pemetrexed + Pembrolizumabの投与後に致死的な血球貪食症候群 (HPS) をきたした肺癌の一例	'21/4	Web	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子, 山崎菜々美, 松尾健二郎, 山岡貴志, 村上翔子, 藤本昌大, 高宮 麗, 池田美穂, 畠山由記久, 大西 尚
21	第61回日本呼吸器学会学術講演会	COPD急性増悪における入院遷延リスク因子の検討	'21/4	Web	診療部 呼吸器内科	畠山由記久, 大西 尚, 松尾健二郎, 山崎菜々美, 村上翔子, 山岡貴志, 高宮 麗, 池田美穂, 岡村佳代子
22	第61回日本呼吸器学会学術講演会	肺腫瘍・感染性肺嚢胞における経皮的ドレナージの有効性・安全性の検討	'21/4	Web	診療部 呼吸器内科	池田美穂, 岡村佳代子, 山崎菜々美, 松尾健二郎, 山岡貴志, 村上翔子, 藤本昌大, 高宮 麗, 畠山由記久, 大西 尚
23	第61回日本呼吸器学会学術講演会	当院におけるペムプロリズマブ単剤治療をうけた非小細胞肺癌患者の広報視的検討	'21/4	Web	診療部 呼吸器内科	高宮 麗, 畠山由記久, 松尾健二郎, 山崎菜々美, 村上翔子, 山岡貴志, 藤本昌大, 池田美穂, 岡村佳代子, 大西 尚
24	第61回日本呼吸器学会学術講演会	脱気治療を受けた自然気胸患者の転帰に影響する因子の検討	'21/4	Web	診療部 呼吸器内科	藤本昌大, 畠山由記久, 松尾健二郎, 山崎菜々美, 村上翔子, 山岡貴志, 高宮 麗, 池田美穂, 岡村佳代子, 大西 尚
25	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	虚血性心疾患患者に対するリハビリテーション医療の意義	'21/5	京都市	診療部 循環器内科	民田浩一
26	第283回日本小児科学会兵庫県地方会	5歳児検尿を契機に発見されたSchimke症候群の1例	'21/5	神戸市	診療部 小児科	川村達也, 藤井順子, 吉本啓修, 大西徳子, 権東雅宏, 梁川裕司, 横山直樹
27	第283回日本小児科学会兵庫県地方会	発熱と関節痛を主訴に受診した小児シェーグレン症候群の1例	'21/5	神戸市	診療部 小児科	夏木 茜, 吉本啓修, 角谷哲基, 藤井順子, 大西徳子, 権東雅宏, 梁川裕司, 横山直樹
28	第64回日本糖尿病学会年次学術集会	インスリンデグルデク/リラグルチド配合注の臨床的有用性に関する検討	'21/5	Web	診療部 糖尿病・内分泌	中村友昭, 他2名
29	第64回日本糖尿病学会年次学術集会	中枢性尿崩症の口喝による清涼飲料水多飲で重篤な糖尿病性ケトアシドーシスと急性膵炎を合併した2型糖尿病の1例	'21/5	Web	診療部 糖尿病・内分泌	辻本泰貴, 他5名
30	第64回日本糖尿病学会年次学術集会	療養行動改善につながるスモールステップで行う個別性に応じたFGM導入	'21/5	Web	看護部及び 診療部 糖尿病・内分泌	津崎好美, 他4名
31	第12回日本プライマリケア連合学会学術大会	糖尿病性ケトアシドーシス患者における菌血症発症率	'21/5	Web	診療部 総合内科	石丸直人
32	第12回日本プライマリケア連合学会学術大会	日本の心不全入院診療における病院総合医のインパクト：後方視的コホート研究	'21/5	Web	診療部 総合内科	官澤洋平
33	第12回日本プライマリケア連合学会学術大会	市販の鎮咳去痰薬の過量内服を契機としたセロトニン症候群の一例	'21/5	Web	診療部 総合内科	尾本仁那
34	第12回日本プライマリケア連合学会学術大会	シンポジウム「イクボス」「SOGI アライ」から始める真の機会均等～医療界のダイバシティ実現を目指して～	'21/5	Web	診療部 総合内科	官澤洋平
35	第12回日本プライマリケア連合学会学術大会	教育講演 病院総合医第7世代の秘密教えます！～EBM 教育編～	'21/5	Web	診療部 総合内科	官澤洋平

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
36	第94回日本整形外科学会	内科と整形外科が共に入院管理を行う Orthogeriatric-co-managementが大腿骨近位部骨折患者へ与えるインパクト	'21/6	Web	診療部 整形外科	脇 貴洋
37	北はりま高尿酸血症 Webセミナー	高尿酸血症の病態と治療	'21/6	Web	診療部 腎臓内科	米倉由利子
38	第232回日本内科学会 近畿地方会	Nocardia araeensisによる深頸部膿瘍を来した1例	'21/6	Web	診療部 総合内科	村上翔子
39	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会・講演会2021	Hemolytic anemia in a patient with subacute bacterial endocarditis by Cardiobacterium hominis: case report	'21/6	Web	診療部 総合内科	新宮資央
40	第5回日本低侵襲心臓手術学会 学術集会	若手医師目線で考えるMICS実践教育	'21/7	長崎市	診療部 心臓血管外科	当广 遼
41	第47回日本骨折治療学会	内科医と共に入院管理を行う Orthogeriatric co-managementが大腿骨近位部骨折患者へ与えるインパクト	'21/7	Web	診療部 総合内科	石丸直人
42	第47回日本骨折治療学会 学術集会	・がん専門病院と外傷病院とのコラボレーション～骨転移・骨腫瘍による病的骨折患者への早期治療介入 ・内科医と共に入院管理を行う Orthogeriatric co-managementが大腿骨近位部骨折患者へ与えるインパクト	'21/7	神戸市	診療部 整形外科	脇 貴洋
43	第47回日本骨折治療学会 学術集会	当院における大腿骨ステム周囲骨折に対する手術成績	'21/7	神戸市	診療部 整形外科	北澤大也
44	第47回日本骨折治療学会 学術集会	大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の治療成績 ハンソンピンロックの前向き調査結果	'21/7	神戸市	診療部 整形外科	松島真司
45	第76回日本消化器外科学会 総会	腹腔鏡下Ladd手術で修復した成人腸回転異常症の4例	'21/7	京都市	診療部 外科	水田憲利
46	第205回近畿外科学会	内視鏡検査によって診断しえた、成熟嚢胞性奇形腫S状結腸穿孔の一例	'21/7	京都市	診療部 外科	口分田啓
47	第97回日本呼吸器学会 近畿地方会	外科的治療を要した Pasteurella multocidaによる膿胸の一例	'21/7	Web	診療部 呼吸器内科	増田佳純, 畠山由記久, 藤本昌大, 塚本 玲, 高宮 麗, 池田美穂, 岡村佳代子, 田内俊輔, 大西 尚
48	第106回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	粘膜下腫瘍の形態を呈した大腸MALT リンパ腫の一例	'21/7	大阪市	診療部 消化器内科	橋本宏之, 石田 司, 塩屋暁子, 中村碩孝, 徳永貴史, 大西紘平, 田中太郎, 益子由佳子, ベンスレイマン・ヤハヤ, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 門 卓夫, 吉田俊一
49	第106回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	Double-tunnel techniqueによる内視鏡的直腸全層切除の可能性	'21/7	大阪市	診療部 消化器内科	石田 司, ベンスレイマン・ヤハヤ, 當銘成友, 古松恵介, 門 卓夫
50	第114回日本肺癌学会 関西支部学術集会	当院におけるロボット支援下肺切除術の初期導入経験：ソーサージュリーを目標として	'21/7	Web	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
51	淡路市医師会講演会	慢性腎臓病と生活習慣病	'21/7	Web	診療部 腎臓内科	米倉由利子
52	明石心疾患アップデート	TAVI, 外科的弁置換術に加えたもう一つの提案, スーチャレスバルブについて	'21/7	明石市	診療部 心臓血管外科	三里卓也
53	第53回日本医学教育学会大会	シンポジウム 理想の病院総合診療医とは？	'21/7	Web	診療部 総合内科	官澤洋平

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
54	PCI Optimization by Physiology and Imaging (POPAI) 2021	CFRとFFR, iFRの概念, 類似点と相違点	'21/9	Web	診療部 循環器内科	民田浩一
55	Bay area Complex PCI & Imaging Conference 2021	CFRとFFR, iFRの概念, 類似点と相違点	'21/9	宝塚市	診療部 循環器内科	民田浩一
56	第115回日本消化器病学会近畿支部例会	胃粘膜下腫瘍で発見されIgG4関連疾患であった内視鏡的胃全層切除の1例	'21/9	Web	診療部 外科	瀧本 将, 石田 司, ベンスレイマン・ヤハヤ, 橋本宏之, 安部恵里佳, 石原美崎, 法貴真也, 大西紘平, 田中太郎, 益子由佳子, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 門 卓生, 吉田俊一, 大坪 出, 中島 卓利
57	第115回日本消化器病学会近畿支部例会	消化管腫瘍の診断・治療の進歩 胃粘膜下腫瘍に対するEFTRの安全性と有効性の検討	'21/9	Web	診療部 外科	石田 司, ベンスレイマン・ヤハヤ, 大坪 出, 上堂文也
58	第233回日本内科学会近畿地方会	TSH低値が契機でサブクリニカルクッシング症例群の診断に至った一例	'21/9	Web	診療部 糖尿病・内分泌	新井尚樹, 他3名
59	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	全腹腔鏡下子宮全摘術の術中に発見された右重複腎盂尿管の1例	'21/9	Web	診療部 産婦人科	林田恭子
60	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	妊娠中に生じた正常卵巣茎捻転に対し腹腔鏡下捻転解除術を施行し卵巣を温存した1例	'21/9	Web	診療部 産婦人科	江島有香
61	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	原発性無月経に対して卵巣形成不全が疑われ腹腔鏡検査を行った1例	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	下川 航
62	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	腹腔鏡下子宮全摘中にEtc2上昇を伴う皮下気腫に対し, トロッカーを変更することで手術を継続できた1例	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	山崎 亮
63	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	術前処置で子宮穿孔を起こし, 腹腔鏡下手術で修復した二例	'21/9	横浜市	診療部 産婦人科	嶋村卓人
64	第23回日本病院総合診療医学会学術総会	丹毒での入院を契機に遺伝性出血性毛細血管拡張症を診断し専門治療につなげた一例	'21/9	Web	診療部 総合内科	山岡茉莉
65	第23回日本病院総合診療医学会学術総会	確定診断に時間を要した急性僧帽弁逆流(MR)の一例の診断過程を振り返る	'21/9	Web	診療部 総合内科	鶴田慧司郎
66	第23回日本病院総合診療医学会学術総会	理想の病院総合診療医とは? ~学会テキストの病院総合診療医像10項目から考える~シンポジウム4	'21/9	Web	診療部 総合内科	官澤洋平
67	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	胃粘膜下腫瘍に対するEFTRの安全性と有効性の検討	'21/9	Web	診療部 消化器内科	石田 司, ベンスレイマン・ヤハヤ, 上堂文也, 大坪 出
68	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	胃粘膜下腫瘍で発見されIgG4関連疾患であった内視鏡的胃全層切除の1例	'21/9	Web	診療部 消化器内科	瀧本 将, 石田 司, ベンスレイマン・ヤハヤ, 橋本宏之, 安部恵里佳, 石原美崎, 法貴真也, 大西紘平, 田中太郎, 益子由佳子, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 門 卓夫, 吉田俊一, 中島卓利, 大坪 出

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
69	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	カプセル内視鏡が診断に有効であった好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例	'21/9	Web	診療部 消化器内科	法貴真也, 大西紘平, 石田 司, 橋本宏之, 安部恵里佳, 石原美崎, 川瀬雄太, 瀧本 将, 田中太郎, 益子由佳子, ベンスレイマン・ヤハヤ, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 門 卓夫, 中島卓利, 吉田俊一
70	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	若年潰瘍性大腸炎に対しアダリムマブ投与中に発症した不全性レミエール症候群の1例	'21/9	Web	診療部 消化器内科	川瀬雄太, 石田 司, 田中太郎, 安部恵里佳, 橋本宏之, 石原美崎, 法貴真也, 瀧本 将, 大西紘平, 益子由佳子, ベンスレイマン・ヤハヤ, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 門 卓夫, 中島卓利, 中島隆弘
71	日本消化器病学会近畿支部第115回例会	ラミブジン投与によりHBVによる急性肝炎から臨床的寛解に至った1例	'21/9	Web	診療部 消化器内科	石原美崎, 大西紘平, 橋本宏之, 安部恵里佳, 川瀬雄太, 法貴真也, 瀧本 将, 田中太郎, 益子由佳子, ベンスレイマン・ヤハヤ, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 石田 司, 門 卓夫, 中島卓利, 吉田俊一
72	第19回兵庫県産婦人科内視鏡手術懇話会	卵巣成熟嚢胞性奇形腫のS状結腸穿孔を認めた1例	'21/9	神戸市	診療部 産婦人科	下川 航
73	第44回日本産婦人科手術学会	hCG低値であったにも関わらず腹腔鏡手術が必要となった異所性妊娠の2症例	'21/9	Web	診療部 産婦人科	細谷俊光
74	CCT 2021	INOCAってどうやって診断するの？	'21/10	Web	診療部 循環器内科	民田浩一
75	明石医療センター地域連携の会	循環器疾患における当院の果たすべき役割	'21/10	明石市	診療部 循環器内科	民田浩一
76	第23回日本骨粗鬆症学会	内科と整形外科が共に入院管理を行うOrthogeriatric-co-managementが大腿骨近位部骨折患者へ与えるインパクト	'21/10	神戸市	診療部 整形外科	脇 貴洋
77	第23回日本骨粗鬆症学会	Replace and treat!~人工関節置換術患者における入院中骨粗鬆症スクリーニングの有用性~	'21/10	Web	診療部 整形外科	大澤 慎
78	第137回中部日本整形外科・災害外科学会	Fix and treat!~外傷病院からはじめる二次骨折予防~	'21/10	金沢市	診療部 整形外科	脇 貴洋
79	第137回中部日本整形外科・災害外科学会	上腕骨外側上顆骨折を伴った小児上腕骨遠位部coronal shear fractureの1例	'21/10	金沢市	診療部 整形外科	細井文葉
80	第51回日本腎臓学会西部学術大会	クローン病に対するインフリキシマブ加療中にIgA腎症の組織像を経てIgA血管炎を発症した一例	'21/10	Web	診療部 腎臓内科	西願まどか
81	OTA37th Annual Meeting	For the better outcome for hip fracture patients:The first orthogeriatric co-management in Japan	'21/10	WEB	診療部 整形外科	脇 貴洋
82	日本心臓血管麻酔学会	ITPを合併したバルサルバ洞動脈瘤破裂患者のバッチ閉鎖術にてTEGを用いて止血機能評価を行った1例	'21/10	東京都	診療部 麻酔科	菅野 睦, 他
83	日本心臓血管麻酔学会	MICS-TAP手術中に医原性の右冠動脈閉塞によりSTEMIを発症した一例	'21/10	東京都	診療部 麻酔科	占部大地, 他

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
84	第10回日本プライマリケア連合学会（関東甲信越ブロック地方会）	キャリアcafé mini -育児に関する医療従事者の集い	'21/10	Web	診療部 総合内科	官澤洋平
85	第27回日本腹膜透析医学会 学術集会・総会	腹腔鏡下CAPDカテーテル挿入術後に腹壁ヘルニアを生じたCAPD患者の一例	'21/10	Web	診療部 腎臓内科	米倉由利子
86	OTA37th Annual Meeting	For the better outcome for hip fracture patients: The first orthogeriatric co-management in Japan	'21/10	Web	診療部 整形外科	脇 貴洋
87	萩市民病院心臓リハビリ講演会	ケアサイクル全体を意識した心臓リハビリテーションの重要性	'21/11	Web	診療部 循環器内科	民田浩一
88	心不全診療カンファレンス in 但馬	高齢社会における心不全診療の極意 -トータルマネジメントの重要性-	'21/11	Web	診療部 循環器内科	民田浩一
89	第36回日本女性医学学会 学術集会	産後2カ月にMRIで診断したキアリ奇形1型による頭痛	'21/11	大阪市	診療部 産婦人科	山崎 亮
90	第40回日本小児歯科学会 近畿地方会	先天性歯抜歯後の乳歯列の変化 出生直後先天性歯を抜歯し5年間経過観察を行った1例	'21/11	京都市	診療部 小児科	春木隆伸, 保井美実佳, 森下日和, 大曲俊輔, 横山直樹
91	第66回日本生殖医学会学術総会	AIH後に化学流産と診断されるも左卵管妊娠破裂のため緊急腹腔鏡手術を施行した一例	'21/11	Web	診療部 産婦人科	細谷俊光
92	第31回臨床内分泌代謝Update	nivolumab投与により血中ACTH値が低下する経緯を観察し得た一例	'21/11	Web	診療部 糖尿病・内分泌	新井尚樹, 他2名
93	第62回日本肺癌学会学術集会	当院におけるロボット支援下肺切除術の術中トラブルの件	'21/11	横浜市	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
94	第62回日本肺癌学会学術集会	悪性褐色細胞腫転移からの咯血に対し肺切除を行った1例	'21/11	Web	診療部 呼吸器外科	大橋千裕
95	第62回日本肺癌学会学術集会	胸膜炎症状を伴った胸腺腫の1例	'21/11	Web	診療部 呼吸器外科	高梨 碧
96	第34回日本内視鏡外科学会 総会	腹腔鏡補助下に切除しえた腸回転異常症を伴う横行結腸癌の1例	'21/12	神戸市	診療部 外科	水田憲利
97	第232回日本内科学会 近畿地方会	両側下腿の浮腫を契機に診断に至った好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例	'21/12	Web	診療部 総合内科	和田友紀
98	第98回日本呼吸器学会 近畿地方会	クロピトグレル硫酸塩による薬剤誘発性ループスの一例	'21/12	Web	診療部 呼吸器内科	塚本 玲, 高宮 麗, 岡村佳代子, 増田佳純, 藤本昌大, 池田美穂, 畠山由記久, 大西 尚
99	第107回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	Atezolizumabによる免疫関連有害事象と考えられた硬化性胆管炎の一例	'21/12	神戸市	診療部 消化器内科	安部恵里佳, 門 卓夫, 石原美崎, 川瀬雄太, 法貴真也, 大西紘平, 田中太郎, 益子由佳子, ベンスレイマン・ヤハヤ, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 石田 司, 中島卓利, 吉田俊一
100	第107回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	当院における穿孔、瘻孔に対するOver-The-Scope Clip (OTSC) の経験と有用性	'21/12	神戸市	診療部 消化器内科	松岡晃生, 石田 司, ベンスレイマン・ヤハヤ, 中島卓利

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
101	第107回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	内視鏡的に診断し得たメッケル憩室出血の一例	21/12	神戸市	診療部 消化器内科	川瀬雄太, 門 卓夫, 安部恵里佳, 橋本宏之, 石原美崎, 法貴真也, 瀧本 将, 大西紘平, 田中太郎, 益子由佳子, ベンスレイマン・ヤハヤ, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 石田 司, 中島卓利, 吉田俊一
102	第107回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	内視鏡的粘膜下層剥離術で治癒切除であった頸部食道の異所性胃粘膜由来食道腺癌の1例	21/12	神戸市	診療部 消化器内科	法貴真也, 石田 司, 安部恵里佳, 橋本宏之, 石原美崎, 川瀬雄太, 瀧本 将, 大西紘平, 田中太郎, 益子由佳子, ベンスレイマン・ヤハヤ, 松岡晃生, 佐々木一就, 當銘成友, 古松恵介, 門 卓夫, 中島卓利, 吉田俊一
103	m3 Web講演会 PF-ILD Web セミナー	症例から学ぶ進行性線維化を伴う間質性肺疾患	21/12	Web	診療部 呼吸器内科	大西 尚

論文発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	J Gen Fam Med.	Diagnostic challenge of chlamydial Fitz-Hugh-Curtis syndrome and cervicitis complicated by appendicitis: Case report.	22(5)	2880-90, 2021	診療部 総合内科	石丸直人
2	Internal medicine	Therapeutic Dilemma of Sarcoidosis and Treatment-naïve Hepatitis C Manifesting as Tattoo Reactions.	60(4)	645-50, 2021	診療部 総合内科	石丸直人
3	Internal medicine	Iliopsoas Bursitis Related to Calcium Pyrophosphate Deposition Disease.	60(15)	2515-16, 2021	診療部 総合内科	白石裕紀子
4	J Scleroderma Relat Disord.	Scleredema with biopsy-confirmed cardiomyopathy: A case report	6	311-15, 2021	診療部 総合内科	中辻 萌
5	Intern Emerg Med.	Predicting Mycoplasma pneumoniae and Chlamydia pneumoniae in community-acquired pneumonia (CAP) pneumonia: epidemiological study of respiratory tract infection using multiplex PCR assays.	16(8)	2129-37, 2021	診療部 総合内科	石丸直人
6	愛仁会医学研究誌	過敏性肺臓炎と類似した画像所見と経過を呈した血管内リンパ腫の2例	52	57-60, 2021	診療部 呼吸器内科	藤本昌大, 畠山由記久, 石丸直人, 松尾健二郎, 山崎菜々美, 村上翔子, 山岡貴志, 高宮 麗, 池田美穂, 岡村佳代子, 大西 尚
7	Journal of Cardiothoracic Surgery	Low suction on digital drainage devices promptly improves post-operative air leaks following lung resection operations: a retrospective study	16	105, 2021	診療部 呼吸器内科	Suguru Mitsui, Shunsuke Uchi, Takahiro Uchida, Hisashi Ohnishi, Toshio Shimokawa and Satoshi Tobe

外部研修・研究実績

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁,年	部署名	著者
8	Internal and Emergency Medicine	Predicting Mycoplasma pneumoniae and Chlamydia pneumoniae in community - acquired pneumonia (CAP) pneumonia: epidemiological study of respiratory tract infection using multiplex PCR assays	16	2129-2137	診療部 呼吸器内科	Naoto Ishimaru, Satoshi Suzuki, Toshio Shimokawa, Yusaku Akashi, Yuto Takeuchi, Atsuo Ueda, Saori Kinami, Hisashi Ohnishi, Hiromichi Suzuki, Yasuharu Tokuda, Tetsuhiro Maeno
9	internalmedicine	Prospective Study of Nocturnal Desaturation in Patients Receiving Home Oxygen Therapy	60	3071-3079, 2021	診療部 呼吸器内科	Asuka Yoshizaki, Tatsuya Nagano, Shintaro Izumi, Yasuhiro Funada, Kyosuke Nakata, Teruaki Nishiuma, Kiyonobu Takatsuki, Hisashi Ohnishi, Nobuko Hazeki, Yuichiro Yasuda, Ryota Dokuni, Masatsugu Yamamoto, Kazuyuki Kobayashi and Yoshihiro Nishimura
10	Scientific Reports	Development and validation of a new scoring system for prognostic prediction of community-acquired pneumonia in older adults	11	23878, 2021	診療部 呼吸器内科	Masahiro Shirata, Isao Ito, Tadashi Ishida, Hiromasa Tachibana, Naoya Tanabe, Satoshi Konishi, Issei Oi, Nobuyoshi Hamao, Kensuke Nishioka, Hisako Matsumoto, Yoshiro Yasutomo, Seizo Kadowaki, Hisashi Ohnishi, Hiromi Tomioka Takashi Nishimura, Yoshinori Hasegawa, Atsushi Nakagawa, Toyohiro Hirai
11	Heart and Vessels	Enhancement Patterns Detected by Multidetector Computed Tomography are Associated with the Long-term Prognosis of Patients with Acute Myocardial Infarction	36	1784-1793, 2021	診療部 循環器内科	民田浩一
12	Digestion	Feasibility and Safety of Endoscopic Submucosal Dissection for Recurrent Rectal Lesions that after Transanal Endoscopic Microsurgery: A Case Series.	102	446-452, 2021	診療部 消化器内科	Ikezawa N, Toyonaga T, Tanaka S, Nakano Y, Ishida T, Yoshihara T, Uraoka M, Morita Y, Suzuki N, Haji A, Kodama Y.
13	Surg Endoscopy	Development and validation of an endoscopic submucosal dissection video assessment tool.	35	2671-2678, 2021	診療部 消化器内科	Takao M, Bilgic E, Kaneva P, Waschke K, Endo S, Nakano Y, Kawara F, Tanaka S, Ishida T, Morita Y, Toyonaga T, Umegaki E, Kodama Y.
14	Surg Endoscopy	The risk scoring system for assessing the technical difficulty of endoscopic submucosal dissection in cases of remnant gastric cancer after distal gastrectomy.	Online ahead of print.	Online ahead of print. 2021	診療部 消化器内科	Tanaka S, Yoshizaki T, Yamamoto Y, Ose T, Ishida T, Kitamura Y, Obata D, Iwatate M, Fujita M, Ikeda A, Ariyoshi R, Kawara F, Abe H, Takao T, Morita Y, Sano Y, Umegaki E, Nishisaki H, Toyonaga T, Kodama Y

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁、年	部署名	著者
15	Digestion.	Feasibility and Safety of Endoscopic Submucosal Dissection for Recurrent Rectal Lesions that after Transanal Endoscopic Microsurgery: A Case Series	102	446-452, 2021	診療部 消化器内科	Ikezawa N, Toyonaga T, Tanaka S, Nakano Y, Ishida T, Yoshihara T, Uraoka M, Morita Y, Suzuki N, Haji A, Kodama Y.
16	Surg Endosc.	Development and validation of an endoscopic submucosal dissection video assessment tool	35	2671-2678, 2021	診療部 消化器内科	Takao M, Bilgic E, Kaneva P, Waschke K, Endo S, Nakano Y, Kawara F, Tanaka S, Ishida T, Morita Y, Toyonaga T, Umegaki E, Kodama Y, Fried GM.
17	胃と腸	【早期大腸癌内視鏡治療の新展開】大腸T1b癌を完全一括切除するために必要な内視鏡的切除技術	8	1047-1056, 2021	診療部 消化器内科	豊永高史, 阪口博哉, 池澤伸明, 中野佳子, 田中心和, 石田 司, 阿部洋文, 吉崎哲也, 鷹尾俊達, 森田圭紀, 馬場慎一, 滝原浩守, 西野栄世, 横崎 宏, 児玉裕三
18	The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism	A Case of Luscan-Lumish Syndrome: Possible Involvement of Enhanced GH Signaling	106(3)	718-723, 2021	診療部糖尿病・内分泌内科	Kentaro Suda
19	Journal of the Endocrine Society	Tumor Shrinkage by Metyrapone in Cushing Disease Exhibiting Glucocorticoid-Induced Positive Feedback	5(6)	1-9, 2021	診療部糖尿病・内分泌内科	Yasutaka Tsujimoto
20	日本内分泌学会雑誌	大動脈解離を合併した生殖細胞系RMC5遺伝子変異を持つ原発性両側性大結節性副腎皮質過形成の家族例	97巻 Suppl.	1-4, 2021	診療部糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴, 他7名
21	日本内視鏡外科学会雑誌	腹腔鏡下Ladd手術で治療しえた成人腸回転異常症の1例	26	100-107, 2021	診療部 外科	水田憲利, 福田善之, 沢 秀博, 小管浩文, 豊川晃弘
22	日本内視鏡外科学会雑誌	腹腔鏡下Ladd手術で治療しえた成人腸回転異常症の1例	26	100-107, 2021	診療部 外科	水田憲利, 福田善之, 沢 秀博, 小管浩文, 豊川晃弘
23	明石市医師会ジャーナル	年々増加の大腸癌～便潜血検査受診を	94	16, 2021	診療部 外科	豊川晃弘
24	日本心臓血管外科学会雑誌	shaggy aortaを伴う解離性大動脈瘤に対する二期的ハイブリッド手術を施行した一例	50	44-48, 2021	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
25	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	"Pulmonary arteriovenous fistula ruptured in an adolescent girl 1 week after her mother's rupture: a report of a case"	69	130-132, 2021	診療部 呼吸器外科	Suguru Mitsui, Shunsuke Tauchi, Yugo Tanaka, Satoshi Tobe
26	BMJ Case Rep.	Extended-spectrum β -lactamase-producing <i>Escherichia coli</i> rib osteomyelitis with debridement and vacuum-assisted closure	14	e238029, 2021	診療部 呼吸器外科	Mitsui S, Tauchi S, Mizuki S, Tobe S.
27	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Pulmonary arteriovenous fistula ruptured in an adolescent girl 1 week after her mother's rupture: a report of a case	69	130, 2021	診療部 呼吸器外科	Mitsui S, Tauchi S, Tanaka Y, Tobe S.
28	J Cardiothorac Surg.	Low suction on digital drainage devices promptly improves post-operative air leaks following lung resection operations: a retrospective study	16	105, 2021	診療部 呼吸器外科	Mitsui S, Tauchi S, Uchida T, Ohnishi H, Shimokawa T, Tobe S.
29	BMJ Case Rep.	Tension pyopneumothorax	14	e242197, 2021	診療部 呼吸器外科	Mitsui S, Tauchi S
30	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	骨形成不全症に伴う小児肘頭骨折の1例	64(1)	Page125-126, 2021	診療部 整形外科	横田 和斗

外部研修・研究実績

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁、年	部署名	著者
31	骨折	非転位型大腿骨頸部骨折に対する修復の重要性 Garden分類stage 1の骨頭壊死と外反変形の関係性	43(2)	Page277-280, 2021	診療部 整形外科	脇 貴洋
32	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	人工関節置換術適応患者の骨粗鬆症有病率	64(4)	523-524, 2021	診療部 整形外科	北澤大也
33	日本人工関節学会誌	Trabecular metalコンポーネントを用いたPS型セメントレス人工膝関節全置換術の短期治療成績	51巻	559-560, 2021	診療部 整形外科	北澤大也
34	臨床麻酔	胸部B型大動脈解離に対するステントグラフト内挿術施行後に逆行性A型大動脈解離を合併した1症例	45(4)	614-616, 2021.04	診療部 麻酔科	松岡基行
35	臨床麻酔	経皮的補助心臓 (PVAD) 挿入後の大動脈弁損傷に対して外科的大動脈弁置換術を施行し、救命し得た1症例	45(5)	725-726, 2021	診療部 麻酔科	濱崎 豊
36	Internal medicine	Hemolytic Anemia in a Patient with Subacute Bacterial Endocarditis by Cardiobacterium hominis.	60(21)	3489-95, 2021	診療部 研修医	新宮資央
37	Am J Emerg Med.	Posterior reversible encephalopathy syndrome complicating hyperosmolar hyperglycemic syndrome.	49	438e5-6, 2021	診療部 研修医	稗田早紀

著書発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁、年	部署名	著者
1	いま見直したい、発熱診療のキホン感染症による発熱 (小児) レジデントノート	羊土社/東京	23(7)	957-65, 2021	診療部 総合内科	金子昌裕
2	とことん極める! 腎盂腎炎 若い女性への再発予防の指導方法について、尿路感染を起こしやすいリスクファクターへの介入。月間治療	南山堂/東京	103(9)	1134-39, 2021	診療部 総合内科	長 陽二郎
3	とことん極める! 腎盂腎炎 尿検査・グラム染色を極める-尿で診断にどこまで迫れますか? 月間治療	南山堂/東京	103(9)	1178-88, 2021	診療部 総合内科	小野雅俊, 官澤洋平
4	高齢者の食べられない、総合内科病棟マニュアル 疾患ごとの管理 (青本)	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	第2版	449-55, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平
5	教育的カンファレンスの運営とコツ、総合内科病棟マニュアル 疾患ごとの管理 (赤本)	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	第2版	389-96, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平
6	多疾患をどうみてケアする?: Part2 事例で理解! 複数疾患をもつ患者の病態を整理するポイント、エキスパートナース8月号	照林社/東京	2021年8月号	22-26, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平
7	誤嚥性肺炎たぐいま回診中! 7 誤嚥性肺炎の感染症学 8 誤嚥性肺炎と心疾患 9 誤嚥性肺炎に合併する肺疾患	中外医学社/東京	第1版	61-69 70-77 78-84, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平
8	Clinician Update: ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト、Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	8(4)	788-95, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平, 石丸直人
9	Clinician Update: ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト、Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	9(1)	256-63, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平, 石丸直人
10	Clinician Update: ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト、Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	9(2)	492-99, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平, 石丸直人

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署名	著者
11	Clinician Update : ホスピタリストが 押さえておくべき20論文をセレクト. Hospitalist	メディカルサイエンスインター ナショナル/東京	9(3)	712-19, 2021	診療部 総合内科	官澤洋平, 石丸直人
12	Heart View vol.25 No.5	メジカルビュー社/東京	25 (5)	P37-42, 2021	診療部 循環器内科	民田浩一
13	POPAI直伝! FFR使いこなしハンドブック	南江堂/東京	第1版	P5-7, 2021	診療部 循環器内科	民田浩一
14	【整形外傷治療 update 2021】 Fix and treat 骨粗鬆症治療を開始するタイミング	金原出版/東京	64(10)	1309-1316, 2021	診療部 整形外科	脇 貴洋

尼崎だいもつ病院

口頭発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	千船病院学術講演会	地域で支える認知症とフレイル	'21/6	Web	診療部 総合診療科	瀧本 裕

その他 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	愛仁会リハビリテーション部門学術大会「多職種で支える認知症」	座長	'21/7	高槻市	診療部 総合診療科	瀧本 裕
2	2021年度シニア住宅相談員認定研修アドバンスコース「認知症について」	講師	'21/10	Web	診療部 総合診療科	瀧本 裕
3	循環器連携を深める会	座長	'21/4	Web	診療部 循環器内科	荒川鉄雄
4	多摩心臓リハビリテーションセミナー「心臓リハビリテーションの立ち上げと普及のコツ」	講師	'21/7	Web	診療部 循環器内科	荒川鉄雄

井上病院

口頭発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	ヒュミライインターネットライブセミナー	失敗したから今がある ～患者ニーズを叶えるRA治療選択～	'21/1	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
2	Fracture Prevention Seminar	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモズマップの有効性と安全性～	'21/1	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
3	Lilly web conference	整形外科医からみたPsAの現状と治療	'21/1	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
4	大阪市南部骨粗鬆症 WEBセミナー ～地域で取り組む骨折予防～	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモズマップの有効性と安全性～	'21/1	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
5	関節リウマチWEBセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/1	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
6	リンヴォック適正使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK -LAK阻害薬 リンヴォックの適した症例とは-	'21/1	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
7	北摂CKDセミナー	明日をかえる腎臓病治療 -腎機能を守るためにすべきこと-	'21/1	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
8	Yodogawa CKD Seminar	透析患者の健康寿命延伸を目指して -腎性貧血の新治療戦略も含めて-	'21/1	Web	診療部 内科	辻本吉広
9	BSJ VAIVT Academy WEB -Dr.Morimoto's course	あの"はじめてのVAIVT"の著者による VAIVTのコツ	'21/1	Web	診療部 放射線科	森本 章
10	リンヴォック適正使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK -リンヴォックの適した症例とは-	'21/2	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
11	Metformin Live Seminar	メトホルミンはこう使う! ～歴史と特徴を踏まえて～	'21/2	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
12	第11回透析運動療法研究会	脆弱性骨折なき令和を目指して ～透析患者の運動機能維持のために～	'21/2	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
13	第11回透析運動療法研究会	CLTIに対する治療戦略 -血行再建と歩行機能温存-	'21/2	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
14	Meet the Expert Osteoporosis Conference	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモズマップの有効性・安全性～	'21/2	名古屋市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
15	読売オンライン健康講座	最新の関節リウマチ治療	'21/2	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
16	リンヴォック適正使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK -リンヴォックの適した症例とは-	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
17	Lilly PsA Online Seminar	整形外科医からみたPsAの現状と治療	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
18	Osteoporosis Web Summit	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモズマップの有効性と安全性～	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
19	第94回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対する ロモズマップの安全性の検討	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
20	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
21	骨粗鬆症治療を考える会 in 宇部・小野田	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性と安全性～	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
22	RINVOQ Expert Meeting	RAと周辺疾患の鑑別のポイント	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
23	薬剤師リウマチWEBセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
24	読売オンライン健康講座	ここまできた！リウマチ治療最前線	'21/3	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
25	運動器疾患マネージメント Web Seminar	膝・股関節疾患の予防と治療	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
26	Osteoporosis Seminar In SANDA	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性・安全性～	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
27	リウマチWebセミナー	今こそ求められる患者に寄り添う リウマチ治療	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
28	梶ヶ谷 腎・膠原病研究会	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性・安全性～	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
29	MEET THE EXPERT SEMINAR in 吹田	透析患者の健康寿命の延伸を目指して	'21/3	Web	診療部 内科	辻本吉広
30	生活習慣病地域連携 Webリレーセミナー	井上病院における病診連携について	'21/3	豊中市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
31	腎性貧血フォーラム in 北摂	当院における腎性貧血治療	'21/3	豊中市	診療部 腎臓内科	一居 充
32	第33回腎と脂質研究会	ロキサデュスタット治療中に血清コレステ ロールの低下を伴う甲状腺機能異常を呈した 腎性貧血の一例	'21/3	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
33	生活習慣病地域連携 Webリレーセミナー	井上病院における病診連携について	'21/3	豊中市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
34	第21回近畿排尿障害セミナー	膀胱癌に対する膀胱温存療法シスプラチン 動注併用放射線治療「OMC-Regimen」の 晩期有害事象の検討	'21/3	大阪市	診療部 泌尿器科	大北恭平
35	Nocturia Reegion Forum in Osaka	夜間多尿の診療のポイント	'21/3	大阪市	診療部 泌尿器科	大北恭平
36	第94回大阪透析研究会	当院での造影併用エコー下VAIVT	'21/3	Web	診療部 放射線科	森本 章
37	腎透析領域 Online Seminar	血管石灰化から考える透析患者の リンコントロール	'21/4	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
38	WEB ECD FOR SURGEONS IN WESTERN JAPAN	Viabahn for SFA	'21/4	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
39	リンヴォック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK - 患者さんも驚いたリンヴォックの有効 性、即効性！ -	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
40	リウマチWEBセミナー	これから求められるリウマチ治療 ～疾患活動性制御の観点から～	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
41	骨粗鬆症を考える会	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性・安全性～	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
42	RINVOQ Expert Meeting	GO TO JAK ～リンヴォックの適した症例とは～	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
43	西三河骨粗鬆症セミナー	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性・安全性～	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
44	PsA 最新治療戦略	PsAにおけるBio製剤の使い分け	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
45	リンヴォック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK ー患者さんも驚いたリン ヴォックの有効性、即効性！ー	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
46	リウマチ治療を考える会	炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ	'21/4	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
47	Japan Endovascular Treatment Conference 2021	VAIVTにおける炭酸ガス造影のコツと 落とし穴	'21/4	大阪市	診療部 放射線科	森本 章
48	第49回日本血管外科学会 学術総会	透析患者のCLTIに対する外科的血管再建 ー特に石灰化病変への対策ー	'21/5	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
49	骨粗鬆症セミナー in 高知	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性・安全性～	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
50	リウマチWEBセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
51	リンヴォック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK 患者さんも驚いたリンヴォックの有効性、 即効性！	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
52	Bone Management Conference ー和歌山県の骨粗鬆症性骨折 を考えるー	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性・安全性～	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
53	リウマチWEBセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
54	骨粗鬆症治療セミナー Up To Date	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
55	リンヴォック適性使用推進 Web講演会	JAK時代における感染症を考慮した関節 リウマチ治療	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
56	骨粗鬆症治療 Up To Date ～骨粗鬆症における骨折予防 を考える～	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性と安全性～	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
57	JAK Masters Conference	リウマチ医が語るBaricitinibの 安全性について	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
58	日本麻酔科学会第68回学術集 会	術中PEEPとリクルートメントの 至適圧に関する研究	'21/5	Web	診療部 麻酔科	稲田拓治
59	第50回 日本IVR学会総会	ランチョンセミナー ステントグラフトの新展望	'21/5	Web	診療部 放射線科	森本 章
60	第66回日本透析医学会 学術集会・総会	当院での造影併用エコー下VAIVT	'21/6	Web	診療部 透析内科	福永 慎
61	Hyperkalemia Specialists Meeting	井上病院における高カリウム血症の 治療について	'21/6	Web	診療部 腎臓内科	一居 充

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
62	第66回日本透析医学会学術集会・総会	血液透析患者における筋力・筋肉量と認知機能の関連	'21/6	Web	診療部 腎臓・透析 部門学術責任者	辻本吉広
63	第24回 吹田市医師会 開業医と勤務医の研修会	CKD・腎リハについて	'21/6	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
64	慢性腎臓病WEBカンファレンス	井上病院での腎疾患の診療 (COVID-19も含めて)	'21/6	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
65	第66回日本透析医学会学術集会・総会	腋窩近傍に静脈-グラフト吻合がある前腕ループグラフト変法 (ρ ループグラフト)の有用性	'21/6	Web	診療部 外科	藤原一郎
66	吹田市薬剤師会研修会	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
67	Lilly RA Web Conference	Patient Background & Evaluation Indexを考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善のマリアージュ～	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
68	リンゾック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK 患者さんも驚いた リンゾックの有効性、即効性!	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
69	鳥取県中部医師会共催リウマチ 治療講演会	MTX IRの患者さんへの新しい治療攻略 ～JAK阻害剤の可能性を検討する～	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
70	リウマチWEBセミナー ～Withコロナ時代のRA診療を 考える～	コロナ禍におけるリウマチ診療 ～押さえておきたいポイント～	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
71	関節リウマチ治療を考える会 in SAGA	Patient Background & Evaluation Indexを考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善のマリアージュ～	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
72	リウマチWEBセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療～患者に 寄り添う治療を目指して～	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
73	第66回日本透析医学会学術集会・総会	VAIVT新時代に即したバルーン選択とは 症例提示	'21/6	Web	診療部 放射線科	森本 章
74	糖尿病治療地域連携セミナー	糖尿病診療への取り組みと、糖尿病臨床試験のまとめ～SGLT2阻害薬を中心に～	'21/7	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
75	吹田・豊中CKD連携フォーラム	腎診療の拡充に向けて (COVID-19も含めて)	'21/7	吹田市	診療部 腎臓内科	一居 充
76	糖尿病治療地域連携セミナー	Covid-19を診療して感じたこと	'21/7	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
77	リウマチWEBセミナー ～Withコロナ時代のRA診療を 考える～	コロナ禍におけるリウマチ診療-押さえて おきたいポイント-	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
78	大阪市南部骨粗鬆症研究会	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
79	リンゾック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK ～JAK阻害薬 リンゾックの適した症例とは～	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
80	阿倍野区医師会講演会	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性と安全性～	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
81	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
82	関節リウマチWEBセミナー ～私が考えるシンボニー～	シンボニーが果たしてきたこれまでの役割 とこれから～Go to next 10 years～	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
83	Lilly RA Web Conference	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
84	Lilly JAK Conference	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
85	関節リウマチWEBセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
86	北摂・淀川CKD診療連携 セミナー	外来で行う腎臓リハビリテーションの効果	'21/8	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
87	池田市薬剤師研修会	コロナ禍におけるリウマチ診療 ～押さえておきたいポイント～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
88	リンヴォック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK リンヴォックの適した症例とは	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
89	第1回大阪CKD合併症研究会	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
90	リウマチ治療Interactive Web講演会	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
91	EVENTITY Premium Seminar	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
92	横浜市整形外科医会特別講演会	脆弱性骨折なき令和を目指して～ロモソズ マブの有効性と安全性～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
93	Lilly RA Web Conference	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
94	骨粗鬆症治療up to date ～新しい骨粗鬆症治療を考える～	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
95	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
96	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
97	リウマチWEBセミナー	コロナ禍におけるリウマチ診療 ～押さえておきたいポイント～	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
98	第95回大阪透析研究会	HIF-PH阻害薬の腎性貧血治療への期待	'21/9	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
99	第95回大阪透析研究会	慢性維持透析患者における末梢血管疾患の 診断と治療	'21/9	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
100	第95回大阪透析研究会	CLTIに対する治療戦略 ～歩行機能温存をめざす血行再建と理学療法～	'21/9	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
101	Golimumab リウマチ Webセミナー	シンボニーが果たしてきたこれまでの役割 とこれから～Go to next 10 years～	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
102	イベニティWEBセミナー ～泉州地域の骨粗鬆症治療を 考える～	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
103	リウマチWEBセミナー	コロナ禍におけるリウマチ診療－押さえて おきたいポイント－	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
104	Lilly RA JAK Conference - on web -	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
105	リンヴォック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK リンヴォックの適した症例 とは	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
106	Lilly RA Web Conference	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
107	JAK阻害剤を考える会	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
108	Osteoporosis NEXT Seminar	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
109	イベニティ NEXTセミナー in うちぼうー骨粗鬆症治療を 合併症から考えるー	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
110	第95回大阪透析研究会	AVG静脈吻合部に対する新しい治療デバイス	'21/9	Web	診療部 放射線科	森本 章
111	第95回大阪透析研究会	90日未満VAIVT施行例についての検討	'21/9	Web	診療部 放射線科	森本 章
112	第7回北大阪フットケア勉強会 in Web	血管石灰化から考える透析患者の リンコントロール	'21/10	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
113	慢性腎臓病WEBカンファレンス	慢性腎不全期のアプローチ ～腎機能の維持をめざして～	'21/10	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
114	第62回日本脈管学会 第12回脈管専門医指導講習会	透析患者のCLTIに対する外科的血行再建 ー特に石灰化病変と歩行機能温存への対策ー	'21/10	札幌市	診療部 血管外科	谷村信宏
115	関西関節リウマチWebセミ ナー	早期治療介入とQW	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
116	PsA治療を考える会	整形外科から見たPsAの現状と治療	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
117	骨粗鬆症NEXT WEBセミナー	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
118	大津医療連携webセミナー	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
119	Lilly JAK Conference	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
120	第23回日本骨粗鬆症学会	CKD患者におけるロモソズマブの有効性 と課題	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
121	リンヴォック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK ーリンヴォックの適した症例とはー	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
122	Osteoporosis Strategy Seminar ～ロモソズマブの適正使用を 考える～	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
123	リウマチWEBセミナー ～Withコロナ時代のRA診療を 考える～	コロナ禍におけるリウマチ診療 ー押さえておきたいポイントー	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
124	リンヴォック適性使用推進講演会	GO TO JAK ーリンヴォックの適した症例とはー	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
125	知っておきたい!! リウマチの基礎知識	Withコロナ時代のリウマチ治療	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
126	Lilly RA Web Conference	Patient Background & Evaluation Index を考慮した臨床試験の紐解き方 ～炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
127	第9回富士ロコモティブシンド ロームセミナー	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
128	リウマチWEBセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
129	長野市骨粗鬆症セミナー	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
130	大阪臨床整形外科医会 特別WEB研修会	脆弱性骨折なき令和をめざして	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
131	第64回日本甲状腺学会学術集会	腎移植後に長期投与されていたミコフェ ノール酸モフェチルにより、原発性甲状腺 機能低下症を来したと考えられる一例	'21/11	Web	診療部 消化器内科	大野恭太
132	北大阪学術講演会	明日をかえる腎臓病治療 ー腎臓リハビリテーション, オーバーナイト 透析などなどー	'21/11	Web	診療部 腎臓・透析 部門学術責 任者	辻本吉広
133	RA病診連携連携の会 in 北摂	炎症・免疫コントロールとPRO改善の マリアージュ	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
134	リンヴォック適性使用推進 Web講演会	GO TO JAK ーリンヴォックの適した症例とはー	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
135	リンヴォック適性使用推進 インターネットライブセミナー	GO TO JAK ～リンヴォックの適した症例とは～	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
136	FRACTURE PREVENTION AND POWER FOR ELDERLY PEOPLE	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
137	フカボリセミナー in YOKOSUKA	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
138	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
139	西多摩整形外科医会学術講演会	脆弱性骨折なき令和を目指して ～逐次療法・再投与を見据えた治療薬 ロモソズマブ～	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
140	ヒュミライインターネットライ ブセミナー	高齢RA患者のリスク低減を目指した アダリムマブ単剤療法の可能性	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
141	夜間頻尿診療セミナー	井上病院における高カリウム血症の治療についてICT, AST活動報告	'21/11	Web	診療部 泌尿器科	右梅貴信
142	第25回日本透析アクセス医学 会学術集会・総会	シンポジウム 超高耐圧バルーン の歴史	'21/11	Web	診療部 放射線科	森本 章
143	第25回日本透析アクセス医学 会学術集会・総会	90日未満VAIVT施行例について の検討	'21/11	Web	診療部 放射線科	森本 章
144	Diabetes Seminar ～糖尿病患者のQOL向上の ためにできること～	QOL向上の鍵は、合併症予防 ～なが～いお付き合い、糖尿病～	'21/12	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
145	第2回日本フットケア・足病医 学会年次学術集会	CLTIに対する血行再建と歩行機能 温存	'21/12	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
146	EVENTY Web Symposium	ロモズマブがきり拓く骨粗鬆症 新時代－市販後調査が明らかにした 安全性－	'21/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
147	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状 と治療	'21/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
148	リンヴォック適性使用推進 講演会	GO TO JAK －リンヴォックの適した症例とは－	'21/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
149	EVENTY Summit 2021	ロモズマブがきり拓く骨粗鬆症 新時代－逐次療法と再投与－	'21/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
150	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'21/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

論文発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	腎と透析	サルコペニアとビタミンD	Vol.90 No.3	441-448, 2021	診療部 腎臓内科	奥手祐治郎
2	BMC Nephrology	Suppression of thyrotropin secretion during roxadustat treatment for renal anemia in a patient undergoing hemodialysis	2021 22:104	2021	診療部 腎臓内科	一居 充
3	Renal Replacement Therapy	Amelioration of fatigue in chronic dialysis patients with dialysis solution employing electrolyzed water containing molecular hydrogen (H ₂) and its association with autonomic function balance	2021 7:58	2021	診療部 腎臓・透析 部門学術責任者	辻本吉広
4	愛仁会医学研究誌	腹膜透析患者410例において酸性腹膜透析 液使用時代と中性腹膜透析液使用時代の 被嚢性腹膜硬化症発症頻度を中心に比較 した調査報告	Vol.53 2021	11-14, 2021	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
5	腎と透析 別刷	中心静脈閉塞症に大腿静脈アプローチ 併用によるVAIVTでステントを留置し その後AVG再建を行った一例	91巻 2021	167-168, 2021	診療部 外科	藤原一郎
6	日本骨粗鬆症学会雑誌	骨粗鬆症を合併した透析患者に対する ロモズマブの有効性安全性の検討 ～ロモズマブ300例以上の経験からの メッセージ～	Vol.7 No.2	180-185, 2021	診療部 整形外科	佐藤宗彦
7	The Journal of Bone and Mineral Metabolism	Efficacy of romosozumab in patients with osteoporosis on maintenance hemodialysis in Japan; an observational study	No.39 (6)	1082-1090, 2021	診療部 整形外科	佐藤宗彦
8	愛仁会医学研究誌	当院でのシャント造影併用エコー下 Vascular Access Interventional Therapy (VAIVT)	Vol.53 2021	53-55, 2021	診療部 放射線科	森本 章

著書発表 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署名	著者
1	臨床泌尿器科	医学書院/東京	75巻 8号	568-572, 2021	診療部 放射線科	森本 章

その他 (2021/1/1 ~ 2021/12/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	大日本住友製薬株式会社 社内研修会	講師	'21/1	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
2	CKD-MBD Expert Seminar in OSAKA	座長	'21/1	Web	診療部 内科	辻本吉広
3	JAK阻害薬セミナー ～JAK阻害剤と生物学的 製剤の位置づけを考える～	座長	'21/2	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
4	キッセイ薬品工業株式会社 社内研修会	講師	'21/2	大阪市	診療部 内科	木津あかね
5	日本生命病院 緩和ケア 研修会における講師・ ファシリテーター	講師	'21/2	大阪市	診療部 消化器内科	大野恭太
6	第11回透析運動療法 研究会	大会長	'21/2	Web	診療部 内科	辻本吉広
7	リンヴォック適正使用推 進インターネットライブ セミナー	座長	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
8	腎性貧血フォーラム in 北摂	座長	'21/3	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
9	第94回大阪透析研究会 ランチョンセミナー3	座長	'21/3	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
10	大塚製薬 社内研修会	講師	'21/3	大阪市	診療部 透析内科	福永 慎
11	リンヴォック適正使用推 進インターネットライブ セミナー	座長	'21/3	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
12	大塚製薬株式会社 社内研修会	講師	'21/4	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
13	大塚製薬株式会社 社内研修会	講師	'21/4	大阪市	診療部 透析内科	福永 慎
14	ノボルディスクファーマ 社内研修会	講師	'21/4	大阪市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
15	Cardiovascular disease Joint Web Meeting	2020年弁膜症治療のガイドラインを日常診療にどう活かすか～TAVIの適応・抗凝固療法の変遷について～ 司会	'21/4	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
16	Japan Endovascular Treatment Conference 2021	座長	'21/5	大阪市	診療部 放射線科	森本 章

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
17	持田製薬株式会社 社内研修会	透析患者様における便秘症とこれに対する処方薬の検討	'21/5	Web	診療部 消化器内科	大野恭太
18	キッセイ薬品工業株式会社 アドバイザーミーティング 講師	ピートル/マリゼブの販売戦略について	'21/5	大阪市	診療部 腎臓内科	一居 充
19	DiaMond Live Seminar in 関西	座長	'21/5	Web	診療部 内科	辻本吉広
20	リンヴォック適性使用推進インターネットライブ セミナー	座長	'21/5	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
21	リンヴォック適性使用推進インターネットライブ セミナー	座長	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
22	慢性腎臓病WEBカンファ レンス	総合司会	'21/6	Web	診療部	右梅貴信
23	バイエル薬品工業株式会社 社内研修会	講師	'21/6	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
24	製品技術指導ミーティング	技術指導	'21/6	Web	診療部 放射線科	森本 章
25	キッセイ薬品工業株式会社 アドバイザーミーティング 講師	ピートル/マリゼブの販売戦略について	'21/6	大阪市	診療部 腎臓内科	一居 充
26	リウマチWEBセミナー	座長	'21/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
27	Diabetes Web Conference	座長	'21/7	Web	診療部 内科	辻本吉広
28	夜間頻尿治療セミナー in 北摂	座長	'21/7	Web	診療部 泌尿器科	右梅貴信
29	関節リウマチの早期発見・ 治療の啓発	朝日放送ラジオ	'21/7	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
30	三和化学研究所 社内勉強会	社内勉強会	'21/7	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
31	吹田・豊中CKD連携 フォーラム	総合司会	'21/7	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
32	吹田・豊中CKD連携 フォーラム	クロージングリマークス	'21/7	Web	診療部	右梅貴信
33	進行性前立腺癌のTRYを 考える会 ～ All for Patients ～	座長	'21/7	Web	診療部	右梅貴信
34	製品技術指導ミーティング	技術指導	'21/8	Web	診療部 放射線科	森本 章
35	北摂・淀川CKD診療連携 セミナー	座長	'21/8	Web	診療部	右梅貴信
36	リウマチWebセミナー	座長	'21/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
37	CKD/糖尿病合併症連携研究会 世話人会	世話人	'21/9	吹田市	診療部	右梅貴信
38	CKD/糖尿病合併症連携研究会 世話人会	世話人	'21/9	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
39	リンヴォック適性使用推進インターネットライブセミナー	座長	'21/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
40	第95回大阪透析研究会	座長	'21/9	Web	診療部 内科	辻本吉広
41	第95回大阪透析研究会	座長	'21/9	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
42	CKD-MBD Expert Meeting	座長	'21/9	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
43	大塚製薬株式会社社内研修会	社内研修会	'21/9	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
44	関西関節リウマチWebセミナー	座長	'21/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
45	慢性腎臓病WEBカンファレンス	座長	'21/10	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
46	第7回北大阪フットケア勉強会 in Web	開会挨拶	'21/10	Web	診療部 泌尿器科	右梅貴信
47	第7回北大阪フットケア勉強会 in Web	座長	'21/10	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
48	キッセイ薬品工業株式会社アドバイザーミーティング講師	ピートル/マリゼブの販売戦略について	'21/10	大阪市	診療部 透析内科	福永 慎
49	AHA・BLSコース	講師	'21/11	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
50	第3回日本フットケア・足病医学会 関西地方会 学術集会	座長	'21/11	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
51	第3回日本フットケア・足病医学会 関西地方会 学術集会	学術集会実行委員	'21/11	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
52	高槻透析セミナー	座長	'21/11	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
53	北大阪学術講演会	座長	'21/11	Web	診療部 腎臓内科	一居 充
54	旭化成ファーマ株式会社社内勉強会	講師	'21/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
55	Lilly Web Seminar ～チーム医療 CSP～	座長	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
56	協和キリン株式会社社内研修会	講師	'21/11	大阪市	診療部 腎臓内科	一居 充

外部研修・研究実績

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
57	リウマチWebセミナー	座長	'21/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
58	キッセイ薬品工業株式会社 アドバイザーミーティング 講師	ピートル/マリゼブの販売戦略 について	'21/11	大阪市	診療部 透析内科	下村菜生子
59	JAK Masters Conference ～JAK阻害剤の熟練度向上 を目指して～	パネリスト	'21/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
60	キッセイ薬品工業株式会社 社内研修会	CKD-MBDに関する研修会	'21/12	大阪市	診療部 腎臓内科	奥手祐治郎
61	AHA・ACLSコース	講師	'21/12	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
62	EVENTY Summit 2021	パネリスト	'21/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
63	製品技術指導ミーティング	技術指導	'21/12	Web	診療部 放射線科	森本 章
64	Diabetes Seminar ～糖尿 病患者のQOL向上のため にできること～	オープニングリマークス	'21/12	Web	診療部 泌尿器科	右梅貴信
65	Diabetes Seminar ～糖尿 病患者のQOL向上のため にできること～	座長	'21/12	Web	診療部 血管外科	谷村信宏
66	Kidney Web Symposium With ANRI ～心腎連関 を考慮した治療戦略を考 える～	開会挨拶	'21/12	大阪市	診療部 泌尿器科	右梅貴信
67	Kidney Web Symposium With ANRI ～心腎連関 を考慮した治療戦略を考 える～	座長	'21/12	大阪市	診療部 腎臓内科	一居 充

医療業績集 2021

発行日 2023年8月1日

発行所 社会医療法人愛仁会
年報事務局

〒555-0001 大阪府大阪市

西淀川区佃2丁目2番46号

TEL (06) 6375-0660 FAX (06) 6375-0560

<https://www.aijinkai.or.jp/>